Vol. 72 通巻828号　平成 3 年 3 月25日発行　毎月 1 回25日発行　昭和24年 3 月19日第 3 種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

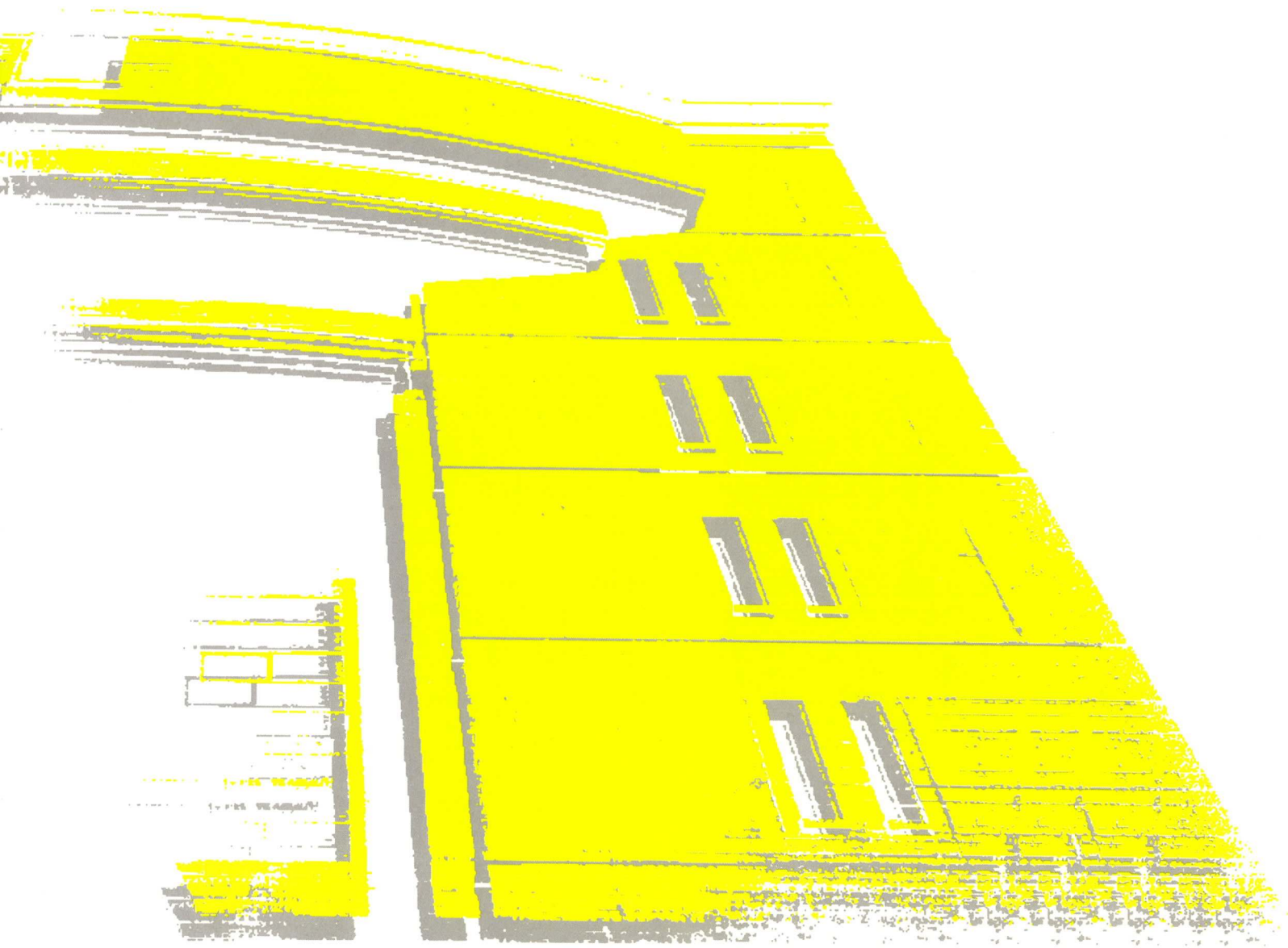
1991

3

特集

東海支部復活30周年記念

日本建築協会



大阪ガス

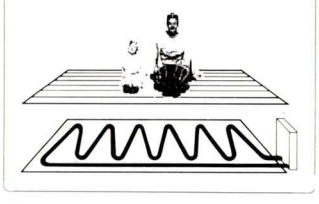
◎新居に床がある限り、床暖房はカンタンです。

近い将来、新居を計画してる方と、
遠い将来だけど、予定はしてるぞって方に、お伝えします。
これからのおうち暖房は、ガス温水床暖房がいいですよ。
ぜひ、よーく知って欲しいのですよ。
みんなが思ってる以上に、身近なモノなのですよ。



そのぬくもりは、日なたぼっこみたいなんです。

床の下にお湯をめぐらせてあったためる温水床暖房は、頭寒足熱の健康的な暖房です。しかも、皮ふ内の温点に直接作用する遠赤外線効果で、からだの芯までポカポカに。寒い冬の日も、日だまりみたいなお部屋で過ごせるんですね。



その燃費は、ホントは安あがりなんです。

とはいうものの、ガス代が気になるわって声に、ズバリお答えします。1時間でわずか約17円、1カ月でも約3,050円。お部屋を効率よくあったためる温水床暖房ならではの、うれしい燃費です。これなら冬中使い続けられますね。

※1時間当たり＝1日6時間連続運転した場合ひと月当たり÷1時間当たりのガス代÷6時間÷30日6畳洋室・外気温5℃（湿度60%）室温18℃ガス119.42円（㈱大阪ガス実測値）

その工事は、おおげさに考えなくて大丈夫。

家を建てる前に計画しておけば、とってもスムーズに設置できますよ。洋室から和室まで、床材も豊富に揃ってます。設置にかかる費用もそんなにおおげさな値段ではありません。ホントです。まずは大阪ガスに、声をかけてください。

ガス温水床暖房

（よーし、わが家も考えてみようと思ったら、）

【ガス温水 床暖房に関する資料請求・お問合せは、お近くの大阪ガス各支社まで】

大阪エネルギー営業部 大阪市西区千代崎3-2-95☎ 06(582)0471
南部支社 堺市住吉橋町2-2-19☎0722(38)1131
北部支社 高槻市藤の里町39-6☎0726(71)0361
阪神支社 西宮市和上町4-11☎0798(26)3101
東部支社 東大阪市稲葉2-3-17☎0729(62)1131
神戸支社 神戸市中央区東川崎町1-8-2☎078(360)3024
京都支社 京都市下京区中堂寺粟田町1☎075(312)3961
奈良支社 奈良市学園北2-4-1☎0742(44)1111
和歌山支社 和歌山市本町1-5☎0734(31)2481
姫路支社 姫路市神屋町4-8☎0792(85)2221
東播支社 加古川市加古川町粟津29-1☎0794(21)1801
豊岡支社 豊岡市三坂町6-57☎0796(23)2221
湖南支社 草津市追分町字荒堀680-1☎0775(62)5311
彦根支社 彦根市大東町12-11☎0749(22)3131

◀ハイタッチリサーチパーク見学会

日　時　1991年 5 月 9 日（木）　13：00－17：00

見学先
- 積水ハウス総合住宅研究所／設計：日建設計
- ＪＥＵＧＩＡ／設計：高松伸建築設計事務所
- ＹＯＳＨＩＣＨＵ情報センター／設計：竹中工務店
- ＫＹＯＴＯ・ＫＡＧＡＫＵ開発センター／設計：岸和郎建築設計事務所
- 第一紙行ライフデザイン研究所／設計：竹中工務店
- フジヤＨＲセンター／設計：平野智司計画工房
- 二条丸八セレモニー研究所／設計：竹中工務店
- クロイハイタッチ研究所／設計：ＫＵＳ建築設計事務所・竹中工務店
- 福寿園ＣＨＡ研究センター／設計：竹中工務店
- ワタブンホーム・ファニシング研究所／設計：竹中工務店

講　師　小牧明彦／竹中工務店学研都市プロジェクト推進室長
猪子　順／日建設計設計主管
小林康夫／竹中工務店設計部

集合場所　現地ＴＯＵＣＨ・１センター
京都府相楽郡木津町兜台６－６－１
＊近鉄京都線「高の原駅」or「山田川駅」より徒歩約15分
＊近鉄奈良線「学園前駅」よりタクシーで約15分（約2,000円）

定　員　50人

参加費　会員1,500円、一般2,000円（含、消費税）
＊当日、受付にていただきます。

申込方法　ハガキ、ＦＡＸ、電話で４月22日（月）までに（社）日本建築協会事業課へお申込みください。催し名（ハイタッチリサーチパーク見学会）、氏名 会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。
（社）日本建築協会事業課
〒530 大阪市北区梅田１－１－３－2100
ＦＡＸ 348－0634　ＴＥＬ 348－0633
＊参加証を４月23日（火）に発送します。
＊申込者多数の場合は抽選で参加者を決定します。



◀GALLERY・MA講演ビデオ映写会

申込方法　ハガキ、ＦＡＸ、電話で、開催日の１週間前までに（社）日本建築協会事業課へお申込みください。催し名（GALLERY・MA講演ビデオ映写会第○回）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。
（社）日本建築協会事業課
〒530 大阪市北区梅田１－１－３－2100
ＦＡＸ 348－0634　ＴＥＬ 348－0633
＊参加証を開催日の１週間前に発送します。
＊申込者多数の場合は抽選で参加者を決定します。

会　場　（社）日本建築協会会議室（大阪駅前第３ビル21階）
定　員　30人
参加費　無料
協　賛　東陶機器㈱

第4回　1991年 4 月24日㈬ 18：30～20：00

□石山修武「技術の万華鏡－石山修武の仕事」
現代の合理化された建築生産の流れにおいて、埋もれていく職人たちの「技」を追う仕事と建築理念を語る。（35分）1986.6.11講演
●紹介作品：川越の家(1973)、田原町ショールーム(1973)、幻庵(1975)、望風楼(1981)、伊豆の長八美術館(1985)、開拓者の家(1986)等

□早川邦彦「風景としての建築」
色彩を恣意的に使ってより明快な機能と意味性をあたえながら、人間にとっての、風景としての建築を語る。（45分）1986.7.8講演
●紹介作品：南青山の家(1981)、目白台の家(1982)、成城・バス停前の家(1982)、成城・交差点の家(1983)、アトリウム(1985)

第5回　1991年 5 月22日㈬ 18：30～20：00

□相田武文「沈黙・遊戯・ゆらぎ」
積木の家シリーズをはじめ、作品群にテーマをつけて設計する氏の「沈黙」「遊戯」「ゆらぎ」のテーマを紹介する。（42分）1987.9.22講演
●紹介作品：涅槃の家(1972)、ＰＬ学園幼稚園(1973)、サイコロの主題による家(1973)、積木の家－2、3、4、5、Ｓ氏別邸(1984)、西園寺無量寿堂(1987)、梶原邸(1987)、風間邸(1987)

□鈴木エドワード「FULL METAL JACKET」
切断、亀裂、湾曲、歪みなど、不安定な要素を持ち込むアナーキテクチュアな設計手法について語る。（38分）1988.6.16講演
●紹介作品：松坂屋デパートファサードリフレッシュ(1980)、福家レジデンス(1980)、オークラビル(1981)、宇田川町交番(1985)、新亜飯店(1985)、オンワード代官山ビル(1986)

第6回　1991年 6 月26日㈬ 18：30～20：00

□出江　寛「真・行・草－神とエロスとデザイン」
現代建築の中に伝統的な精神性や感性を吹き込み、独自のデザイン作風をつくり出す氏の設計作法を語る。（40分）1988.9.6講演
●紹介作品：丸亀の家(1977)、逆瀬台の家(1982)、松島邸(1988)、生野邸(1987)、ホテル・リバティ(1986)、第二国立劇場コンペ(1986)、基督兄弟団西宮教会(1982)

□木島安史「堂夢の世界」
最先端のテクトロニクスによる作図イステムを駆使して試みるドーム建築の夢など、最近の建築について語る。（40分）1989.1.18講演
●紹介作品：上無田神社、公民館(1975)、球泉洞森林館(1982)、第二国立劇場コンペ(1986)、湘南台文化センターコンペ、架橋博イベントプラザ'88空海ドーム(1987)

RESORT ISLAND 淡路島—講演会と見学会・1泊2日の旅—

「RESORT ISLAND 淡路島」をテーマに講演会と見学会を開催します。
温暖な気候、すばらしい自然景観、恵まれた自然の幸を生かした、本物のリゾートホテルが既にいくつか完成しており、また豊かな伝統文化芸術を背景に、地域おこし・町づくりも活発に行われています。さらにビッグリゾートプロジェクトも津名国際リゾートアイランド・淡路島マリーナシティの建設工事がいよいよスタートします。そして今、明石海峡大橋や関西国際空港など国家的プロジェクトが進む中、「淡路島リゾート構想」が注目されています。
講演会には、観光人類学の第一人者である石森秀三氏をお招きし、「これからのリゾートのあり方」をテーマに講演いただき、また地域おこしのアイデアマンとしてもご活躍の岩坪真弘住職に「淡路島の地域おこしとリゾート」についてお話しいただきます。
宿泊は、大鳴門橋を一望し瀬戸内海の夕日が美しい本格的リゾート「ホテルアナガ」にてリゾート気分を満喫しながら有意義で楽しい一刻を過ごしていただけるよう企画しました。
多数の方のご参加をお待ちしています。

開催日　1991年5月24日(金)25日(土)

講演会　1．石森秀三氏/国立民族学博物館助教授・観光人類学
テーマ：これからのリゾートのあり方　会場：ホテルアナガ・ホール
2．岩坪真弘氏/八浄寺住職・淡路21世紀協会理事
テーマ：淡路島の地域おこしとリゾート　会場：八浄寺

見学先　ホテルアナガ（宿泊先）／西淡町
南淡路ロイヤルホテル／南淡町
ホテルプラザ淡路／南淡町
ホテルマーレ（昼食先）／西淡町慶野松原
サントピアマリーナ、エクシブ淡路島建設工事／洲本市
大鳴門橋記念館・鳴門岬／南淡町
瓦の町づくり（説明：山田脩二氏）／西淡町
廻船問屋住田史料館、香りの公園（説明：井上善人氏）／一宮町
国際リゾートアイランド・淡路島マリーナ・シティ建設予定地（説明：中馬博良氏）／津名町
県立淡路島公園（明石大橋建設工事等展望、日仏モニュメント建設予定地）／淡路町
ダントー福良工場（見学＋各自らく焼制作）／南淡町


廻船問屋住田史料館


淡路島マリーナ・シティ イメージ図


瓦の町づくり・御原橋の飾り瓦


サントピアマリーナ


ホテルアナガ

宿　泊　ホテルアナガ（ツイン、２人１室、含、夕・朝食）
交　通　淡路島内貸切バス利用
定　員　40人
集　合　5月24日10：00　JR「明石駅」改札前
（津名港、洲本港で合流も可能）
解　散　5月25日17：30「明石港」（予定）
参加費　会員35,000円、一般40,000円
（含、交通、宿泊／２人１室、食事代、消費税）
＊宿泊個室希望の方は、13,000円を別途申し受けます。
協　賛　ダントー、淡路島リゾート開発室、エクシブ淡路島作業所
申　込　ハガキ、FAX、電話で、4月25日(木)までに、日本建築協会事業課へお申込みください。催し名（RESORT ISLAND 淡路島）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証・参加費入金方法送付先、電話番号をお知らせ願います。

日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
FAX06-348-0634　TEL06-348-0633

＊参加証・参加費入金方法を4月26日(金)に発送します。
参加費は5月10日(金)までに（振込の場合は必着）お納め願います。
＊申込者多数の場合は抽選で参加者を決定します。

◀監事並びに本部所属評議員の当選

平成３年２月26日開催の通常総会において、監事並びに本部所属評議員の選挙を執り行いましたところ、下記の方々が当選されました。

記

監事（１名）

牧田　顯治君（新井組）

本部所属評議員（20名）

片田　俊彦君（大阪府建設監理協会）
鶴田　昭一君（大林組）
山形　政昭君（大阪芸術大学）
伊藤　俊夫君（松村組）
内村　俊一君（大日本土木）
白石　靜二君（鴻池組）
杉山　慎一君（三井建設）
中川　公善君（鉄建建設）
宮　貴久雄君（安藤建設）
宗澤　修郎君（西松建設）
野田　耕三君（栗本建設工業）
松丸　哲也君（豊國建設）
荒巻　恭士君（きんでん）
岩橋　貞雄君（八千代電設工業）
高岸　宗吾君（近畿工業）
臼井　　弘君（須賀工業）
川瀬甲子雄君（扶桑管工業）
福谷　守弘君（朝日工業社）
恩庄　二郎君（大阪化工）
永原　義夫君（王建工業）

寄附金の受領

このたび、本会理事若山　繁氏よりご寄附を頂戴いたしました。
ここに誌して厚く御礼申し上げます。

◀「建築と社会」復刻版と発行について（続予告）

２月号で予告しました「建築と社会」の復刻版の発行については、諸準備を着々と進めておりますが、既に各方面からのお問い合わせが多数寄せられていますので、もう少し詳しい発行計画をお知らせします。なお、６月頃にP.R用のパンフレットが出来ますので、ご入用の向には、協会事務局へお申し越し下さい。

配本回数	復刻版巻数	内容（年月号）	本体価格	配本時期
１回	１～５巻	T.６.９～T.８.３	80,000円	'91.10
2	６～10	T.８.４～T.９.12	80,000	'92. 4
3	11～16	T.10.１～T.11.12	96,000	7
4	17～22	T.12.１～T.13.12	96,000	10
5	23～27	T.14.１～T.15.８	90,000	'93. 1
6	28～32	T.15.９～S.３.４	90,000	4
7	33～37	S.３.５～S.４.12	90,000	7
8	38～42	S.５.１～S.６.８	90,000	10
9	43～47	S.６.９～S.８.４	90,000	
10	48～52	S.８.５～S.９.10	90,000	
11	53～57	S.９.11～S.10.12	90,000	
12	58～62	S.11.１～S.12.６	90,000	
13	63～72	S.12.７～S.13.12	90,000	
14	68～72	S.14.１～S.15.８	90,000	
15	73～77	S.15.９～S.17.12	90,000	
16	78～82	S.18.１～S.25.12	90,000	
17	83～87	S.26.１～S.30.12	90,000	
計	87巻		1,522,000円（消費税別）	

（なお事情により価格を変更する場合があります）

原則として全87巻一括購入ですが、必要部分のみご入用の向は事前にお申し込み願います。

日本建築協会企画図書目録

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書　発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	茶室の話（岡田孝男著）	￥1,339-
8	建具の知識と意匠（山片三郎著）	￥1,339-
9	エレベータ（木村利雄著）	￥1,339-
13	医院・診療所の計画と設計（池田有隣・船越暉由著）	￥1,339-
15	PC建築の話（下伊豆隆三著）	￥1,236-
16	石垣と石積壁（窪田　祐著）	￥1,339-
17	基礎と地盤の手ほどき（中堀和秀著）	￥1,339-
20	タイルの話（田中　弘著）	￥1,339-
24	鉄骨構造の話（金多潔・甲津功夫・西澤英和著）	￥1,339-
27	建築積算業務（生島道春著）	￥1,442-
28	建築金物の知識（立野一郎著）	￥1,339-
29	瓦の屋根構造（佐藤滋朗著）	￥1,442-
32	建築塗装の手引き（児島修二著）	￥1,442-
33	建築式典の実際（若林嘉津雄著）	￥1,339-
38	住宅の照明（大島　博監修）	￥1,442-

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版　発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	構造コストの経済設計（須賀好富著）	￥3,605-
2	建築設備の健康診断（牧野　茂著）	￥3,914-
3	新・建築と設備の接点（宮脇　毅・南部　武著）	￥3,605-
4	外壁構法チェックリスト（飯塚五郎蔵著）	￥3,399-
5	建築デザインのための構造計画（須賀好富著）	￥2,884-
6	場所打ち杭の設計と施工（阪口　理著）	￥3,296-

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ　発行：学芸出版社

NO	書　籍　名	税込価格
1	TQCから見た建設業（荒木睦彦著）	￥1,648-
2	軀体工事監理のチェックポイント100（須野好富著）	￥2,060-
3	パソコン会計術（西部明郎著）	￥1,854-
4	建築の値打ちの高め方（小林清周著）	￥1,751-
5	空調設備のトラブル50（建築設備トラブル研究会著）	￥2,060-
6	衛生設備のトラブル50（建築設備トラブル研究会著）	￥2,060-
7	火災安全学入門（岡田光正著）	￥1,700-
8	現場マンのアイデア発想（合原一夫著）	￥1,854-
9	建築基準法の実際（矢吹茂郎著）	￥1,854-
10	工務店の税金対策100ポイント（建設税務研究会著）	￥1,854-
11	工業化住宅・考（松村秀一著）	￥2,060-
12	鉄骨工事の現場学（石田満裔著）	￥2,060-
13	建築紛争の実際（岡本辰義著）	￥1,854-
14	仕上工事監理のチェックポイント（監理業務研究会著）	￥2,060-
15	ゼロ災への道（表　一郎著）	￥1,648-
16	木造住宅のしくみ（浅野平八・東　敏博著）	￥2,060-
17	コンクリート工事のチェックポイント100（加賀秀治著）	￥2,060-
18	インテリアコーディネートの100ポイント（町田ひろ子監修）	￥1,648-
19	建築基準法を読みこなすコツ（高木任之著）	￥2,060-
20	ニュー組積建築のすすめ（福嶋孝之著）	￥2,060-

日本建築協会事務局でお求めの場合、建築技術選書と〈プロのノウハウ〉シリーズが100円割引き、選書特装版が200円割引きでおのおの頒布しておりますのでせいぜいご利用下さい。

「建築と社会」誌21年●特集一覧——昭和46年～平成3年

「建築と社会」誌は昭和42年からA4変形判となり、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。売価は980円（消費税込）。購読希望者は事務局（06—348—0635）へ。

＊は次号

巻号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和46年（52集）	住宅—60年代の総括と70年代の展望	都市エネルギと無公害化ビル＊	建築基準法＊	都市生活とみどり＊	企画と設計のプロセス＊	解体工学＊	都市と港湾	転換期のニュータウン＊	軟弱地盤と震災＊	変貌する建築生産＊	第18回＊青年技術者	自然とレジャ空間＊
昭和47年（53集）	冬期オリンピックと札幌	600号記念号＊	インテリアデザイン＊	都市交通問題＊	水利用＊	量産住宅の設備＊	一般号（桂中学）＊		都市住環境へのアプローチ＊	都市防災＊	第19回＊青年技術者	北陸の新建築＊
昭和48年（54集）	建築教育	泉北ニュータウンのコミュニティ施設＊	大阪大林ビルディング＊	レジャーと施設＊	大阪国際ビルディング＊	老人コミュニティ＊	住宅—建築家のすまい	新用途地域制と環境＊	構造と施工＊	仕上と材料＊	第20回青年技術者	ヨーロッパのまちづくり＊
昭和49年（55集）	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか＊	保養所作品＊	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画＊	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギ化	高層プレハブ住宅の構造設計	みどり＊	屋根防水工事の失敗例とその対策＊	第21回＊青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年（56集）	図書館＊	東海の新建築＊	インテリア＊	PC板を使用した工業化住宅	社会・建築・法＊	都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	人間環境のターミナル＊	騒音対策と防音材料	第22回＊青年技術者	集合住宅の設備＊
昭和51年（57集）	証言'76—建築デザインの動向＊	建築基礎構造の問題点＊	医療施設＊	床工法と材料＊	建築防災と法＊	市街地整備＊	工場建築と設備＊	鉄骨構造のジョイント	集住体のとハードとソフト＊	結露防止対策と断熱材料＊	第23回＊青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年（58集）	デザインの動向—部分と全体＊	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	日影規制と法＊	身障者施設＊	照明設備＊	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ＊	建築における省エネルギー化	第24回＊青年技術者
昭和53年（59集）	デザインの動向—新旧のコントラスト	水＊	医療施設—病院建築と情報システム	外壁塗装材料＊	電波障害と建築＊	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD—設計とコンピュータ	一般号＊	第25回＊青年技術者	ビル環境
昭和54年（60集）	転換期の再開発＊	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制＊	ホテル建築と情報システム	農村施設の変貌＊	建物の終局強度の検討＊	庄内のまちづくり＊	80年代のインテリア＊	第26回＊青年技術者	建設業の労務事情＊
昭和55年（61集）	80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望＊	●今後の省エネルギーの趨勢＊ ●建築金物	●最近の銀行建築＊ ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性＊	建築行政と法規＊	最近の防水工法＊	都市景観とアメニティ＊	屋内体育施設の設備＊	水ぎわのまちづくり＊	今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者＊ ●転機にたつマンション集合住宅	設計のための新耐震設計法＊
昭和56年（62集）	職能論＊	中国の論文—北京の都市計画＊	ポートピア'81＊	台所まわりの計画と設備＊	シーリング材の知識＊	災害と法—安全な環境をめざして＊	都市住宅—住まい手からの発想＊	●建築物と風—デザイナーのために＊ ●日建設計作品集	住宅都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	間仕切壁の性能評価＊	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年（63集）	新たな商業空間の展開＊	省エネルギーと開口部＊	医療施設地域医療と設備計画＊	近畿の地盤と地質＊	都市景観—まちなみ美観への誘い＊	大阪市庁舎（第一期）＊	音とホール建築＊	大スパン構造＊	昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者＊ ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間＊
昭和58年（64集）	関西の建築文化を考える＊	マイコンの建築への利用＊	多様化する運動施設＊	建築と品質管理＊	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション＊	大阪駅とターミナルビル＊	維持管理と設備更新＊	東海の将来と文化を考える＊	オフィス・インテリアの変革＊	プレストレスト（鉄筋）コンクリート構造＊	●第30回青年技術者＊ ●大阪国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音＊
昭和59年（65集）	21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う＊	関西の超高層ビル＊	ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発＊	住環境と法制度＊	●まちの活性化と商業空間＊ ●京都駅南口（アバンティ）	消防設備のポイント＊	みどりとそれをとりまく人々＊	高齢化社会と生活空間＊	床の構工法＊	●第31回青年技術者＊ ●ディテールの思想	光応用システムと建築＊
昭和60年（66集）	大阪湾物語＊	東海の現在と近未来＊	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情＊	ホール—それが生み出す文化—	建物の表情—最近の外壁材料＊	大阪国際見本市新会場＊	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市＊	都市と健康スポーツ＊	●接合 ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章＊ ●東海特集	第32回青年技術者＊
昭和61年（67集）	これからの住空間—都市型集合住宅にみる＊	屋根—そのデザインと素材＊	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法＊	インテリジェントビルの建築・設備計画＊	自治体営繕と公共建築＊	●建築防災と法 ●大阪市庁舎＊	21世紀の住居と設備＊	●開発 ●ツイン21＊	CAD—その応用と展開＊	オフィス空間の構成＊	第33回青年技術者＊	インテリア・イクステンションとリニューアル＊
昭和62年（67集）	入浴物語＊	腐食＊	創立70周年記念号＊	躍動する東海へ＊	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館＊	室内の仕上床＊	駅＊	行政建築家の可能性＊	シティホテルの設備＊	宝塚の街づくり＊	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	第34回青年技術者＊
昭和63年（69集）	ホテル物語＊	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告＊	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集＊	建物の外装リフレッシュ＊	都心居住＊	中国地方の展望とひろしまのまちなみ＊	21世紀への照明＊	制振＊	超高層住宅を考える＊	●大阪府営繕＊ ●集合住宅のリフレッシュ	●第35回青年技術者＊ ●800号記念	讀賣テレビ＊
昭和64年平成元年（70集）	夢をのせる輸送設備＊	●竹中工務店創立90周年記念＊ ●リゾート事情	●色の復権＊ ●東海の新建築と伝統技術	省力化のための材料・工法＊	まちづくりと法＊	博覧会とまちづくり＊	都市環境創造と設備Ⅰ＊	建築とアート＊	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング＊	第36回青年技術者＊	最近の博覧会パビリオン＊
平成2年（71集）	商業化住宅のデザイン＊	ニュータウン・ルネサンス＊	東海の都市景観＊	スケール感＊	プレハブ住宅技術の現在と未来＊	国際花と緑の博覧会＊	建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー＊	高度強化—設計の多様化をめざして—＊	やわらかな住宅管理・ユーザーの役割＊	●都市のナイス・プレイス＊ ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者＊ ●和歌山県の展望と景観	感性の時代を迎えて外装材＊
平成3年（72集）	新しい都市空間づくり—I—	●オフィス・プレジャー＊ ●新しい都市空間づくりII＊ ●建築の風景	東海支部復活30周年記念＊	建築家のための設備知識—商業施設篇—（予定）＊	今、京都（予定）＊	建築紛争（予定）＊						

1917創刊
1991
72集
建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

3 通巻828

「建築と社会」3月号表紙
デザイン・白子正人
（グラフィックデザイナー 日本タイポグラフィ協会会員）

パリにエトアール凱旋門という建造物がある。あまりにも有名なその建造物を改めて鑑賞しようとする人は少ないのではないだろうか。しかし夜の凱旋門は凄い。完成から百数十年を経た今も、作者の作品に対する熱意・情熱を放射し続けている。見せかけの美意識などは吹き飛ばされてしまうほどのパワーを持っている。
今月、モチーフにさせていただいたのは三重県議会棟・講堂。こちらもそのパワーを持った美しい建造物である。カラーリングは若芽色。

■特集予告
4月号／建築家のための設備知識
—商業ビルによるケーススタディー
5月号／今、京都
6月号／建築と土木
近畿地建（仮称）

会長 佐野正一
副会長 金 夕 潔・薬袋公明
市川 宏・鴻池藤一

編集委員会（平成2年度）
■編集理事
井上 豊
金井 弘次
小島 雄
城 憲一
須賀 好富
竹中 錬一
深江 実
松村 慶三
溝神宏至朗
若山 繁
■編集委員長
溝神宏至朗
■編集顧問
東 孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
梅村 宏尚
河端 秀直
小浦 久子
※鈴木 克彦
○田中 直人
中井 省吾
松川 敏正
山尾 弘子
横関 真紀
吉村 英祐
☆建築計画系
石山 道男
○上杉 秀隆
江副 敏史
北村 潤
※佐藤不二男
塚本 史郎
刃金 国男
三沢 真理
森田 晴美
矢野 裕芳
山中 恵子
山本 匡
☆インテリア・住宅系
石倉 健彦
大森 智子
大橋真由美
○加藤 力
神谷 剛
※北浦かほる
駒田 哲男
西川 純一
福田 由利
増地 秀夫
★構造分科会
和泉 一義
稲葉 繁夫
角 彰
多賀 謙蔵
馬場 研介
○山崎 雅生
★設備分科会
安倍 浩一
池田 秀行
○遠藤 進
梶井 宏修
河津 隆之
伊達 正雄
★施工材料分科会
○有光 利治
植田 実
河戸 隆
志水 史典
松村 衛
村上 信直
★法令分科会
佐藤 勝
○島田 裕至
高橋 博之
寺田 恭信
松井 昭
■作品作風小委員会
荒川 朱美
遠藤 公介
尾崎 久純
岡本 隆
※北澤 修一
玉崎 良和
富田 昌義
福地 一彦
前川 治彦
松田 善弘
○宮下 幹雄
水川 尚彦
宮崎ひろ志
■会員企画小委員会
伊藤 郁郎
稲木 裕子
上埜 京子
尾崎 俊文
大沢 智弘
北村 恭一
小板橋鉄雄
小林 孝一
※佐伯由紀子
柴田 厚
○高田 光雄
※高橋 麗子
塚口 明洋
増渕 昌利
山嵜 章子
■広告企画小委員会
※池渕 俊男
佐野 寛志
○下村 甫
橋本龍二郎
原田 常介
藤田 孝吉
山下 修司
○渡辺 忠
○印 副委員長と幹事 ※印 同代行

印刷 平成3年3月20日
発行 平成3年3月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06—348—0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 日本写植印刷株式会社
電 06—606—1111(代)
青葉印刷株式会社
電 06—351—5428(代)
定価 980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

特集●日本建築協会東海支部復活30周年記念

SPECIAL FEATURE ON COMMEMORATION FOR THE 30 TH RESTRATION THE TOKAI BRANCH OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

会告
ハイタッチリサーチパーク見学会．GALLERY・MA講演ビデオ映写会．RESORT ISLAND淡路島—講演会と見学会・1泊2日の旅—．監事並びに本部所属評議員の当選．「建築と社会」復刻版と発行について．
寄附金の受領 — 1

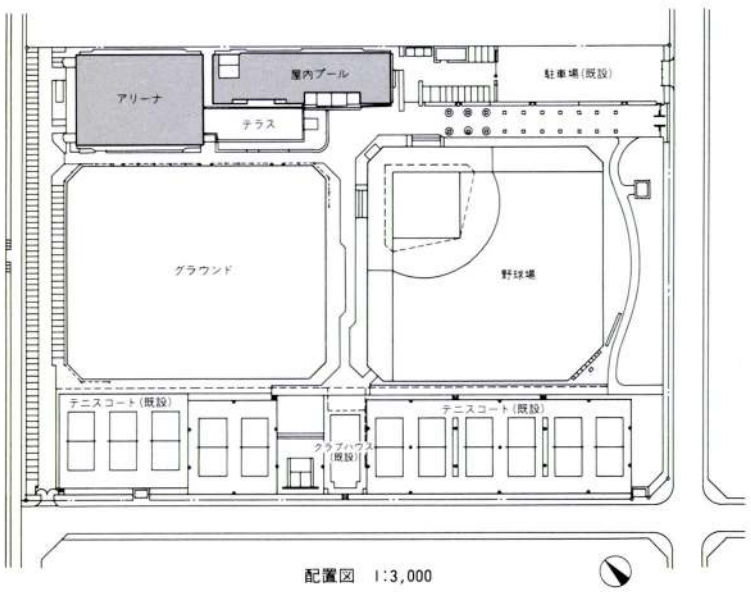
作品作風
薬業鳴尾浜スポーツセンター — 設計監理：安井建築設計事務所 施工：大林組 — 6
三井生命京都山科ビル — 設計監理：彦谷建築設計事務所 施工：要建設・新井組・藤木工務店共同企業体 — 10
SEI生駒セミナーハウス — 設計：安井建築設計事務所 施工：大林組 — 12
サザンパレスビル — 設計施工：大成建設大阪支店 — 14
阪和鳳自動車学校 — 設計監理：大建設計 施工：日本国土開発 — 16
百々ビル — 設計施工：松村組大阪本店 — 18
Gallery
LATOUR/貴志雅樹 — 20
スケッチブック
最近竣工した新建築17点（No.2330～No.2346） — 22
being
Greg Hall, AIA/塚口明洋 — 24
GBRCニュース
試験紹介/土の一面せん断試験—構造物試験室 土質・基礎部門— — 26
法令コーナー
大阪府総合設計制度許可取扱要領/瀬戸山和範 — 27
新建材紹介コーナー
ケラミット/猪野達雄 — 29
建築の眼
暦作りのために星を見ても宇宙のことまで詮索するべからず／岡崎甚幸．京都の景観と建築物の高さ2／國廣勲．建築家への信頼感／西部明郎．ピンポイント爆撃／大内実． — 30

特集
作品
東海支部復活30周年記念
三重県議会棟・講堂 — 設計：東畑建築事務所 監理：三重県土木部建築営繕課・東畑建築事務所 施工：大成・間・日本土建建設工事共同企業体 — 32
愛知県刈谷勤労福祉会館・勤労者総合福祉センター — 設計監理：安井建築設計事務所 施工：熊谷組・角文建設共同企業体 — 34
一宮市立市民病院今伊勢分院 痴呆性老人専門治療病棟・痴呆性老人ディケア施設 — 36
設計指導：名古屋大学工学部建築学科柳澤研究室 設計監理：一宮市建築部建築住宅課 伊藤建築設計事務所 施工：前田・中村建設建設共同企業体
鳥羽水族館新館 — 設計施工：大成建設名古屋支店 — 38
日本港湾福祉センター（シーパレス日港福）港湾技能研修センター — 40
設計監理：東海設計（小坂忠勝） 施工：日本港湾福祉センター／五洋建設・熊谷組・鹿島建設・清水建設共同企業体
港湾技能研修センター／研修・宿泊棟 実習・実験棟 清水建設 屋外施設 五洋建設
中京テレビ放送株式会社放送センター — 設計監理：伊藤建築設計事務所 施工：大林組名古屋支店 — 42
豊橋赤十字血液センター — 設計監理：伊藤建築設計事務所 施工：鴻池組名古屋支店 — 44
ユーグリーン中津川ゴルフ倶楽部クラブハウス — 設計施工：竹中工務店 — 46
シンコーゴルフ倶楽部ローズコースクラブハウス 設計監理：東海設計（小坂忠勝） 施工：清水建設名古屋支店 — 50
東海カントリークラブクラブハウス — 設計施工：大林組名古屋支店 — 52
津カントリークラブクラブハウス — 設計施工：大成建設名古屋支店 — 54
ホリデイ・タワー — 設計監理：大成建設名古屋支店 施工：大成建設・日本国土開発・錢高組共同企業体 — 56
白馬47スキー場 — 総合監理・建物設計監理：伊藤建築設計事務所 土木設計監理・コンサルティング：アンドー飯田支店 施工：熊谷組名古屋支店 — 58
日本車輌有松寮 — 設計監理：伊藤建築設計事務所 施工：熊谷組名古屋支店 — 60
東邦ガス内海荘 — 設計：伊藤建築設計事務所 監理：東邦ガス技術部 施工：鴻池組名古屋支店 — 62
栄ガスビル 総合監理：東邦ガスエンジニアリング 設計監理：日本設計 施工：竹中工務店・鹿島建設・日本国土開発共同企業体 — 64
日本電装基礎研究所 — 設計施工：竹中工務店 — 66
円山ニッセイビル — 設計：竹中工務店 施工 竹中工務店・矢作建設工業 — 68
松下・中日ビル — 設計施工：竹中工務店 — 70
大河内ビル — 設計施工：竹中工務店 — 72
日健総本社ビル — 設計施工：清水建設名古屋支店 — 74
アマダソノイケ富士宮工場 — 設計施工：清水建設名古屋支店 — 76
トンボ鉛筆新城工場食堂棟 — 設計監理：安井建築設計事務所 施工：小野工務店 — 78
建て替え期の公共住宅 — 浦上和彦／根津国穂／前田義夫／福田一豊／中島 一 — 80
座談会
住宅をめぐる現況と将来 桃花台ニュータウン—当初計画と現在— — 河合 修・岩田利通 — 88
論文
住宅をめぐる現況と将来 公団住宅建て替え志賀団地—企画から建設入居まで— 木全文男 — 90
住宅をめぐる現況と将来 大都市の公共住宅千種台団地建て替えについて— 中神俊士 — 92
住宅をめぐる現況と将来 高齢化社会に対応する住宅対策 — 壁谷又嗣・石橋 聡 — 94
住宅をめぐる現況と将来 高齢化社会に対応する住宅対策/三世代が醸すコミュニティタウンをめざす「岡崎三世代宅地供給事業」 中根謙夫 — 96
住宅をめぐる現況と将来 民営集合住宅—現況とこれから — 野口 浩 — 98
建築地場産業ルポ
美濃坂祝瓦—坂祝町 名古屋仏壇—名古屋/野沢英希．ひな人形—西春町．亀山美術ロウソク—亀山市/野沢英希 — 100

小特集
関西の祭事の研究—序— — 108
大森智子/久村宗憲/田中康/藤記真/宮野道雄（若い会員の集い小委員会関西の祭事研究会）
構造の頁192
床の制振／岡本達雄 — 116
設備の頁192
オフィスのパーソナル空調／今川望 — 117
建材委員会レポート
関西文化学術研究都市見学会／牧田顕治 — 118
月間の動き
平成3年1月分 — 119
INFORMATION
「日本インテリアクリエイター交流協会」設立を目指して．平成5年のアーキテクチュア・フェアKOBE構想．ステップ方式で学ぶCADスクール、4月からスタート．フランク・ロイド・ライト回顧展—講演「ライトが今、私達に問いかけること—」．景観シンポジウム—京都のグランドスケープを考える．建築家・歌一洋の世界． — 120
アメリカからの報告(12)
正統の徒 シーザー・ペリ・アンド・アソシェイツの建築 — 122

薬業鳴尾浜スポーツセンター

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　大林組
給排水衛生・空調　須賀工業
電　　気　ダイダン



配置図　1:3,000


海からの遠望



アプローテのラクウショウの並木と玄関



多目的グランドより望む

建物の立地する鳴尾浜地区は、西宮市の東南に位置し、当初は工業物流センターとして昭和40年代に埋立されたものであるが、現在では兵庫県立総合体育館をはじめ大学の総合グラウンドなどスポーツ施設も多数建設され、運動公園的な趣も加わってきている。

また周囲を海に囲まれているため、海越しに六甲連峰が眺望できるほか、地区の建築協定によって景観規制がなされており、緑豊かな良好な環境が形成されている。

神戸・大阪からの交通の利便もよく、現在工事中の湾岸道路が完成すれば、将来さらにアプローチが容易となるであろう。

薬業鳴尾浜スポーツセンターは、大阪薬業厚生年金基金の福祉施設として、昭和59年にアウトドア・スポーツ施設（野球場・多目的グランド・テニスコート）がオープンしたが、今回新たに基金の20周年事業として、インドア・スポーツ施設（アリーナ・屋内プール・小体育室・バス・サウナ等）、並びにテニス場・野球場のナイター設備が整備され、年間・昼夜を通じての総合スポーツセンターとして生まれ変わろうとしている。

建築計画は、良好な環境になじませると共に、スポーツ施設としてのイメージ（健康・軽快・活力）を表現し、シンボル性をもたせるよう意図した。

全体構成としては、大きなボリュームのアリーナゾーンを敷地の西奥にあたる海側に配置して海からのランドマークとなるよう位置づけ、小さなボリュームの管理・プールゾーンをその手前に配置することにより、アプローチや敷地への圧迫感を緩和するような構成とした。建物の形態は、その2つのボリュームを、海の波をモチーフに、大小2つのツインボールトとして特徴づけた。

またプール・テラスを2階に配置して海へ開かれた眺望にも配慮している。

（熊田将男／安井建築設計事務所）



玄関ポーチディテールと六甲山



2階テラスより海と六甲山を望む

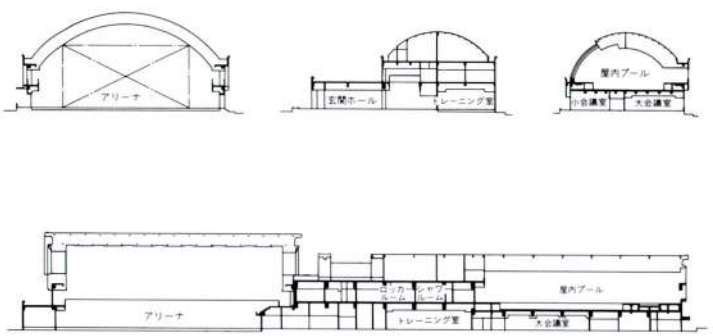
所 在 地　西宮市鳴尾浜1丁目20-2
敷地面積　47,759.41㎡
建築面積　4,494.76㎡
延床面積　7,028.14㎡
構造規模　RC（一部S）
工　　期　平成1年9月～平成2年12月
最 寄 駅　阪神電鉄 甲子園駅

撮　　影　SS大阪

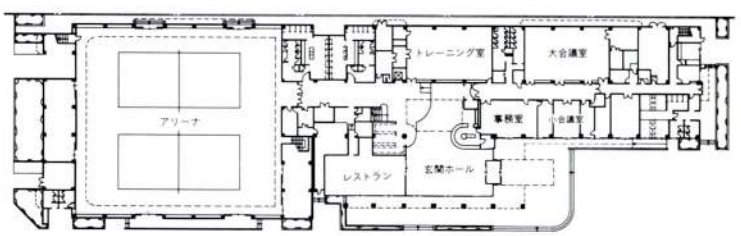
屋内プール、サッシは可動式



玄関吹抜



断面図



1階平面図　1:1,500



正面外観

三井生命京都山科ビル

設計監理　彦谷建築設計事務所
施　　工　要建設・新井組・藤木工務店共同企業体
電　　気　きんでん
空調衛生　三機工業

所 在 地　京都市山科区竹鼻堂ノ前町46－1
敷地面積　629.42㎡
建築面積　491.22㎡
延床面積　4,435.99㎡
構造規模　SRC、9F、PI
工　　期　平成2年6月～平成3年10月
最 寄 駅　JR東海道線山科駅・京阪電鉄京津線山科駅

撮　　影　甲斐　勲

建設地はＪＲ・京阪電鉄山科駅から近く、主要幹線道路に面し、将来の駅前再開発及び地下鉄の建設計画を考えると、今後ますます発展が期待される地域である。その好条件に恵まれた敷地に、京都山科地区として初めての本格的オフィスビルとして計画した。

敷地周辺は、中小の建物が交じり合い複雑な街並を形成している。その中に異和感なく溶け込ませつつ、生命保険会社としての企業イメージを高める気品と落ち着きのあるファサードを表現した。

外装材としては「京都の土壁と障子」をモチーフとして、ベージュグレーのリブ付タイル、横線強調のアルミパネル貼、低層部の花崗石と使い分け、窓面は、道路騒音を配慮して電解着色のエアータイトアルミサッシュ、グレー色の熱線吸収硝子による構成としてモノトーンの現代的な感覚を演出した。更に最上階両端にバルコニーを設けることで外観にアクセントを付け、地域のランドマークとしての高い識別性を与えた。

空調設備は、各スパン毎の個別空調方式とし、個別運転・個別計量が可能となり、残業や休日出勤に対応させた。テナントへのサービスとして、終日出入り可能な磁気カードによるロックシステム（時間外通用口）を採用した。更にキーボックスによる全館自動警備体制と共に防犯等の安全性を高め、24時間対応ビルとして機能させている。

又、駐車設備は50台収容の循環式立体駐車方式とし、磁気カードシステムによる終日運転を可能とした。

（八木一夫／彦谷建築設計事務所）



西面外観



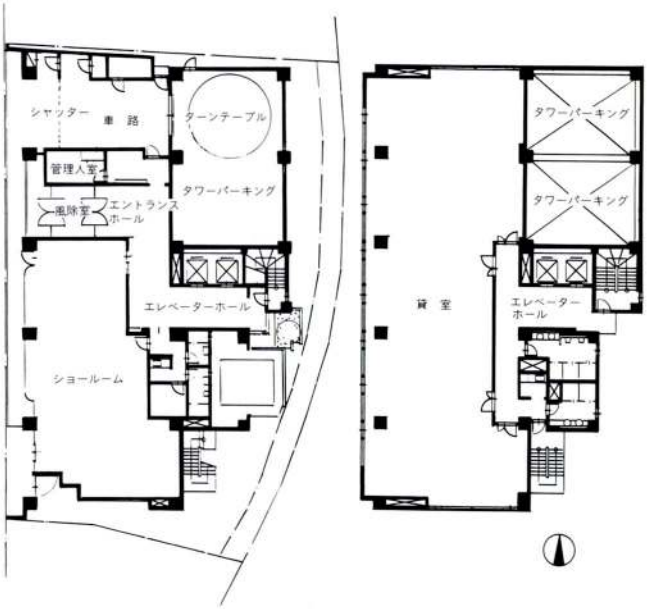
エントランスホール



ショールーム(1階)



エントランス



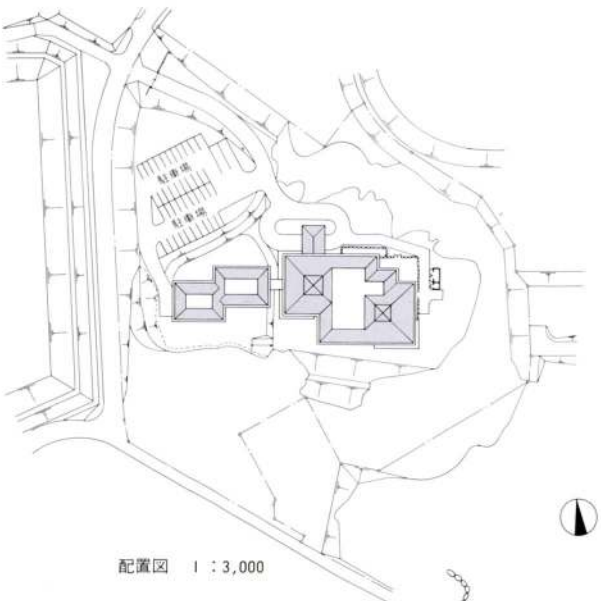
1階平面図　　1：500　　基準階平面図

SEI 生駒セミナーハウス

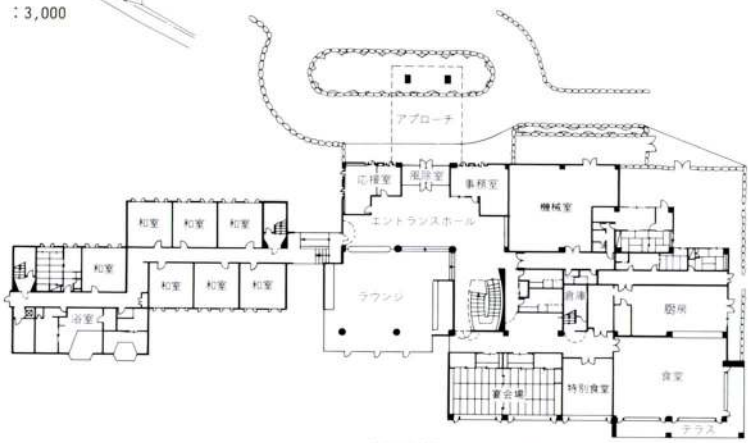
設　　計　安井建築設計事務所
施　　工　大林組



宿泊棟立面



配置図　1：3,000



1階平面図　1：1,000

敷地は大阪都心から東北東約15kmの金剛生駒国定公園内の山中に立地し、関西文化学術研究都市「清滝、室池地区」内の大阪府「緑の文化園」事業地域にある。

「緑の文化園」の事業目的は、土砂採取跡地の室池北部と隣接した室池地区において、自然の回復をめざして、緑と水を一体的に活用した施設整備を図り、自然レクリエーションの拠点づくりを行なうことにある。

ＳＥＩ生駒セミナーハウスは住友電気工業株式会社の創立90周年事業として計画され、設計にあたり「広く内外にアピールし得るもの」また「住友電工の社風・伝統がイメージされるもの」さらに「社員が職場を離れ、心安らぐもの」、「広く一般にも開放されるもの」などのテーマがあたえられた。

敷地は広く地形が砲台形をしていることもあって緑の文化園全体が一望できる。そのなかで建物を緑に溶け込むよう配置に工夫した。アプローチを長くとり、研修棟と宿泊棟を分離させ、その接点に交流の場として中庭の見える眺望のよいラウンジを設け、ゆったりと落ち着ける空間としてしつらえている。

外観は中庭を取り囲むように各棟を雁行させ、建物全体にリズムを与えると同時に、窓の両袖を壁面に深く掘り込み陰影のあるファサードを意図した。外壁の仕上げはスクラッチタイルのフランス貼りと鉄さびのある御影石の割り肌を組合せ、屋根には黒の天然スレートを葺いて、落ちついてシックな表情をねらった。

このセミナーハウスの完成とともに、多くの人々の交流がはじまり、より深まっていくことを期待したい。

（豊田　充／安井建築設計事務所）

所 在 地　大阪府四条畷市
敷地面積　21,234.81㎡
建築面積　2,287.77㎡
延床面積　4,548.29㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1990年1月～1990年12月
最 寄 駅　JR片町線四条畷駅・近鉄奈良線生駒駅

撮　　影　シックスダッシュ

外観北西面



ラウンジ



階段まわり



宿泊室



2階ロビー



サザンパレスビル

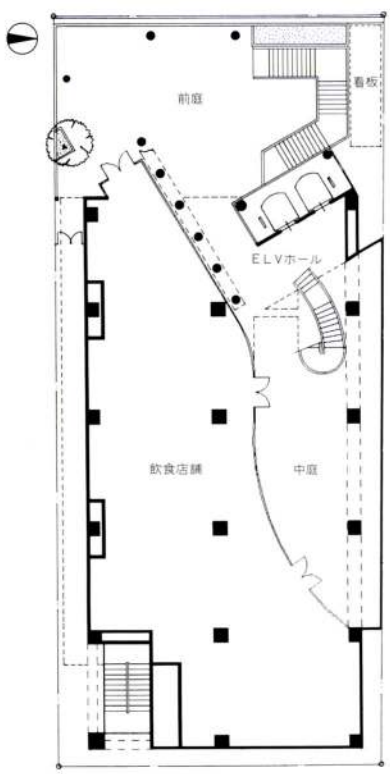
設計施工　大成建設大阪支店

所 在 地　大阪市中央区東心斎橋2丁目7番
敷地面積　706㎡
建築面積　444㎡
延床面積　2,538㎡
構造規模　S、B1、16F、PH1
工　　期　1989年7月～1990年12月
最 寄 駅　地下鉄御堂筋線心斎橋駅

撮　　影　相川経雄

サザンパレスビルは、大阪ミナミの繁華街の中心にあり、敷地の廻りは、キンキラキンのパービルやネオン看板の渦に巻き込まれそうな所です。
この様な場所で施主の要望は話題性のあるものにしたい事の一点でした。前面道路は6M巾員ですが、まず建物を大きく見せる事が重要でした。その為に前庭を10Mもとり、建物をセットバックさせ高さをとりました。前庭は隣の暫ビルの前庭と一体化し、南には珍しいポケットパークを創り出す事となりました。
外観は、都市の持つ記号を対比的に並べる事で、やはり都市の中でしか活かしきれない都会人にとってアトラクティブなものを表現しました。それは例えば、ミラーと壊れた石の壁が、現代のハイテックと過去の遺跡を象徴する様に。……
又、前庭の賑わい空間に対比させる形で建物内に外部吹抜を持つ静かなイメージの中庭があり、これはミナミの喧騒から逃れたい人々を優しく誘い込む装置として考えられています。その為にエントランス廻りの角ばったとげとげしさと反対に柔らかい包み込む様な曲線で構成しました。

（森下素光／大成建設）



1階平面図　1：400



前庭



正面外観見上げ



中庭



◀正面外観（夜景）
▶中庭見上げ

阪和鳳自動車学校

設計監理　大建設計
施　　工　日本国土開発



正面入口



当学校は、自動車教習所として40年の歴史とその間多勢のドライバーの育成に尽くされてきた伝統ある学校である。
その中心施設である本館棟の老朽化と新しい時代に向けて機能の集約化、施設の充実を計り又現代のニーズにも対応すべく、本館棟の建替が計画された。
配置計画は、教習所としてその機能を損なうことのない様、旧車庫スペースの跡地に配した。
平面計画は、コース全体を常に視覚的に印象づける様、生徒の動線はコース側に計画され常に外部（教習コース）を意識させている。
各教室は２・３階に配し、全体にゆとりある明解な平面計画とした。
外観は金属の勾配屋根によるシンプルな切妻を雁行させ外壁は淡いピンク系のタイルとグレー系のアルミパネルを組み合わせ、まちなみとしての景観と、若い人達が出会い集まる場所として、明るく親しみやすいイメージを現代的手法により表現した。
又コース側の景観は、水平に連続した出窓によって、車のもつハイテックでシャープなイメージを創出することができた。
伝統を受けつぎながら新しくモダンな自動車学校として、益々地域の人々に愛され、親しまれる事を願っている。

（四方　健／大建設計）

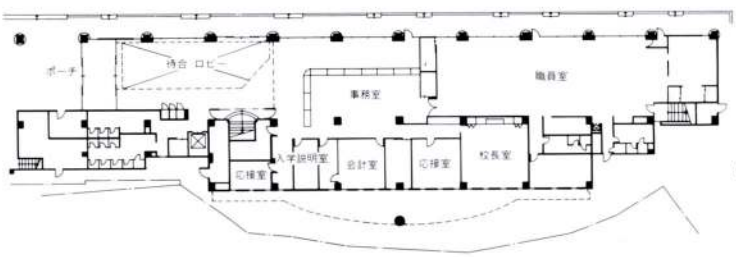

玄関ロビー

所 在 地　堺市鶴田町30－2
敷地面積　30,014.16㎡
建築面積　 1,283.52㎡
延床面積　 3,181.62㎡
構造規模　RC(一部SRC)、3F
工　　期　1989年10月～1991年３月
最 寄 駅　JR阪和線鳳駅

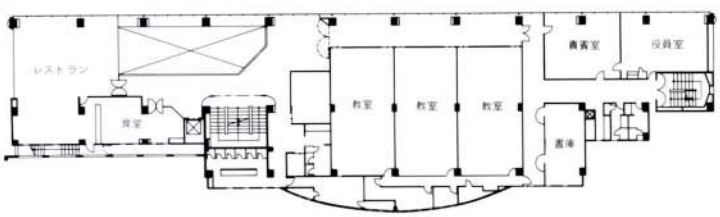
撮　　影　フォトスU



全　景



1階平面図　1：800



2階平面図　1：800



第6教室内部(3階)



レストラン内部(2階)

百々ビル

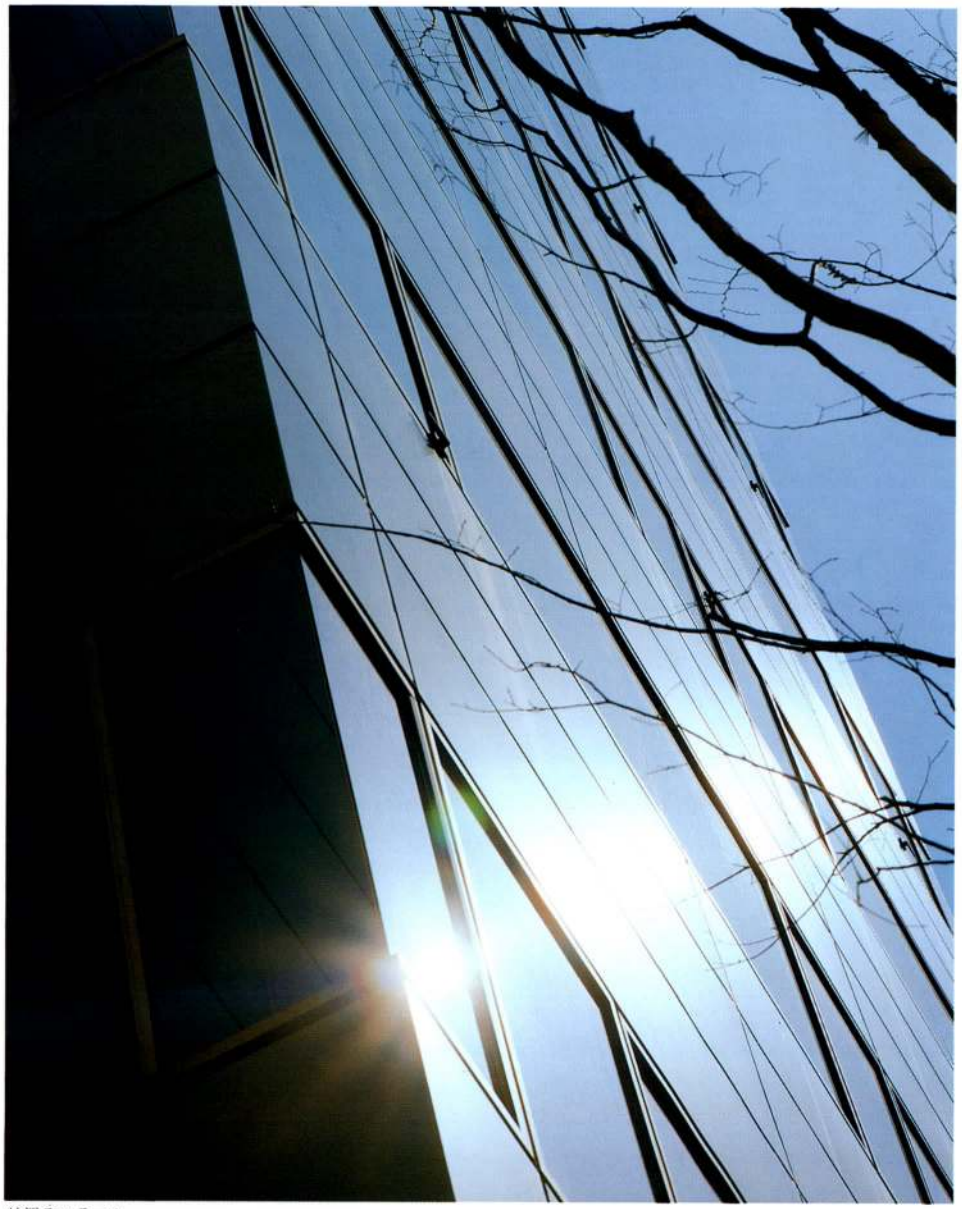
設計施工　松村組大阪本店

所 在 地　大阪市北区天満2丁目6番地 他
敷地面積　487.27㎡
建築面積　355.135㎡
延床面積　3,619.775㎡
構造規模　S(一部RC)、B1、10F、P1
工　　期　平成1年5月～平成2年8月
最 寄 駅　京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅

撮　　影　川元 斉

天満橋北詰を、一筋西に入った通りに面する10階建のテナントビルである。
敷地がT字型街路の突き当たりに位置するため、道路境界より建物を5m後退し、樹齢30年のケヤキを植えて、町並のアルコーブとなる様に計画。
通りの突き当たりの圧迫感を柔らげる為に、1階の床レベルを半階上げて、オーナー事務所と地下への駐車場の入口を設けている。34台収容の立体駐車場を組み込み、2～8階は有効面積70坪の貸事務室、9階・10階は2世代のオーナーの居宅である。居宅の各室からの展望は良く、大川端に繰り広げる天神祭を楽しむことが出来る。
外装はフッソ樹脂鋼板パネルと熱線反射ガラスを使用し、コーナー折れの連窓で連続した外観となっている。

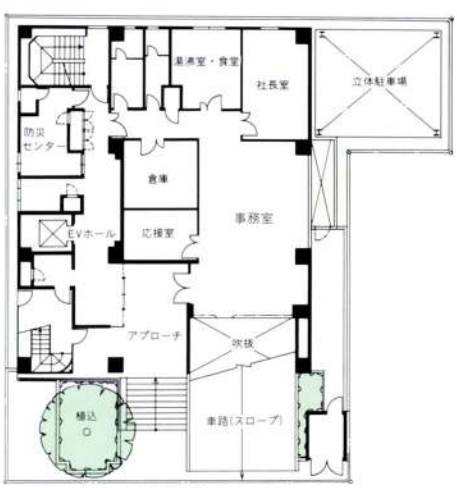
（徳永善一／松村組設計部）


外観ディテール


エントランス廻り


外観正面

外観見上げ



1階平面図　1：400



エントランス

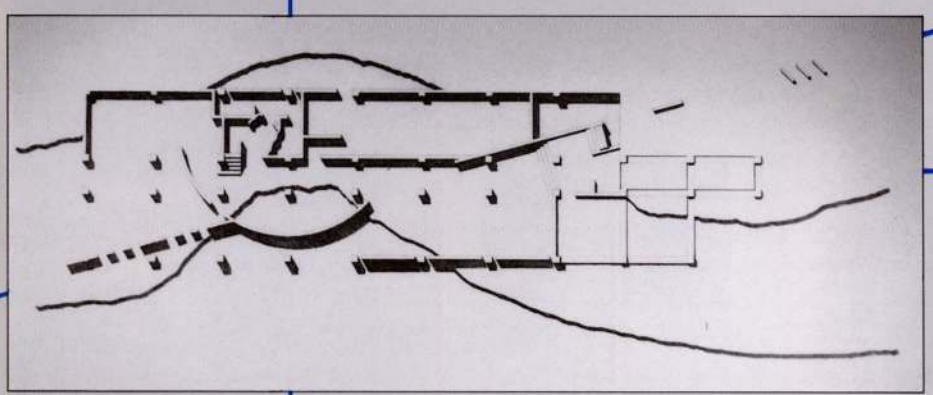


ラトゥール

所 在 地　大阪府箕面市如意谷4-380-1
主要用途　レストラン＋ギャラリー
設　　計　貴志雅樹＋環境企画室

貴志雅樹（きし・まさき）

1949年和歌山生まれ／1974年神戸大学大学院終了／安藤忠雄建築研究所を経て、貴志雅樹＋環境企画室設立



Gallery

まち・建築・ひと

撮　　影　松村芳治
企画編集　作品作風小委員会　福地一彦



直交グリッドに、斜めの壁を挿入し、空間を変容させます。
（ＭＵＬＴＩ－ＳＹＮＴＡＸ　あるいはしつらえ）
透明感のあるグリッドは、無機的に、反対に壁は、有機的に扱い対比による緊張感を創り出します。
（ＳＬＩＴ－ＯＢＪＥＣＴあるいは間）
単純な構成手法と、限られた素材で、空間を高揚させたい。
（ＳＩＬＥＮＣＥ　ＯＦ　ＬＩＧＨＴ　あるいは無）

貴志雅樹

LATOUR





スケッチブック

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



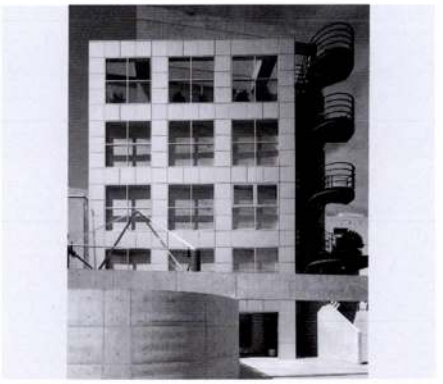
2330 ダイエー鳥取駅南店

設　計：奥村組一級建築士事務所
施　工：奥村組関西支社
a．鳥取市富安２-138-４
b．　5,789.51㎡
c．　4,962.61㎡
d．28,218.83㎡
e．S、一部RC、Ｂ１、６Ｆ
f．1988年10月～1989年11月
g．JR鳥取駅



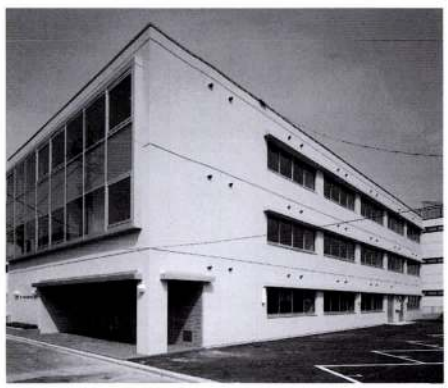
2331 SKY Forum

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：鴻池組名古屋支店
a．愛知県西春日井郡新川町大字土器野新田145
b．1,826.08㎡
c．　486.35㎡
d．3,546.62㎡
e．SRC、９Ｆ
f．1989年１月～1990年３月
g．名古屋鉄道須ヶ口駅



2332 AQUA HATCH

設　計：妹尾正治建築事務所
施　工：錢高組
a．東京都杉並区荻窪５-22-９
b．281.50㎡
c．126.705㎡
d．663.145㎡
e．RC、一部S、Ｂ１、５Ｆ
f．1988年10月～1990年３月
g．JR中央線、営団丸の内線、荻窪駅



2333 日本気象協会東海本部ビル

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：清水建設名古屋支店
a．名古屋市北区水草町１-21-４他
b．　811.26㎡
c．　437.49㎡
d．1,320.31㎡
e．RC、３Ｆ
f．1989年８月～1990年３月
g．地下鉄名城線黒川駅



2334 堂島パークビル

設　計：大林組一級建築士事務所
施　工：大林組・不動建設JV
a．大阪北区堂島浜１-１-８
b．　664.86㎡
c．　450.64㎡
d．3,335.81㎡
e．SRC、Ｂ１、７Ｆ、Ｐ１
f．1989年３月～1990年６月
g．地下鉄御堂筋線淀屋橋駅



2335 愛知銀行楠町支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：六合建設
a．名古屋市北区楠町大字味鋺西竹鼻11-１他
b．1,125.00㎡
c．　425.41㎡
d．　734.69㎡
e．RC、２Ｆ
f．1989年12月～1990年５月
g．市営バス味鋺小学校北停留所



2336 香川県立総合水泳プール

設　計：〔基本〕香川県土木部建築課、梓設計
　　〔実施〕香川県土木部建築課、香川県建築設計共同組合
施　工：飛島・淺沼・小竹建設JV他
a．高松市御厩町字原引1585-１
b．22,000.00㎡
c．　4,641.71㎡
d．　6,144.60㎡
e．RC、一部S、３Ｆ
f．1989年５月～1990年７月
g．JR予讃線端岡駅



2337 桑名信用金庫ネオポリス支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：大成建設
a．三重県員弁郡東員町城山１-22-２
b．826.45㎡
c．281.33㎡
d．367.17㎡
e．S、２Ｆ
f．1989年12月～1990年５月
g．三重交通バス城山二丁目停留所



2338 日本団体生命熊本ビル

設　計：久米建築事務所
施　工：積水ハウス、鹿島建設
a．熊本市紺屋今町１-５
b．　562.5㎡
c．　443.4㎡
d．3,835.6㎡
e．SRC、９Ｆ、Ｐ１
f．1989年８月～1990年８月
g．鹿児島本線熊本駅



2339 日清紡名古屋工場男子寮

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：小原建設
a．名古屋市南区豊田町字道徳新畑2954－1
b．8,843.90㎡
c．　700.11㎡
d．2,754.82㎡
e．RC、5F
f．1989年8月～1990年6月
g．名鉄名古屋本線大江駅



2340 ヤマト運輸兵庫主管支店

設　計：日建設計
施　工：戸田建設
a．西宮市山口町阪神流通センター3－5－4
c．10,482㎡
d．19,728㎡
e．S
f．1989年8月～1990年9月
g．JR三田駅



2341 東海銀行市丘北家族寮D棟

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：佐藤・石田建設JV
a．名古屋市瑞穂区市丘町1－28他
b．2,853.660㎡
c．　766.620㎡
d．2,040.794㎡
e．RC、3F
f．1990年1月～1990年10月
g．地下鉄名城線新瑞橋駅



2342 北九州国際会議場

設　計：磯崎新アトリエ
施　工：鹿島・奥村・熊谷・大商JV
a．北九州市小倉北区浅野3－2
b．9,398㎡
c．4,504㎡
d．8,997㎡
e．RC、一部SRC、B1、8F
f．1989年7月～1990年10月
g．JR小倉駅（北口より約500m）



2343 北伊勢信用金庫松本支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：新栄建設
a．三重県四日市市松本3－435－1
b．693.54㎡
c．201.72㎡
d．253.11㎡
e．S、一部RC、2F
f．1990年5月～1990年10月
g．近鉄湯の山線いせまつもと駅



2344 太陽生命枚方ビル

設　計：栗本建設工業一級建築士事務所
施　工：栗本建設工業
a．大阪府枚方市新町1－12－1
b．1,340.82㎡
c．　988.40㎡
d．6,636.04㎡
e．S、一部SRC、B2、9F
f．1989年7月～1990年11月
g．京阪枚方市駅



2345 三重銀行大矢知支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：松岡建設
a．三重県四日市市大矢知町字上沢1051－1、1052－1
b．947.00㎡
c．345.70㎡
d．312.53㎡
e．S、一部RC、1F
f．1990年6月～1990年11月
g．三岐鉄道大矢知駅



2346 カプコン賢島保養所

設　計：栗本建設工業一級建築士事務所
施　工：栗本建設工業
a．三重県志摩郡阿児町鵜方字タチメ3618-27
b．2,237.00㎡
c．　314.12㎡
d．　445.50㎡
e．RC、2F
f．1990年3月～1990年12月
g．近鉄賢島駅

スケッチブック欄作品募集！

当欄では、日々新しく竣工していく建築作品を記録として永くとどめるため、会員の皆様から提供いただいた作品を写真と概要でご紹介しております。

ご掲載ご希望の方は当協会編集部まで、どしどし原稿（写真と概要）をお送り下さい。

● スケッチブック欄原稿用紙を用意しております。ご請求ください。

being 28
Greg Hall, AIA

Greg Hall, AIA——Renzo Piano Building Workshop Japan



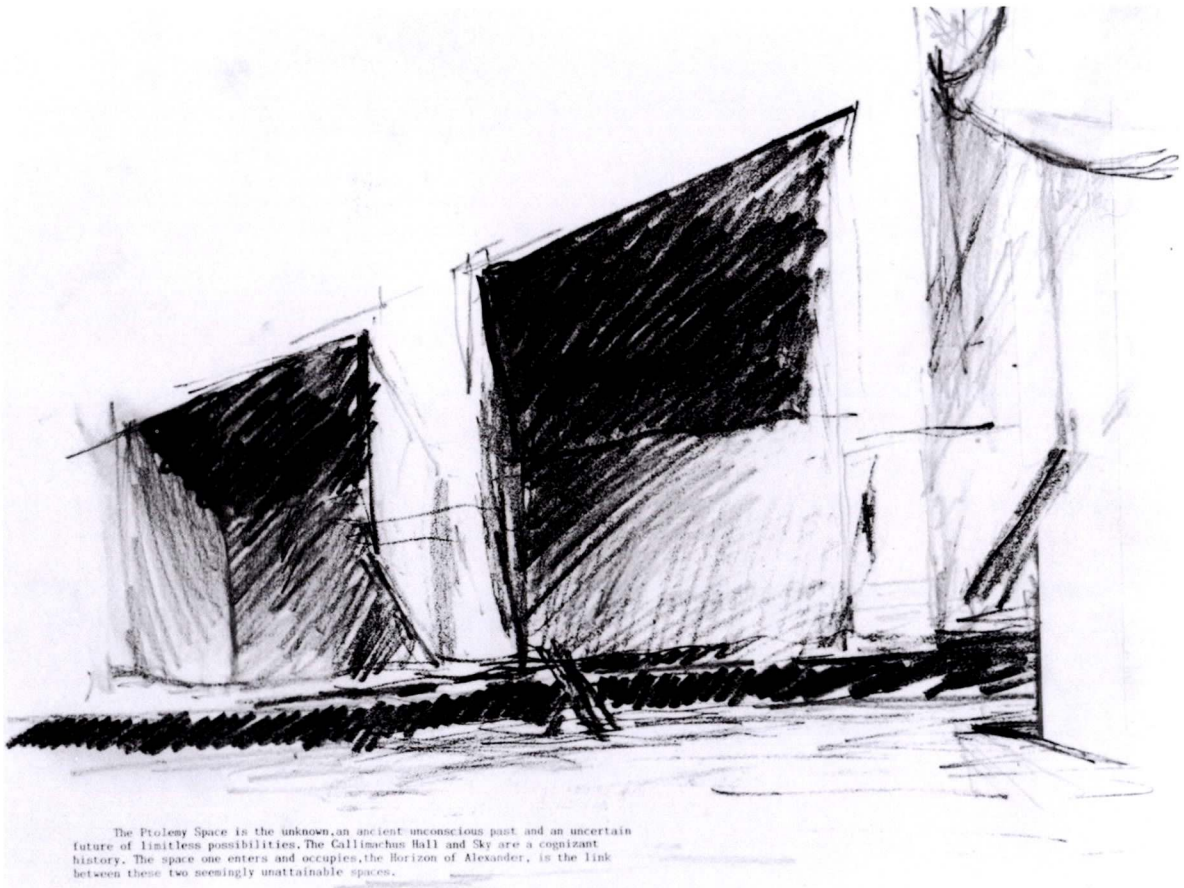
グレッグ・ホール氏は、現在、日本でレンゾ・ピアノ・ビルディング・ワークショップに所属し、関西新空港旅客ターミナルビルディングの設計にたずさわっている。1989年大阪に来るまでは、レンゾ・ピアノのジェノバ事務所とパリ事務所で働いていた。

大阪で仕事をし、生活するうち、彼は、FESAE（東京に本部をおいた日本と外国の建築家・技術者の組織）の関西支部の発足に加わった。FASAE やその他の活動を通して、彼は日本の建築家と外国の建築家との相互理解を深めたいと願っている。

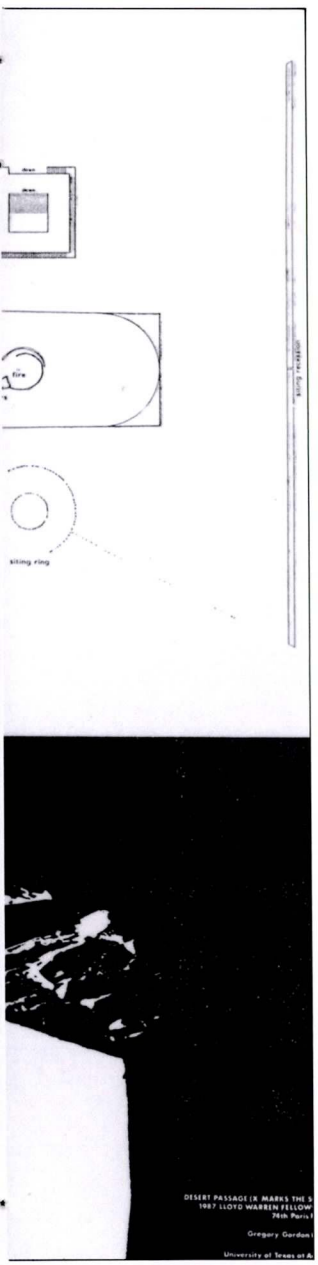
グレッグ・ホール氏は、アメリカのテキサス大学建築科卒で、出身もテキサス州。彼は、テキサス大学で建築の勉強を始める前に、1978〜80年の2年間、大阪で日本語を学び、また日本の建築を学ぶ機会をもった。日本語に関しては会話はもちろんのこと、読み書きも堪能でさらにフランス語も O.K. である。

ホール氏は、今までアメリカをはじめとして、アフリカ．イギリス．フランス．イタリアそして日本で働き、その間、事務所での仕事以外でも、個人的に数回建築コンペに参加している。左上部のイラストは、1989年にエジプトのアレクサンドリアでの図書館のコンペの際のもので、右上部のイラストは、1987年のロイド・ワーレン・フェローシップのコンペの提出案であり、このコンペで彼は1等であるパリ賞を NIAE（ニューヨークの国立建築教育協会）から受賞している。

塚口明洋



The Ptolemy Space is the unknown,an ancient unconscious past and an uncertain future of limitless possibilities. The Callimachus Hall and Sky are a cognizant history. The space one enters and occupies,the Horizon of Alexander, is the link between these two seemingly unattainable spaces.



Greg Hall, AIA is employed in the office of Renzo Piano Building Workshop Japan where he is involved in design work for the Kansai International Airport, Passenger Terminal Building. Prior to moving to Osaka in 1989, he worked in the Genova and Paris offices of Renzo Piano.

While living and working in Osaka, Greg Hall has also been involved in the establishment of the Kansai Chapter of the FASAE, a Tokyo-based association of Japanese and foreign architects and engineers. Through his work, his involvement with FASAE, and through other activities he hopes to encourage communication and mutual understanding between foreign and Japanese architects.



Greg Hall

Greg Hall, a Bachelor of Architecture graduate of the University of Texas, is from Texas and Georgia. Prior to his architectural studies at Texas, Mr. Hall studied Japanese language and Japanese architecture in Osaka from 1978 to 1980. Besides speaking, reading, and writing. Japanese, he also speaks French.

Mr. Hall has worked in the U.S.A., Africa, England, France, Italy, and Japan. In addition to his professional work he has completed several individual competition entries, two of which are illustrated above, the Bibliotheque Alexandria, Egypt, 1989, above right and the 1987 Lloyd Warren Fellowship, left, of the NIAE (National Institute for Architectural Education, New York) for which Mr. Hall was awarded First Prize, the 1987 Paris Prize.
I hope, in near future, his original architectual plan will come true in my town Osaka !

Akihiro Tsukaguchi

試験紹介　土の一面せん断試験

—— 構造物試験室　土質・基礎部門 ——

財団法人　日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1　〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日　9：00～17：00
　　土曜　9：00～12：00(第2、第4土曜休日)

一面せん断試験は直接せん断試験の一種であり、従来の三軸圧縮試験に較べて以下の利点があるといわれている[1]。**(図－1)**

i）装置が簡単であり、試験が容易であること。

ii）供試体が薄い板状なので、粘土では圧密が容易であり排水せん断も容易であること。

iii）必要な試料の量が少ないので、均一な供試体を準備することが容易となること。

iv）力学的な関係が理解しやすく、結果の整理もやさしい（モールの円を必要としない）こと。

v）二次元の安定問題と相似な平面変形を与えること。

当試験所では、今年度、土の一面せん断試験装置を導入した。この装置は、従来の一面せん断試験装置の問題点を考慮した上で製作しており、計測・制御についても極力自動化に努めた。本装置の諸元を以下に示す。

供試体寸法：ϕ60mm×h20mm、ϕ100mm×h30mm

最大せん断力：1 tf

最大垂直力：1 tf

せん断力制御：応力制御あるいはひずみ制御（いずれも自動制御可能）

垂直力制御：応力制御（自動制御可能）

せん断変位速度：$0.02^{mm}/_{min}$～$0.5^{mm}/_{min}$

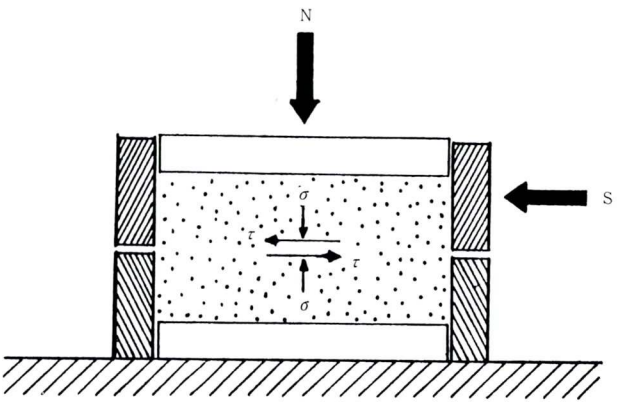
せん断箱型式：上箱移動型、案内装置、垂直軸ガイドあり。

図－2に、粘土のＣＵ（圧密定体積）試験の一例を示す。この場合、垂直応力の制御は自動制御で行ったが、なめらかな応力経路が得られており、せん断中の垂直変位の変動も±0.002mm程度に収まっている。

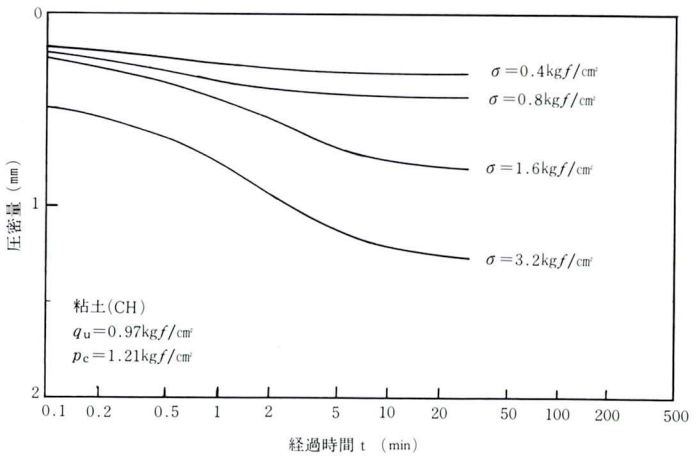
試験に関するお問い合わせは、構造物試験室下平祐司までお願い致します。

参考文献

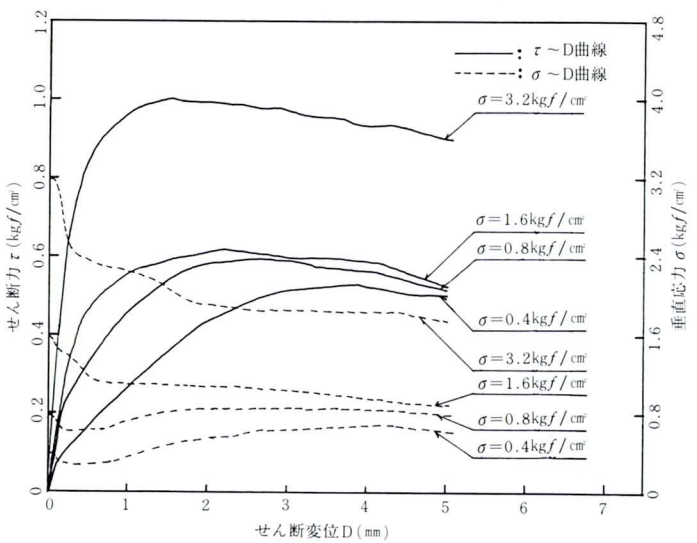
1)土質工学会（1990）：土質試験の方法と解説



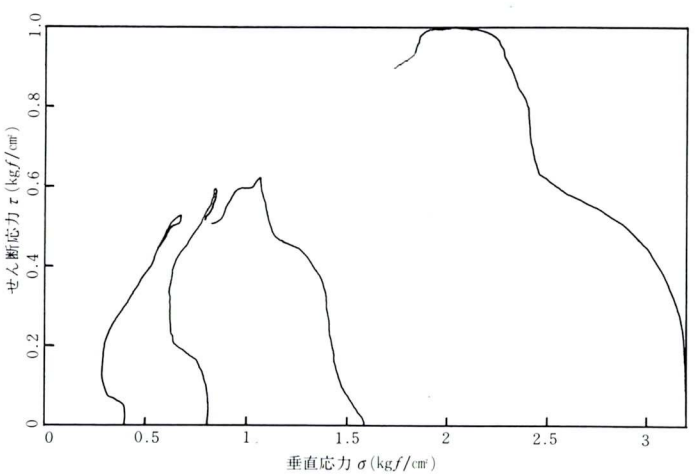
図－1　一面せん断試験概念図



（a）圧密量～時間曲線



（b）せん断応力、垂直応力～せん断変位曲線



（c）せん断応力～垂直応力曲線（応力経路）

図－2　粘土のＣＵ試験の一例

法令コーナー

編集委員会法令分科会

257

大阪府総合設計制度許可取扱要領

建築基準法第59条の２の規定に基づく総合設計制度は、一定規模以上の敷地に、一定割合以上の空地を確保することにより、都市で不足している公共スペースの創出や市街地環境の向上に役立つ良好な建築計画に対して、容積や高さ制限の緩和をすることができる制度である。

本制度の運用については、建設省通達昭和61年「総合設計に係る許可準則の改正について」、同年「総合設計許可準則に関する技術基準について」、平成２年「総合設計許可準則に関する技術基準の一部改正について」によって、その許可方針および技術基準が示されている。大阪府はこれら通達の趣旨をふまえ、大阪府総合設計制度許可取扱要領を定め、平成３年１月より実施している。

総合設計に関する要領等は、すでに大阪市、神戸市等の政令指定都市等で策定されているが、都道府県レベルとしては、東京都に次ぐものである。

１．基本要件

(1) 対象地域

原則として、市街化区域でかつ用途地域の指定がある地域とするが、敷地の位置、敷地周辺の土地利用の状況および都市施設の状況等を総合的に勘案したうえで、本制度を適用する。

(2) 敷地条件

①敷地規模　計画建築物の敷地面積の最低限度は、用途地域の区分に応じて、**表１**の当該各欄に掲げる数値以上とする。

②前面道路の幅員　原則として、用途地域の区分に応じて下記に掲げる数値以上とする。

- 第１種住居専用地域、第２種住居専用地域、住居地域または準工業地域　６ｍ
- 近隣商業地域、商業地域、工業地域または工業専用地域　８ｍ

③敷地形態　敷地は、共同化等により集約して規模の拡大を図り、できる限り整形のものとする。

④空地率　計画建築物の敷地内の空地率（敷地内の空地の敷地面積に対する割合。以下同じ）は、**表２**の各欄に掲げる基準建ぺい率（建築基準法〈以下、「法」という〉第53条の規定による建ぺい率をいう。以下同じ）の区分に応じ、同表各欄に掲げる数値以上とする。

表１

地域または区域	敷地面積の規模(㎡)	容積割増しを受ける場合の敷地面積(㎡)
第１種住居専用地域	1,000	1,000
第２種住居専用地域、住居地域、及び準工業地域	500	1,000
近隣商業地域及び商業地域	500	500
工業地域、工業専用地域及びその他の地域	2,000	2,000

表２

基準建ぺい率	空地率の下限(C:基準建ぺい率(%))	
	容積割増しの場合	斜線緩和のみの場合
50%以下	115%－C	110%－C
50%を超え55%以下	65%	60%
55%を超える場合	120%－C	115%－C

(3) 緑化等

原則として、敷地内の空地の30%以上の緑化をするものとし、景観上の配慮を行うこと。

(4) 日影規制

建築基準法第56条の２および大阪府建築基準法施行条例に基づく制限に適合したものであること。

(5) 住宅の整備

地域の実情に応じて良質・多様な住宅の供給を図るとともに、下記整備目標の確保に努めること。

①原則として、住戸の専用床面積が60㎡以上の住戸が全戸数の２分の１以上であること。

②共用廊下、共用階段等のスペースは余裕のあるものとすること。

③駐車場は、全住戸数の50%以上の駐車台数を確保するとともに、駐車施設については、安全管理および景観に配慮したものであること。

④自転車等の置場は、全戸数の150%以上のスペースを確保すること。

２．容積割増しの許可基準

(1) 公開空地

公開空地の定義および公開空地の算定方法は、歩道状公開空地の取り扱いを除き、原則として、「総合設計許可準則に関する技術基準について」に定める内容による。

(2) 容積割増し

容積の割増しは、**表３**の区分によって、有効公開空地面積の合計の敷地面積に対する割合（以下「公開空地率」という）に応じて行う。ただし、割増し容積の上限は、表３に定める範囲内とする。

(3) 容積割増しの特例

下記に掲げる建築物は、表３の区分に応じた容積割増しの限度内で、容積割増しを行う。

①文化施設等を含む建築物の特例　床面積300㎡以上のホール、展示場等、一般に利用できる施設は、市街地環境の整備改善に貢献すると認められる程度に応じて、容積の割増しを行う。ただし、交通の利便性の高い商業地域内で施設の維持管理が適切に行われる担保性を有するものに限る。

(4) 有効公開空地率の下限

上記の容積割増しを行う場合、有効公開空地率は**表４**の式によって得られる値以上とする。

表４

基準建ぺい率(%)	有効公開空地率(S/A)の下限
5.5/10未満	0.5
5.5/10以上	0.2+(1－C)×10/4.5×0.3

３．高さ制限の緩和

(1) 第１種住居専用地域内での絶対高さ制限の緩和（法第55条の２）

- 制限緩和の上限を高さ12ｍとする。
- 許可の基準は法第55条２項に定める規定を準用。

(2) 道路斜線制限の緩和（法第56条１項）

①緩和の要件

- 「基本要件」を満たすほか、一定規模以上の有効公開空地の確保を義務づける。

②天空光の確保等

- 道路斜線制限または隣地斜線制限の緩和を受けることのできる建築物は、許可準則の考え方に沿って、法第56条第１項の規定の適用により、道路または隣地に対して確保される天空光を確保しうるものであること。
- 許可基準は、「総合設計許可準則に関する技術基準について」および「総合設計許可準則に関する技術基準の一部改正について」に定める内容とする。

（大阪府建築部建築指導課　瀬戸山和範）

表３

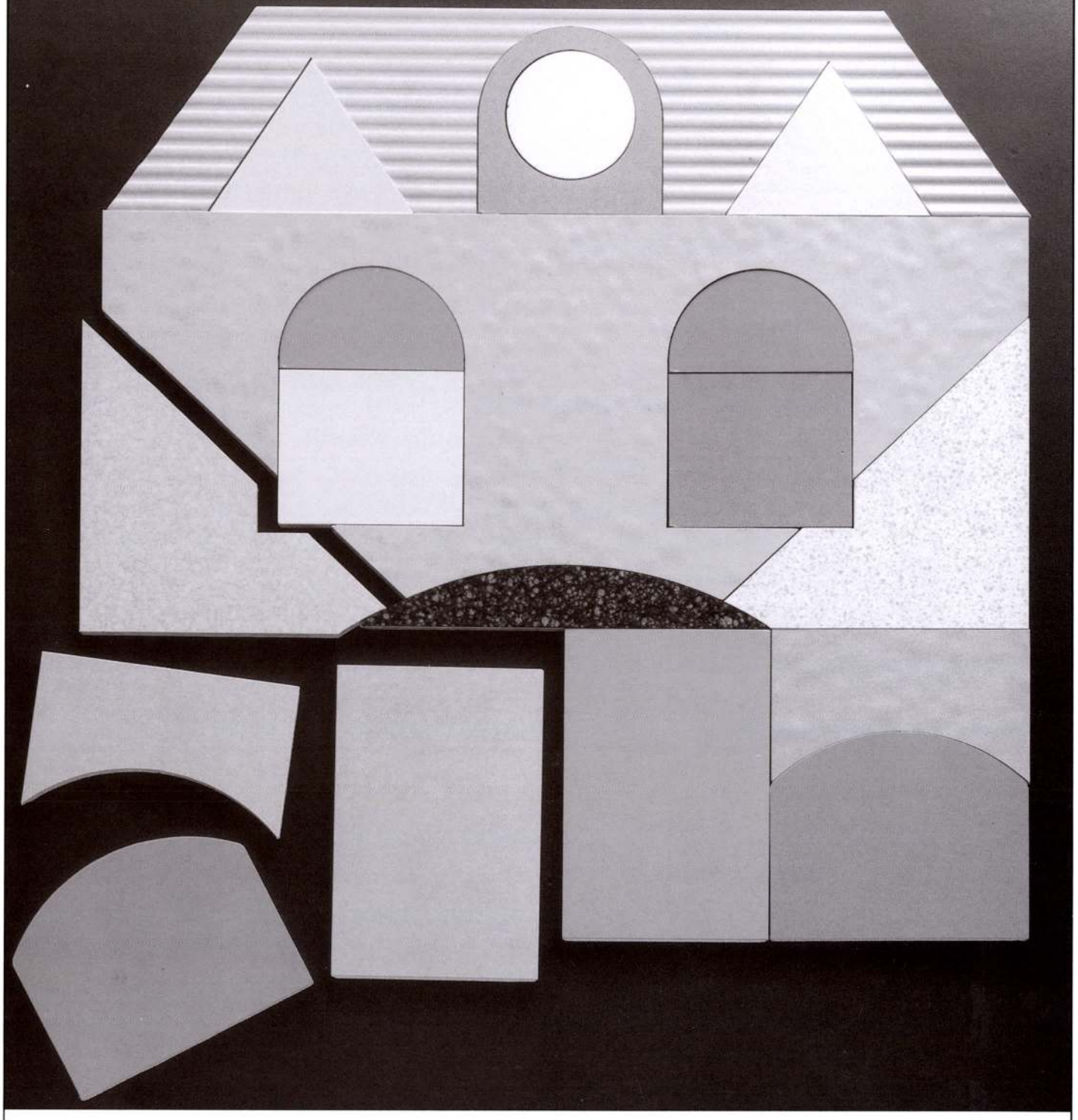
区　分	対象となる建築物の要件	割増しされる容積率の算定式	割増し容積の限度
一般型	基本要件を満たすもの	$(\frac{\text{有効公開空地面積}}{\text{敷地面積}}-0.1)\times ki$	基準容積の1.5倍かつ200%増以下
再開発方針等適合型	基本要件を満たし、かつ下記のいずれかに該当するもの ①都市再開発法に規定する「再開発方針」に適合するもの ②既成市街地の再整備に寄与する建築物で、各事業区域の計画等に適合するもの	$(\frac{\text{有効公開空地面積}}{\text{敷地面積}}-0.1)\times 1.25ki$	基準容積の1.5倍かつ250%増以下
共同住宅型	基本要件を満たし、かつ下記の要件を満たすもの ①延べ面積の1/4以上を住宅の用に供する建築物 ②原則として、２種住専、住居、近商または商業地域内 ③敷地面積が2,000㎡以上 ④住宅全戸の専用面積が40㎡以上、賃貸で平均60㎡以上、分譲で70㎡以上 ⑤駐車場を全戸数の80%以上	$(\frac{\text{有効公開空地面積}}{\text{敷地面積}}-0.1)\times(a+1)\times ki$	基準容積の1.75倍かつ300%増以下(aが2/3以上の場合)
共同住宅再開発型	「再開発方針等適合型」の条件を満たし、かつ「共同住宅型」の条件を満たすもの	$(\frac{\text{有効公開空地面積}}{\text{敷地面積}}-0.1)\times 1.25(a+1)ki$	基準容積の1.75倍かつ300%増以下(aが2/3以上の場合)

ki：割増し係数（基準容積率によって定まる係数で、右表による）

a：建築物における住宅の用に供する部分の床面積の、延べ面積に対する割合

基準容積率(v)	割増し係数(ki)
100%未満	2/3
100%～900%未満	1/3+(9－v)×1/8×1/3
900%以上	1/3

陶磁器の深い味わい 自由自在のデザイン性



大型陶装板

ケラミット

⊙日本板硝子株式会社

大型陶装板

ケラミット

日本板硝子株式会社　大阪支店　〒541 大阪市中央区道修町3－5－11
TEL. 06（222）7539
東京支店　〒105 東京都港区新橋1－8－3
TEL. 03（3574）8612

大型陶装板「ケラミット」は従来のタイルにはなかった弾性と強度を有する内外装用の新建材である陶磁気の持つ味わいのある質感と豊富なバリエーション、さらに最大寸法2400㎜×900㎜という大モジュールが独特な意匠を作り出す。

製法

粘土、ケイ灰石を主原料として、特殊な押し出し成形法により、均一な厚みの素地を作る。
これを1150℃の高温で焼成した後、表面に陶磁器質タイルと同等の釉薬を塗付・焼成して仕上げる。
この製法により、従来のタイルにはない曲げ強度弾性を有する大板・薄板の陶装板となる。

特長

(1)豊富な色・柄のバリエーションは規格で56種類。またオーダで特注色柄の対応も可能である
最大寸法は2400㎜×900㎜でタイルでは不可能な大板による割付けや、色の組み合わせによるデザイン張りが可能である。
(2)原料に含まれるケイ灰石の補強材的な働きにより通常のタイルにはない曲げ破壊強度および弾性を有する。
(3)軽く（比重＝1.8）、薄く（厚み＝4㎜、6㎜）、しなりに強い素材のため、施工効率が良く、また市販工具による切断・穴あけなどの加工が容易である。
(4)セラミックならではの耐候性、耐汚染性、耐薬品性、耐熱性を有する。

施工方法

(1)圧着張り工法
① 内装および地上高7mまでの外壁に対応できる工法である。
② 不陸3㎜以内に調整されたボード下地・コンクリート下地（モルタル金ゴテ仕上）に接着剤（商品名ハイミラーセメダインスーパー）と両面接着テープの併用により張り付ける工法である。
(2)金物支持工法
① 地上高16mまでの外壁に対応できる工法である。
② ケラミットの上下に予め工場接着した支持金物を下地に取り付けたレール金物に引掛ける工法である。これにより接着剤の剥離による脱落を防止する。
③ 目地部分に設けられたビスにより、面の出入り調整（調整代3㎜）が可能。
④ 足場の支持アンカー等で板が後張りになる場合や破損等のメンテナンスで部分的な取替をする場合にも対応できる。

（猪野達雄／建材委員）

製品仕様

品　種	特　色	厚み(㎜)	規格寸法(㎜)	最大寸法(㎜)
STシリーズ MAシリーズ POシリーズ DDシリーズ	単色・表面光沢タイプ(22色) 単色・表面マットタイプ(15色) 単色・表面凹凸タイプ(7色) 2色・表面光沢タイプ(6柄)	4.0 6.0	900×900 1800×900	2400×900
DGシリーズ	多釉タイプ(1柄)	6.0	450×450 900×450 1200×450	1200×450
NSシリーズ	石目調タイプ(5柄)	4.0	596×296 596×596 896×896	2400×900
		6.0	598×298 598×598 900×900	2400×900
特注	色・柄の対応可能です	4.6		2400×900

材料特性

性　能	単　位	データ	測定方法
比重(嵩密度)	g/cm³	1.8	重さ÷体積
曲げ強度(室温50×100×4mm)	kgf/cm²	350～500	東洋ボールドウイン社製万能試験器UTM-4-200 材料の大きさ50×100×4mm支点間距離90mm
曲げ弾性率	×10³kg/cm²	4.2	JIS A-1408
シャルピー衝撃強度	kgcm/cm²	1.6	シャルピー型衝撃試験器（JIS K-7111）
ヤング率	×10⁶kgf/cm²室温	0.1	曲げ強度測定時における「たわみ量」より算出
体積固有抵抗	Ωcm、室温	19⁹	
誘電率	10⁶Hz	4.4	YHP4270A型で測定
誘電体損失	10⁶Hz、室温	4.1	
耐ひび割れ性		異常ナシ	JIS A-5209
線膨張係数（30～380℃）	×10⁻⁶/℃	5.4	理学電機製熱膨張測定器
最高安全使用温度（連続）	℃	1120	ガス炉にて目視、高温温度計と比較
（短期）	℃	1170	同上
凍結融解（耐寒性）		合格	JIS A-5209
吸水率	%	7～10	JIS A-5209
含水率	%	1以下	
透水率	—	0	JIS A-5403
吸水長さ変化率	%	0	
飽和系数	—	C/B＝0.64	C/B≦0.91のとき理論的に凍害が起らない。C:浸水吸水容積 B:飽和吸水容積

ケラミットの施工法の種類

施工法の種類と特徴

工　法	高さ制限	ケラミット最大寸法	備　考
圧着張り工法 図(1)	H＝7m以下	H900×W2400 H2400×W900	ケラミット板厚　4mm：6mm 下地からの出代　7mm：9mm 目地幅　4mm以上
金物支持工法 図(2)	H＝16m以下	H900×W1200	板厚　6mm 出代　16mm 目地幅　8mm

圧着張り工法の概略図

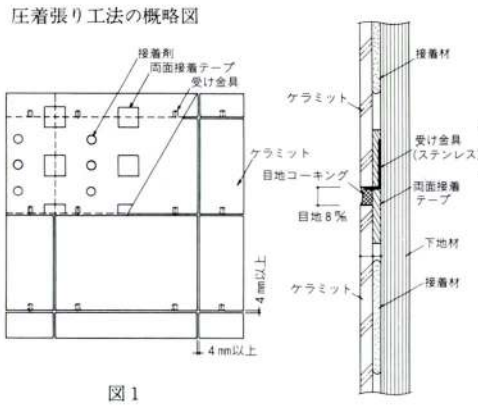


図1

金物支持工法の概略図

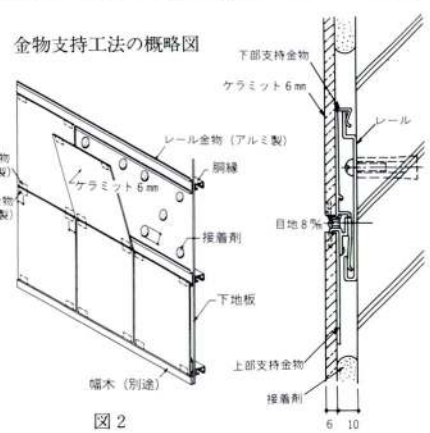


図2

建築の眼

ARCHITECTURAL EYE



西利本社ビル
設計 若林広幸建築研究所

岡崎甚幸
福井大学工学部環境設計工学科教授

國廣　勲
京都市住宅局建築指導部審査課長

西部明郎
綜合計画研究所代表取締役

大内　實
新井組建築設計部長

以上の4名の方々が1月号から6月号まで執筆。

暦作りのために星を見ても宇宙のことまで詮索するべからず

暦を作るために星空を見上げてもよいが、夜空の果てのことまで詮索してはいけない。中国科学技術史の研究における荀子や孟子の言である。研究によると、中国では理想的な社会なり人なりのあり方がまず想定され、それに向かって学問が行われた。学問は社会に従属し、社会に直接役立つことに限定された。あくまで現実にかかわり、自然の認識や技術は高かったが、現実から離れた理論は生まれなかった。技術は経験的な段階に留まった。一方ギリシャでは、奴隷に対する自由人が頭の中で考える理論が、実践に対して優位にあった。真か偽かを問い、現実の世界とは独立に存在する科学の理論体系は、ルネサンス以降多くの技術を生み、誰も予想さえできなかった道具や装置をこの世にもたらした。中国はこの西欧文明に大きく立ちおくれた。社会的目的に従属した中国の技術は人間的であるが、逆に人々の予想を越えた大発見をもたらすことはできなかった。

すぐに役立つ研究は、すぐに役立たなくなると思うのだが、研究はまず何の役に立つのかと聞かれることがますます多くなった。行政や企業のことには不案内だが、どこかで実証済みのすぐに役立つ企画だけでは、この目まぐるしい時代に未来はないと思われる。より豊かで文化的な地域社会には、実践から一歩離れた理論を大切にする風土が望まれる。　（S.O）

京都の景観と建築物の高さ(2)

高度地区内の高さの許可は、個々の申請を審査して、建築審査会の同意を得た上で許可してきた。最近までは、京都の都心の最高容積率が700％ということもあって、45mをこえる建物はなかったが、地価高騰、敷地や建物の大規模化、高度な機能集中要求などから高層建築計画が浮上してきた。そこで、京都の景観の原点を守りながら、都心部の活性化と新しい都市景観の創出を目指して高さ及び容積率の許可基準を定めて公表した。これに対して、一般の反応は、賛否両論あるが高さ制限を緩和したとの印象を持った者も多く、論議がなされている。

この基準は、高度地区を定めたときに設けられた特例許可の運用について定めたもので、周辺部を除いて許可のできる範囲を明確にしたものである。総合的に計画された良好な建築物に対して、高さ、容積の割増しを認め、よりよい建物の集積を誘導しようとするものである。頭を押えられて壁状に横に広がる建物群よりも、整然と通る街路空間を通して、山なみを望めるよう配慮するとともに、１つ１つの建物が周辺との調和と良好な環境の創出を意識して計画されるべきであろう。高さ制限のみによって新しい景観の創造ができるものではなく〝うつり〟を考えた計画が必要である。　（I.K）

建築家への信頼感

建築家という言葉が、かなり世間で通用するようになって来たことは喜ばしいことだ。だが、世間で言われている建築家の意味と専門家の使う建築家の意味が大きく食違っていては良くないと思う。自称、建築家である我々としては、建築家という言葉を世間の常識を著しく変えることなく定義する必要があるのではないか。日本語における建築家という言葉に含まれるニュアンスには、法律的な資格よりも画家や音楽家のように芸術家の雰囲気を感じさせるものがあるようだ。これは多分に家という文字の印象ではないかという気がするが、少なくとも建築士とは違うのだとの認識では、我々と世間との間に矛盾はないように思える。だからといって、建築家を建設業に所属しない専業の者だけだとする一部の意見は、一般の常識と食違うおそれがある。

一般の人が、一人の建築設計者を建築士と呼ぶよりは建築家と呼びたいとしたら、その人の職業形態にかかわらず、きっとその人は誠実で、親切で、創造性が豊かで、安心して仕事を任せるに足りるという全人格的な信頼感を持っているからだろう。　（A.N）

ピンポイント爆撃

意地の張り合いをしたアメリカとイラクはついに戦闘状態に入ってしまった。多国籍軍がさかんにイラクを空爆している。我々の世代ではまだ戦争の時の記憶は残っている。空襲警報のサイレンが鳴り防空壕に入れられても非常食にありつけることのほうがうれしかった。しかし今から思えば当時の爆弾さえも防げないお粗末なシェルターであった。多国籍軍の威力とイラク軍施設のみを攻撃目標としていることを誇示するためであろう、戦果をテレビ放送しているのを見るとまさに情報戦争である。宇宙衛星からすでに綿密な情報を得て、一発が２億円もするトマホークミサイルを建物の一番弱いところへフィート単位で命中させている。わが国の最近の風の様に軽いデザインやカーテンウォール等は爆風だけであっという間にふっとんでしまい、今をときめくインテリジェントビルなら建築の設備機械と通信施設が集中している屋上が狙われビル機能を瞬時に失ってしまうだろう。超過密の大都会での被災は想像したくはないが、戦火がいつまでもわが国に及ばない保障がないとすれば自衛のための都市計画や建築デザインを再構築するか、わが国の国際的役割をどの様に位置づけるか真剣に議論を尽くすべきであろう。一刻も早い世界平和の回復を待つばかりである。　（M.O）

特集　東海支部復活30周年記念

作　品

三重県議会棟・講堂
愛知県刈谷勤労福祉会館・勤労者総合福祉センター
一宮市立市民病院今伊勢分院
痴呆性老人専門治療病棟・痴呆性老人ディケア施設
鳥羽水族館新館
日本港湾福祉センター(シーパレス日港福)・港湾技能研修センター
中京テレビ放送株式会社放送センター
豊橋赤十字血液センター
ユーグリーン中津川ゴルフ倶楽部クラブハウス
シンコーゴルフ倶楽部ローズコースクラブハウス
東海カントリークラブクラブハウス
津カントリー倶楽部クラブハウス
ホリディ・タワー
白馬47スキー場
日本車輌有松寮
東邦ガス内海荘
栄ガスビル
日本電装基礎研究所
円山ニッセイビル
松下・中日ビル
大河内ビル
日健総本社ビル
アマダソノイケ富士宮工場
トンボ鉛筆新城工場食堂棟

座談会

建て替え期の公共住宅
浦上和彦・根津国穂・前田義夫・福田一豊・中島　一

論　文

住宅をめぐる現状と将来
- 桃花台ニュータウン／河合　修・岩田利通
- 大都市の公共住宅——公団住宅建て替え志賀団地／木全文男
- 大都市の公共住宅——千種台団地建て替え／中神俊士
- 高齢化社会に対応する住宅対策／壁谷又嗣・石橋　聡
- 高齢化社会に対応する住宅対策——岡崎三世代宅地供給事業／中根鎭夫
- 民営集合住宅／野口　浩

建築地場産業ルポ

23．美濃坂祝瓦　——坂祝町——
24．名古屋仏壇　——名古屋——
25．ひな人形　——西春町——
26．亀山美術ロウソク　——亀山市——

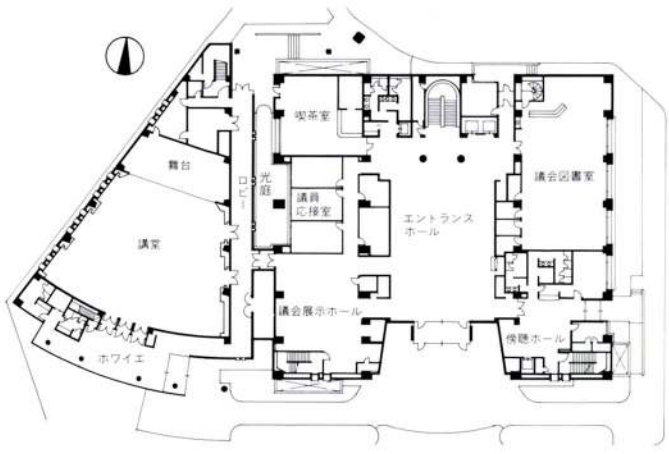
本誌特集企画　日本建築協会東海支部特別編集委員会

三重県議会棟・講堂

設　　計　東畑建築事務所
監　　理　三重県土木部建築営繕課・東畑建築事務所
施　　工　大成・間・日本土建建設工事共同企業体



外観南西面



1階平面図　1：1,000



外観南東面

近年、社会が多様化する中にあって、県政としての議会機能は、県民の期待に応えるべくますます重要な位置を占めていくことと思われます。
三重県議会棟の今回の改築は、旧議会棟の狭あい化に併い、この様なニーズに応える為、議会棟の独自性の確立と機能の充実と共に、議会活動が21世紀という新しい時代に対応し、開かれた議会として県民サービスの充足に役立つ事を基本コンセプトに計画されました。配置計画は、旧議会棟の跡地約2600㎡に、議会活動を中断する事なく建設を進めるという制約の中で、西側居住地域への日影等周辺環境に配慮すると共に、議会棟独自の正面性を持たせ、既設行政棟を含めた県施設として一体性のある建築構成を目指し、メインアプローチより続く独自のロータリーを前庭にシンメトリーなファサードの議会棟、前面道路に対し低くおさえられた傾斜屋根の講堂棟、それらの建物のヴォリュームを対称させる形で表現している。
外装は、全体を柔らかい色調とテクスチャーを持つ花崗石（ジェットバーナー仕上）で覆い、県政のシンボルとして、重厚感と風格のあるイメージとし、南面に風景を写し込むハーフミラーのカーテンウォールや柔らかな曲面の壁を加え、正面性を強調するシンボリックなデザインとしている。
内装については、木材を仕上全体の基調材として使用する事により全体の統一感と落ちつきを持たせ、また、県産材や県にちなむものを各部のしつらえのモチーフとして、三重らしいオリジナリティの表現をテーマとしている。
最後に、この新議会棟が県政の発展と議会活動の核となってその役割を果たす事を期待して止みません。　（森島敬美／東畑建築事務所）


正面見上げ


議　場


エントランスホール

所 在 地　三重県津市広明町13
敷地面積　34,819.92㎡
建築面積　 3,051.41㎡
延床面積　15,298.27㎡
構造規模　SRC、B2F、6F、P2
工　　期　1988年9月～1990年11月
最 寄 駅　近鉄名古屋～伊勢線津駅

撮　　影　SS名古屋

外観北西面

愛知県刈谷勤労福祉会館・勤労者総合福祉センター

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　熊谷組・角文建設共同企業体

所 在 地　刈谷市井ヶ谷町松ヶ崎
敷地面積　14,235(全体54,063)㎡
建築面積　4,426.93㎡
延床面積　6,083.03㎡
構造規模　SRC、BIF、3F
工　　期　昭和63年7月～平成元年12月
最 寄 駅　名鉄本線知立駅
撮　　影　SS名古屋


外観遠望


エントランスホール

外観南西面

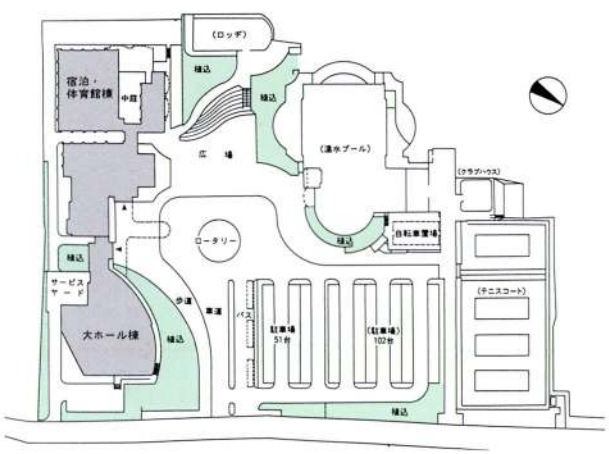
敷地は刈谷市の北部・井ヶ谷町にある。この一帯は周長３kmの洲原池を中心とした、桜の名所やかきつばたの群落地、大学のキャンパスなど良好な環境に恵まれた景勝の地である。敷地形状は前面道路部分が低く、中央が高くて、奥に向かって低くなり、自然林を介して洲原池に接する丘陵地となっている。この丘陵地に、宿泊客も利用できる施設としてこの会館が建設され、他に温水プールやロッジ、テニスコートを含めたレクリエーションゾーンを構成している。

配置計画では、敷地の条件を生かして、中央に広場を設け、各施設と外部空間のパターンを扇状に拡がる柔らかな曲線上に配して恵まれた環境を生かすように配慮した。建物の外壁も大きな曲面と、池沿いの自然林を映し出すハーフミラーのカーテンウォールを用いている。

広場に接する建物の中央にエントランスホールを設け、これにオープンなロビーを連続させて、利用客の集中するホール・食堂・多目的ホール・体育館を配置するわかり易い平面とした。512名収容の段床ホールは敷地の形状を生かし、階段状に客席を下げ、客席と舞台との一体感が得られ易い円形のホールとした。宿泊部門は中庭を設け、池側の眺望の良い２、３階に配置することにより、他の部門から分離して独立性を確保した。

建物は高さを広場側に対して順次低くして、温水プールやロッジの高さと調和させ、広場を囲んだキャノピーを設け、自然と融和した施設とするよう心がけた。

（伊藤憓朗／安井建築設計事務所）



配置図


大ホール



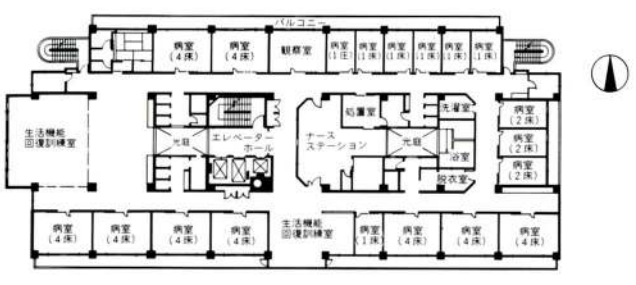
外観南面

一宮市立市民病院今伊勢分院
痴呆性老人専門治療病棟・痴呆性老人ディケア施設

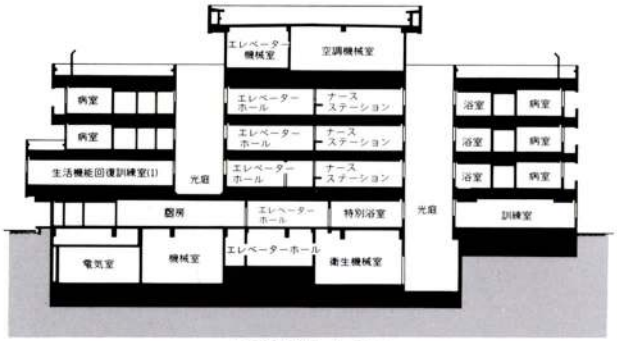
設計指導　名古屋大学工学部建築学科柳澤研究室
設計監理　一宮市建築部建築住宅課
　　伊藤建築設計事務所
施　　工　前田・中村建設 建設共同企業体
　　電気　沖・奥村 建設共同企業体
　　衛生　川崎・村川 建設共同企業体
　　空調　大気社・大興建設 建設共同企業体

所 在 地　愛知県一宮市今伊勢町宮後字郷中茶原
敷地面積　10,109㎡
建築面積　4,104㎡
延床面積　10,810㎡
構造規模　RC、BIF、5F
工　　期　1989年1月～1990年3月
最 寄 駅　名鉄名古屋本線今伊勢駅

撮　　影　SS名古屋



2階平面図　1：800



東西断面図　1：800



2階機能回復訓練室

高齢化が急ピッチで進むなか、痴呆性老人の介護は、家庭や地域にとって、さしせまって解決すべき重要課題とされている。一宮市では、他の自治体に先駆けて、痴呆性老人への保健、医療対策の一環として、当院に痴呆性老人専門治療病棟ならびにディケア施設の建設を計画し、社団法人地域問題研究所にその基本調査を委託した。調査は、名古屋大学工学部建築学科柳澤研究室が担当し、今度の建設はその基本調査報告書にある基本計画に基づいて建設されたものである。

敷地の周囲は中学校のキャンパスと、低層の住宅地であるため、騒音や日照の点からは良好な療養環境と云えるが、四周の公道が狭く、道路幅員による高さ制限など、土地の利用計画には大きな制約となった。敷地の広さは約10,000㎡あり、建設場所はその中で唯一のオープンスペースであった南側の駐車場と、一部の病棟を取り壊した跡の敷地の東南隅約2,200㎡の部分とした。ここに全体を地下1階・地上5階で1棟にまとめている。これは近い将来全面的な再整備が求められた時のために少しでもオープンスペースを残しておくことが必要だったからでもある。

1階には痴呆性老人ディケア施設、2階には機能回復訓練室と痴呆性老人専門治療病棟50床、3・4階には築後30年を経過した病棟と、一部撤去することになった病棟に対応する一般病棟127床、5階には機械室等を配置している。また、施設規模が拡大したために能力不足となる給食部門と、エネルギー供給部門を夫々1階と地下1階に組み込んでいる。

設計にあたっては、「住まいに近い環境づくり」「分かりやすい平面」「やさしい病院」「安全な病院」をそのコンセプトとした。

地域の中核病院として整備された当院が、地域医療と社会福祉に大きく貢献すると共に今後各自治体で進められるであろう痴呆性老人への保健と医療対策のための施設整備のモデルケースになればと願っている。

（森口雅文・伊藤新一／伊藤建築設計事務所）



外観北東面

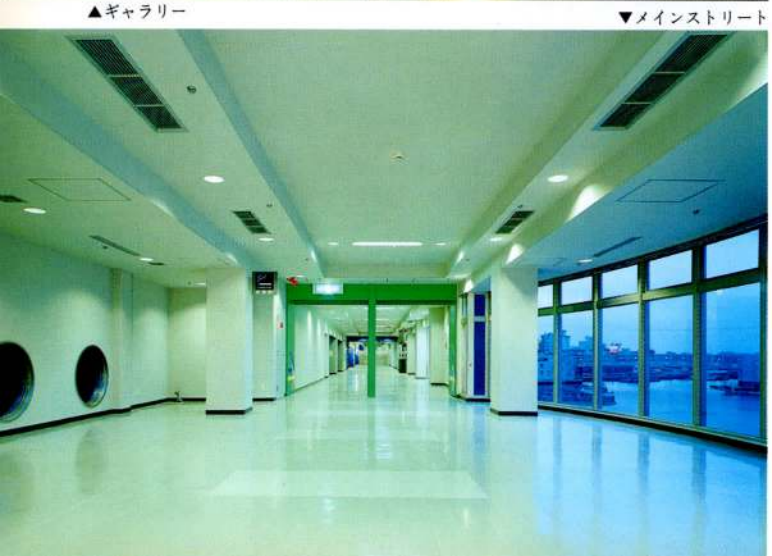


1階ディケア訓練室

全景（海側）



▲ギャラリー



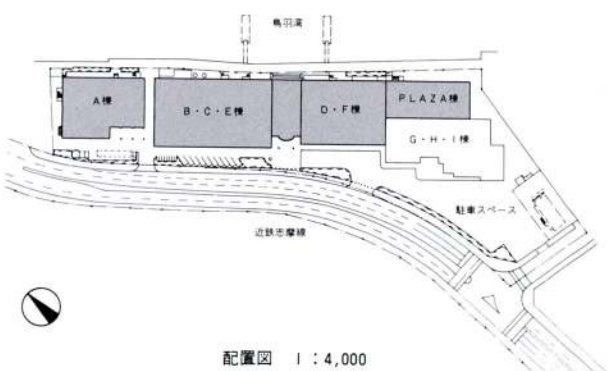
▼メインストリート

鳥羽水族館新館

設計施工　大成建設名古屋支店

所 在 地　三重県鳥羽市鳥羽三丁目1484－112
敷地面積　15,807.394㎡
建築面積　 8,439.363㎡
延床面積　14,661.241㎡
構造規模　RC(一部SRC)、5F
工　　期　1989年３月～1990年７月
最 寄 駅　近鉄鳥羽線鳥羽駅

撮　　影　センターフォト



配置図　1：4,000





E１水槽(コーラルリーフ水槽)



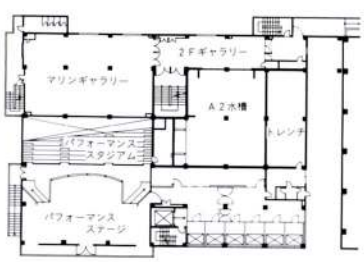
A２水槽(アシカ雑居水槽)

島羽水族館は、リゾート法施行後、三重県サンベルトゾーン計画が、第一号に承認された中、伊勢・志摩国立公園内における開発の中核を成す施設として、『21世紀の超水族館』をメインテーマに、掲げた。
当施設は、人気動物を含め種類も多く、飼育実績・学術研究の評価も高く、レジャー要素の他、博物館相当の機能も備えており、入館者数も全国一の実績を誇っている。その施設の、スケールアップを目的とした。
計画にあたり、新しい水族館のあり方・展示内容の演出・１日３万人の収容規模と客動線・水槽配置・濾過設備・飼育スペース・海水取水施設・コジェネレーション、大型建築のレイアウトに絡み、様々な問題を、有機的・立体的に整理し、解決した。
特徴として、A棟・ＢＣＥ棟・ＤＦ棟・プラザ棟の４棟で構成（２期工事のＧＨＩ棟を加え完成)。中央にエントランスプラザを配し、２階海側に観客用メインストリートを直線的に設け各棟にアプローチしていく。各棟では個々にテーマを持つ展示内容に依り、世界の海を特徴付けた８つのギャラリーで構成し、自然環境の中で息づく動物達の姿を演出した。１階部分に、濾過設備・大型建築設備等を計画し、メンテナンスの合理化を図り、メインストリートの階下に、プラント及びエネルギーのメインルートを配した。
外観の彩色は、街並みを意識し、鳥羽市のウォーターフロント整備計画との調和を踏まえ、海側からの景観も充分意識したものとした。

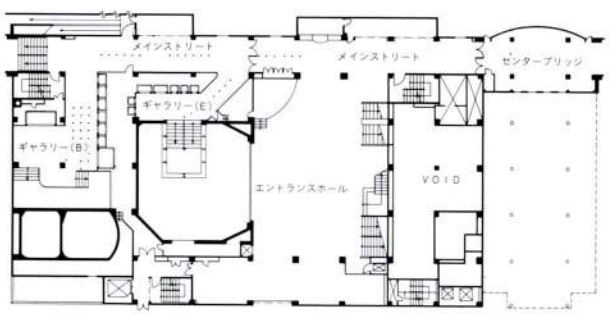
（小菅敏彦／大成建設）



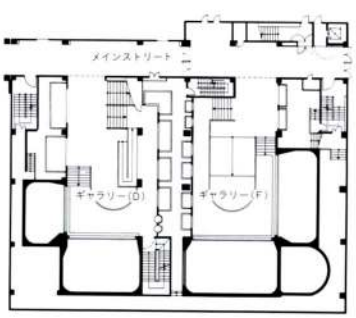
エントランスホール



A棟２階平面図　1：1,000



BCE棟３階平面図　1：1,000



DF棟３階平面図　1：1,000



ホテル棟(SRC、B1F、10F)

日本港湾福祉センター(シーパレス日港福)
港湾技能研修センター

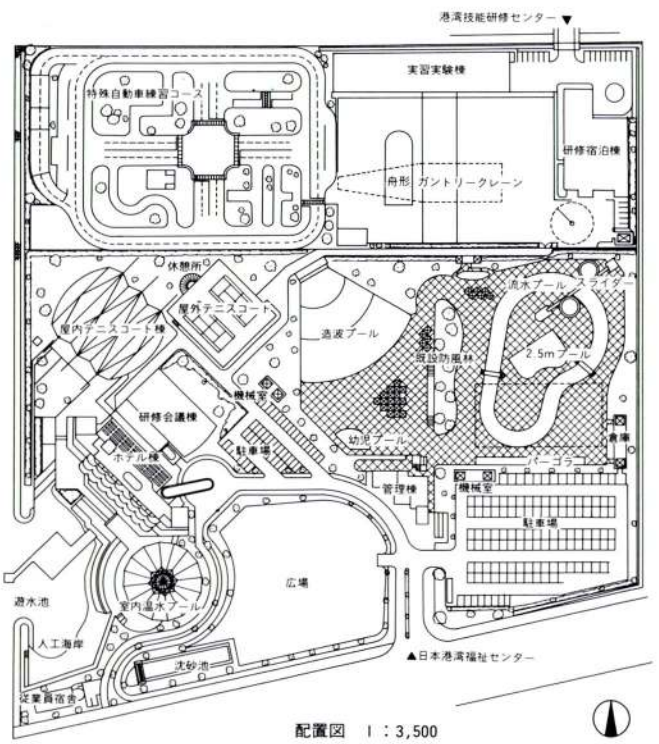
設計監理　東海設計(小坂忠勝)

施　　工　日本港湾福祉センター/五洋建設・熊谷組・鹿島建設・清水建設共同企業体
港湾技能研修センター/研修・宿泊棟 実習・実験棟 清水建設　屋外施設 五洋建設

所在地	愛知県豊橋市神野新田町字ミノ割1-3 他	
	日本港湾福祉センター	港湾技能研修センター
敷地面積	56,770.00㎡	28,385.74㎡
建築面積	7,635.07㎡	2,931.01㎡
延床面積	16,063.74㎡	6,254.83㎡
構造規模	ホテル・管理・テニス・プール棟(別記)	研修・宿泊棟(別記)
	従業員宿泊棟RC、2F	実習・実験棟S、2F
工期	昭和62年4月～63年11月	昭和62年3月～63年3月
最寄駅	新幹線・東海道本線・名鉄本線 豊橋駅	
撮影	SS名古屋	



全景鳥瞰



配置図　1：3,500



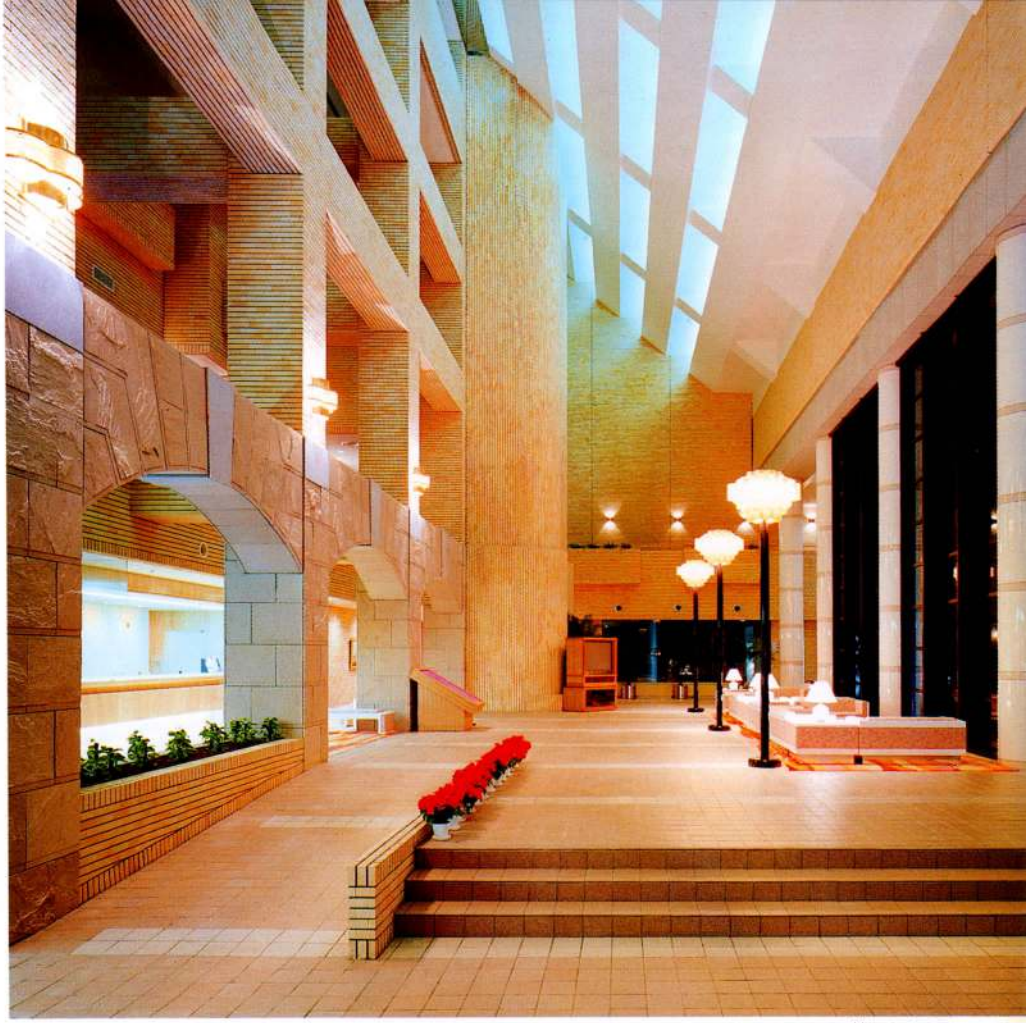
テニス棟・夜景(RC、平家)



港湾技能研修センター全景



港湾技能研修センター　研修・宿泊棟(RC、6F)



ホテル棟アトリウム



管理棟(S、2F)

豊橋市の西方、三河湾を臨む地に建設されたこの施設は、全国港湾労働者の厚生施設の一環として、社団法人日本港湾福利厚生協会が建設したものである。

敷地は、海岸沿いの遊水池の一部を埋め立てた土地も含まれているが、地盤の液状化が懸念される地域であるため、液状化対策を講じる必要があり、その対策として、グラベルドレーン工法を採用している。

これ等施設は、ホテル棟・屋内温水プール棟・テニス棟・屋外レジャー施設の他、雇用促進事業団により建設された研修会議棟・管理棟及び屋外多目的広場等から成っている。

ホテル棟1階ロビーには1階より5階を通してのアトリウムを設け、宿泊室部分とパブリックスペースとの一体化を図ると共に宿泊客に開放的な親しみを持てる空間を提供している。

宿泊室は各室バルコニー付で35㎡～55㎡と広く、一般ホテルよりゆったりした間取りとし、どの部屋からも遠く三河湾を臨む事が出来るよう、眺望に配慮している。

屋内テニス棟はサスペンション膜構造を採用し、透光性・開放感のあるスポーツ空間を、また、屋内温水プール棟には、大架構木構造を採用して木質の親しみ、開放感と大スパンによる大空間が、レジャー施設としての空間を創り出している。

其の他、屋外レジャー施設としてテニスコート・造波プール・流水プール・スライダー及び遊水池を利用してのウォーターレジャー等がある。

隣接した敷地に建設されている、港湾技能研修センターは、財団法人港湾労働安定協会による港湾労働者の為の職業訓練施設で雇用促進事業団より一部助成金を受けて、合築されたものである。

これ等施設は研修生のための宿泊所及び研修所である研修宿泊棟・実習実験棟・ガントリークレーンの他、大型特殊自動車・けん引車及び大型自動車等の指定特殊自動車教習所等から成っている。

（松上治生／東海設計）



研修会議棟・玄関


CTV

中京テレビ放送株式会社放送センター

所在地　名古屋市昭和区高峯町
敷地面積　12,768㎡
建築面積　1,419㎡
延床面積　5,044㎡
構造規模　SRC、B2F、2F
工　期　1989年8月～1990年10月
最寄駅　市バス妙見町
撮　影　加藤敏明

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　工　大林組名古屋支店
電　気　トーエネック
衛生・空調　須賀工業・大気社
昇降機　日立製作所

中京テレビ放送株式会社は、1969年の4月に開局した中京圏をサービスエリアとするＵＨＦ民間放送局である。

この放送センターは、開局20周年を機に番組の制作から送出に至るまでの、放送機構の一元化をはかるために、放送局の心臓部とも云える部分の建設が計画され、1990年10月に竣工したものである。

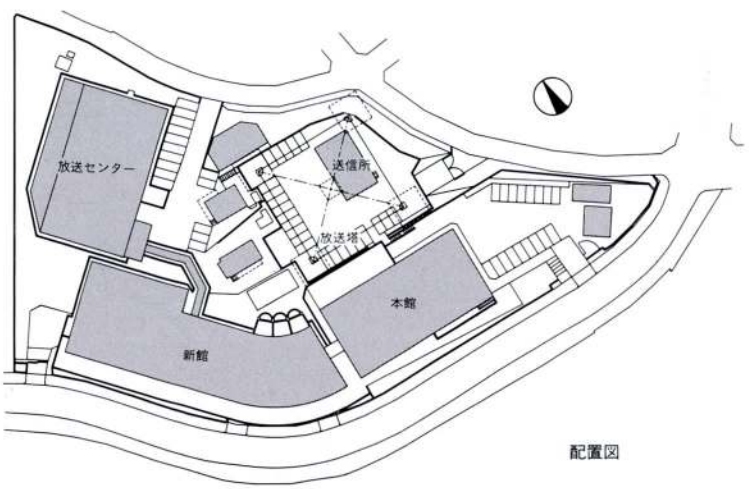
建設計画の契機となったのは、一つには、開局以来20年間休みなく使ってきたマスター設備と、それをサポートする建築設備の更新の時期がせまっていたこと、次に、高度に情報化された時代の要請に応えて、24時間放送体勢に備えたシステムと設備の導入が必要とされてきたこと、さらに、地域のテレビ局としては自主番組の制作は大きな課題であり、とりわけ情報番組やニュース番組の強化充実をはかるためには、ぜひとも情報センターの設置が必要であった。その上業容の拡大による執務スペースの不足にも早急に対処しなければならなかった。

敷地は、名古屋市東部の丘陵地で、その過半が第一種住居専用地域・第一種高度地区・第一種風致地区・文教地区に指定された良好な住環境にあり、法律上の規制は当然のことであるが、環境の保全には最大限に注意を払わねばならなかった。施設全体は4層にまとめており、法的には地下2階、地上2階と呼称されているが、そのほとんどが地下に設けられており、丘陵地の斜面の一部を建物におきかえた形となっている。地下2階に熱源・電源設備室、地下1階にマスター室、1階にニュースセンターを含む情報センター、2階を制作部門にあてている。

（森口雅文・渡辺国雄／伊藤建築設計事務所）



ニュースセンター（1）



配置図


東面外観


ニュースセンター（2）

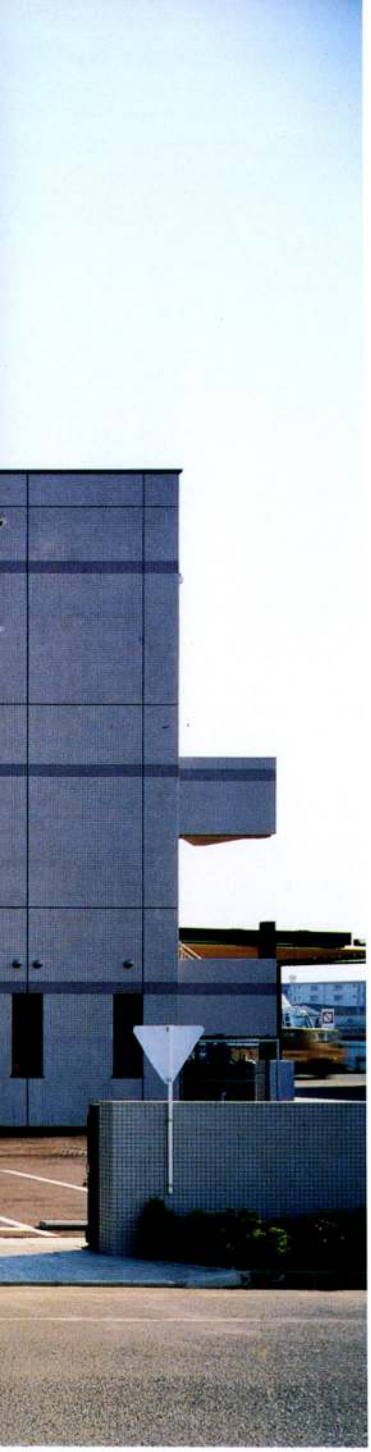
本館正面

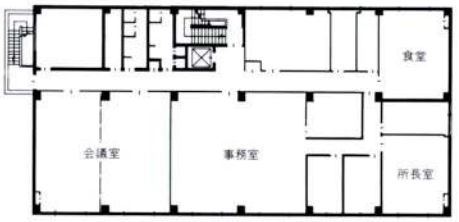


柳生川より望む

豊橋赤十字血液センター

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　鴻池組名古屋支店
　　電　気　中央電気工事
　　衛生・空調　大気社
　　昇降機　豊島





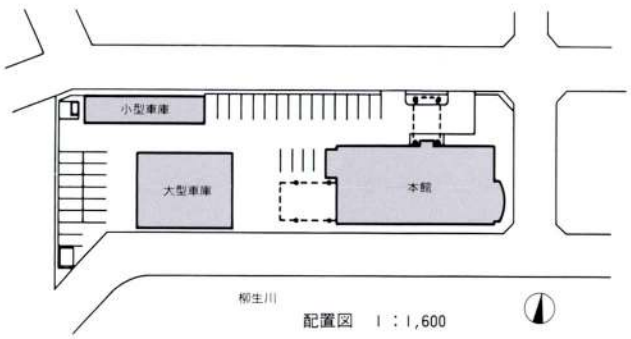
3階平面図　1：600



2階平面図　1：600



1階平面図　1：600



配置図　1：1,600

豊橋赤十字血液センターは、昭和43年豊橋市橋良町に愛知県赤十字血液センター豊橋支所として開設された。昭和46年に独立以来、愛知県東部地域の血液事業をすすめてきた。当初、年間の献血者は1万5千人を想定していたが、平成元年度には7万人を越えるようになり、製剤・検査の処理能力の向上のために、また血液製剤方法の変化（全血製剤から成分製剤）に対応するためにも、三河港に近い柳生川左岸に新しい施設を新築・移転した。

血液センターの業務は、高度な品質管理のもとに採血－検査－製剤－供給という一連の作業をいかに迅速円滑に行うかにかかる。特に採血・供給部門は、各地より血液を集める採血車と、需要に応じ医療機関へ製薬を届ける供給車両に係わる人と物の出入りが頻繁である。これらの車両と直接関連する部門をまとめて本館1階に配置し、外部サービスヤードをはさんで大小の車庫を設けることにより、錯綜しがちな動線を整理し、短縮化している。また業務のフローに従って2階には検査・製剤部門、3階には事務部門を設け、全館にわたり明快な動線の確保に努めた。基本的には各階ワンルーム方式を採用し、間仕切りは最少必要限とし、将来のレイアウト変更に対応できるようにした。玄関ホールに隣接して設けたオープン形式の採血室は、献血者との応対を重視しながら看護婦の作業能率の向上をはかっている。

（森口雅文・鈴木賢一／伊藤建築設計事務所）

所在地　愛知県豊橋市東脇三丁目
敷地面積　3,014㎡
建築面積　1,204㎡
延床面積　2,166㎡
構造規模　RC、3F他
工　期　1989年6月～1990年3月
最寄駅　JR東海道本線豊橋駅

撮　影　SS名古屋


採血室


玄関ホール

正面外観

ユーグリーン中津川ゴルフ倶楽部クラブハウス

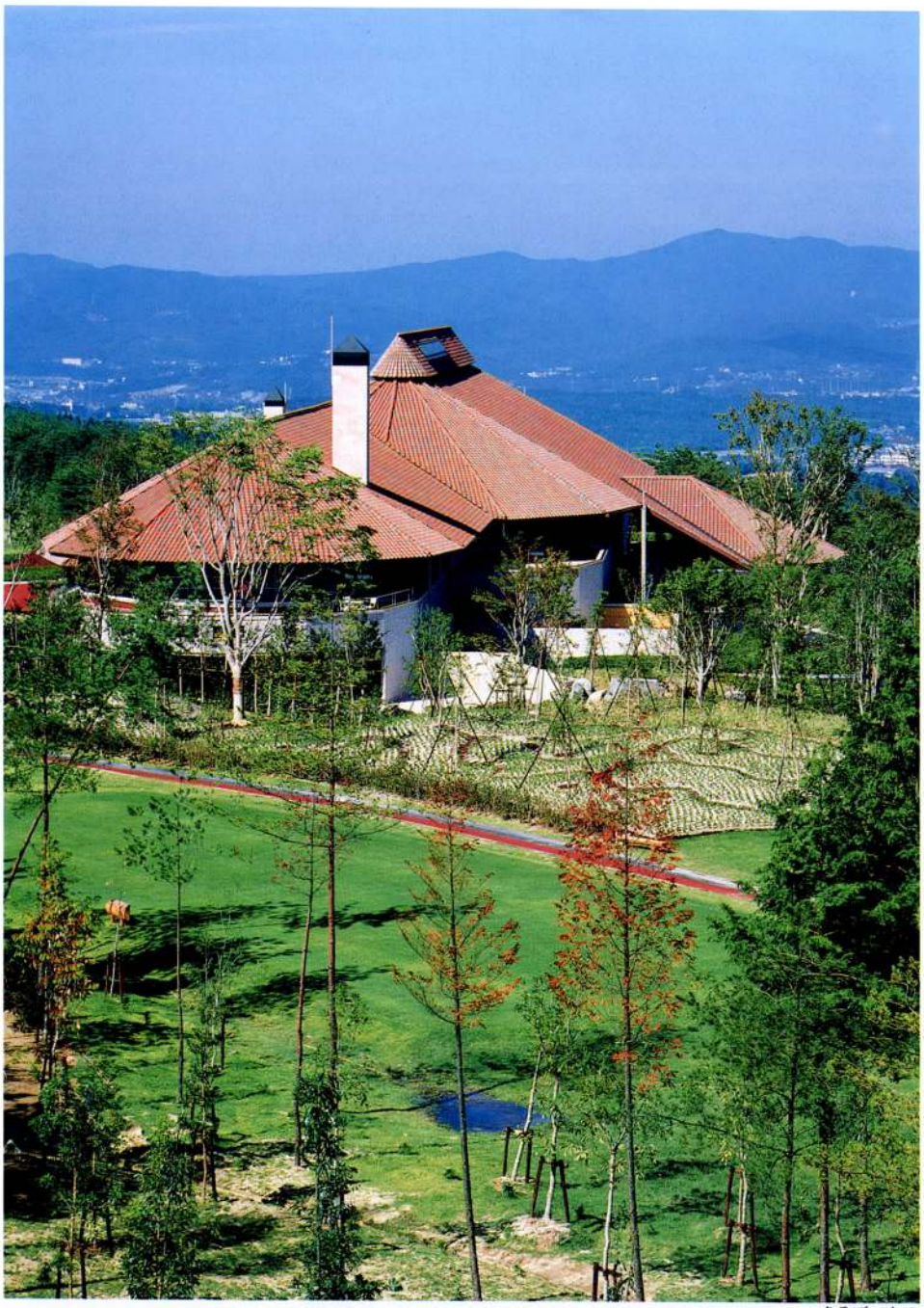
設計施工　竹中工務店



南西外観

中央アルプス、御岳山、笠置山を一望のもとに、水と緑に恵まれたこの青木ヶ原高原に位置しています。地元中津川商工会議所とユニー株式会社が、市の発展の永年の夢として結実したものです。
ゴルフを通じてのコミュニケーションの場として、一般的なクラブハウスの機能にプラスし、エグゼクティブ対応のできる特別専用スペースを設け、管理運営の容易さと省人化をはかりながら、シンプルなプランを目指しています。
「ヨーロッパ調」という、あえて漠然としたテーマのもとに、エキゾチックな雰囲気をねらいました。エントランスキャノピーや建物両端の屋根には、長崎「グラバー邸」の多角寄棟屋根のモチーフを採用し、雁行する大屋根は、コンパクトなプランでありながら、変化に富んだ形態を意図しています。また、外壁には、二丁掛と小口併用のスクラッチタイルによりヨーロッパ的な壁面を構成しています。更に要所要所には、現地産の恵那錆石を使い、柱型・窓台・パラペット等の造りの充実をはかっています。
最近の過剰とも思える高級化の中にあって、節度ある豊かさがインテリアにもとめられました。洋桜の天井と、ほの白いスタッコの壁により、重苦しくなく、暖かみのある落ついた雰囲気にバランスさせる事をねらっています。ロビー、ラウンジ、レストランへと一体化したのびやかな空間を、ウッディな雰囲気につつみ込んでいます。
ロビーの陶板は、当地出身の日本画の大家である前田青邨の「出陣」を拡大製作したものです。

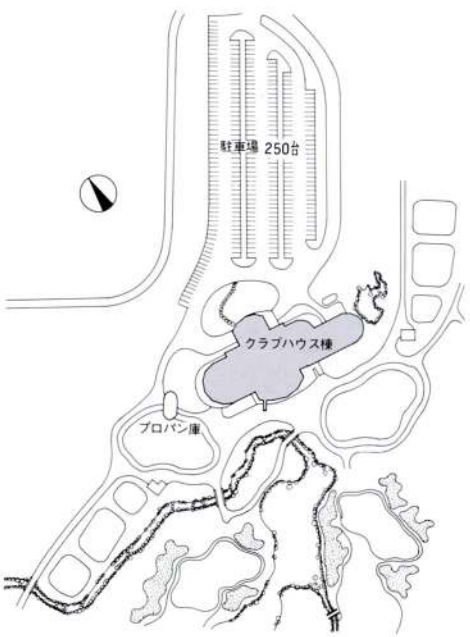
（古田博司／竹中工務店）



クラブハウス

所 在 地　岐阜県中津川市茄子川字中垣外1688－4
敷地面積　89,099㎡
建築面積　2,582㎡
延床面積　4,149㎡
構造規模　RC、(屋根S)、B1F、2F
工　　期　1989年9月～1990年9月
最 寄 駅　JR中央本線中津川駅

撮　　影　車田写真事務所



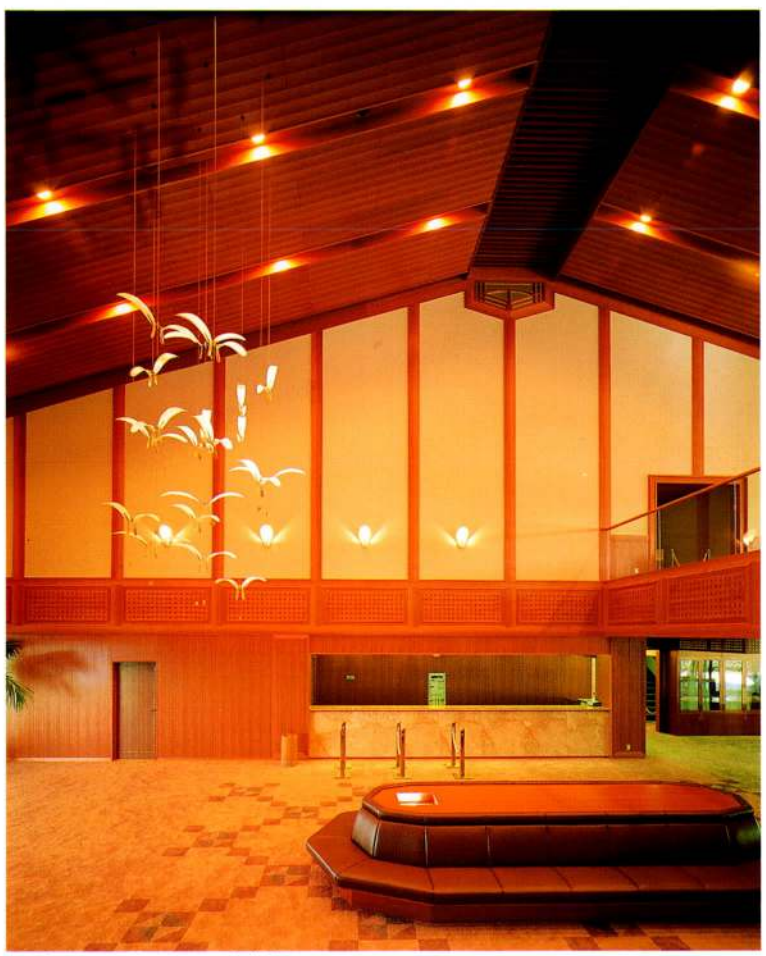
配置図



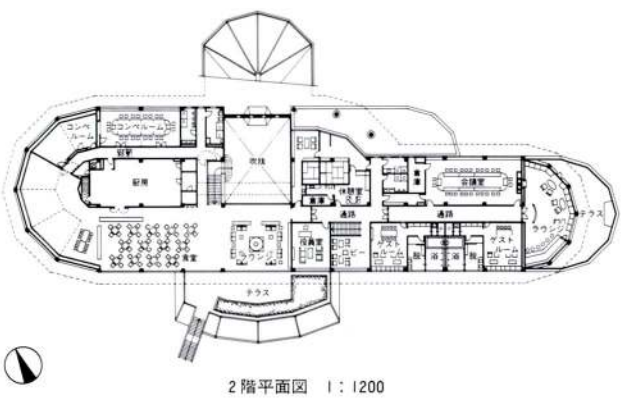
北東より浴室・ラウンジを見る



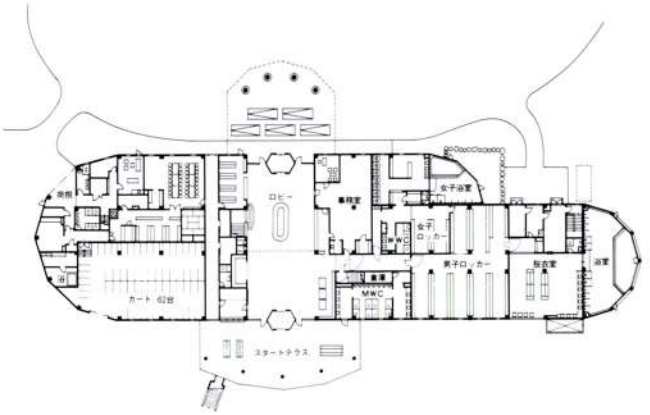
2階ラウンジよりレストランを見る



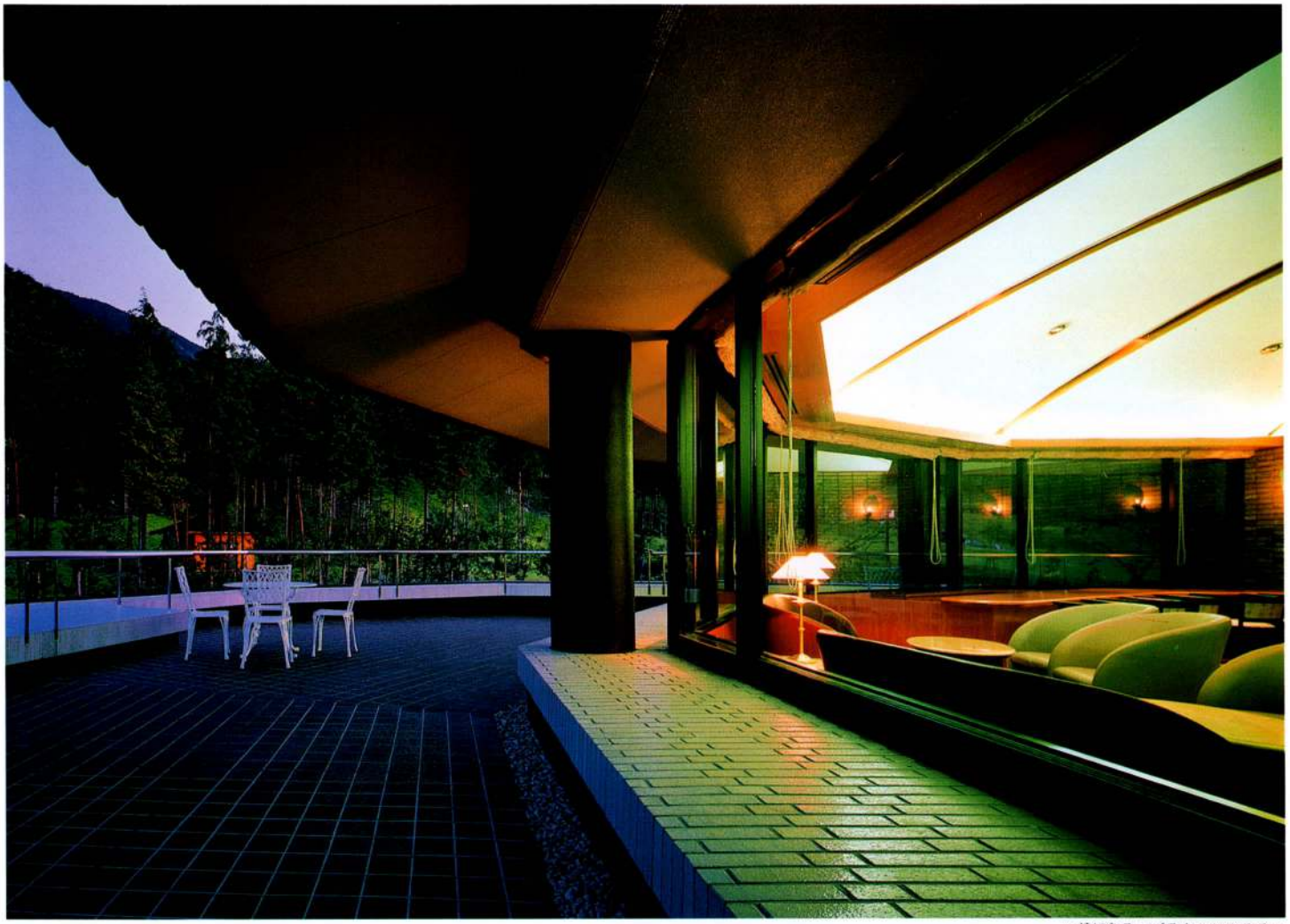
エントランスロビー、フロントを見る



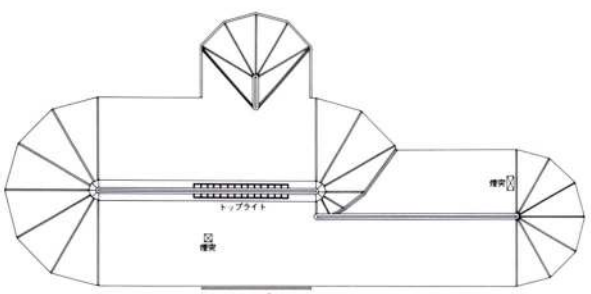
2階平面図　1：1200



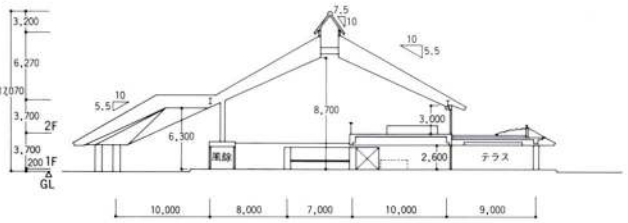
1階平面図　1：1200



エグゼクティブラウンジのテラス



屋根伏図　1：1200



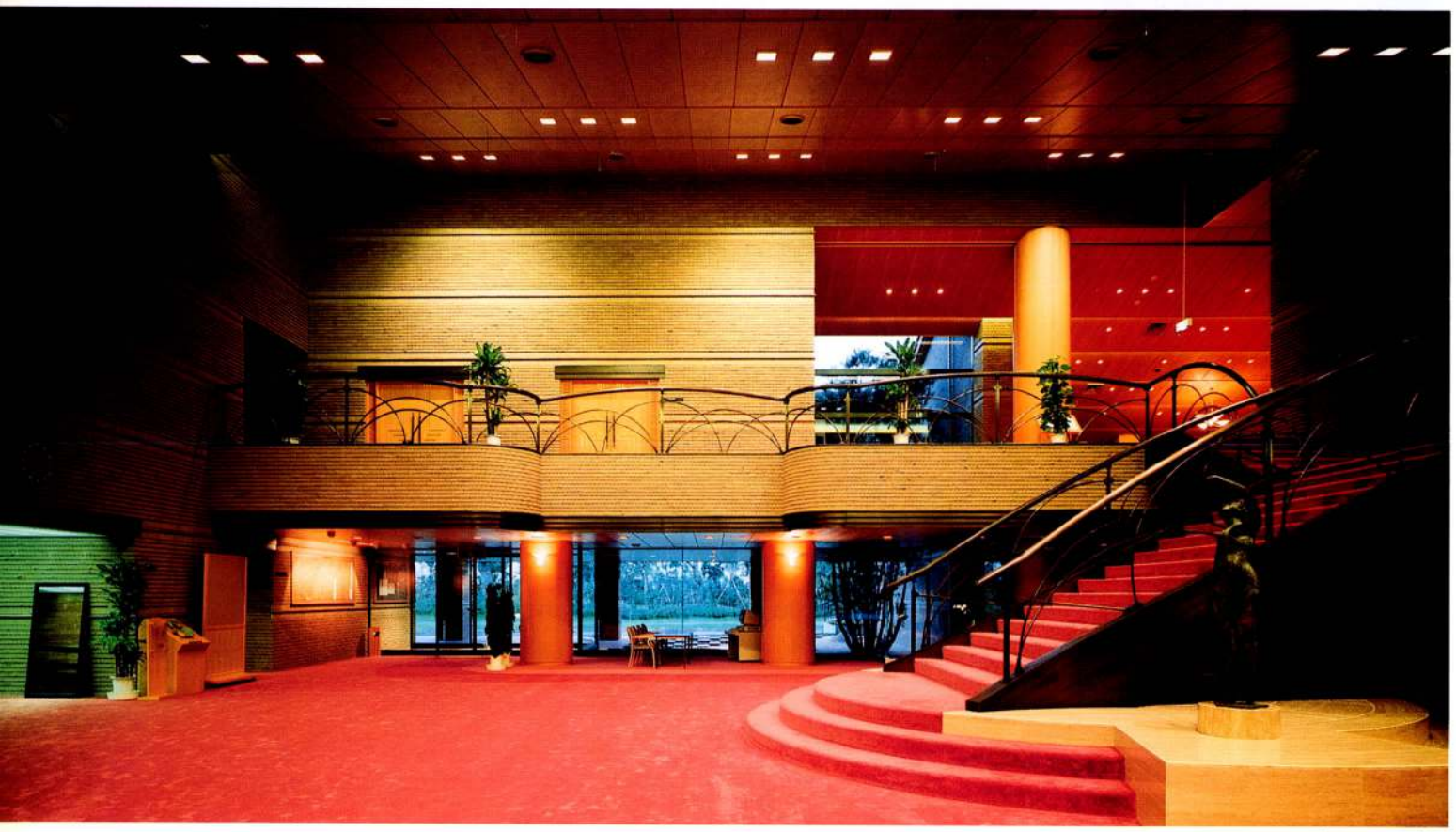
断面図



エグゼクティブラウンジ



全景鳥瞰



エトランス・ロビー

シンコーゴルフ倶楽部ローズコースクラブハウス

設計監理　東海設計（小坂忠勝）
施　　工　清水建設名古屋支店

所 在 地　岐阜県可児市西帷子125-1
敷地面積　16,739.82㎡
建築面積　 3,118.39㎡
延床面積　 4,289.63㎡
構造規模　RC、一部S、2F
工　　期　1988年10月～1989年9月
最 寄 駅　名鉄広見線西可児駅

撮　　影　SS名古屋

ゴルフにおける最大の楽しみは、何はともあれ、コースをプレイして一汗流した後の一杯のビール、そして友との語らいの中にこそあるだろう。この楽しみを、男性のみならず女性や家族共々、心ゆくまで満喫させてくれる空間を演出し、提供すること。これがこのクラブハウスを計画するに際しての基本理念であった。

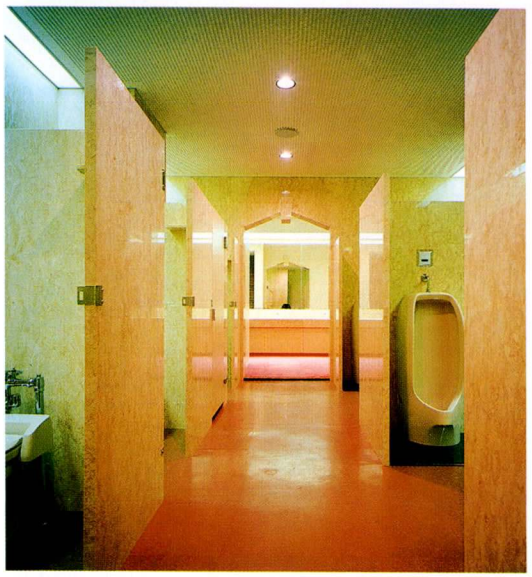
シンコーゴルフ倶楽部ローズコースは、名古屋市近郊の緑豊かな可児の丘陵地にオープンしたばかりの新設ゴルフ場である。施主は、ウッディな感覚と本物志向をキャッチフレーズに、幅広く、戸建住宅やマンションを供給している地元業者。ゴルフ事業へは初参入であり、流行に流されない本物のクラブハウスをつくろうという熱い想いがスタッフ全員にみなぎっていた。

計画にあたっては、女性専用のロッカールームや浴室を優先的に確保し、ファミリーレベルの少人数に対応する個室化されたコンペルームを設ける等、一味違う空間構成をめざした。また浴室の洗い場や女子化粧室の隔板、男子便所のブース化等、すべて快適なプライベートスペースづくりに工夫をこらしたものである。床仕上げの決定は、ある意味でクラブハウス設計のキーポイントである。ロビーの特注パイルカーペット、便所の弾性ゴムシート、ロッカールームの板敷、浴室の青石等、いずれもスパイクシューズや素足での、徹底した機能性と快適性を追求して、慎重な検討の上に決定されたものである。

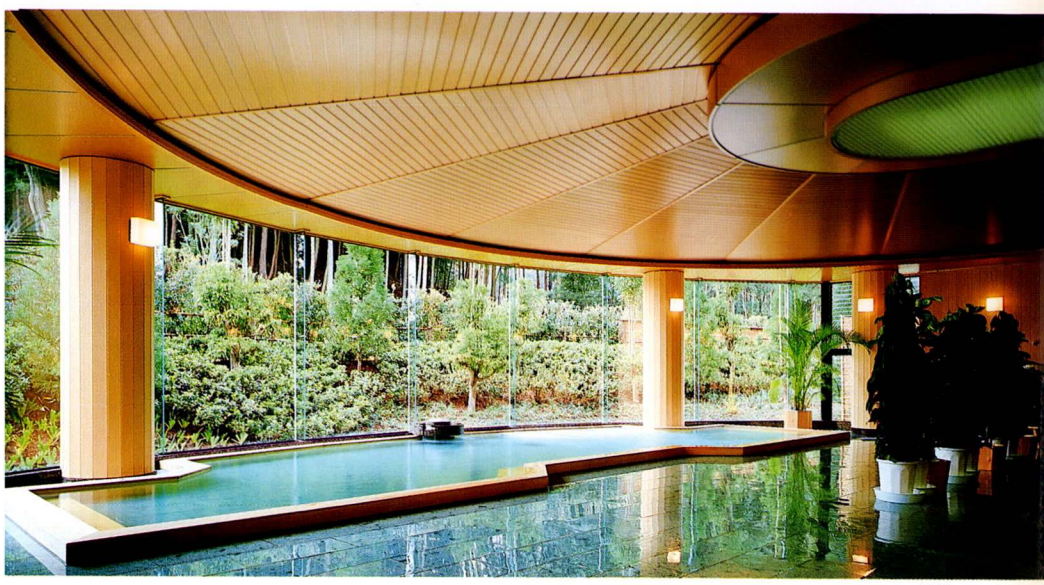
そのデザイン手法は、一見相反するようにみえる、和と洋、古典と現代、自然的なものと人工的なもの、軽いものと重いもの、温かいものと冷たいもの等を意図的に並置し、その融合と対立の緊張関係の中に、豊かな空間が生まれることをめざした。デザインモチーフは、和風をベースにしているが、それにこだわることなく、新しい空間を創り出すことを意図した。

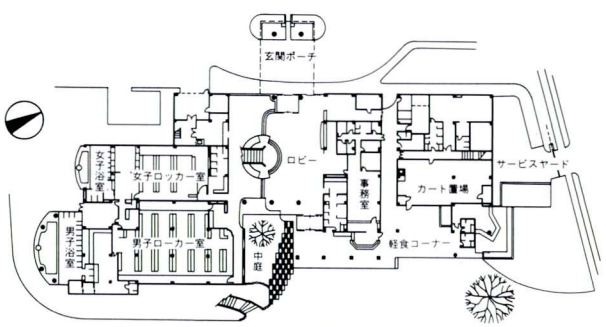
全体として、落着いた外観とインテリアになっているが、エントランスロビーには、枯山水を現代風にアレンジした中庭を取り込み、加藤卓男氏作のラスター彩壁画とメイン階段のブロンズ手摺、間接照明を組み込んだ米松練付合板の段状天井が一体となって華やかな空間の広がりを演出している。　（岡本光生／東海設計）


外観東面

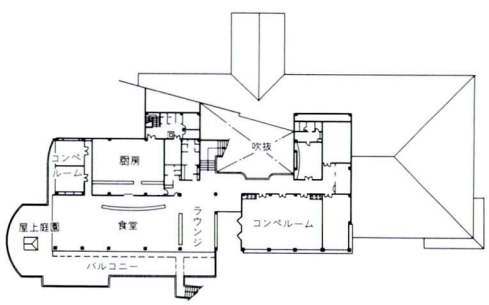

便所


軽食コーナー


浴室



配置・1階平面図　1：1,500

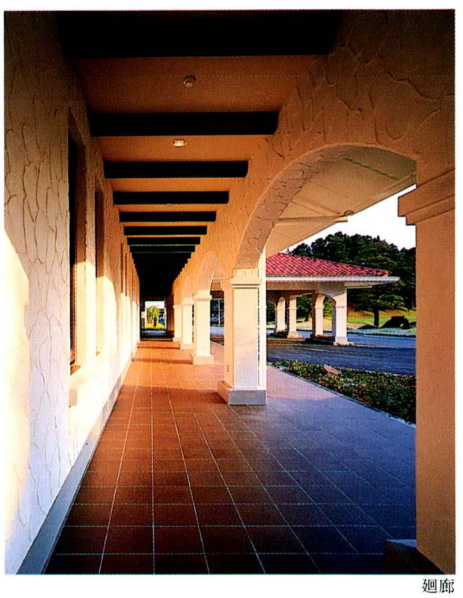


2階平面図　1：1,500

外観

東海カントリークラブ　クラブハウス

設計施工　大林組名古屋支店



廻廊

所 在 地　愛知県豊川市平尾町糠川11-31
敷地面積　900,000.00㎡
建築面積　2,779.83㎡
延床面積　3,710.34㎡
構造規模　RC、S、BIF、2F
工　　期　1989年2月～1990年3月
最 寄 駅　名鉄本線国府駅

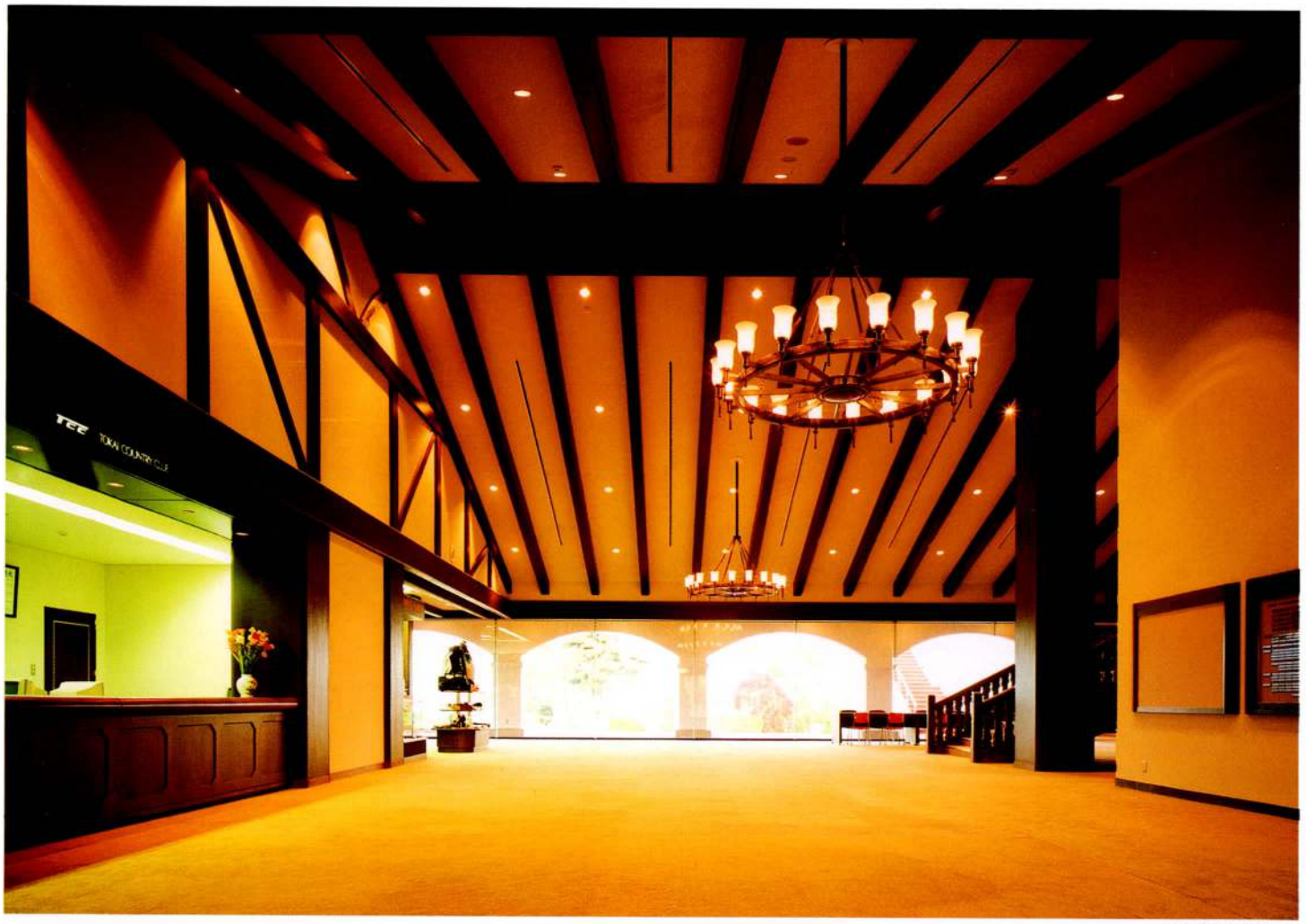
撮　　影　SS名古屋

東海カントリークラブは昭和36年にオープンしたゴルフ場で、愛知県下有数の名門クラブです。この時代のほとんどのハウスがそうであるように、手狭・老朽化が進んでおり、30周年を迎えるにあたり、その記念事業の一環として建て替えられることになりました。新しいクラブハウスは30年間に育てあげられた樹木や環境になじませるとともに、永年にわたって親しまれた旧ハウスのイメージを継承し、スパニッシュを基調としたデザインとしました。

外観は素焼瓦の屋根とコントラストをなす、スタッコの白壁で構成され、スポーツとしてのゴルフの健全さと、伝統あるメンバーシップの風格を表現しています。平面計画はプレーヤーゾーンの動線の明確化と管理ゾーンの合理化、単純化に留意して決定されました。広く明るいエントランスホールを軸として右にロッカー室、浴室、脱衣室などのプレイヤーゾーンをまとめ、左に管理ゾーンである管理事務室、カート置場等の諸室を配置しました。2階部分――談話室・食堂・コンペ室等はエントランスホールの吹抜を通って、ゆったりした階段で結ばれています。内部空間は木調の重厚感とプラスターのアットホームな材質感を基調とし、要所にトップライトを設け充分な自然採光を採り入れており、明るくてシックな空間構成としています。

また、エントランスホールには当クラブの会員である平川敏夫画伯の作品が彩を添え、歴史ある同クラブに凛然とした趣を加えております。

（鈴木一義／大林組名古屋支店設計部）



エントランスホール



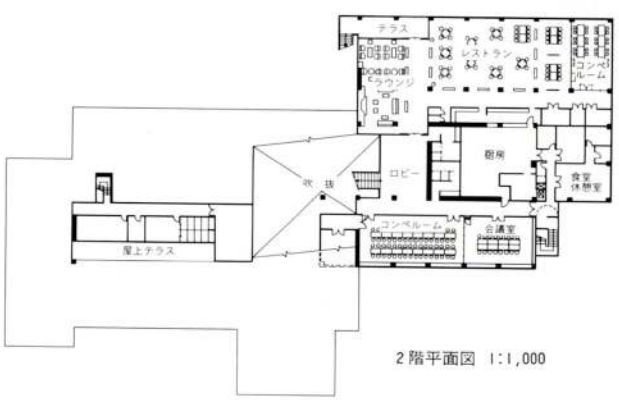
コンベルーム



2階レストラン



1階平面図　1:1,000



2階平面図　1:1,000

津カントリー倶楽部クラブハウス

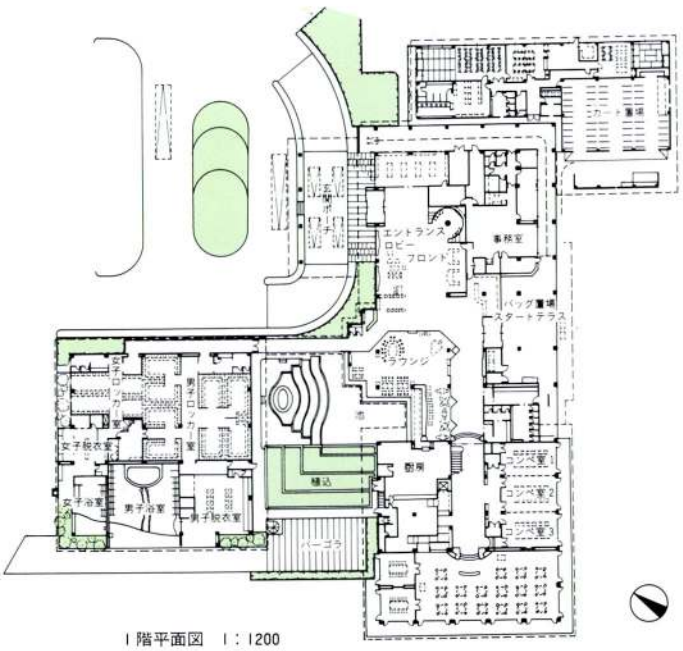
設計施工　大成建設名古屋支店

所 在 地　三重県津市片田薬王寺町他
敷地面積　1,581,060.00㎡
建築面積　4,168.88㎡
延床面積　4,499.27㎡
構造規模　S、一部RC、BIF、2F
工　　期　平成元年9月～平成2年6月
最 寄 駅　近畿日本鉄道津駅

撮　　影　SS名古屋



吹抜け



1階平面図　1：1200



エントランスロビー

ジャンボ尾崎の設計監修に依り、コースは、世界を目指す名門コースとして創られ、クラブハウスもこのコースに相応しく、また、当倶楽部のコンセプトである「インテリジェントクラブライフ」の具現化を要求された。この様なクラブハウスの設計に担り、先ずこの豊かな自然環境との調和とユトリのある建物のレイアウトを前提とした。
具体的にはクラブハウスの主たる機能を３つにまとめ、この３つの機能をレベル的に多少の変化を持たせながらそれぞれ独立した棟（方形屋根）で表現し、全体的に高さを抑え、自然との調和を図りながら表情の豊かさの表現に努めた。また、これらの棟で囲まれた部分には中庭を配し、オープンな廊下で接続する事に依り中庭の雰囲気を楽しみながら、抵抗なくそれぞれの棟へアプローチ出来る様に考えた。クラブハウスのデザインコンセプトとしては、華美に過ぎたクラブハウスが出来る中でクラブハウスの原点でもあるレジデンシャルなカントリーライフスタイルを意識し、ボリュウムで勝負するよりはアットホームなヒューマンスケールの落着いたクラブハウスの実現を目指した。そのため内外装をイギリスから輸入したビクトリア王朝時代の古いレンガや自然石、無垢の木、或いは漆喰塗を採用し、自然の素材をふんだんに使用した重厚感のある温かみにあふれたムードを演出した。また、オーナーに依り世界から集められたアートコレクションがクラブハウスのあちこちに展示され、他にはないオリジナルな、まさに当倶楽部のコンセプト「インテリジェントクラブライフ」を実現すべく努力した。（川地正数／大成建設）



役員室



レストラン

ホリディ・タワー

設計監理　大成建設名古屋支店
協　　力　アトリエモブ(伊藤隆道)
　　藤原一建築設計事務所
施　　工　大成建設・日本国土開発・錢高組共同企業体

所 在 地　愛知県豊橋市藤沢町141番地
敷地面積　58,342.70㎡
建築面積　7、116.80㎡
延床面積　33,495.10㎡
構造規模　S、B2F、3IF
工　　期　1989年1月～1990年9月
最 寄 駅　JR東海道新幹線豊橋駅

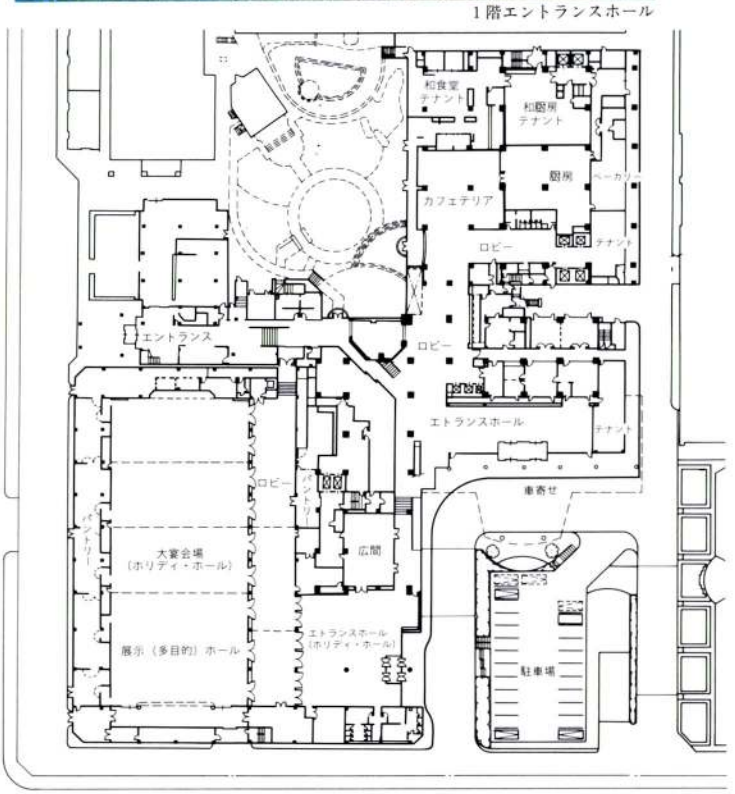
撮　　影　センターフォト



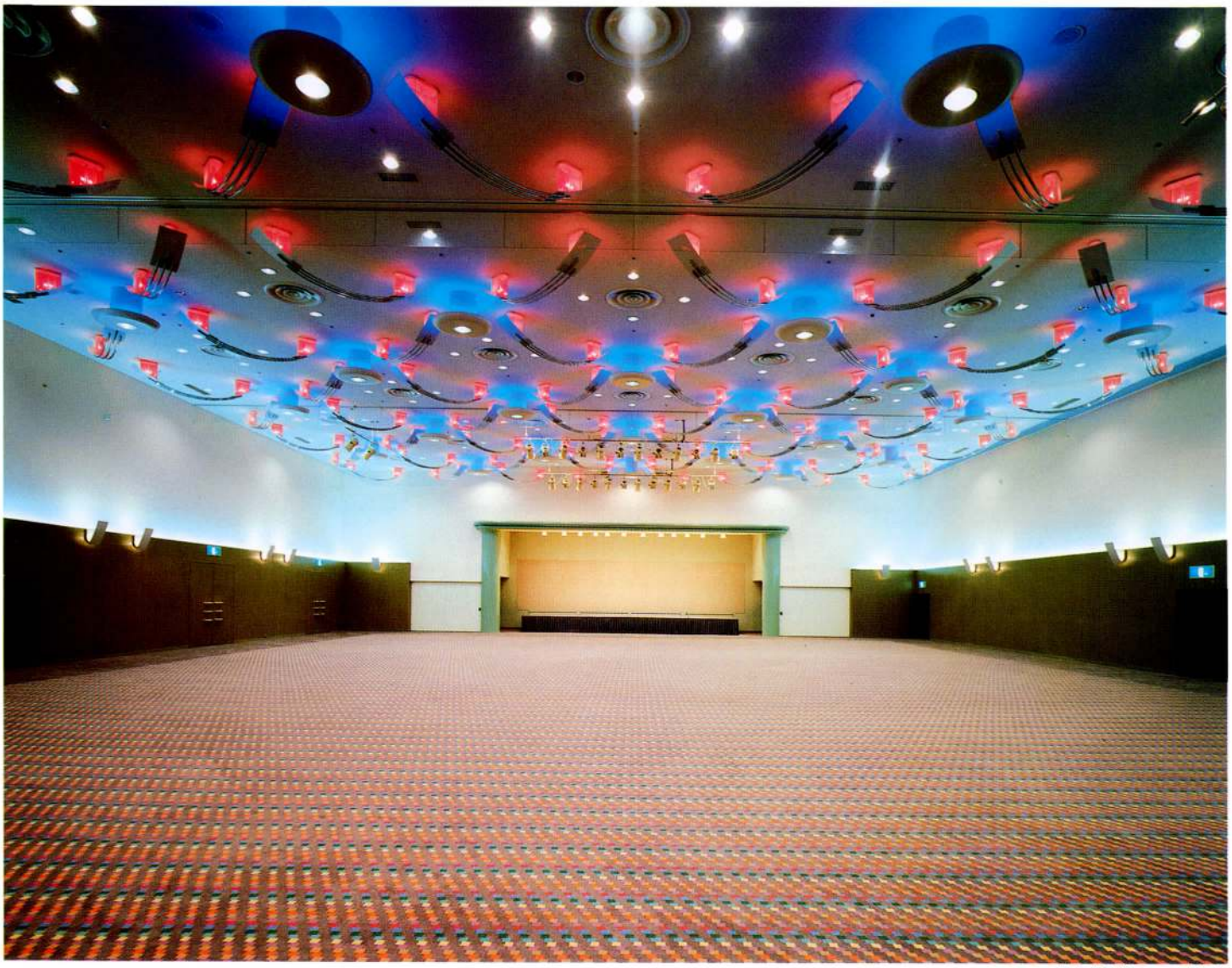
全景（北面）


1階エントランスホール


南面全景鳥瞰



配置・1階平面図　1：1,500



1階大宴会場（4,000人収容）

当施設は、ＪＲ豊橋駅新幹線口より南西２kmに位置し、敷地内に既存ホテル（ホリディ・イン豊橋・B1～10F）を始め、ショッピング施設・映画館・スポーツ施設（アイススケート場・ボーリング場・プール等）等の諸施設を有し、北側がホテル中心施設、南側が物販中心施設として敷地の機能ブロック分割を行い、総合レジャー施設を構成している。

今回ホリディタワーは、21世紀に向け発展を続ける豊橋市の「サイエンスクリエイト21」などの国際化への動きに対応して、ホテル・コンベンション施設の機能拡充を主眼としている。豊橋地区は勿論、名古屋圏内においても注目を集めるシティリゾート型超高層ホテルとして、また、国際ホテルチェーンの一核として、その公共性を高く認識した上で豊橋の新しい副都心としての役割を十分に発揮するランドマークたり得ることをテーマとした。

地上112Mのホリディタワーは、中部地区最高の高さを誇り、スカイラウンジ（30F）やフレンチレストラン（29F）からの眺望はすばらしい。客室は379室を有し、既存ホテルを加えると計505室となる。また、コンベンション施設としてホリディホール（ホワイエを含め最大収容人員 4,000人・ホール部分 1,531㎡）を低層部に接続しており、豊橋港の整備などにより国際化を続ける豊橋市の国内外のエグゼクティブビジネスマンが使用するに足りるプレステージと合理性を持った施設づくりをしている。

更に付帯施設として、今後の多目的な利用形態に対応できるようにチャペル・人工滝や池・屋外プールを配した中庭を計画している。

（倉岡誠一／大成建設）



2階茶室



30階スカイラウンジ

白馬47(HAKUBA FORTY SEVEN)スキー場は中京テレビグループの中京テレビリゾート企画により開発され、1990年12月1日に開場した。日本有数のスキーエリアを誇る白馬山麓の中心地、ちょうど八方尾根と五竜とおみスキー場の間の北斜面に、一部の険しい斜面を克服して、日本国内ではめずらしい林間コースを主体にしたスキー場が建設された。総面積120haの当スキー場は、標高820mから1,450mの間に、7つのコースがレイアウトされ、ゲレンデ面積は約28.6haで、残地森林率は65%を越えている。「人と自然との調和」をテーマに、自然を最大限に生かしたコースづくりは、環境の保全にも万全を期している。

主要施設は、約2,000台を収容する駐車場の中心にあるベースセンターとゲレンデにあるアルパインセンターで、これらは8人乗りのゴンドラで結ばれている。ベースセンターはスキー場に迎え入れるデートとして機能し、アルパインセンターは、ゴンドラの山頂駅として、また、ゲレンデのオアシスとして位置づけられ、白馬山麓の大パノラマを楽しませてくれる。

建物は、工期が極端に短かかったこともあり（実質7ヵ月）躯体の一部をのぞき、すべて乾式工法を採用している。シンプルな形に徹し、耐候性のある素材を選び、厳しい気候条件を克服することの工夫をしながら、安全な施設づくりを心がけた。簡素な中にも施設全体を通じてのカラーコンディショニングやサイン計画で楽しさを演出している。冬のスキーだけでなく、北アルプスの大自然と美しく調和した景観をその名の由来の通り（4 SEASONS　7 DAYS　つまり365日)春夏秋冬楽しめるリゾート施設であればと願っている。

（森口雅文・桑原雅明／伊藤建築設計事務所）



47スキー場遠望



アルパインセンター南東面



白馬47スキー場

総合監理
建物設計監理　伊藤建築設計事務所

土木設計監理・
コンサルティング　アンドー飯田支店

施　　工　熊谷組名古屋支店

所 在 地　長野県北安曇郡白馬村大字神城字南ノ沢
敷地面積　1,288,066㎡

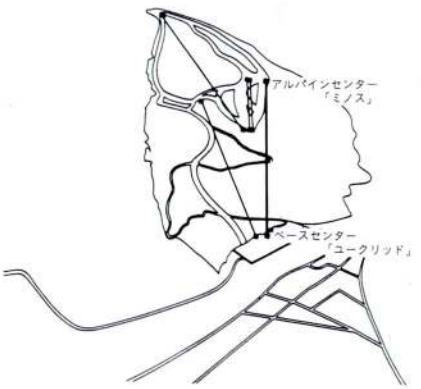
	ベースセンター	アルパインセンター	
建築面積	1,357㎡	2,129㎡	計 3,486㎡
延床面積	1,336㎡	3,558㎡	計 4,894㎡
構造規模	S、平家	S(一部RC)、3F	

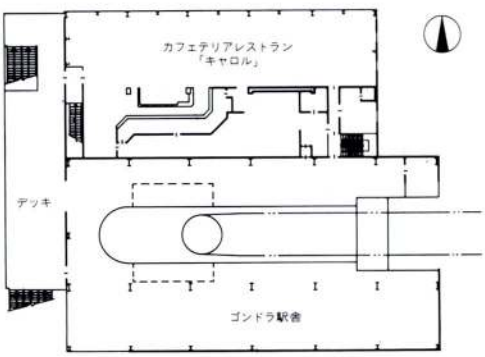
工　　期　1990年4月～1990年11月
最 寄 駅　JR大糸線白馬駅

撮　　影　加藤敏明

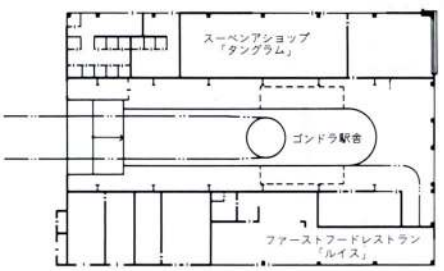


アルパインセンター「ミノス」 外観西面





アルパインセンター2階平面図　1：1,000



ベースセンター1階平面図　1：1,000

索道工事　日本ケーブル　　上下水処理場・電気設備工事　クボタ
情報・通信設備工事　名古屋電子エンジニアリング
人工降雪設備・コンサルティング　スペースハウス　　人工降雪設備工事　北海道スノーサービス



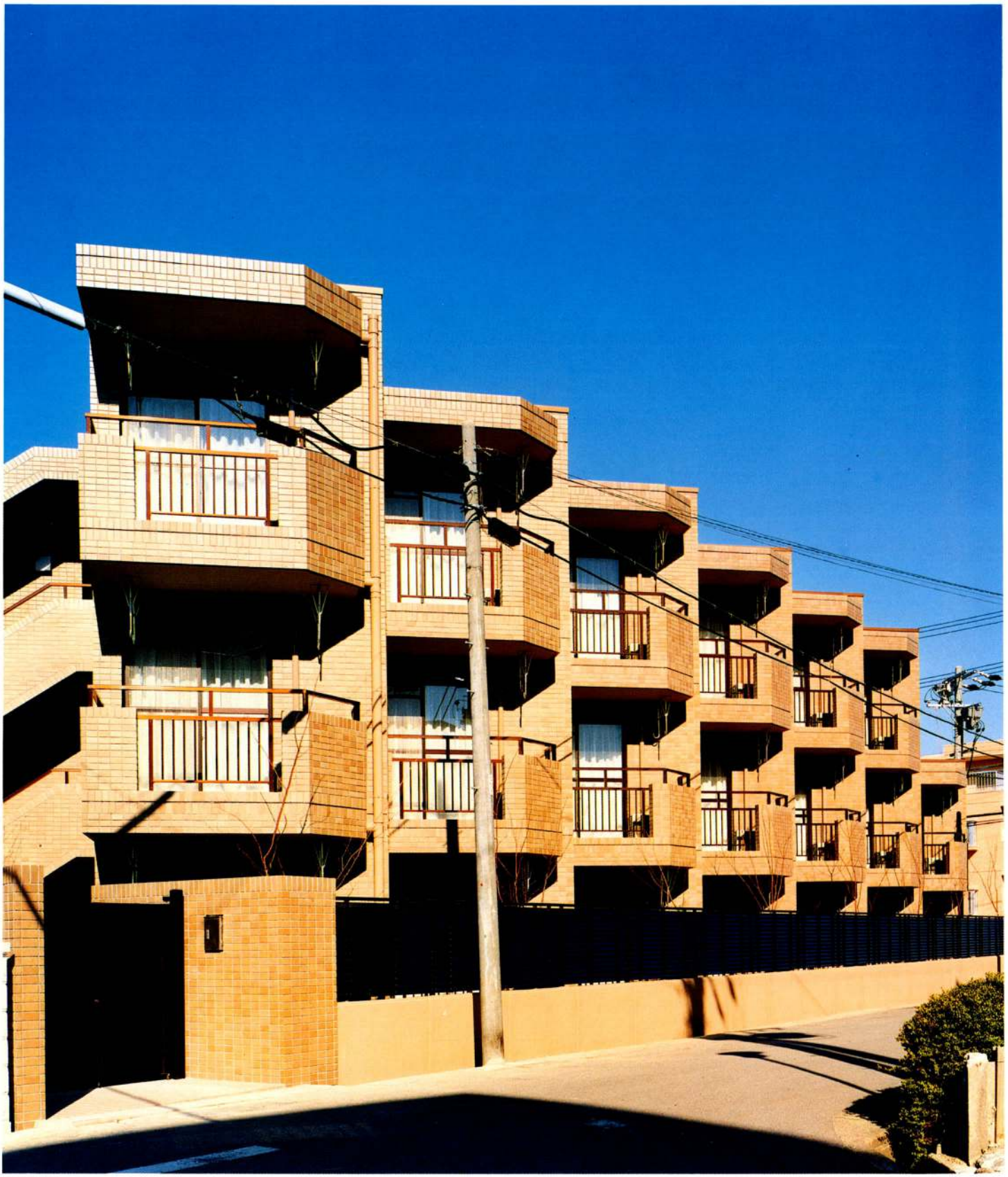
アルパインセンター「キャロル」内観



ベースセンター「ユークリッド」外観南東面

日本車輌 有松寮

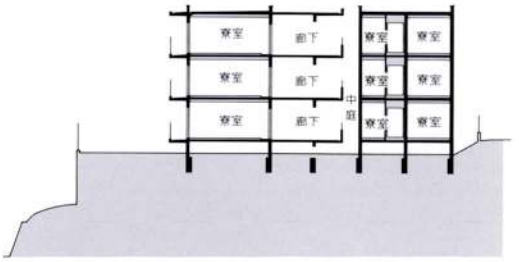
設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　熊谷組名古屋支店
　　電気　トーエネック
　　衛生　北嶋工業
　　空調　大菱工業



外観南東面



外観西面遠景



断面図　1：500



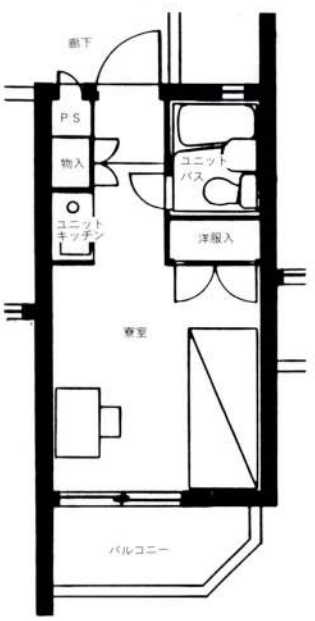
1階平面図　1：500



寮室



廊下



寮室平面図　1：100

日本車輌有松寮は、絞り染めと古い町並みで知られる旧東海道有松の宿の近くに建設された。このあたりは名古屋市の東南部丘陵地帯で、敷地周辺は閑静な住宅地であり、第一種住居専用地域に指定されており、付近には学校や幼稚園、大規模な住宅団地もあり、良好な住宅地区を形成している。日本車輌製造株式会社は、この地区に、1965年頃から社宅や単身寮、研修センターを建設してきた。既に、ここには2人室で50室、計100人が入居できる単身寮があるが寮室が狭く、また、寮生が個室を好むこともあり、現在は2人室を1人で使用している。従って、食堂や浴室などの共用部にはゆとりがあり、これらの共用部を活用して寮室のみを増築することも検討されたが、既設の建物は、高さ制限及び日影規制等で既存不適格になっており、一棟として利用できるかたちでの寮室の拡充整備が不可能であるため、隣接する敷地を利用して新たに、単身寮を建設することとなった。

昨今、各企業で建設される厚生施設はグレードが高くなってきており、また、単身寮では個室志向が高いため、施設全体をワンルームマンション形式でまとめ、日影規制や高さ制限などの厳しい法規制のなかで、許容容積一杯を利用して35室の寮室を設けた。平面は基本的には中廊下形式であるが、各寮室に独立性をもたすために、寮室を中廊下に対して45°振って雁行配置とした。廊下の各所には、各階吹き抜けの中庭を設けて屋外廊下として、とかく閉鎖的で陰鬱になりがちな中廊下に光と風を導き、ゆとりある空間とした。寮生は、基本的には、共用施設は既設の単身寮のものを利用することになっているが、各寮室にはユニットバス・ユニットキッチンが装備されているので、寮室だけでも日常生活を過すことができる。

（森口雅文・鈴木慶智／伊藤建築設計事務所）

所在地　名古屋市緑区鳴海町字有松裏
敷地面積　711㎡
建築面積　281㎡
延床面積　708㎡
構造規模　RC、3F
工　期　1989年11月－1991年1月
最寄駅　名鉄名古屋本線有松駅

撮　影　SS名古屋

東邦ガス　内海荘

設　　計　伊藤建築設計事務所
監　　理　東邦ガス技術部
施　　工　鴻池組名古屋支店
　　電　　気　邦和電設
　　空調衛生　太平エンジニアリング



外観南面

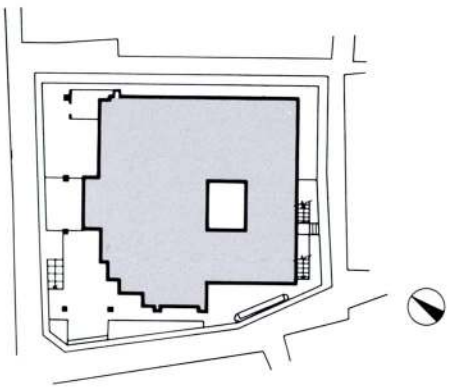
内海（うつみ）は、名古屋より車で1時間余、知多半島の西海岸にあり、伊勢湾に面して、古くから海水浴場としてなじみが深い。

敷地は海岸から徒歩5分程の所にあり、海岸沿の丘陵地で、南知多県立自然公園内にある。

敷地周辺は民家が建て込んでおり、四周の道路は坂道で幅員も2.0～3.6mと狭く、建築計画上法的な制約も厳しく、既設建家のとりこわしを含め、工事のしにくい立地であった。

自社の厚生施設である、内海荘は海水浴シーズン中の、海の家としての利用だけでなく、オフシーズンにも、会食や会合などに利用されるオールシーズンタイプの施設として建設された。周辺の状況から建家は道路に沿って、中庭を囲ったロの字型の配置とし、全体を地下1、地上2階にまとめ、中庭も内部空間として扱った平面とした。地階には浴場をはじめ水廻りをまとめ、海水浴客が更衣・シャワー・洗濯などに利用しやすいように直接外部より出入できるようにしている。その他にクラブ室や、娯楽室を設けている。1階には、ロビー・大広間・食堂などのパブリックスペースと南側の日当りのよい所に、管理人室をはじめ管理部門をまとめている。2階には家族あるいはグループ単位で楽しめる和室の宿泊室を設け、それぞれ外には開放的で内には独立性の高い宿泊室としている。塔屋には展望室を設け、展望の他小集会も可能としている。内外装材は、石・タイル・ガラス・木・布など多様な素材を使いながらもそれぞれの素材のもち味を生かし、使い込んではじめてよさのでてくる使い方と、そのディテールを工夫した。

（森口雅文、岡田満弘／伊藤建築設計事務所）



配置図　1：800



断面図　1：400

所 在 地　愛知県南知多町大字内海字本田
敷地面積　871㎡
建築面積　520㎡
延床面積　1,447㎡
構造規模　RC、B1F、2F
工　　期　1989年10月～1990年6月
最 寄 駅　名鉄知多新線内海駅

撮　　影　加藤敏明、センターフォト



エントランス外観



地下1階ホール



1階エントランスホール

栄ガスビル

総合監理　東邦ガスエンジニアリング
設計監理　日本設計
施　　工　竹中工務店・鹿島建設・日本国土開発共同企業体

名古屋の中心・栄の、今最もホットなファッションストリート・南大津通りに、東邦ガスと三井信託銀行との共同ビルとして、'87年の盛夏、「栄ガスビル」の設計がスタートしました。街の活性と両施主の新拠点施設を創出すべく、低層部に店舗・集会・情報等多彩な商業用途、高層部に最新機能のオフィス用途、地下深くと最頂部に市初の本格的地域冷暖房プラント、を織込んだスマートな高層ビルを目指しました。

端正な高層部、豊かな内外空間の低層部

高層部は優しいツートンのタイル壁面と落着いた熱線吸収ガラスの横連窓を基調に端正なスカイラインを成し、バルコニーや頂部スリットの陰影と最上階レストランの大型透明窓をアクセントとしました。
低層部は石の高級感と大型ガラスの開放感の組合せを基調に通りの活況に呈し、特に、3階の横一文字の石壁と深い横スリットを呈すその屋上庭園、足元ポーチを支える2本の象徴的円柱や柔かいパンチングメタルの格子パターンの軒天井、人形ステージやガス燈のあるサンクンプラザ、等がデザインのポイントとなっています。

エネルギーと情報発信の基地

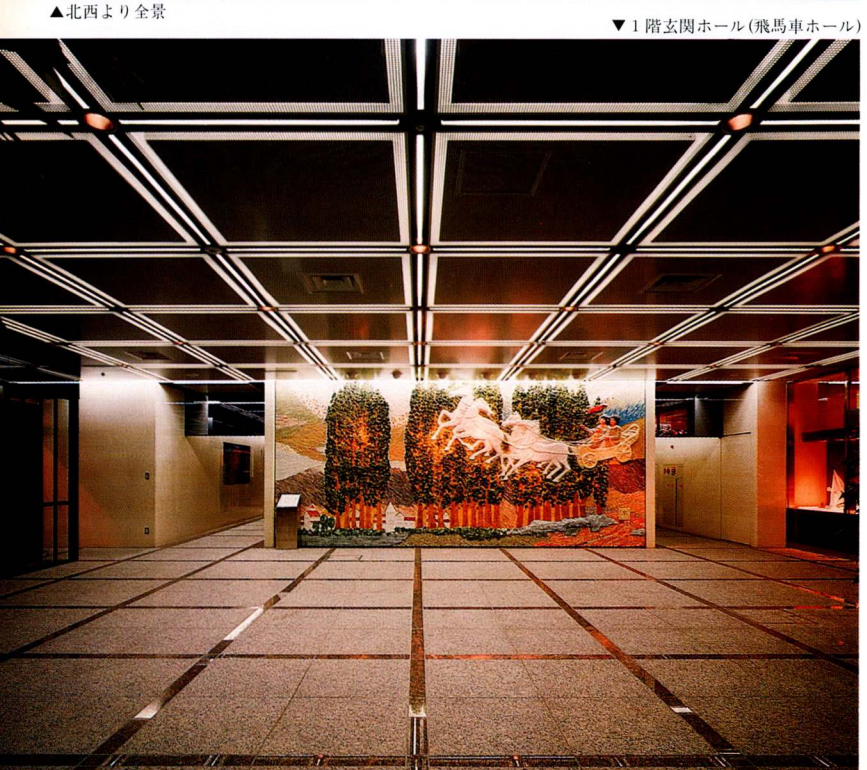
地下3・4階に地域冷暖房プラントを擁し頂部にその巨大な冷却塔を戴いた当ビルは、隣接の松坂屋関係等へのエネルギー基地となり、都心のエネルギー対策の将来像を提唱する一方、様々なインテリジェント機能や街の情報発信装置を備えています。

（鈴木利明／日本設計）

▲北西より全景

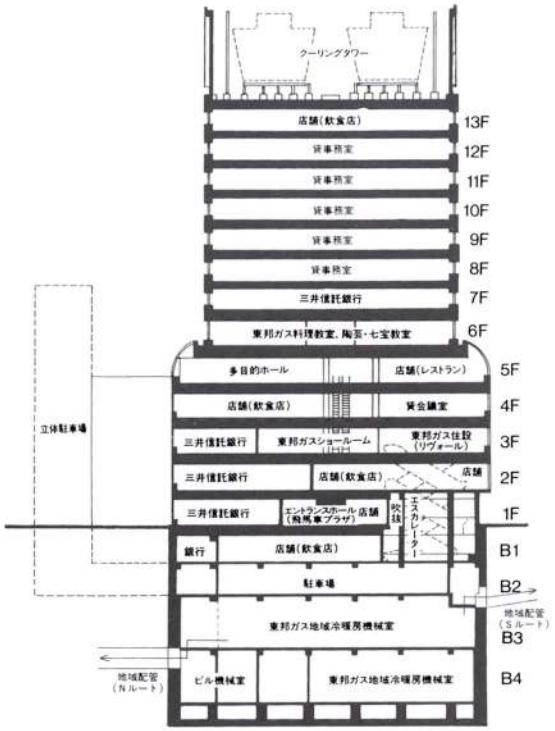


▼1階玄関ホール(飛馬車ホール)



▼サンクンプラザ(人形広場)

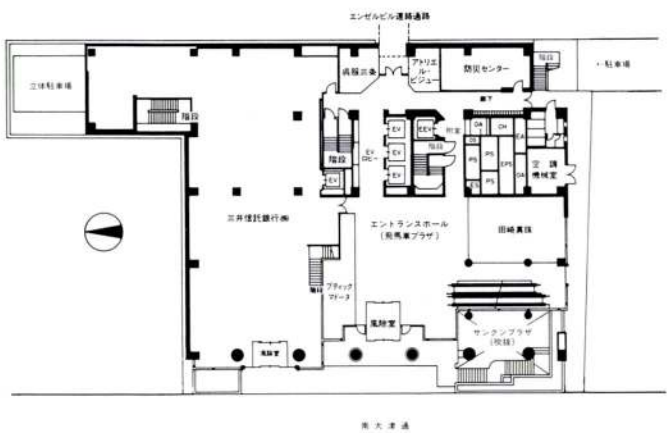




断面図　1：1,000



基準階平面図　1：800



1階平面図　1：800



▲南西より全景(夜景)



▲5階多目的ホール(栄ガスホール)

▼4階和室(大広間・滝の間)



所在地　名古屋市中区栄3－15－33
敷地面積　1,955.24㎡
建築面積　1,620.35㎡
延床面積　19,945.43㎡
構造規模　SRC、S、B4F、13F、P2
工　期　1988年5月～1990年5月（第1期）
　　1990年6月～1991年3月（第2期）
最寄駅　地下鉄東山線栄駅・同 名城線矢場町駅

撮　影　SS名古屋

外観遠望

日本電装基礎研究所

設計施工　竹中工務店



正面玄関

所 在 地　愛知県愛知郡日進町大字米野木字南山500-1
敷地面積　81,022.16㎡
建築面積　12,532.20㎡（内研究棟 6,065.96㎡）
延床面積　42,641.78㎡（内研究棟27,380.78㎡）
構造規模　SRC、一部S、7F（研究棟）
工　　期　1989年7月～1990年10月
最 寄 駅　名鉄豊田新線米野木

撮　　影　SS名古屋

この研究所は、名古屋市の東方に広がる丘陵地の自然豊かな環境の中にあり、敷地前面には愛知用水の人工池（愛知池）が広がっています。

次世代素子によるカーエレクトロニクスを中心とした技術開発の基礎研究所としての当施設は、研究棟・実験棟２棟・附属棟２棟の計５棟からできています。研究棟は高層棟及び低層棟からなり、高層棟は研究部門・管理部門・厚生部門、低層棟は研究発表等に利用する大小ホール・展示コーナー・外来打合せコーナーから構成され、実験棟の１棟はクリーンルームとなっています。

外部との交流・研究所内の交流を重視し、且つ従業員の緊張とリラックスの交互作用が図れるインターフェイス空間の創造を基本テーマとして計画しました。南に向かって大きく開かれた愛知池側に広い庭園と研究棟を配置し、借景を取り込んだ外部環境により居住性や快適度の高い空間とする事で研究活動をサポートさせ、又その外部環境に低層棟を突き出させる事により内外部のインターフェイスのメインゾーンとしました。



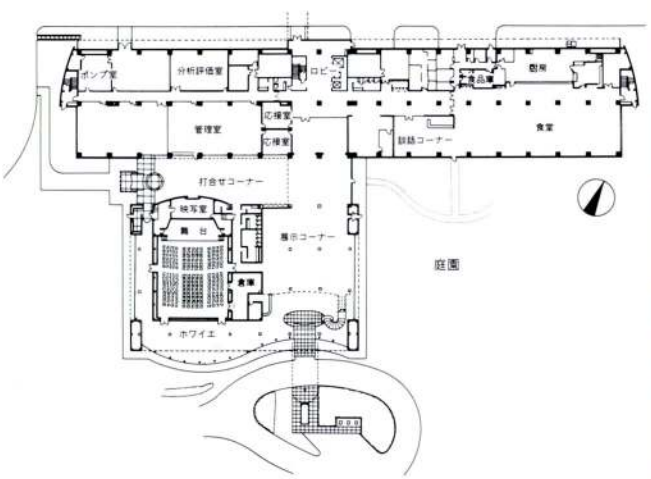
大ホール



打合せコーナー

研究棟外壁をグレーホワイトの色彩でまとめ、横連窓とのシャープなリズムで最先端の研究所としてのハイテックやクリーンのイメージを表現し、各階研究室中央にあるアメニティホールの外壁を半円状に突き出させ、又低層棟にＳ字型カーテンウォールを採用する事により、堅く成りがちなファサードに変化をもたせました。

（巽　浩／竹中工務店）



１階平面図　１：1,800



ホワイエ



南正面外観



正面見上げ



玄関正面

円山ニッセイビル

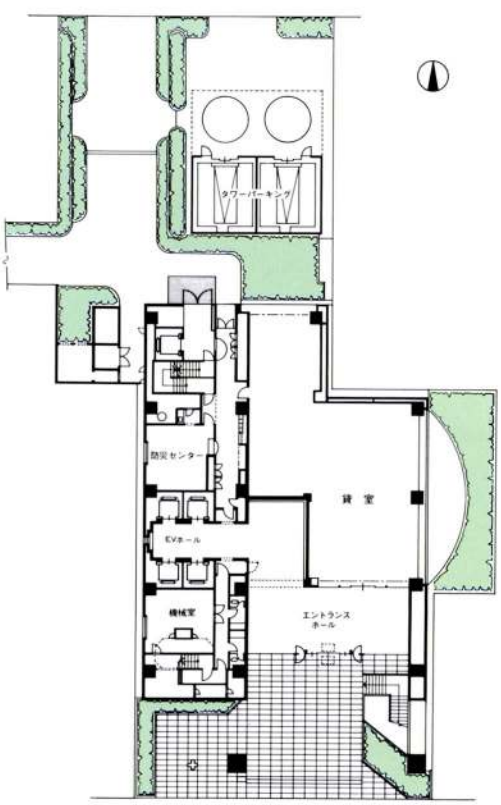
設　　計　竹中工務店
施　　工　竹中工務店・矢作建設工業

所 在 地　名古屋市中区錦２丁目1421外
敷地面積　1,964.68㎡
建築面積　1,041.31㎡
延床面積　15,756.37㎡
構造規模　SRC、B1、16F、P1
工　　期　1988年９月～1990年３月
最 寄 駅　地下鉄東山線伏見駅

撮　　影　SS名古屋

近年の名古屋市の商業地は新規企業の進出、営業事業所の拡充と情報の高度化によりオフィスビルの需要が増大しています。これに伴ない土地の有効利用が図られ、建物の高層化が顕著です。
当オフィスの計画地は名古屋市の商業地の中心に位置し、昔から繊維製品の商社、問屋が集中し、又、中低層建物が密集している地域であり、緑地公園等の市街地環境施設も充分とは言えない状況です。
計画地の現況と不整形な敷地条件を踏まえ、総合設計制度を採用し、準公共空間を創出し、市街地環境の整備改善を計画の基本方針と設定しました。
具体的には建物の南と北に２ブロックの公開空地を設けました。北側は道路と同一レベルのポケットパークと散策路を設け、エクステリアデザインの演出により、利便性の確保はもとより、潤いのある環境を創り、又、南側（錦通り側）はメインストリートとしての都市景観の形成と歩行者への圧迫感、威圧感の排除を考慮し、前庭を設けました。
外観はシンプルな横連窓とブルーグレーのタイルにより、清潔、かつ端正なプロポーションを目指しました。
内観はライトグレーを基調色とし、機能的で落ち着きのある事務空間でまとめ、共用部は間接照明による柔らかな明るさでやすらぎを与えています。
当計画は大規模ではないが周辺環境を的確に把握し、不整形な敷地に準公共空間を充分に設け、建物効率、投資効率の向上を図る中で、周辺地域との調和に十二分に寄与していると考えております。

（三鴨幸二／竹中工務店）



１階平面図



基準階貸室

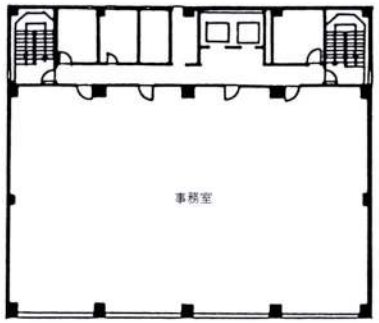


松下・中日ビル

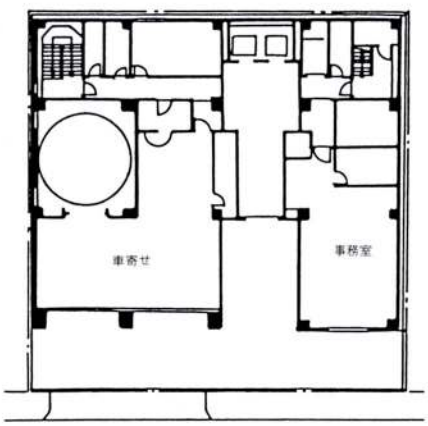
設計施工　竹中工務店

所 在 地　名古屋市中区栄4丁目1402番
敷地面積　734.56㎡
建築面積　563.20㎡
延床面積　5,585.47㎡
構造規模　SRC、S、BIF、9F、PI
工　　期　1988年10月～1989年11月
最 寄 駅　地下鉄東山線栄駅

撮　　影　車田写真事務所

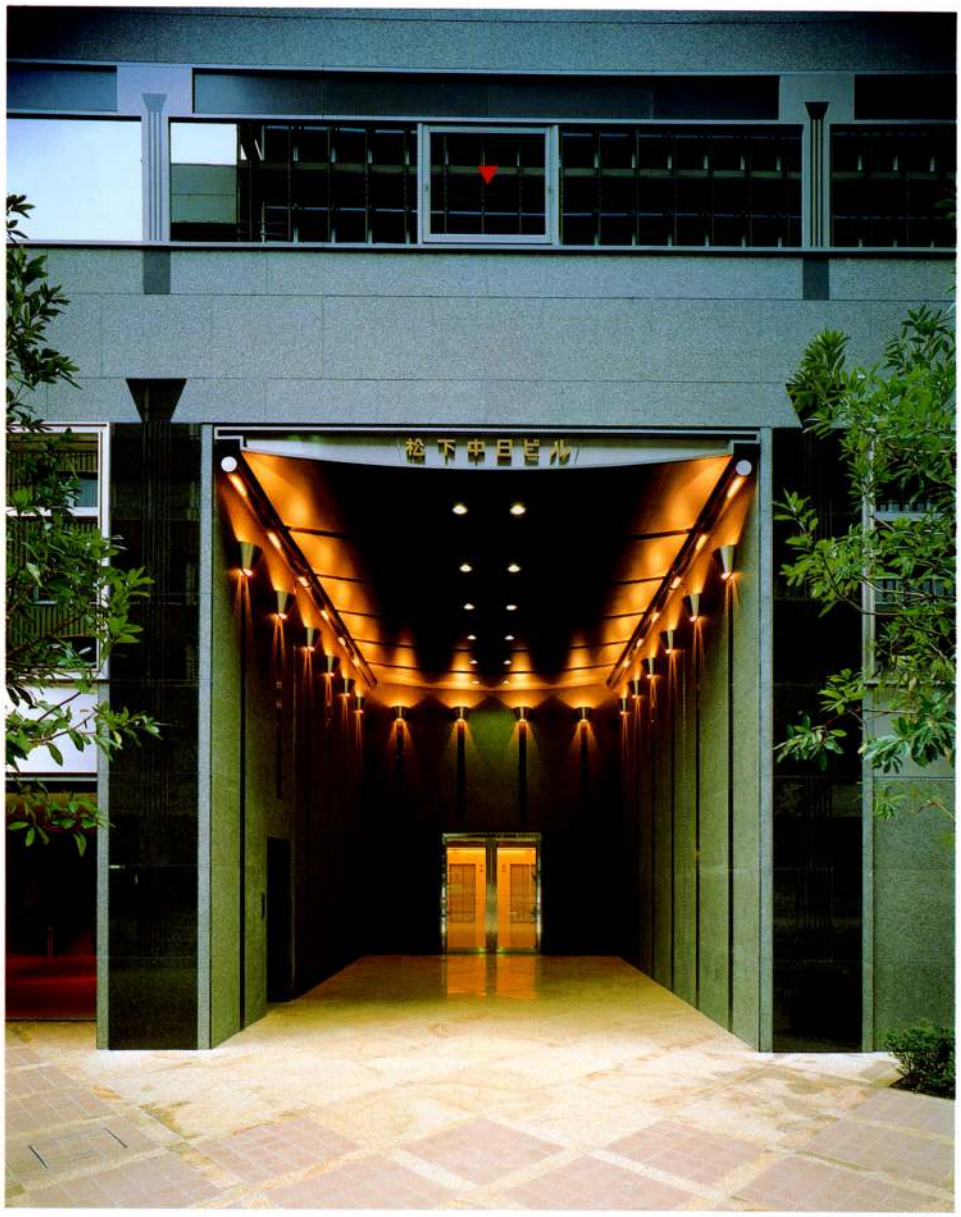


基準階平面図　1：600





1階 平面図　1：600



エントランス

建築地は、名古屋市の中心部で、通称100 m道路と呼ばれる久屋大通公園に近接しています。
25年前に誕生し、今もって市内有数の優れた複合ビルである中日ビルの南側に位置しており、中日ビルのアネックスとして計画され、全館オフィスビルとなっています。
配置計画上は、前面道路幅員が10 mと狭いため道路斜線規制を有効に生かしており、歩道に沿ったポケットパークを配しています。メインエントランスは、中日ビル内を南北に貫通する歩道の軸線上に設けており、それぞれのビルにおける動線上及び、視覚上の一体化を図っています。
平面計画上は、明解なプラン、オフィスゾーンの無柱化、各諸室への自然採光の確保及び、無人化管理システムの採用等、オフィスビルとしての快適性、利便性を高めた計画としています。
外観は、狭い道路に面し、敷地の三面を隣接するビル群で囲まれた中にあって、正面性の強い外観を意図しています。本磨き仕上とジェット仕上による本石と、二色からなる金属とに、繊細と格調を求めながら構成しており、ポケットパークをもった新しい街区をつくりあげています。

（古田智二／竹中工務店）



エレベーターホール

大河内ビル

設計施工　竹中工務店



外観東面（久屋大通りより見る）

名古屋市のメインストリート久屋大通りは、今、名古屋の文化・商業の情報発信地として大きく変貌しつつあります。

ＮＨＫ名古屋放送センタービルや愛知県新文化会館のオープンも近づき、また、当ビルの位置する南西部には、一昨年パルコが進出、更に松坂屋百貨店も増築工事により、日本で最大の売場面積を持つ百貨店としてオープンを間近にしています。この界隈について言えば、ハイセンスなファッションアベニューとして生まれ変わりつつあります。

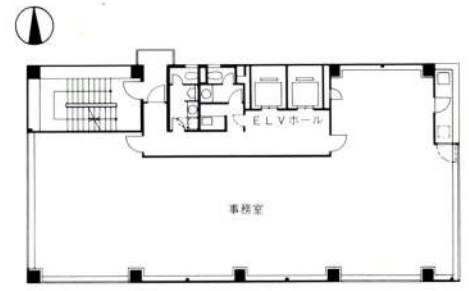
建築主は古くからこの地に住まわれ、当ビルはこうした周辺環境の変化や動向を背景に計画されたオフィスビルです。最上階は建築主の住居となっています。

外装は横連窓サッシと成形セメント板のメタリック塗装、更にアルミフレームの組み合せで構成しています。

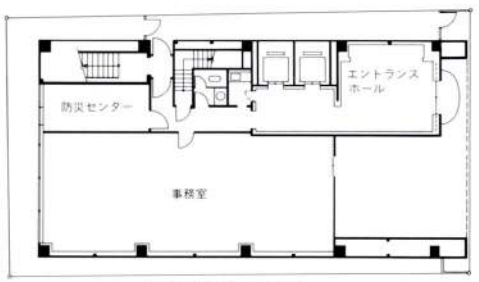
久屋大通りにおけるランドスケープアーキテクチュアの試みの中で、いかに周辺に埋没することなく、その僅かな隙間にファサード建築を作り上げていくかを考えました。

この地に相応しいシャープで軽快なイメージを追求すると共に、頂部においては単調に連続する水平のスカイラインにアーチを架け、小粋に自己主張できるように意図されています。

（土井敬三／竹中工務店）



基準階平面図　1：400



1階平面図　1：400

所 在 地　名古屋市中区栄三丁目31－7
敷地面積　330.71㎡
建築面積　258.07㎡
構造規模　S、B1、10F、P1
工　　期　1989年2月～1989年12月
最 寄 駅　地下鉄名城線矢場町駅

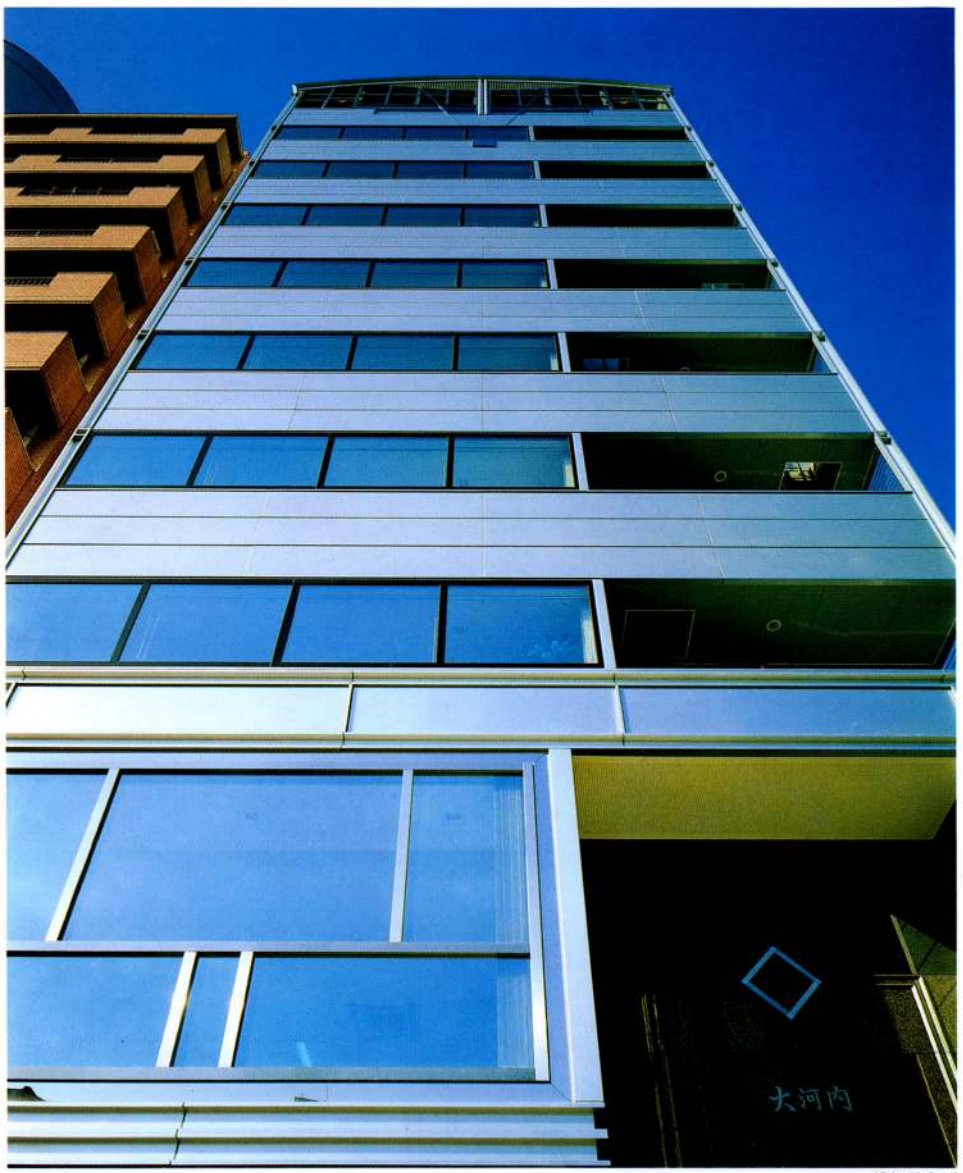
撮　　影　車田写真事務所



エントランス廻り


1階エレベーターホール


10階住宅玄関



外観見上げ


1階事務所

日健総本社ビル

設計施工　清水建設名古屋支店



外観夕景



外観見上げ

東海道新幹線岐阜羽島駅前に建つこの建物は、健康食品会社の本社ビルである。計画にあたり、内部の多様な機能を本社ビルとしての風格ある外観にいかにまとめるかがテーマとなった。

外観は、4本のコアシャフトで頂部アーチ屋根の大ホールを支えるというシンボリックな形態とし、特徴的なスカイラインによって地域のランドマークとなる事を意図した。また、この大架構により基準階は、事務室をはじめ、研修・宿泊・研究・展示など様々な用途にフレキシブルに対応できる無柱空間を実現できた。

（穴井伸二／清水建設名古屋支店）



エントランス廻り

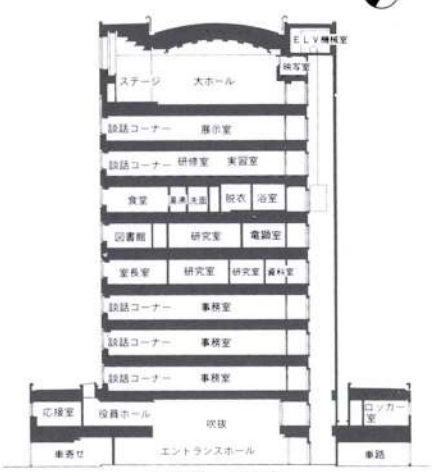
所 在 地　岐阜県羽島市福寿町浅平一丁目32番地他
敷地面積　2,202.31㎡
建築面積　1,061.01㎡
延床面積　6,105.10㎡
構造規模　SRC、14F、PI
工　　期　昭和63年3月～平成元年3月
最 寄 駅　東海道新幹線岐阜羽島駅

撮　　影　水野励治

エントランスホール



1階平面図　1：800



断面図　1：800



最上階大ホール



工場入口付近

アマダソノイケ 富士宮工場

設計施工　清水建設名古屋支店

富士山麓の自然の中で、新工場が脈動している。外部空間は周りの景観と共存するため自然林、溶岩、水路を工場周囲にとけこませつつ、機能的な動線を形づくっている。

建物の白い外観と前室の鏡面板によるアクセントパネルは、富士山をバックにこの地のランドマークとなるよう計画した。

内部は機械製作工場でありながら、次時代をみすえたクリーンな生産域をねらい成層空調を行うとともにエアーカーテン、エルミネーターなどで外部の霧の多い厳しい自然条件を克服した機能的で快適な空間となっている。また、メカニカルで単調な空間の中に原色のアクセント・カラーを配し、視覚的にも心のなごみを与えている。

コ・ジェネレーションシステム、アキュムレーターをとり入れた省エネルギー計画はまさに時代を先どりし、生産施設の新時代の代表をなしている。

（寺田　宏／清水建設名古屋支店）


東側立面



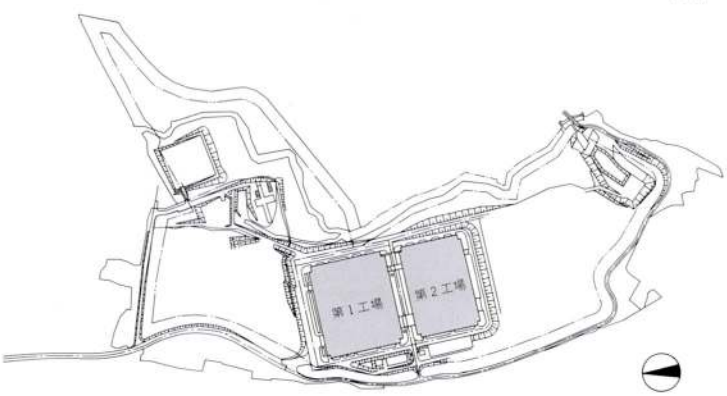
正面全景



食堂



工場内部



配置図

所 在 地　静岡県富士宮市北山7020
敷地面積　257,121.50㎡
建築面積　42,094.87㎡
延床面積　49,488.07㎡
構造規模　S、IF（一部 3F）
工　　期　第Ⅰ工場　昭和61年６月～昭和62年９月
　　第２工場　平成元年４月～平成２年７月
　　保 安 寮　昭和62年４月～昭和62年９月
最 寄 駅　富士宮駅

撮　　影　SS名古屋



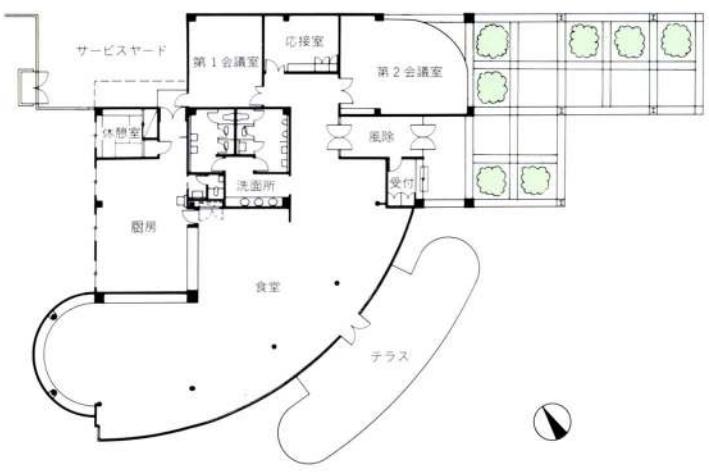
外観遠望

トンボ鉛筆新城工場食堂棟

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　小野工務店

所 在 地　愛知県新城市川田字本宮道68－2
敷地面積　60,628.00㎡
建築面積　519.24㎡
延床面積　493.18㎡
構造規模　S、平屋建
工　　程　平成２年６月～平成２年11月
最 寄 駅　JR飯田線東上駅

撮　　影　SS名古屋



１階平面図　１：500

この食堂棟は、東京工場から新城工場へ生産ラインの一部を移転する一連の工事の中で、老朽化した既存の従業員食堂の建て替えとして計画されたものである。敷地は本宮山の山裾に有る広大な工場の少し小高い一角で、工場全体が一望できる場所にある。工場団地の中ではあるが、周辺にはまだまだ緑が多く、自然が残されている。

「グルメ志向」の現在、従業員食堂においても多様化するニーズへの対応が迫られている。それには食事の質は勿論のこと、いかに「食事の時間を楽しむ」環境を提供するかにある。

昨今の人手不足の中で、厚生施設を充実することにより、企業イメージのアップと人材の確保を図るという「トンボ鉛筆」の方針のもとに、明かるく清潔で、使いやすい建物を意図した。

構内道路からのアプローチは、鉄骨フレームによるゲートと雁行する植込を設けて、「働く場」から「憩いの場」への気分転換ができるように配慮している。

建物は南に面して扇形に開いたガラス張りの食堂を配して、食事と共に大自然の展望が楽しめる空間とした。また、桜の大木に囲まれた芝生の前庭にはテラスを設けて建物の内外を一体化し、昼食時以外にも多目的に利用できるよう工場内の「リゾート空間」としての演出を心がけた。

（中村哲士／安井建築設計事務所）





夜　景

座談会

建て替え期の公共住宅

出席者（敬称略）



浦上和彦
（愛知県建築部長）



根津国穂
（住宅・都市整備公団中部支社長）



前田義夫
（中日新聞論説委員）



福田一豊
（大建設計名古屋事務所長）

司会



中島　一
（日本建築協会東海支部長）
（愛知工業大学教授）

と　き　平成３年１月28日(月)14：00～15：30
ところ　名古屋国際ホテル

公共住宅の現状

司会（中島）　きょうは本当に大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。きょうは「建て替え期の公共住宅」をテーマにいたしまして、皆さん方からご意見を拝聴いたしたいとお集まりいただいたわけでございます。

公共住宅、これは昭和25年には公営住宅法ができまして、国が地方公共団体と協力して、住宅に困ってる人に低廉な家賃で賃貸しようというのが目的です。昭和20年に終戦を迎えた後、大変な住宅難の時代であったわけですが、昭和30年になりますと、現在の住宅・都市整備公団の前身である日本住宅公団が法律化されたわけであります。これは大都市における住宅難の著しい地域に、耐火性能を持つ住宅を大量に建設するというねらいがありました。〝団地族〟という名前が出現したことも記憶に新たなところです。

それがどうやら最近、こういった公共住宅は確かにハードな面の建築物としてはいいものでありますけれども、住み手サイドからみますと、現在のゆとりだとか、あるいは明るい住まいといいますか、家族の生活様式もだいぶ変わってまいりました。また家庭電化製品も変わってきまして、さらにはインテリア関係の製品が目を見張るようなすばらしいものが出てきたわけであります。こういったなかで建て替えをしなければならない時期がきています。

最初に公共住宅の現状ということで、公営住宅、公社住宅の現状についてお話をいただきたいと思います。

浦上　愛知県の公共住宅、公営住宅と県住宅供給公社の住宅ですが、全体で14万1500戸の住宅があります。そのうち県営住宅は267団地、約５万７～８00戸、名古屋市営を含めた市町村営住宅が750団地、約７万9,500戸です。県の住宅供給公社の住宅は39団地、4,200戸で、そのうち公共住宅の建て替え住宅の戸数は、県営住宅では82団地、約6,700戸で全体の戸数の12％です。市町村営住宅は120団地、２万1,900戸、全体戸数の28％、公社住宅は１団地53戸、全戸数の１％について建て替えが終わっております。

さきほど、全部で14万1,000戸と申しましたが、その中で建て替えの必要があるような狭くて老朽化した住宅がたくさんありますが、昭和40年代以前の住宅は、県営住宅は３万6,200戸、全戸数の63％、市町村営住宅は約４万6,000戸、全戸数の割合が58％、公社住宅は3,150戸、全戸数の75％ということで、かなりたくさんの建え替えを必要とするような住宅があるのが現在の状況です。

司会　それでは公団住宅について。

根津　いま、中島先生の方からお話がありましたように、公団が30年に発足をいたしまして以来４半世紀以上になるわけですが、公団全体としては、今までに126万戸の住宅を建てております。賃貸住宅が69万戸、分譲住宅が24万戸、それから賃貸用特定分譲住宅が33万戸です。そのうち中部支社管内、これは愛知県、三重県、岐阜県、静岡県、石川県及び、富山県の６県ですが、現在までに約13万4,000戸の住宅を建てております。賃貸が125団地、５万7,000戸、分譲が89団地、１万4,000戸、それから賃貸用特定分譲住宅が６万3,000戸です。これは全国の比率で約10.6％ということで、ほぼ中部支社の事業量というのは１割というふうに考えていただいたらよいかと思います。

このうち愛知県で実に全体の74％の９万9,000戸を建てておりまして、特に賃貸住宅では90％強が愛知県下にあります。さらに名古屋市内では４万7,000戸建てておりまして、全体の35％ぐらいが名古屋市内です。その中で昭和30年代に建てた住宅は、さきほど中島先生がおっしゃったように老朽化をしていまして、全国で17万戸あり

ますが、その中でいわゆる下駄ばき住宅というか、市街地住宅１万戸を除いた16万戸を建て替えていこうという計画です。これらの住宅をほぼ20年間にわたって建て替えていくわけです。中部支社管内では30年代の住宅が１万戸あり、その中の1,000戸の市街地住宅を除いた9,000戸を建て替えていこうということで、これは62年度から着手をしております。なぜ30年代は建て替えをしなきゃいけないかということになりますと、あとでこれは詳しくは申し上げますが、住宅の規模が大変小さいということです。２DK、３DK以下の住宅がじつに97％で、その平均面積は37㎡です。それから設備水準についても、例えば床とか壁の厚さ、あるいは台所、風呂場、それから洗濯機の置き場がないとかで設備が近年の住宅と比べまして大変格差があります。また容積率ですが、これらの地区はほとんどが法定で200％ですが、実際は70％ぐらいになっています。中部支社の第１号の志賀団地もじつは76％の容積率しか使っていなかったわけです。今後はこういったものを積極的に建て替えていこうというふうに考えております。

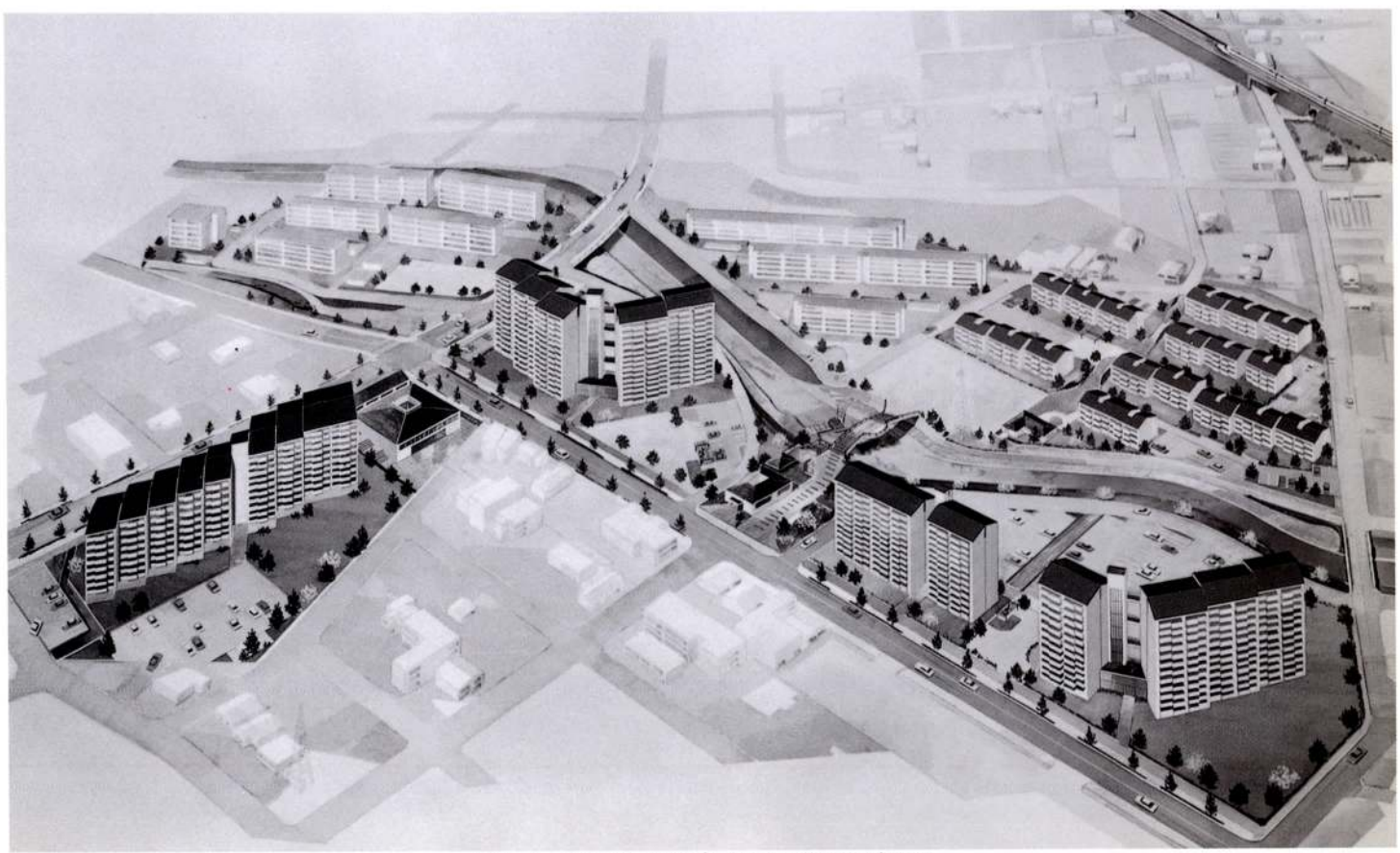
住み手の考え方

司会　前田先生から公共住宅の住み手の現状について、さきほど陳腐化した公共住宅という、しかし、住み手は一体どうだろうか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

前田　戦前までの日本人の住宅に対する考え方は、仏教思想などの影響かも知れませんが一種の無常感みたいなのがありまして、「起きて半畳、寝て１畳」ですか、あるいは「これがまあ、終の栖か雪五尺」ですか。方丈記なんか読んでみましても、昔からそのままの家は希れで、去年焼けて今年造ったものもあれば、大きな家が滅んで小さな家になったものもあります。「人の営みみな愚かなるなかにさしも危うき京中の家を造るとて宝をついやし心を悩ますことは優れて味気なくぞはべる」とあります。昭和の初めのころの統計で借家率が大阪市内で90％、東京が70％です。それが持ち家志向になってきたのは戦後のことだと思うのです。戦争に負けて、もともとストックが少なかったといえ、政府は道路や鉄道、学校や下水道を造らなければならない。住宅まで手が回らなかったと思う。住宅というのは優れて個人的な問題ですから、政治家の先生も嫌がるんですね。票になりませんから。だから公庫融資住宅で公共の枠に入れたうえ、コンクリートの箱とマッチ箱みたいな木造ばっかり造りました（笑い）。無理もなかったとは思いますが。

そして、今の割増家賃制度などというのも追い出し政策の証拠だと思います。一方で民間の場合は借家を造っても割に合いませんでした。戦前の大家と店子というのは、とにかく親子も同然で、一種のゲマインシャウトだったのですけども、戦後やたらに権利意識ばかり強くなりました。

そういうわけで公営、公共住宅が出来たが、そこから出る人はほとんど出て行ってしまったというのが現状ではないでしょうか。それで今、残っている人たちは２種類に分けられると思います。これからマイホームを持ちたい比較的若い人。それに出て行きたかったけれど、出て行かれなくなってしまった人、これは比較的高齢な方、この出られなくなった人には２種類あると思うのです。ごく少数ではありますが、資力も意欲もあるけれども、住んでいるところが居心地がよくなってしまった。便利だとか、安いとか、もう子供も大きくなったから、出て行くのが面倒だとか。要するに歳月の流れの中で将来型の人と過去型の人に２極分化して、現在型というのが非常に少なくなっているのが、公共住宅の今の入居者の現状じゃないかと思うのです。それを建て替えるのは入居者の気持ちの問題だと思うのです。今の技術と金があれば家を建てるぐらい簡単にできると思いますが、世論の建て替えが難しい。片方では仮の住まいだか



写真－１　依佐美団地再生プロジェクト基本計画鳥瞰図

ら結構だという人がかなりおり、他方ではもう先が長くないから結構だと(笑い)、二つの結構だが相手です。この二つの相手を説得しなければなりません。一般論として言えることは、やっぱり入居者の中にシンパをつくる。とりわけ家におられる女性ですね。あるいは働いておられても家事に携わっておられる女性にシンパをつくって、むしろ住民の側から〝建て替えてほしい〟という声が上がるようにして持っていくべきだと思うんですね。先週もNHKのローカル番組で、ある公団団地の建て替えが老人追い出しの視点からとらえられて、非常にネガティブな印象を受けるんです。ドラマとしては面白いけど、それじゃいけないと思うのです。私が〝世論の建て替え〟というのはそこなのです。これに成功すれば、今のどうせ出て行くんだという若い人が永住派に変わる可能性もあるんじゃないかと思うのですが、どうでしょうか。

司会　昭和25年あるいは30年ごろから集合住宅という形体になってきました。あの当時は簡耐平家建てとか、あるいはテラスハウスという名前が出てきましたね。ブロック住宅はじめ壁式構造というのが出てきまして、これは我が国の建築の建て方では画期的な内容を持っていたと思うのです。

福田　この公共住宅というのは、集合して住む住宅としての面で、2DKに代表される間取りとか、壁式構造であるとか工法などを含めてやはり先駆的な役割をしてきたわけです。たださきほど前田さんがおっしゃいましたように、どちらかといえば隅の方に押しやられながら進んできたともいえます。戦後から質の時代を迎えるまで、量の供給がテーマであった時代には、やはり一番シンプルな箱型のものしか出来なかったことが今日、問題を残しているといえます。当時はそれでも〝住む〟ということが非常に大切であって、器のことまで気がまわらなかったし、余裕もなかったということです。しかし現在、それらのストックが大量に残り、広さ、住宅性能が現代の生活水準に合わなくなったことにより建て替えの問題が生じてきたと思います。

公共住宅と民営住宅の共存

司会　住むということはいろいろな住み方があるわけですね。部屋の片隅で住んでいるのも住むですが、しかし公営住宅にしても、公団住宅にしても、住み方というのは非常に画期的な一つの住み方様式をつくったと思うんです。集まって住む、集住ということはあまり日本ではなかったわけです。みんな庭つき戸建て、厳密にいいますと大正9年の関東大震災のときに同潤会アパートができました。終戦後、公営住宅が先鞭をつけましたけれども、みんな集まって住む、それが階を分けて住むというような形、一つの団地の中に集まって住むというような住まい方というのは非常に画期的なんですね。コミュニティーをつくってきたわけなのです。一方、民間の住宅は最初は庭つき戸建てを造ってきましたが、最近はどんどん集合住宅化してきました。それがマンションと称しています。公共住宅と民営住宅の果たしている役割の共存はありうるでしょうか。

浦上　公共住宅と民営住宅の役割という観点で申しますと、戦後の昭和25年以降、住宅が絶対的に不足していた時代は、民間の住宅建設の供給力は非常に低かったわけですから、公営住宅など公共住宅が重要な主導的な役割を、技術的な面も含めまして担ってきたわけです。

ところが、最近は民間の住宅業者の住宅供給力が飛躍的に増えまして民間住宅の建設の促進も図られておりますが、他方では公営住宅制度の趣旨である収入が比較的少ない世帯の方に対する公営住宅や、もう少し上の収入の階層の方々に対する公社住宅の役割は、特に大都市地域においては、民間の賃貸住宅の市場では、良質な民間住宅、ある程度の規模も備えて、家賃もある程度妥当であるというふうな良質な賃貸住宅の供給がすくなく、公共住宅は重要な役割を持っております。ところが、特に公営住宅の場合は収入基準がありまして、ある一定の収入基準以下の世帯でなければ入居できないという制約がありますので、バランスのとれたコミュニティーづくりに問題があるといわれています。いろんな方が住んでいるというのが健全なコミュニティーの形成になるわけですから、そういう面で問題もありますし、それから限界もあると思いますので、今後もそういう点についても検討されなければいけないと思っております。もう一つの問題としては、良質な民間住宅の建設促進も住宅政策上、重要なテーマになっておりますが、民間住宅の分野では、世帯人員が4人とか5人の標準的な中堅勤労者の方々が落ちついて住めるような賃貸住宅の供給が難しい状況にありますので、今後とも中堅勤労者向けの対策になるように公共住宅の制度を改善していただかなければいけないと思います。

また、公共住宅のもう一つの側面を申しますと、それは居住環境の問題です。公共住宅は40数年間の設計計画技術の蓄積があり、優れた設計計画システムがありますから、居住環境の整備についても十分配慮されておりまして、公共住宅の分野では、良質の住宅とあわせて良好な居住環境の整備や住宅団地周辺のまちづくりへの貢献という面で重要な役割を果すことが、必要であると思っております。質のよい民間住宅の建設促進も住宅対策上、非常に重要でありますが、公共住宅の役割も依然として大きいと思っています。

公共住宅の先導的役割

司会　その中でも居住環境の整備というのは、公営住宅の場ですと厳しい設計条件というのがあります。中層耐火ですと、冬至日において4時間の日照がないといけない。こういった一つのモノサシがありますと、それに対応する民間の住宅もやはりそういった居住環境というものを守って家を建てなければいけないんだというようなこともありますので、非常に大きな役割を果たしていると思います。

根津　今いろいろなお話が出ましたが、いってみれば40年代までは住宅難の解消ということで、公団もいわば質よりも量の時代ということで一生懸命やってきたわけです。そういう意味では集合住宅ということもありますけども、バス、水洗トイレあるいは流し台というようなことで質の向上を図りながら、一方では居住者のコミュニティーづくりというようなことから、集会所であるとか、児童公園という施設もつくってきたわけです。その結果、さきほどいいました〝団地族〟というような言葉も流行しましたし、また一方では住宅の問題として1DKとか2DKという言葉も定着してきました。そういう意味で公団が果たしてきたいろんな役割、これは功罪いろいろあると思いますけれども、日本人の住まい方の意識を少しづつ変えてきたのじゃないでしょうか。

それから住宅の質と同様にいわゆる外部環境の整備も先導的な役割を果たしてきたのじゃないかというふうに考えております。民間との共存、役割分担でいえば、例えば公共の賃貸住宅では、自分では自らが最低居住水準を確保できない階層があるわけですから、そういった階層に対しては、適正な家賃負担で住宅を供給してきたと

いうことで、これは公団始まって以来、第３分位中位の居住者に対して、16～17%の負担でやってきているわけです。また分譲住宅でいえば、大都市で賃貸住宅の補充をしながら、民間の供給が不足しているような良質な住宅の供給といった役割分担があるわけですけれども、当支社の中でいえば、例えば民間建物つき分譲宅地というようなことをやっておりまして、これは公団が宅地を供給して、その上に民間業者が上物をつくって譲渡をするという形です。現在までに1,100区画以上の住宅を供給してきています。それから、宅地開発したところで、住宅用地の民間卸しもやってきておりまして、戸建てでは約485区画地ぐらい、また集合では600戸ぐらいのものを民間不動産業者に卸して、そこで優良な住宅の供給をお願いしています。また、古くは保見団地などにあるように民間企業との共同開発ということで、民間は戸建て、公団は中高層というように、いろいろと過去の歴史の中では民間との役割分担をしながら住宅の供給を行ってきたということで、公的機関としてのいわゆる先導的な役割を含めて、それなりに意義があったのじゃないかと思っております。

司会　良質な住宅を大量に建設するということは、民間住宅に刺激を与えていると思います。例えばBLとかKJマークをつけられまして、公共住宅の設備があります。また構造的だとか、あるいは建設の仕組みについてもそうとうやってこられたのですが、そういったものが民間住宅にも導入されていることは事実ですが、そのへんのところについて福田さんからお願いします。

福田　公共住宅は質の向上ということでかなりシビアな基準を計画、設計の面においてつくられてやってきたわけで、これは非常に公共住宅の場合にも良かったのじゃないかと思います。といいますのは私たち民間の人も一緒にやっているわけで、今、お話に出てきたKJマークであるとか、標準ディテール集であるとかは一つの基準として、それ以下のものは使わないとか、設計しませんということになります。そういう一つの基準がありますと、民間では当然、設計を進めていく時に必ず公共住宅に使われている以上のものを取り入れていくよう努力していきます。

建て替えの必要性

前田　政府の持ち家政策推進の結果、地価が上がり過ぎました。それで普通の人が家を持ちにくくなったというのは、皮肉な現象だと思います。それだけに公共的な住宅と民営の住宅との共存が必要だと思うのです。現に、建設省の来年度の住宅建設５ヵ年計画をみても、融資住宅を含めて公的住宅の戸数が上回っています。それから総理府の63年度の住宅統計調査結果を見ても、前回に比べて持ち家率は61%に下がっているのです。借家でもいいという人がふえてきました。だからむしろ公的住宅の役割が重要になってきたと思います。ただ、地域とか戸数とか入居者階層にもよりますが私の印象ではどうも一つの地域で公的な住宅と持ち家を混在させることは、まだ不都合な点があるようですね。愛知県内の団地でも賃貸の人と、持ち家の人の間にかなりコミュニティーギャップというか、意識の差がある。要するに片方は終(つい)の住み家であり、片方は仮の住まいである。だからみんなで清掃やりましょうとか、盆おどりをやりましょうとか、運動会やりましょうとかいっても、賃貸の人は比較的無関心と聞いております。ところが持ち家の人は、ふるさとになるわけだから一生懸命やります。だから出てこない人から罰金まで取ったりしているところもあります(笑い)。持ち家の人から神社までつくってくださいという運動まで始まっているという話をよく聞くので



写真－２　常滑団地

す。公民共存の地帯ではいってみれば定住農耕民と遊牧狩猟民と同居させているようなもので、まずい面もあるんじゃないかと思うのです。これは入居者側からの視点ですが、かつて団地というのはさきほどの話じゃないけれど、30年代は団地族などと言われて、羨望の的でしたね。ところがいまでは恥ずかしそうに、「いまだに団地住まいですよ」なんていっています。団地ドラマにあまりいいのがないという説もあります。喜劇とかポルノとか。だから建て替えで魅力的なものに改めることを住み手側から望みたいですね。

浦上　なぜ必要かということについてですが、県営住宅、市町村営住宅、公社住宅で14万1,500戸、このうち昭和40年代以前の住宅、つまり狭くて老朽化した住宅は８万5,300戸で、全体の60%に当たります。これだけの建て替えを必要とする住宅があるわけです。今後、積極的に建て替え事業を進めていかなければならないと思っています。理由を申し上げますと、居室が狭くて老朽化した住宅は、維持管理費にたくさんの経費がかかります。それと、現在、新設している県営住宅は規模の面からも非常に広くなっていまして、その居住性に非常に格差があります。そのために、居住水準を上げるために建て替え事業を推進しなければなりません。２番目は、40年代以前に建設された公共住宅は立地条件がいいわけで、昔は周辺市街地であったかも知れませんが、非常に交通条件のよい市街地になっています。そして、住宅の需要も利便の高い既成市街地に立地する良質な市街地住宅を求める方が多いわけです。そういう意味で、これを建て替えることによって、そのような需要に対応ができるということがあります。

それからもう一つは、最近、地価も上がりまして、交通立地条件のいい住宅用地を取得することが非常に難しくなってきています。その意味からも建て替え事業を推進する必要があるわけです。また、建て替えすることによって、駐車場の不足あるいはオープンスペースの不足している問題を解消するために、土地を有効・高度利用して、その住宅団地あるいは周辺地域も含めまして、居住環境をよくする。このような観点からも建て替えをすすめる必要があります。

根津　先ほど申し上げました理由は浦上さんからお話があったことでほぼ尽きるわけですが、公団には賃貸住宅が約69万戸あるわけですが、それはだれのものでもない国民的な資産なわけです。従ってそれらの住宅が時代に適合したものになっていかなければならないというのは、大げさに言えば公団の与えられた使命じゃないかと思っているわけです。

一方で公団の賃貸住宅も大変な需要がありまして、今、年間100万

人を超えるような申し込みがあるわけです。そういったことから考えても、皆さんのニーズに合ったものに造り替えていくということが必要ではないでしょうか。現に志賀団地の建て替えの第一号がさきごろ募集を行ったのですが、10倍を超す応募者があったということから、やはり環境や広さ、あるいは設備水準を整えたものであれば依然として大きな人気であるわけです。そういうことを考えて公団としては時代に合ったようなものに建て替えていかなければなりません。高齢者問題とかいろいろありますけども、そういうものを乗り越えて、古いものをつくり替えることによって社会的な役割、責任を果たしていくというのが公団の仕事ではないかと思っております。

"高、遠、狭"から"広、便、強"へ

前田　今の課題は何をもたらすべきかと考えています。かつて公的住宅は緊急避難の意味としては非常に効果があったわけですね。当たった人とはずれた人では受益の差にゼロと無限大。そんな行政の不公平があっていいのかと思ったこともあるのですが、いつの間にかソフト面で硬直化したわけですね。住宅というものは社会と共に生きている生き物である以上、入居者のライフサイクルを考えてほしかったと思うわけです。一番大きな家がほしいのは、40歳からせいぜい50歳代なんです。あとは小さな家でもいいのです。子供は大きくなると出ていきますから。私の友人で公団団地の近くに実家のある人がいまして、結婚して公団住宅へ入っていましたが子供が育ち盛りになると実家のじいさん、ばあさんと家を交換して広い方へ移りました。じいさん、ばあさんは2DKの団地へ入ったが、相いついで亡くなりました。これは非常にうまいやり方だと思うんですね（笑い）。

建て替えが家賃の高騰をもたらすのは仕方がないと思います。だけどそれ以上の環境まで含めて快適さをもたらすというのは、時代の要請だと思うのです。建て替えは公的住宅だけじゃないのです。ビルも、30年代に建った持ち家も、あるいは役所だって今、建て替え期にきているわけです。森鷗外の短編小説に〝普請中〟というのがあります。文明開化で新しい国づくりを進める日本の姿を寓意した小説ですが、その筆法を借りると、いま日本中が「建て替え中」じゃないかと思いますね。加藤秀俊さんという社会学者が、東京の電話帳でどういう職業が多いか調べると、何と土木建築関係が一番多かったといいます。いまそういう時代なのですよ。日本中が建て替え中なんです。だから家賃が少々上がっても、公団には申しわけないけど〝高、遠、狭〟、（高くて遠くて狭い）から建て替えで〝広、便、強〟を目ざしてほしい。高は広い、遠が便、狭が強い。これはいろいろ意味がありまして、建物が強くなる、地域とのつながりも強くなる。あるいは入居者の家に対する愛着も非常に強くなる。公団のPRに使っていただいて結構ですから（笑い）。

司会　建て替えということは、生活の建て替えになるわけです。例えば新しい団地に入居した人たちの家族の構成の変化をみますと、すぐに子供が出来ます。そしてすぐにまた保育所を建てなければならん、それから小学校の増築、中学校の増築、まさしく生活の建て替えですが、この公共住宅の建て替えというのは生活の建て替えと連動しなければいけないというわけですね。

福田　建て替えをする場合、それをよその場所でやるのではなく、その中でやっていく方が意義があるととらえています。といいますのは、そこに住んでいた人達が多く戻っていただくことが基本原則でないかと思います。現在公団の場合、約50％ぐらいの方が一応戻られるという推定で進めておられます。

長年ずっと、昭和30年からですと30年近くにそこにお住みになっているわけですから、その中でいろいろなコミュニティーが形成されてきたわけです。人が入れ換ってしまうと今まで作られたコミュニティーが全部失われてしまうわけで、都市が熟成していくために



写真－3　建て替えが進む志賀団地

は、今まで形成してきたものを大切にしていくことは〝まちづくり〟にとって必要であると思います。

建て替えと高齢者対策

司会　さて高齢者問題になりますが、とにかくどんどん高齢者がふえるということは統計資料を見てもわかるわけですが、建て替えと高齢者対策というところに入りたいと思います。

浦上　県営住宅における実態について申し上げますと、県営住宅全体に占める60歳以上の高齢者世帯の割合が8.1%ですが、建て替えの時期にきている建て替え対象住宅では高齢化が非常に進んでいまして、平均で30%ということで非常に高いわけです。中には50%程度占めている団地もありまして、つまり非常に既存の住宅団地では高齢化が一般より非常に進んでいるということでして、今後、高齢者住宅対策が非常に重要になってきております。

まず一つは、高齢者の方々の生活に配慮した設備や構造、間取りを備えた特別設計の県営住宅を建設しています。これは主として老人世帯向け及び老人同居、それから多家族世帯向けの県営住宅などにそういうことをやっています。その特別設計住宅では、エレベーターとかスロープ、風呂やトイレへの手すりの設置とか、浴槽の埋め込みをやっています。それから高齢者向けの住戸改善事業もやっています。今後も県営住宅の建て替えにつきましては、住宅、住戸だけじゃなくて、建て替えをします団地全体が高齢化社会に対応できるようにいろいろ配慮していきたいと思っています。

それから国の制度で、公営住宅でシルバーハウジング制度というのがありますが、これはケアつきの公営住宅ということですが、その国の制度も使いまして、ケアつきシルバーハウジング住宅の建設を進めることにしています。

もう一つは、県単独の事業ですが、県が独自にユニークな事業として始めておりますのに、大府市で計画している「いきいきシルバータウン整備事業」です。これは現地でいきいき、快適生活ができ



写真―4　建て替え前のトイレ



写真―5　建て替え後のトイレ　手すりが設置されている。



写真―6　建て替え前の洗面所



写真―7　建て替え後の洗面所　照明等に配慮されている。

るように、高齢者の方々だけの集まりではなくて、若い世帯の人と交流しながら生活できるというふうなコンセプトになっていまして、住民は全部で170戸ぐらい考えています。その中で県営住宅で高齢者向けが30戸、一般の若い方が入るのが20戸、それから県の住宅供給公社等による分譲住宅、これは近居世帯向けが51戸、分譲住宅67戸、県営住宅は全部で50戸、それ以外にも普通の一般住宅が57戸、合わせて170戸ぐらいで、いろいろな住宅をまぜまして、世代的なバランスのとれた町にしていこうということです。

司会　なかなか心強いわけですが、我々の調査の中で、高齢者になってどんな住宅に住みたいかということをやったことがあります。最初は庭つき戸建て住宅を非常に希望しているだろうと思っていたのですが、そうではなくて、出来ることならば都心に近いマンションに住みたいという答えがあるのです。それは想像もしなかったことですが、よく調べてみますと、台風のときに庭つき戸建てのマイホームであれば、維持修繕をするのが大変だと思うとか、腰が痛いのに木をせん定したり、盆栽なんてとてもいやだとか、それと淋しくてしようがないと。ですから都心に近いマンションなら文化的な生活もできていく、こういうふうな答えが出ていまして、近住だとか、あるいは高齢者と若年の世帯とが非常に近くで住むということも大変すばらしい計画だと思います。

公共住宅の家賃

根津　建て替えというのは、現にお住まいになっている方に対して一時その場所を空けてもらって建て替えるという大変難しい仕事でして、これは職員が大変苦労しながら個別にいろいろご理解をいただいているわけですが、一般的な対策はいろいろあります。例えば建て替え後の住宅には優先して入っていただくとか、あるいは仮移転をする場合には、いろいろ費用を負担するとか、ほかの住宅を希望される方には優先的にあっ旋をするとか、その場合の家賃の減額をどうするとか、いろいろあるわけです。

高齢者対策ということでいえば、移転先の住宅の家賃の減額ということを考えていまして、要するに公団の家賃とその地域のいわゆる住宅援助扶助限度額があります。それをオーバーするものについては、その扶助限度額まで家賃を減免する。いずれにしても新しい住宅に入っていただくためには、我々のいまの努力以上に、特に家賃負担の問題について検討していかなければならないと考えています。ただ、いま検討の材料の中では、国のレベルでいろいろ考えて検討いただかなければならないいろいろな制約もあります。

もう一つは、建て替え後の住宅に入居する場合に、高齢者65歳ですけど、この方の世帯にあっては第一順位で住宅選定が出来る制度もとっております。またこれは志賀団地で具体的にやったハード面ですが、浴槽を落し込みにするとか、浴室、トイレに通報装置をつくるとか、あるいは室内の段差を解消する。それからトイレとか浴室にてすりをつけるということをやっています。そういうことで建て替えの住宅についてのソフト、ハード両面での高齢化対策は進めているわけですが、一方、高蔵寺の中央台では「シルバー住宅」を今年度から発注をして、ここでは同居あるいは隣居というふうな形の新しい設計をしていこうと思っています。特に公団ではハードの面はいろいろできますが、ソフトの面というのは、やはり公共団体とのタイアップがどうしても必要でして、そういう意味で私は公共団体の理解をいただいて、両者あいまって高齢化対策をやっていかなければと思います。

司会　高齢者も65歳以上になりますと年金生活者がほとんどになるわけですね。そうしますと家賃が高いということは大変なことですが、日本の公共住宅の家賃の関係というのは、用地取得、造成費、建築工事費を入れて、それが基準になって家賃が算出されるんですが新しいものはいいということですし、また家賃も安い方がいいことは事実ですが。

前田　この家賃問題が一番難しい。統計を見ても全世帯の１割を超えているのですね、老人世帯というのは。まして家の古い公共住宅というのは３割、５割は当然のことで、いままでの建設行政に民生行政的な視野を入れていかなければいけない。どうするかといわれても妙案もないんですが、外国のように補助するとか、年金生活者は据え置くとか、あるいは堪えられない人は近くの安いところへ移ってもらうとか、それから建て替えによって家がふえますね。そうすると増収があるんですね。分譲の場合それができるらしいのです。けれども、そういうものを回すとか様々な方法があると思うのです。そのためには論議を十分尽さなければいかんと思いますが、建て替えのための法律とか、条例というものも整備してもいいのではないでしょうか。ただ、私はどうしてもある程度の法制化が必要だと思います。日本人というのは、とにかく仲よし社会で、なあなあで進んできたのですから、余計ことが進まないと思います。異民族や異教徒が争ってきた外国ではルールがきちっとしていますね。例えばパリの街なんか色まで統一されているでしょう。昔のダンチッヒいまのグダニスクは戦災でめちゃめちゃにやられたのを元どおりに建てたでしょう。ある意味でものすごい私権の制限ですね。西ドイツでは適正な規模の家に住まないと住民登録をしてくれませんでした。住み方にもルールがあるのです。入浴の時間は10時を過ぎてはいかんというのは序の口で、家の前の雪かきもやらないと、滑べって転んだ人が出れば損害賠償しなければなりません。集合住宅のごみ箱まで統一しています。

建て替え公共住宅と都市計画

司会　それでは建て替え公共住宅と都市計画についてです。

福田　これだけ都心の中の非常にいい場所で建て替えをしていくわけですから、やはり波及効果は非常に大きいと考えます。そこで地区全体、あるいは団地周辺までとらえていかないとまずいと考えています。例えば道路の付け替えはもちろんの事、公園があれば周辺を含めてより良い位置へ換えるとか、用地の用途すらも替えなければいけないということも生じてくるだろうと考えているわけで、それだけ建て替えはインパクトがあるといえます。

今後うまく進めていくには、行政と早い時で、公団の考え方を行政あるいは地元及び周辺地区の人々にも理解してもらいながら進めていくことが必要です。ですからスケジュールづくりが大事になってまいりますし、あまり早急に事を進めますと、将来に禍根を残すことになるかも知れません。

前田　政府が公的住宅にあまり熱を入れなかった結果、みんなマイホームに走って、今では楽しい我家どころかローン地獄や通勤地獄もみられます。２代３代にわたるローンというのは、私は正気の沙汰じゃないと思います。愛知県下でも持ち家比率は全国平均を若干下回っています。エンゲルスの住宅問題というのを読みますと、「大都会の労働者にとって、移動の自由こそ第一の生活条件であって、土地の所有は桎梏でしかあり得ない」と、いっています。持ち家だと税金もかかるし、修理も大変だし、防犯設備もつくらなければ



写真－8　座談会風景

なりません。まさに名言です。こうなるとやはり公共住宅先導が見直されなければならない。特にこの地方は単身赴任や転勤族が多いようです。そのためには極端ないい方をすれば名古屋の広小路の真ん中でも人が住めるようにしてほしいと思っています。外国の都会へ行きますと2階以上はみんな住宅になっています。やっぱり一戸建てマイホームというのはかなりお金持ちなんです。だから公園や緑地もずいぶん整備しています。なければ暮らしていけないわけですから、大都市でも意外に向こうは狭い感じですね。日本は横へ横へ伸びていって、みんな小さな箱庭をつくってしまいます。外国は通勤ラッシュもあまりないですね。職住が接近しておりますから。みんなが一戸建てを仮りにつくったとすると、東京都では3軒のうち1軒は、はみ出しちゃうという試算もあるらしい。日本列島改造論当時でも、東京の建物というのは、1.7倍ぐらいにしかなっていません。こんな不経済な土地の使い方は考えものです。こんなことを言うとしかられるかも知れませんが、いまマンションや公団住宅を建てるとすぐ日照権でしょう。たった一人や二人の人のために何百人が我慢しなきゃならないということが、むしろ問題ではないかといってもいいような時代に入ってきたと思います。それほど公的住宅の先導的役割は大きくなってきたと私は思います。

〝風呂敷の発想〟の再発見

司会　やはり街の中で住むわけですから、ある程度の秩序を保たなければいけませんし、またコミュニティーの形成の中には、非常に大きな役割を果たしてくれると思います。まちづくりの中、あるいは都市の改造の中で重点的におやりになるのは、そういったことをやると、こんなにもきれいになるかということを見せることも非常に大きな意味があるわけです。公団住宅あるいは公営公社住宅も、やはり建て替えを通して、そういった意味をもたしていただくということは、ある意味においては民間、民営住宅の先導的役割を果たしてくれるという気がするわけです。ただ、都市の中でこうあるんだということは、やはり理解を一般市民の人たちに持ってもらわないといけないわけです。そういう点がこれからの宿題かも知れません。これは前田先生あたりもおおいにそういった面で辛らつに一つ論じていただきたいと思うのですけれど。

前田　私自身が都心の公団にでも入りたいぐらいで。子供たちは全部出ちゃって、一軒持っていると、草は生える、用心は悪い、このごろ毎日女房と銭湯へ行くんです。それからどっかにうまいラーメン屋がないかと、その方がよほど安上がりで楽です。（笑い）

司会　しかし、あんまり住戸の中が完全にやられますと、閉じこもりの生活なんです。

前田　それが団地であるんですよね。

最後に、ひとことだけ言わしてもらいますと、この座談会に出てこなければいかんので、戦後の住宅史から法律雑誌の集合住宅まで片っぱしから読んでみたのですが、いろんなことが書いてあって、みんな忘れてしまいましたが、たった一つ記憶に残ったのは、100人寄れば100人の意見があるということなんです。それほど住宅というのはいろんな考え方があります。従ってさきほどお話が出ておりますように建て替えをやられるときには、ぜひ次の建て替えのことまで考えて、一つフレキシブルにやっていただきたい。日本人というのはもともと壁で仕切られて部屋にカギがかかってる外国の住宅に比べると、ふすまや障子をとっぱらってしまえばどうにでも使える農家の田の字型の住宅とか、あるいはまた決まったものしか入れられないかばんに比べて、何でも入ってしまう風呂敷だとか、あるいはまた寸法が合わなきゃ着られない洋服に比べて、デブでもヤセでも、ノッポでも、チビでも着られる和服、さらにいえば一皿一皿盛りつける西洋料理に比べて、みんなでつっつけるなべ料理だとか、要するに衣食住にわたって非常に柔軟な発想があったと思うのです。それがたまたまこの2DKなんかでがんじがらめになってしまいました。ぜひとも、この次どうするんだという話が、仕切りや壁をとっぱらったら広くなるとか、そういうふうに〝風呂敷の発想〟でやってほしいですね。

司会　お話がどんどんはずみまして、30分ばかり超過しました。申しわけありません。どうもきょうは本当にお忙しいところありがとうございました。

桃花台ニュータウン —当初計画と現在—

河合　修／岩田利通

1.開発の目的

桃花台ニュータウンは、新住宅市街地開発事業として昭和46年度に基本計画を策定し、事業を進めています。

当時愛知県下の人口増加は著しく年間約12万人に及び、人口の都市集中、核家族化の進行により住宅需要の増大に拍車をかけていました。

一方、民間企業によって、農耕地、丘陵地等の侵蝕による無計画な宅地造成や居住水準の低いアパート建設が行われるなど、都市形成上放置できない問題も生じておりました。

昭和43年の愛知県住宅統計調査によりますと、初めて住宅数が世帯数を上回り、住宅の絶対的不足は一応解消されたことになりましたが、住宅の内容については、戸当りの延べ面積は平均で76.7㎡、便所水洗化率は35.6%、浴槽の設置率は71%であり、住宅難世帯（狭小過密住宅居住世帯、非住宅居住世帯、同居世帯、老朽住宅居住世帯）も12.5%と住宅の質的水準は低い状況にありました。

このようなことから、質量両面からの強力な住宅政策が切望される住宅事情に対処すべく、本県は、名古屋大都市圏整備の一環として、県第三次地方計画の趣旨に基づき、尾張東部丘陵地の大規模宅地開発を目指しており、健全な住環境と都市的機能を兼備した緑の多い住宅都市として、桃花台ニュータウンを開発することとしました。

2.事業の経過

昭和46年に新住宅市街地開発事業として、計画面積約322ha、計画人口約54,000人（約14,500世帯）、6住区という、中高層賃貸住宅を中心とした高密度な計画で都市計画決定を受け、翌47年に事業認可を受けて、48年度から造成工事に着手しました。

昭和53年度に用地買収がほぼ完了し、54年度から住宅用地の処分を開始しました。

このように事業が着々と進行していく一方、日本の経済成長および社会情勢に大きな変化が生じてきました。基本計画を策定した時点では、住宅需要の増大に対処すべく大規模な宅地供給を行う必要がありましたが、昭和48年秋以降の「オイルショック」を契機として地域人口の配置をはじめ、環境・福祉・土地等の基礎的条件の見直しを必要とするようになりました。

一方、住宅をとりまく諸条件は、住宅需要実態調査にも見られるように、住宅の広さや環境などの質の向上に対する要望が一層強まりました。加えて県民の持家に対する指向も根強く、地元小牧市も持家住宅戸数の増加を強く要望していました。

このような社会情勢の変化を踏まえて、「ゆとりある住まい」を核として、健康で豊かな都市づくり、新しい地域づくりを目指し、基本計画の見直しを行いました。

3.計画の主な変更点

中高層共同住宅から戸建分譲住宅へ重点を移した結果、計画人口は約54,000人から約40,000人へ、住区数を6住区から4住区へ変更しました。これに伴って小学校数を6校から4校へ変更しました。

また、地区センター、近隣センターの計画については、消費者の消費行動の変化（自家用車、冷蔵庫の普及、嗜好の多様化など）に対応するため、住区ごとに計画されていた近隣センターをタウンセンターと、新交通東駅、西駅の2つのサブセンターに集約化しました。

4.計画の特色

1）ワンセンターシステム

タウンセンターは周辺を含めて、地域全体の核としての機能をもたせ、誘引力の強いワンセンターシステムを採用。商業、スポーツ、

桃花台ニュータウン当初計画と現計画の比較表

	当初計画（昭和46年）	現計画（昭和58年）
事業地の面積	約312.8ha	約312.8ha
計画人口	約54,000人	約40,000人
計画戸数	約14,500戸	約10,400戸
中高層住宅	約13,100戸　約90%	約 5,400戸　約52%
低層住宅	約 1,400戸　約10%	約 5,000戸　約48%
住区数	6住区	4住区
土地利用計画		
住宅用地	138.3ha　44.2%	147.8ha　47.2%
公共施設用地	113.3ha　36.2%	120.0ha　38.4%
公益的施設用地	61.2ha　19.2%	45.0ha　14.4%
計	312.8ha　100.0%	312.8ha　100.0%
公益的施設	小学校　6校 中学校　3校 高等学校　1校 タウンセンター　1ヵ所 近隣センター　6ヵ所	小学校　4校 中学校　3校 高等学校　0校 タウンセンター　1ヵ所 駅前センター　2ヵ所

文化、サービス施設を集中させ、都市的魅力をもたせました。

2）歩車道の分離

人命の尊重、交通事故の防止はもとより、歩行者優先の原則を守るため、緑道を設けて公園、学校、ショッピングへ安全に行けるような計画とし、散策路や子供の遊び場との関連をも考慮した潤いのある道にしました。

5．現計画の概要

総面積約322ha、計画戸数約10,400戸、計画人口約4万人となっています。

4つの住区に教育施設として小学校4校、中学校3校、幼稚園7園、保育所4所を計画しています。医療施設は、各住区に2～4院からなる医者村を設けます。

幹線道路は、幅員24.5m～16mで計画し、住区単位で住区幹線道路を設け、6m以上の細街路と結びます。

公園は、地区公園2ヵ所、近隣公園4ヵ所、児童公園を各住区に4～7ヵ所設けます。

緑道は幹線道路との立体化を図り、公共公益施設を有機的に結びます。

6．ニュータウンの現況

事業の進捗は、平成元年度末において、粗造成工事はほぼ完了し、整造成工事も計画面積の約70%に達しています。

一方、住宅地の処分は、昭和54年度から開始し、平成元年度末現在、宅地分譲、公団・公社、民間住宅事業者の建売分譲、県営住宅、社宅等約5,700戸分の用地を処分いたしました。

この間、ユーザーの多様化した需要の変化に対応した魅力ある居住空間の創造、より質の高い住宅の供給を行うため、各事業者は、①不特定多数の需要者が企画者の呼びかけと支援により、建築計画から管理規約づくりまで自主的に行うコーポラティブハウジング、②需要者がプランを選択できるハウスプラン選択方式、③街並み景観を重視した住宅の供給（共有緑地の創造、コモンスペースの確保、電線の地中化、シンボルツリー等々）④地域のモデルとなる良好な木造住宅団地（ウッドタウン）等ランドプランニングにも趣向をこらしてきました。さらに、住宅についても高規格住宅、省エネ住宅、ホームセキュリティ等々、それぞれテーマを持ち、その具現化に努めてまいりまして、人気も高く、応募状況も高倍率になっております。

分譲宅地等には、昭和55年8月から順次入居が開始され、平成3年3月1日現在4,674世帯、16,692人の方々が生活しておられます。

公益的施設の整備状況は保育所（1所）、幼稚園（2園）、小学校（4校）及び中学校（3校）が開校しており、さらに消防署、派出所、共同店舗、銀行及び医療施設（内科2・歯科2・耳鼻咽喉科）についても開業され、都市的機能が充足されつつあります。

平成3年春には、新交通システム桃花台線の開通、タウンセンターのオープン、中央公園及び東海地方で最高の高さをほこる33階建ての分譲マンション、スカイステージ33（熊谷組）が完成を迎えます。これを機会に、県と小牧市では、平成3年4月20日から5月6日まで、桃花台会場、小牧駅前会場を主会場として、人と都市の新世紀をテーマに、「小牧・桃花台アーバンフェア'91」を共同で開催すべく準備を進めています。



写真1　桃花台ニュータウン

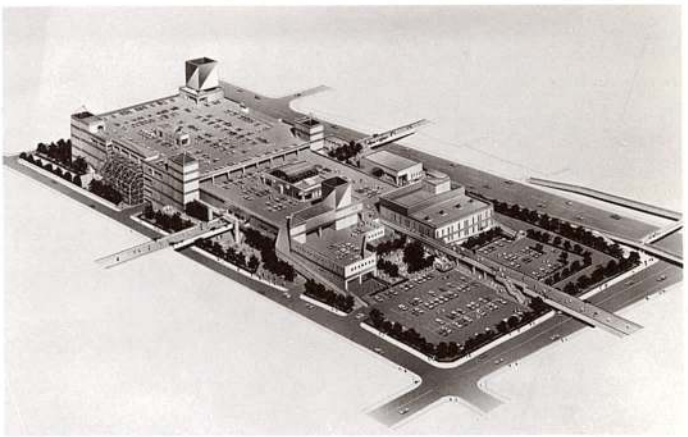


写真2　桃花台タウンセンター（愛称「ピアーレ」）3年4月オープン予定



写真3　33階建超高層住宅（熊谷組）

7．おわりに

桃花台ニュータウンの基本構想がたてられてから20余年が経過し、社会情勢も大きく変化してまいりました。

事業期間が長期化したことは、時代のニーズへの対応が可能となり、住宅・施設等の規模や景観に多様性が生じたこと、ニュータウンの年齢別人口比も平準化するなど結果的にプラス効果ももたらしたと考えております。

また、この間、ニュータウンに求められる機能も単なるベッドタウンから学術、文化等の発信機能、高齢化社会への対応、余暇、サークル活動等の形成等、複合化、高度化しており、的確に対応して行けるようにしてゆきたいと考えております。

（かわい　おさむ／愛知県建築部住宅企画課課長補佐
いわた　としみち／　　同　上　　技師）

公団住宅建て替え志賀団地 ——企画から建設入居まで

木 全 文 男

1. 公団賃貸住宅建て替えの必要性

公団は、国の住宅政策の実施機関として、昭和30年に発足し現在に至っています。この間、住宅事情は大きく変わり、現在では住宅数が世帯数を上回っているという状況になっています。しかしながら、住宅統計調査によりますと、国が定める最低居住水準未満の世帯はまだまだ多く、住宅問題が解決したという状況ではありません。このため、国では、早期にすべての世帯が最低居住水準を確保できるようにする等の目標を掲げるとともに、公共賃貸住宅のうち老朽化したもの、狭小なもの等については、建替え、増改築等により良質なストックへの改善を促進することとしています。

さらに、今後も良質な住宅の供給を行っていく必要がありますが、近年の土地高騰に伴い、住宅用地の取得が困難な状況になってきております。

このようなことから、公団では昭和30年代に供給した住宅は比較的多くの団地が好立地にありながら、土地の有効利用が十分に図られていないこと、また、広さや諸設備が近年の住宅に対する要求に必ずしも対応したものになっていないことから、

(1)敷地の有効な利用を図り、好立地を活かした職住近接型の住宅を供給する。

(2)居住水準の向上を図り、良質な住宅を供給する。

ため、建替えを積極的に推進し、国民全体の資産である公団住宅の改善を図っていくこととしています。

2. 中部支社の現状と建て替え事業

中部支社が現在管理している約5万7千戸の賃貸住宅のうち、昭和30年代に供給した住宅は、約1万戸（約18%）を占めている。

これらの住宅は、そのほとんどが名古屋市内にあって立地条件にめぐまれていますが、その敷地についてみますと大部分が法定容積率制限200%前後であるのに対して、現況容積率は平均70%程度となっており、敷地の有効利用が図られていません。

また、この年代の住宅規模についてみると、2DK、3K以下の住宅が約97%を占め、住宅面積も平均で37m²程度（単身住宅を除く）しかなく、さらに設備水準も当然のことながら、今日のものと比べ劣ったものとなっています。

このような現況から中部支社では、昭和30年代に供給した約1万戸のうち、市街地住宅を除く低中層住宅約9千戸を対象に、立地の特性、土地の利用状況、住宅需要の動向等の諸条件を総合的に勘案し、原則として年代の古いものから順次建替えを実施していくこととしております。

3. 志賀団地からアーバンラフレ志賀へ再生

中部支社で初めての建替事業は、昭和62年度に当支社で最も古い団地で、しかも、住宅地として立地条件もすぐれ住宅需要面からも期待できる志賀団地を最初の建替対象団地に選定した。具体の事業化にあたっては1316戸のうち第1期事業として448戸を対象に建替事業の説明会を、昭和62年6月6日から15日までの間、開催しました。

その後、建替事業を円滑に進めるにあたって、最も大切である居住者の方々の建替えに対するご理解とご協力をいただくため、現地に建替折衝事務所を開設し、建替事業の内容をより具体的に個々の居住者の方々に説明をしてきました。その間、多少の紆余曲折があったものの、居住者の方々のご協力が得られ、平成元年5月に第1期の第1工区部分全員の移転が完了し、平成元年7月19日に賃貸住宅326戸、分譲住宅80戸を発注しました。

工事もほぼ予定どおり進み平成2年12月15日から従前居住者の方々に新しい住宅へ入居していただける運びとなりました。

建替後の賃貸住宅326戸のうち従前居住者の戻り住宅が224戸あり、一般の方々への公募戸数は102戸となったが、応募者の総数は1040世帯あり応募倍率が10倍をこえる人気の高さであった。分譲住宅については、すべて従前居住者の分譲住宅希望者で充足されるという状況であった。

なお、第1期事業に引き続き、平成元年に第2期事業650戸を対象に建替事業の説明会を行い、現在、建替後住宅への戻り希望者の住宅型式を基に建設計画の最終確定作業に入っております。

また、第3期事業として、1K168戸を対象に今後、引き続き建替事業に着手する予定をしております。

4. 第一期建て替え計画と設計上の特色

第1期建替え計画を従前住宅と対比すると下表のとおりです。

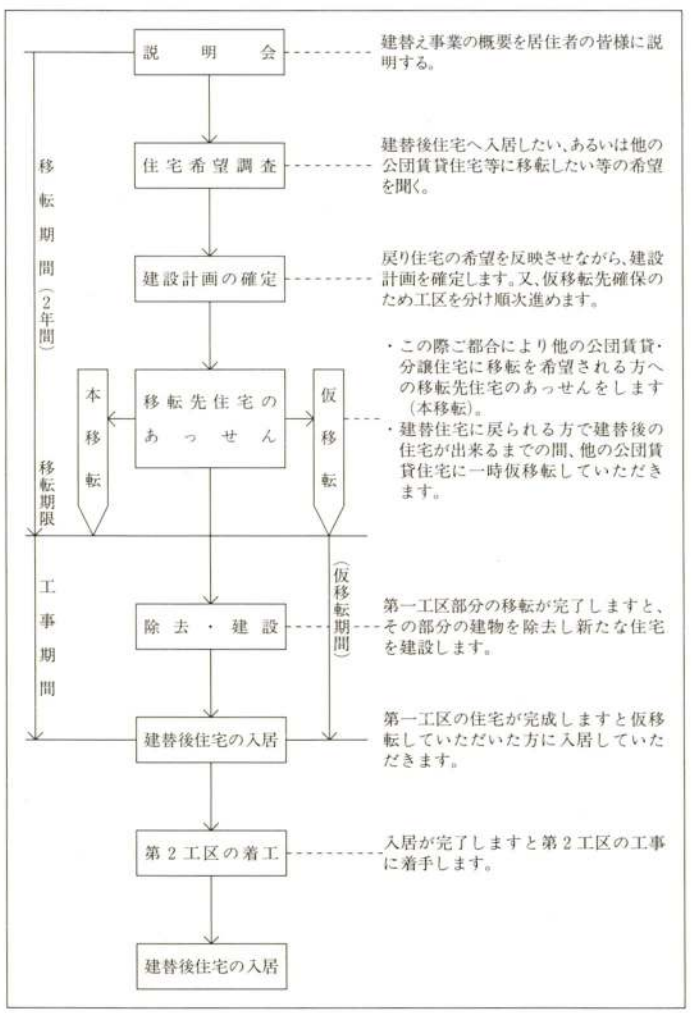
	従前住宅	建替後住宅
住棟型態	中層住宅3～5F 棟数20棟	中高層住宅5～10F 棟数11棟
住宅型式	賃貸2K —198戸 〃 2DK—250戸	賃貸 1DK— 39戸 ┐386戸 〃 2DK— 149戸 ┘1工区—326戸 〃 2LDK·3DK—82戸 ┐2工区— 60戸 〃 3LDK·4DK—96戸 ┘(3年1月発注) 〃 4LDK— 20戸 分譲 3LDK—68戸 ┐128戸 〃 4LDK—59戸 ┘1工区—80戸 〃 5LDK— 1戸 ┐2工区—48戸 (3年1月発注)
	計 448戸	計 514戸
住宅専用面積	平均 37m²/戸	賃貸—56m²/戸 分譲—78m²/戸

主な設計上の特色としては、高齢化社会の到来に対応するため、特に１階の住宅について次のような配慮をしています。

・浴　　槽……落し込み浴槽とし、にぎり棒を設置しています。
・住宅内通路…住戸内の段差を少なくしています。
・便　　所……にぎり棒を設置しています。
・緊急通報……緊急時通報システム（緊急時に浴室及び便所に設置してある非常ボタンを押すと住宅内及び玄関に警報表示される）の導入。
・階段室への…屋外から１階へのアプローチアプローチは、階段を取り止め、すべてスロープにより住棟内の共用廊下に接続しています。
・その他……浴室、便所のにぎり棒は各階全戸の住宅に設置しています。
中層住宅にも中層用エレベーター（４人乗り）を設置しています。また、共用廊下の床のノンスリップ仕上材等にも配慮しています。

5.建て替え事業の進め方

公団の建替え事業の一般的な進め方をフローに示すと次のとおり。



6.居住者の方々への措置

建替事業を円滑に進めるためには、現居住者の方々の建替事業に対するご理解とご協力が必要であり、そのために、居住者の方々の理解がえられるよう、主に次のような措置を講じています。



写真１　建替前の中層住棟



写真２　建替後の高層住棟

(1)建替後住宅への優先入居
(2)建替後住宅の家賃減額措置
(3)仮移転が必要となる居住者に対する仮移転住宅のあっせん
(4)他の公団住宅への移転を希望される居住者の方に対する移転先住宅のあっせん、及び、家賃減額措置（５年間、移転先住宅の家賃の40％減額、ただし、２万円を限度）
(5)公団住宅以外の住宅に移転される居住者の方に対する移転先住宅の家賃等の一部補填額（100万円）の支払い
(6)移転の際、必要となる移転費用の支払い
(7)移転に際し、居住者負担となる退去時補修費用の免除
(8)生活保護世帯及び一定の要件に該当する高齢者世帯、母子世帯及び心身障害者世帯に対する家賃の一定期間（５年間）減額

7.今後の展望

中部支社において、現在、建替事業に着手している団地は、志賀団地の外に、東区白壁町に所在する清水口団地、昭和区滝子通りに所在する滝子団地において建替後住宅を建設中です。また、千種区の星ヶ丘団地においても平成２年８月に建替事業の説明会を行い、現在、居住者の方々へ建替事業の内容を個々に説明しつつ、ご協力をお願いしている段階です。

今後引き続き30年代に管理開始した団地について将来にわたっての良好な社会資本の形成をめざし、順次建替事業を進めていくこととしております。

（きまた　ふみお／住宅・都市整備公団中部支社管理部住宅改善課専門役）

千種台団地建て替えについて

中神俊士

はじめに

名古屋市では、昭和21年度以降昭和63年度までに74,096戸の市営住宅を建設し、現在の管理戸数は、約59,000戸にまでのぼっている。本市の住宅事情は年々改善されてはいるものの、市営住宅は、市民の生活安定を社会的に保障する有効な施策として今後とも需要に適した供給に努める必要がある。ただ、既に市営住宅建設事業の過半を建替え事業が占めている状況にあり、住環境の整備、土地の高度利用等の要請を背景に、既成市街地等における既設市営住宅の建替えが重要な課題となってきている。

現在、名古屋市では昭和20年代から30年代にかけて建設された大規模市営住宅団地の再生に取り組んでおり、そのうち最大規模のものが千種台地区の再生である。

1. 千種台地区の概況と歴史

千種台地区は、名古屋の都心、栄から東へ5.5kmの市内でも比較的中心部に位置し、典型的な丘陵地開発の手法によって開発された地形的に起伏に富んだ古い住宅地である。

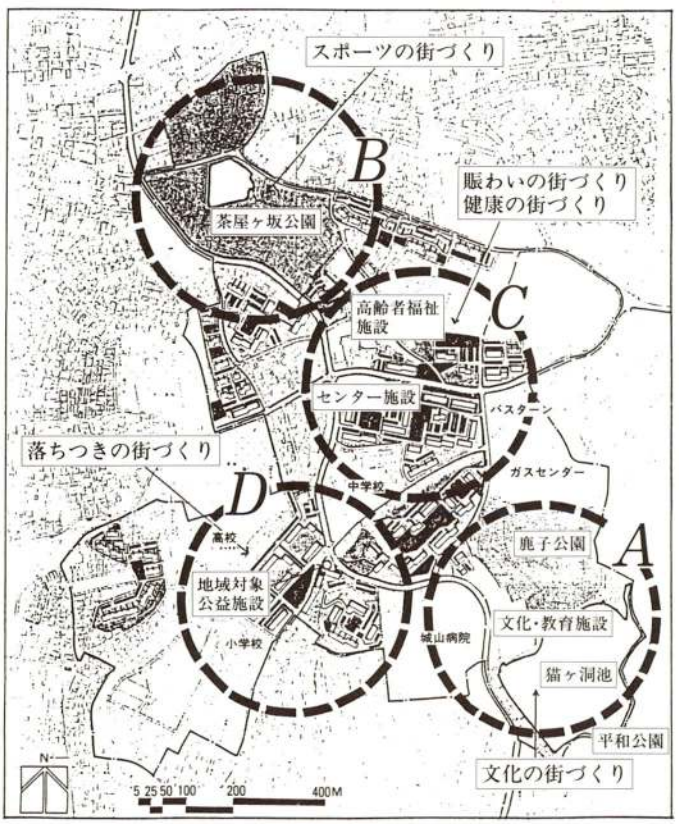
昭和20年代の初頭までは、松・灌木の生い茂る丘陵地だったが、昭和24年引揚者住宅等が建設されてから、同地区の住宅地としての開発は急ピッチに進み、今日では公社の分譲した民間住宅等を含め約3,500戸の住宅地となっている。こうして開発された17万坪の団地を総称して当時「千種台団地」と称していた。当時は、全国に大規模な住宅団地のまだなかった時代であり、「昭和30年代には名古屋市の観光名所となり、毎日、観光バスが往来した」という記録が残されている。

この千種台も、40年余の年月を過ぎ建物の老朽化が目立つようになり、建替えの必要が生じてきた。

2. 千種台ふれあいタウン

名古屋市では「住みたくなるまち名古屋」の建設を目指し、昭和63年「名古屋市新基本計画」を定め、その中で「大規模な市営住宅の建て替えにあわせて、豊かな自然環境を生かしつつ、高齢者にも配慮した総合的・計画的なまちづくりをすすめ、世代間の交流が活発に行われ、心の豊かさとふれあいのあるモデルタウンを建設する」として「千種台ふれあいタウン」を位置付けている。

大都市においては、第3次産業従事者の占める割合が高くなり、



図—1　4つのまちづくりコンセプト

その中でもさまざまな階層・職業経験を持つ人達が高齢化してくることにより、旧来の高齢者とは異なったイメージの高齢者像を念頭においた高齢化社会の計画フレームづくり、高齢者を含む居住者の社会参加をとおしてまちづくりを考える必要が出てきている。

(1)　4つのまちづくりと2つのプロムナード

そこで、千種台地区におけるまちづくりに向けて、地域の中で高齢者も含む居住者の社会参加の機会をより具体的なものにするために次の4つのまちづくりコンセプトを定めた。(図—1)

①教育・文化活動による社会参加→「文化のまちづくり」A
②スポーツによる社会参加→「スポーツのまちづくり」B
③健康増進・余暇活動による社会参加→「健康のまちづくり」C
④地域づくりによる社会参加→「にぎわいのまちづくり」C
　同上　→「落ち着きのまちづくり」D

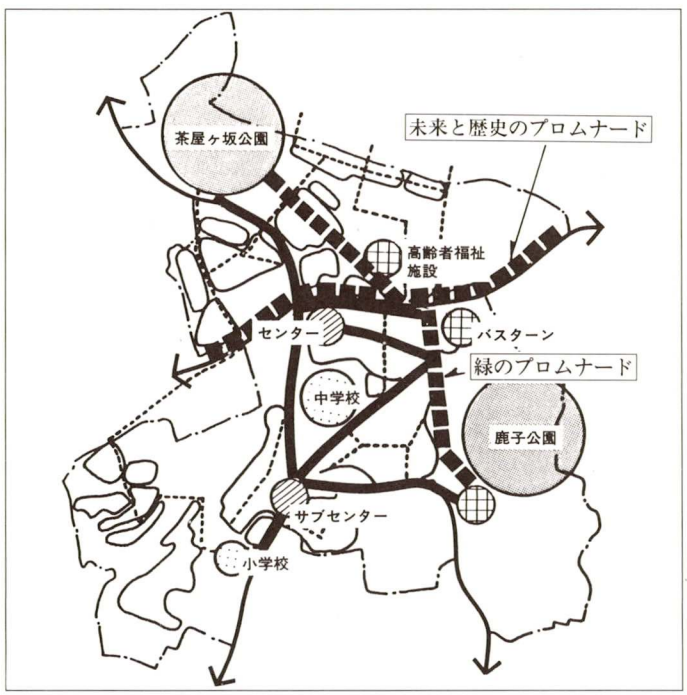
また、地域の中で4つのコンセプトをもつそれぞれのまちが、相互に関連性を持ってネットワークされ、地区の住民や市民に生活領域として意識され、有効に活用されるために、ジョギング、散策等が楽しめる「緑のプロムナード」と「未来と歴史のプロムナード」の2

つのプロムナードの整備計画を行っている。（図―２）

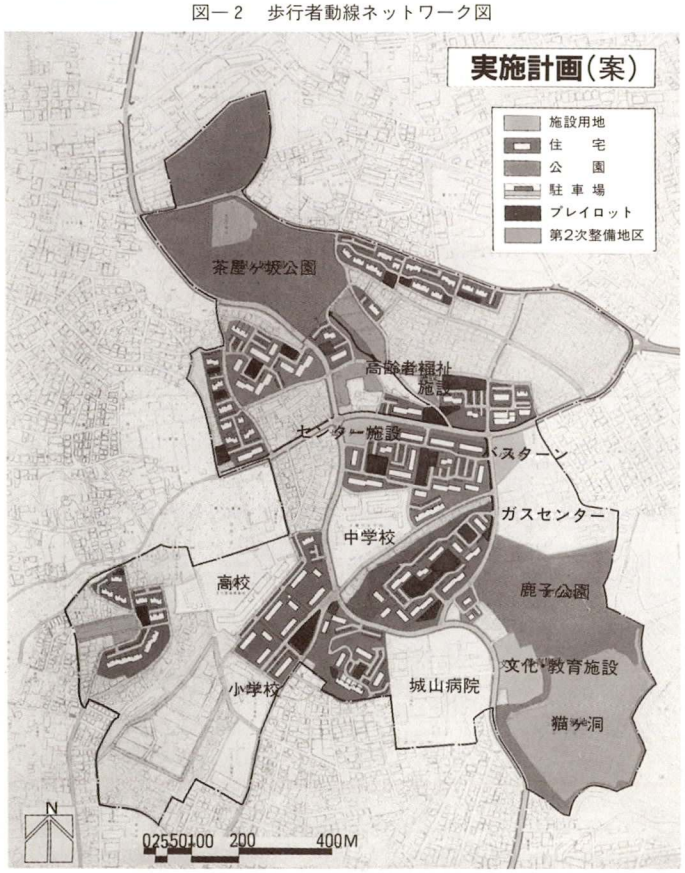
⑵　整備計画の概要

現在の公的住宅など2,453戸のうち、1,950戸を建替え、約2,400戸の住宅を供給する。このうち地区内の市営住宅は、現況戸数程度にとどめ、地域のコミュニティー活性化を促すとともに中間的所得階層（ファミリー層）向けに都市定住型住宅の供給を図るために、土地交換などにより公団・公社住宅、特別賃貸住宅等を約500戸供給し、世帯構成、収入階層構成、ライフサイクルに対応した多様な住宅の供給でソウシャルミックスを図ることとしている。

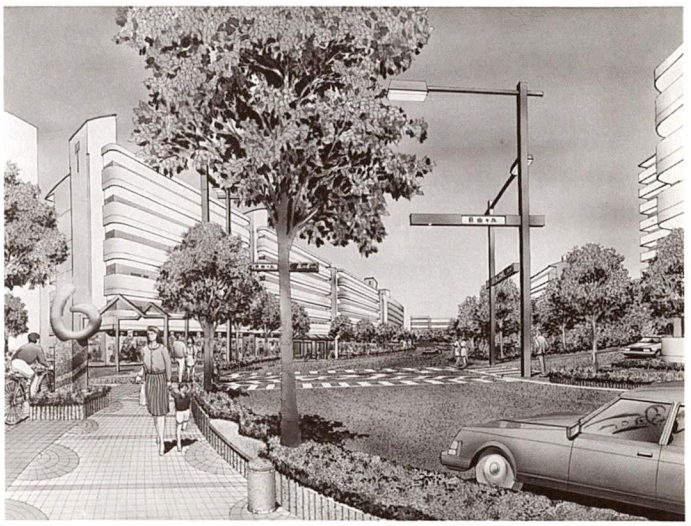
各住棟は、地区周辺部の民地に接する団地では、周囲の町並みに配慮して低層住棟を、中心部の団地では中・高層棟を配置してなだ



図―２　歩行者動線ネットワーク図



図―３　千種台ふれあいタウン実施計画（案）



写真―１　センター地区イメージ図

らかな町並みを形成し、コミュニティの活性化を図るため１棟当たりの戸数を50戸程度に押さえた囲み配置を採用している。**（図―３）**

また、地区の活性化と都市的機能回復のため、センター施設、ショッピングストリート、高齢者福祉施設、バスターン等の施設整備を行い、広域施設として文化・教育施設も整備する計画である。

3. 高齢者への配慮

⑴　高齢者向け住宅の供給

千種台団地では、世帯主が60歳以上の世帯が全体の３割に達しており、高齢者世帯予備軍とも言える50歳代を加えると過半数の55％にもなる。これらの高齢者のうち、特に高齢化対応が迫られている高齢核家族は、建替後400～600世帯と推計される。

このため新しく建設する住棟の１階は、店舗などを除き総て一般高齢者向住宅またはケア付住宅として供給し、２階以上の住宅については、入居者が高齢化した場合にも快適な生活ができるよう総て「加齢住宅」とすることにより、全戸を高齢化対応住宅として供給する予定である。さらに、住棟でのバリアフリー化を図るため当面４階以上の中層住宅にもエレベーターを設置することとしている。

また、今後ますます増えてくると思われる一人暮らしの老人や高齢核家族世帯に配慮し、家族構成に対応した住宅の型別供給やライフサイクルに合わせた住替え制度、近居・隣居制度の充実を図る。

⑵　高齢者福祉施設の整備

「特別養護老人ホーム」・「デイサービスセンター」等を中心に、入浴、リハビリ等のデイサービス、ショートステイ、ナイトケア、在宅介護等のサービスが提供できる施設整備をすすめ、高齢者が加齢に伴い在宅のみで生活することが困難化した場合にも、住み慣れた地域で安心して自立した生活ができるような支援体制を整備する。

おわりに

昭和60年から検討を始めたこの計画も、ようやく事業着手に漕ぎつけようとしている。事業期間は、建替え事業をベースとして進めるため約15年の長期にわたることとなる。

いずれにしても高齢化社会への対応は、これからの重要な課題であり、この「千種台ふれあいタウン」を含め、長寿社会へ向けた各分野での様々な取り組みが期待されるところである。

（なかがみ　しゅんじ／名古屋市建築局千種台ふれあいタウン推進室主査）

高齢化社会に対応する住宅対策

壁谷又嗣／石橋　聡

はじめに

本県も全国傾向にもれず、人口の高齢化が着々と進んでいる。1980年には、7.4%であった高齢者比率(全人口に占める65歳以上人口の割合)が、1990年では9.8%となり、さらに2000年には14%弱、2025年には22%程度に達し、高齢者を取り巻く社会・経済情勢はもとより高齢者自身の価値観も大きく変わっていくことが予測されている。このような状況のなか、今後、高齢者の住まいの方のニーズも子世帯との同居希望一辺倒でなく、隣居、近居、さらには単身・夫婦のみでの居住など一層多様になっていくと考えられる。

住宅行政としては、これらのニーズに適切に対処していくことと併せ、人生80年代を迎え、定年後の自由時間の増大あるいは高齢期の心身機能の低下といった状況の出現が確実視されることから、「生きがいづくり」「安心づくり」も視野に入れた対策が求められている。

このような背景から、本県では、福祉施設や生涯学習施策との連携を密接に図り、「高齢者が地域社会の中で安心して、かつ生きがいを持った生活を営むに資する住宅の供給」を行うことを目的に「いきいきシルバータウン整備事業」や「シルバーハウジング・プロジェクト」を市町村などの協力を得ながら実施している。

今回はこの2つの事業の取組みを紹介する。

1. 多世代がふれあうコミュニティづくり

―― いきいきシルバータウン整備事業

お年寄りは、住み慣れた所でいろいろな世代の人々と交流しながら、安心かつ生きがいをもって生活をしていくことを望んでいる。いきいきシルバータウンでは、このようなお年寄りのニーズに応えられるよう、「生きがいづくり」や「安心づくり」の拠点となる施設（いきいきプラザ）を整備すると共に、市町村の協力も得て、居住者が生きがい活動に取り組みやすくするのに必要な人材（いきいきコーディネーター）も配置し、単なる住宅開発でなく、生きがい活動のソフトも備えた、いわば、ライフスタイル創造型の住宅地開発を目ざしている。現在、大府市と豊橋市の2ヵ所でモデル的に事業展開しているが、今後は、この成果を基に、いきいきシルバータウンを県下各地に展開していくことを考えており、そのため市町村や民間住宅事業者の取組みを支援する方策について検討していくこととしている。

いきいきシルバータウンの概要

ア　住宅の供給及び住環境の整備

高齢者の生活特性にも配慮した設備・仕様が施された住宅の供給、並びに道路・広場など高齢者の安全・快適な利用に配慮した住環境を整備する。

イ　いきいきプラザの建設

いきいきシルバータウンのみでなく周辺地域を含めた住民が行う趣味・文化活動や、タウン居住者の日常生活相談などの安心づくりのためのサービスを行うための拠点施設を建設する。

ウ　サービスの提供

専門的人材（いきいきコーディネーター）を配置し、生きがい活動の企画・運営に対する支援や、タウンに居住する高齢者に対して生活サービス（生活相談、緊急時の連絡通報サービス、一時的家事援助）の提供を行う。

エ　住戸の形態

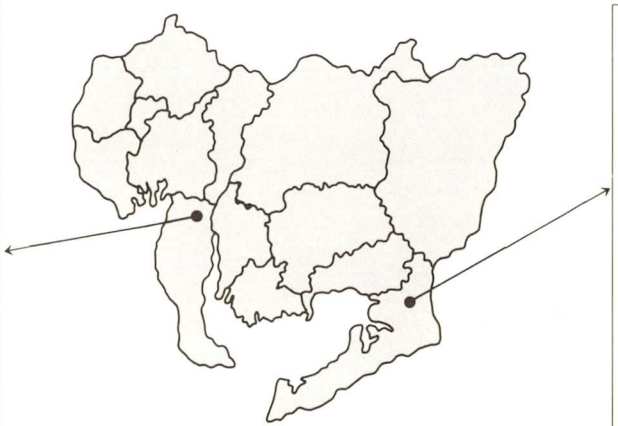
住宅は、高齢者向け、三世代同居世帯向け、高齢者向け住宅に居住する親との近居を目的とする子供世帯向け、一般世帯向け等の様々なタイプが混在するようにする。

オ　モデル事業の概要

下図のとおり

事業の位置	大府市横根町	
敷地面積	5.87ha	
開発手法	新規団地開発	
施設計画	賃貸住宅	約50戸
	(うち高齢者向け)	約30戸
	持家住宅	約130戸
	住宅合計	約180戸
	いきいきプラザ	約300m²
	デイサービスセンター	約1000m²
スケジュール(予定)	いきいきプラザのオープン	平成4年
	デイサービスセンターのオープン	平成4年
	県営住宅の入居	平成4年
	分譲住宅の供給	平成5年

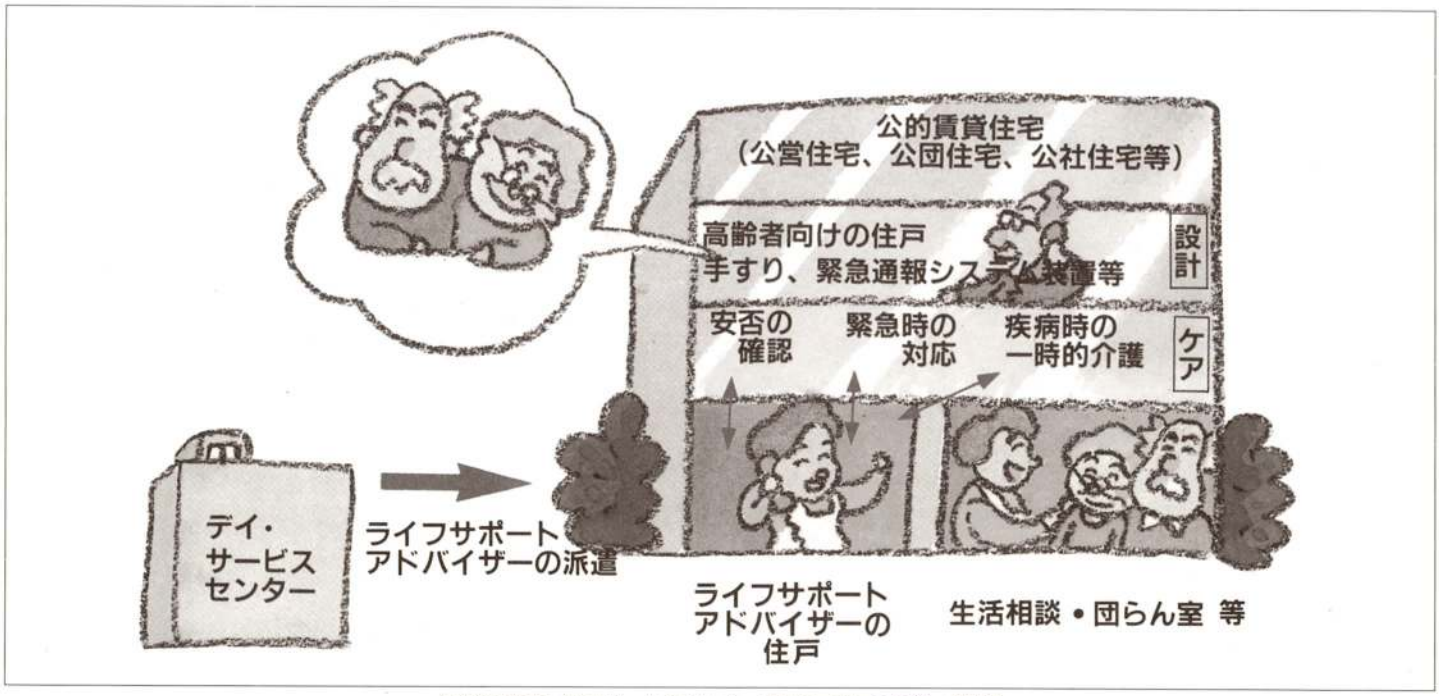
(1)「いきいきタウン大府」



愛知県地図

事業の位置	豊橋市石巻町	
敷地面積	7.75ha	
開発手法	既設県営住宅の建替	
施設計画	賃貸住宅	約460戸
	(うち高齢者向け)	約20戸
	持家住宅	約90戸
	住宅合計	約550戸
	ケアハウス	約30世帯
	いきいきプラザ	約300m²
スケジュール(予定)	いきいきプラザのオープン	平成6年
	デイサービスセンターのオープン	平成6年
	県営住宅の入居	平成6年
	分譲住宅の供給	平成5年~11年

(2)「いきいきタウン金田」



ケア付き住宅（シルバーハウジング・プロジェクトの場合）の概要

2. 安心して暮らせる生活支援サービス付き住宅の供給

—— シルバーハウジング・プロジェクト制度の導入

一人暮らしや夫婦のみで暮らしているお年寄りが急激に増加しており、これらお年寄りの大部分は、「急病などのいざという時に頼れる人がいない」といった不安を抱いている人が少なくない。そこで、これらのお年寄りが安心して暮らせるよう、生活相談、安否の確認、緊急時の対応、家事援助などの生活支援サービスが付いた住宅の必要性がそこに高まってきている。

そこで、今回、既設県営住宅の建替えに合せ、市の福祉部局の協力を得て、生活支援サービス付き住宅をモデル的に建設することとした。今後も市町村の協力が得られれば積極的に支援していくこととしている。

県営シルバーハウジングの概要

シルバーハウジングについて

公的住宅供給主体の建設する集合賃貸住宅で、この入居対象者は、日常生活上自立可能な高齢者単身世帯（60歳以上）又は高齢者夫婦世帯（夫婦のいずれかが60歳以上であれば足りる。）となっている。住宅は、手すり、緊急通報システム装置等高齢者の生活特性に配慮した設備・仕様とし、住宅とあわせて生活相談・団らん室など高齢者の利用に供するための施設を有するものとし、入居高齢者は生活指導・相談、緊急時対策等のサービスも受けられる。



事業の位置	豊川市山道町	
敷地面積	0.52ha	
開発手法	既設県営住宅の建替	
施設計画	県営住宅	約70戸
	（うち高齢者向け）	約20戸
	デイサービスセンター	約300㎡
スケジュール（予定）	デイサービスセンターのオープン	平成５年
	県営住宅の入居	平成５年

特色

市営のデイサービスセンター（身体が虚弱又は寝たきり等のために日常生活を営むのに支障があるおおむね65歳以上の高齢者が日帰りで各種のサービスを受けられる施設）を併設し、このサービスセンター事業として、ライフサポートアドバイザーを団地に駐在させ、必要な生活支援サービスを受けることとしている。

団地概要

3. まとめ

以上、福祉部局や生涯教育部局と連携した２つの事例を紹介したが、本県では、この他にもお年寄りが安心して住み続けられるよう県営住宅等の整備についても努力している。例えば、老人世帯に対する家賃の減免措置や優先入居制度、親と子世帯の近居入居制度、さらには老人世帯向けに特別に設計された県営住宅の新築や改造にも積極的に取り組んでいる。

また、民間住宅においても、高齢者向けの工夫や設備が盛り込まれた住宅の普及を図るため、啓発ハンドブック「おとしよりと住まい」を作成し、県下各地での住宅相談において、その活用を図っているところである。

住宅は生活の基盤であり、社会の重要な基礎単位である家庭の営みの場である。特に住宅内あるいは住宅付近で過ごす時間が長くなる高齢者にとって、住宅及び居住環境の持つ意味は他の年齢層より格段に大きいと言える。高齢化社会に対応できる住宅ストックの形成は、高齢化社会対策の最も重要な課題の一つと考えている。今後共、積極的に取り組んでいきたい。

（かべや　またつぐ／愛知県建築部住宅企画課課長補佐
いしばし　さとし／　　同　上　　技師）

三世代が醸すコミュニティタウンをめざす「岡崎三世代宅地供給事業」

中　根　鎭　夫

はじめに

五万石の城下まち、岡崎市は、愛知県のほぼ中央部に位置する。地形は「東高西低型」で、西部・南部地区は矢作川、乙川に育まれた肥沃な三河平野、東部・北部地区は三河山地の丘陵地帯である。

大正５年に市制が施行され、現在は人口30万人を超え、西三河の中核都市として発展している。

社会経済情勢の動きをとらえ、さきに平成３年度を初年度とする第４次岡崎市総合計画を策定し「21世紀を拓く活力と創造のまちづくり」を目指し歩みだした。その具体化として現在、長寿化社会に対応した年金者住宅「ゆとりの里」の開所や新福祉会館建設などの福祉の充実をはじめ、「愛知のふるさとづくり事業」の選定を受け岡崎城址公園整備、東岡崎駅周辺整備を含めた「乙川リバーフロント構想」、康生地区回廊構想の推進、丘陵地では技術革新の先端工業団地メカトロピア岡崎、健康文化都市の核となる岡崎中央総合公園の建設などを進めている。

岡崎らしさを活かし、新しい展望にたって「明るく住みよい豊かな岡崎市」をめざした魅力あふれる施策の一つに三世代宅地供給事業があり、市民と行政が一体となり動き出している。

1.三世代宅地供給事業の目的

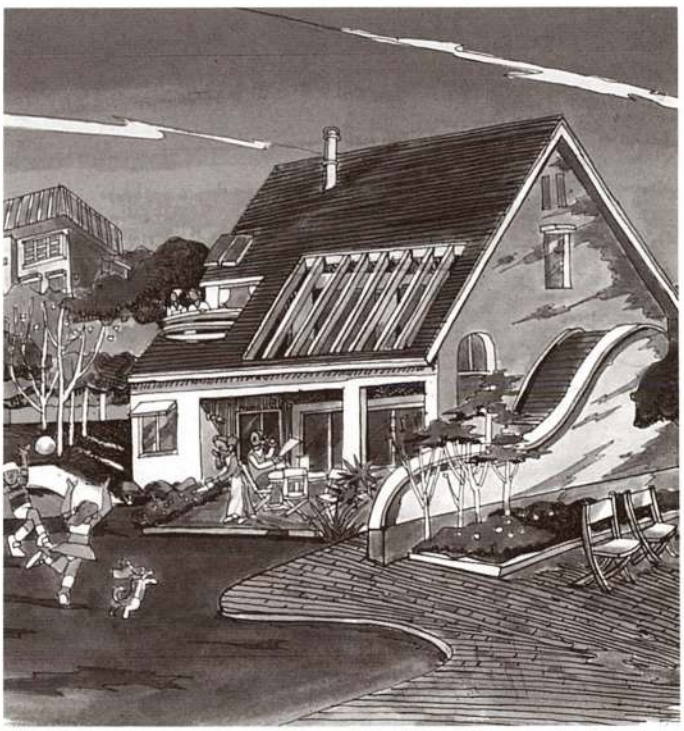
近年の経済社会の発展に伴なって都市への人口集中が進行し、過疎と過密の問題が生じてきた。生活は著しく向上する一方で、急激に長寿化社会へ移行しつつあり、家族形態は核家族が増加してきている。

こうした社会変化を考えるとき、我が国の家族生活は昔は老人の生活が家族の愛情と責任で支えられ、生活の知恵が親・子・孫に継承されてきた。この良さを見直し、高齢になった親と一緒に生活しようとしても、これを可能にする広い敷地を求めることは、地価の高騰などもあり困難な状況となってきている。

岡崎三世代宅地供給事業は次のような施策を総合的に推進する宅地供給事業として進めている。

第一は、地価高騰にインパクトを与え、地価の安定に寄与するため、求めやすい価格で良質な宅地を供給する。

第二は、長寿化社会に対応するため、三世代同居により家族機能を強化し、高齢者の在宅福祉を充実させ、世代間コミュニケーションの増進をはかる。



写真－１　三世代住宅のイメージ

第三は、過疎地域の活性化をはかるため、計画的な土地利用に基づき居住を誘導する。

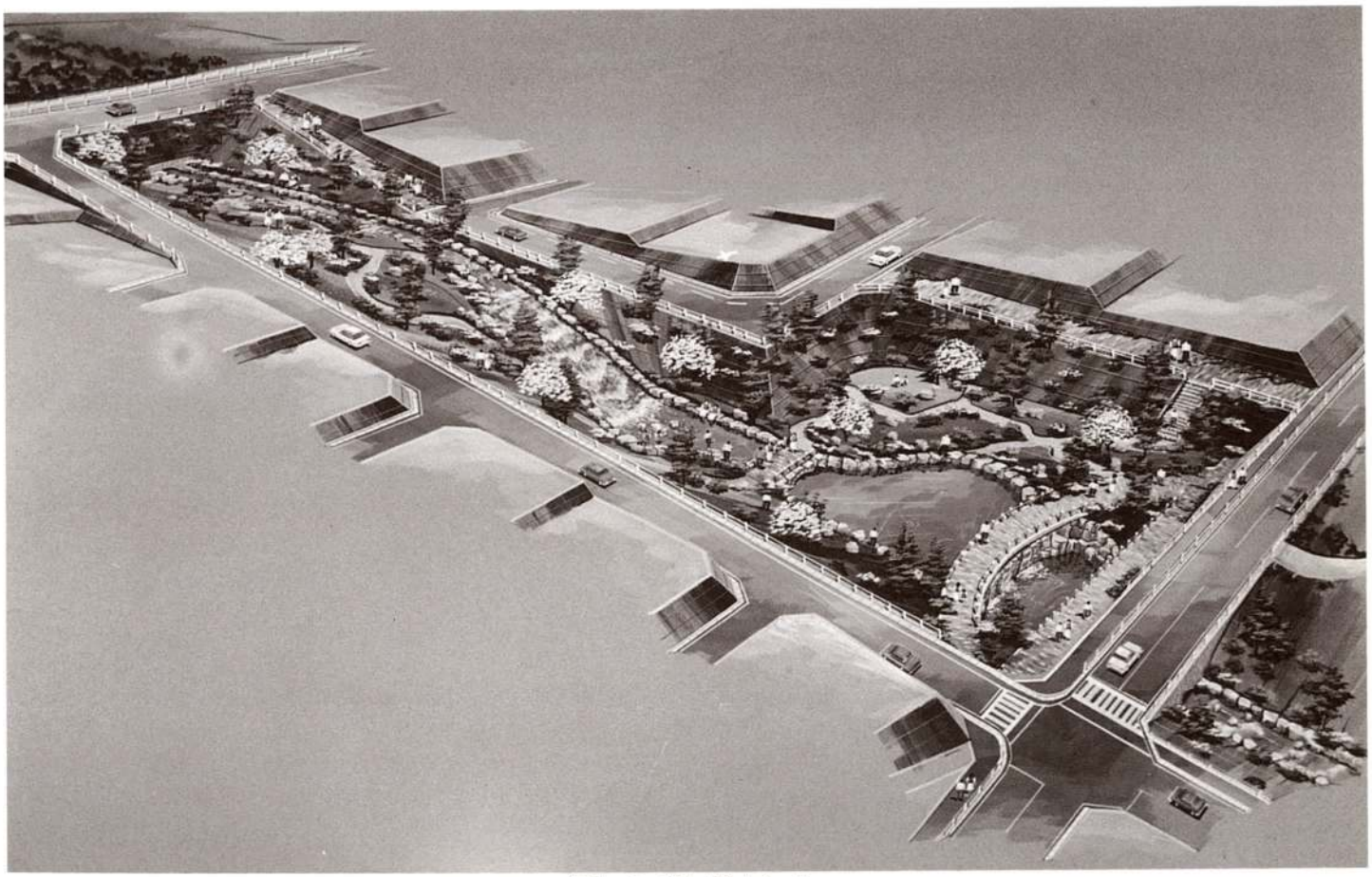
2.開発の規模

開発にあたっては、居住環境を整えるだけでなく、地元との人口バランスにも配慮し、地域とのコミュニティづくりを大切にした規模で行う。

１．総面積　５～20ヘクタール。
　開発目的を達成し、快適な居住環境をつくるための最低限必要な規模。

２．区画数　50～150区画。
　区域内での自助作用ができる１町内会程度。

３．区画面積　330～500平方メートル。



写真－2　親水公園イメージ

三世代が同居できるゆとりある住宅配置が可能な面積。

西暦2000年を目標とした国の第５期住宅建設５ヵ年計画に定める誘導居住水準（６人世帯－４LLDKS－164㎡）にも対応できるもの。

3. 米河内町地内の計画概要

現在、市役所から車で約20分、北東部の丘陵地、米河内町で岡崎三世代宅地供給事業を進めている。米河内町は、県道沿いに集落が形成され、世帯数166世帯、人口671人のまちである。昭和55年の人口を100とした場合、昭和63年には97と減少し、過疎化が進行している。同町内にある常磐東小学校の児童数についても、昭和58年の128名をピークに昭和63年には115名と減少傾向にある。

開発面積は8.8ヘクタール、宅地造成比率約37パーセント、3.2ヘクタールで82宅地に整理していく。計画人口は約490人としている。

(1)　宅地計画

1．１区画当り面積　　330㎡～500㎡

2．建ペイ率　　50%

3．容積率　　80%

家族のコミュニティ意識を醸し出せるよう共同の空間を確保し、ゆったりと自由な発想の三世代住宅が建設でき、敷地内で家庭菜園が可能な広さを確保。

(2)　公園計画

1．総面積　　3,771㎡

2．設置数　　３ヵ所

区域内の中央を流れている小川、荒井川にカスケードを造りせせらぎと緑の水辺空間の親水公園やゲートボールなどが楽しめる公園など親・子・孫の三世代が遊べる場、出合いの場を計画。

(3)　道路計画

1．主要道路　　幅員10ｍ

2．区画道路　　幅員６ｍ～８ｍ

区域内を１周する区画道路を計画し、歩道を付けランニングや散歩が安全に出来るよう配慮。

(4)　緑地

1．保存緑地　　約10,400㎡

2．回復緑地　　約16,800㎡

小段を広くとり威圧感を和らげ、季節の移り変りが感じられるような樹木を植栽。

(5)　その他

建築協定や転売、分筆の防止等により快適な環境とスラム化の防止。

まとめ

本事業は、これから造成工事に着手する段階である。私たちの家族構成や生活様式は、時間の推移とともに変化している。建築される三世代住宅はどのようなものか、まったく新しい発想による魅力的な町並み、コミュニティの形成を期待しながら、楽しみな事業として取り組んでいる。

事業の成果をあげるには行政のみならず、市民やこれから住む人々の努力に負うことも多い。粘り強く進めていく必要がある。

将来的には米河内町地内の事業をモデルに三世代が醸す「岡崎三世代宅地供給事業」を市内数ヵ所に展開していく予定でいる。

今後とも皆さんのご支援、ご助言を頂ければ幸いである。

（なかね　しずお／岡崎市長）

民営集合住宅 ―― 現況とこれから

野口　浩

はじめに

東京情報で高級集合住宅を“マンション”と呼ぶことを教えられたのは1960年（S35年）だった。

当社では、第1号を千種区猫洞通に設計したのが、現存する“猫ヶ洞マンション”RC造3階建、2棟、24戸である。**（写真―1）**当社の創業期の代表作で、それまでの木製・鉄製サッシュから初めてアルミサッシュ使用の集合住宅であった。結露に悩まされたり、その他数々の思い出から30余年、その間当社設計の過半が民間集合住宅関連の仕事であった。

当初、集合住宅の設計は賃貸が主力だったが、最近では分譲が圧倒的に多い。当社は総ての仕事が民間依頼のもので、特定企業の傘下に入ることなく多くのデベロッパーと接してきた。それで集合住宅に関しては、ある程度の広い視野で考えられるようになった。一設計事務所の立場で与えられたテーマを論ずるのはいささか面映ゆい気がしないでもないが、分譲マンションのみで120件、45万m²の実績経験から現況をとらえてみたい。

1. 賃貸集合住宅

1987年頃までは、多くの賃貸住宅が土地の有効利用を目的として、建設費、賃料のバランスがとれ建設予定可能だった。**（写真―2）**まして相続対策、公的融資の拡張等で花盛りの感があった。一部の業者は入居保証や一貫方式（入居家賃保証、管理込）で地主を説得し潜在需要を掘り起こすことも困難ではなかった。また、地下鉄東山線沿いには、単身赴任者用高級賃貸として、各種サービスを併せ備えたワンルーム（18m²）から2DK（50m²）の集合住宅が建てられた。**（写真―3）**ファミリーマンションは一部の特定高級なのを除けば、70m²までのものが多く、収支バランスを考えればグレードの高いものは比較的少なかった。昨今は建設費の急騰、高金利、税制の改正等により、賃貸集合住宅の建設は急減してきた。よほど特殊な事情がない限り供給サイドからみて建設不可能になってきた。寮、社宅等従業員対策や節税含みのケースに限られ、今後当分の間、賃貸住宅は土地問題は別としても極度に減ることが予想される。

2. 分譲集合住宅

分譲マンションの歴史はほぼ30年だが、当地の容積率施行前の1971年頃の状況は、私の記憶では、一年間に5棟程度建設されるだけでしかも名古屋市東部地区に限定された。それは地下鉄至便、環境良好、通学通勤によく、買物利便等、マンション評価の決まり文句の立地条件に合う地域に限られていたからだ。

今では、マンションが名古屋市内だけでも年間100棟以上、東海3県で、それ以外に200棟以上と地方中小都市でも多く建設されるようになり、1990年前半までは、異常な売れゆきで、いわゆる第4次マンションブームであった。

かつてのマンション立地条件の交通至便は、駐車場整備に代替され、都市施設不在の立地でも、マンションが建設されれば完売する時代になった。**（写真―4）**

売れゆきの良い間は、マンションの専用面積もわずかながら広くなり――平均75m²――外装タイル貼、豪華な玄関ロビー、システムキッチン、タイル貼ユニットバス、セキュリティー、テレビドアホ



写真―1　猫ヶ洞マンション（S35年建築）



写真―2　一般的な賃貸マンション
パークサイド庄南（尾張旭日市）85年頃は公的融資とあいまって土地の有効利用で収支バランスがとれた。



写真―3　池下510ビル
上階は高級単身赴任者用賃貸アパート

ーン、有線放送等と目先を変えたマンションが市場を賑わすようになった。土地高騰、建設費上昇によりマンションの売価が3年前に比して2倍近くなった昨今（1990年）後半からは、少々の工夫ではマンションの安価供給は不可能となった。高金利や土地神話崩壊に対する諸策のアナウンス効果により、一転してマンションの売れゆきに黄信号が灯った。

3. 地域性と規模

東京では、住居地域に住居が建たないでオフィスが建っている。ところが当地の場合、並の商業地域——容積率400%以下——の建築では3階以上は住宅以外に実需要がほとんどない。土地柄とはいえ賃貸マンションも含めて再開発の場合は、住宅供給に貢献しているとみてよいだろう。**（写真－5）**

マンション建設の一件当りの開発規模は、平均して名古屋市内で20～30戸、名古屋市以外で30～40戸である。200戸以上の面開発は極めて少ない。話題の超高層（セキスイ）を初めとして民間開発はほとんど再開発の跡地利用である。蟹江（大京）鳥見、松下（三井不動産）等々。当社で担当したパークシティー三郷（三井不動産・フロンティア開発J.V）も配送センターの跡地である。**（写真－6）**

4. 展望

政府の目標の一戸当り95㎡、10年後には100㎡とは逆に、今後短期的には面積を削っても絶対価格を押える方向でのマンションが建設されるであろう。又、マンションの資産効果が薄れると、中古マンション市場が賑わないのが必定である。その結果、より広く、より高いグレードのマンションに買い替えようと望んできた人達の理想とした高級マンションの建設は控えめにならざるを得ない。主として土地問題や利便性から、戸建てより集合住宅という一般傾向からの根強い実需要はあるが、前述の買い控えから当分は調整期が続くと思われる。建設費の方も人件費及び一部の便乗値上げが若干は調整されると思う。

折悪しく湾岸戦争が勃発し、今すぐには世界の動向がつかめない。こういう国際状勢を加味すると、マンション市場は混迷状態が続くかもしれない。長期的には広く、高グレードのマンションに移行すると思われるが、経済の伸びや土地問題との絡みで政府の目標にいつ達するのであろうか。

5. おわりに

デベロッパーは市況に一喜一憂して企画を変更することが多い。時には土地手当をした時点と設計完了時の数ヶ月の間に、考え方が異ってくることすら稀ではない。又、デベロッパーはどんな企業ポリシーがあっても、市況に逆ってまでリスクを負うことはほとんどない。展望を短期的にみるか中期的にみるかによりマンションに対する取りくみ方が変る。その上、“売れてこそすれ”が先行するのは民間企業の宿命であろう。

私たち設計サイドが企画に参加する範囲は限定されている。しかし、今までの経験から一時しのぎでなく、長い目でみて若干広めのマンションを造るべしというのが私の持論である。職能人としての良心と目先の市況とのかい離に悩まされる日々が早く解消されんことを願っている。

（のぐち　ひろし／野口建築事務所代表取締役）



写真－4　アーバンホーム東刈谷
周囲は田甫と高架道路、もちろん下水はない。公共交通機関（JR東刈谷）まで2.5km。バスもない。但し、駐車場は戸数分（1台／1戸）ある。



写真－5　サン大曽根
商業地域（400%容積）、でも上部は賃貸住宅。優良市街地再開発事業大曽根B地区。



写真－6　パークシティ三郷
総戸数211戸、工期90年11月～92年8月竣工予定。ダイエー配送センター跡地。省力化のため、バルコニータイル打込PC、床オムニア版使用、小梁なし等。

美濃坂祝瓦

――坂祝町――

東海の建築地場産業●ルポ23

東海支部特別編集委員会

坂祝町は岐阜県加茂郡の西南部、岐阜県の中南部に位置し、町の中央部を郷部山丘陵が占め、急峻な山地が連なっている。こうした地理条件のなかで、坂祝町の地場産業である「さかほぎ瓦」は、町西北部の黒岩深萱勝山での良質の粘土を用い、明治中期から瓦製造が始められている。当初は、農家の副業として起こり、明治以降発展し、戦後の技術革新により工業化が進み、地場産業としての体裁を整えたものである。耐寒性にすぐれ、県内はむろん、遠く県外にも販売されているさかほぎ瓦は、特に、製造方法の研究と生産の近代化により、耐久性を飛躍的に向上させ、より長期の耐久性が望まれる堂宮建築では全国的なシェアを持っている。また、同様の特性から、文化財関係の建物にも多く用いられ、明治村の建物の多くにさかほぎ瓦が用いられている。

一般に瓦の製造工程は、一に土練り、二に成型、三が乾燥、そして最後に焼成となる。瓦の耐久性は、使用する粘土とその焼き方で決まると言われており、坂祝で使用している粘土は、地元で産出される粘土を１～２年寝かせ、十分に土を熟成させたあと、数種類をブレンドしたものを用いている。また、燃成温度1200℃の高い温度で、25～30時間という長い時間燃成し、耐寒性、耐久性の優れたさかほぎ瓦をつくり出している。

美農いぶし瓦の特性を以下に挙げる。

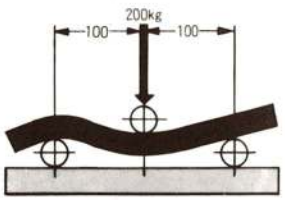
①耐寒性：燃成温度1200℃、燃成時間25～30時間という厳しい条件により吸水率６％以下を達成し、－30℃における超低温耐寒試験装置により、凍結融解操作を20回以上行った結果、まったく異常はなく、日本一と言われる耐寒性を立証している。

②強度：200kg以上の荷重に耐えることができる。

③耐久性：真空土練機、高圧プレス、窯の熱による発熱均一乾燥、ガスコンテナ窯等の技術革新により、長期の耐久性の向上を図っている。

④美観：屋根に程よい重厚さを与え、落ち着いた色調を持っている。

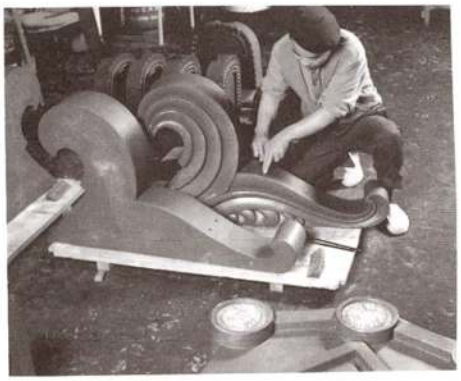
⑤技術：あるゆる建物に対応できる数百種の役物瓦や鬼瓦の製造技術を持っている。







資料提供
坂祝町役場
前川製瓦











原土配合



磨き、仕上げ



土練り



焼成



成型



選別

製造工程

採土
・原料の粘土は、田より掘り出す。坂祝はいぶし瓦の原料として良質の土がたくさん採れ、瓦工場が５工場ある。
・今は大型のユンボやダンプカーを使って1,000ｔ単位で大量に採土する。

貯蔵
・掘り出した粘土は１～３年積み上げておく。これをねかしと言って、これにより土の熟成をはかる。

配合
・大型の原土配合工場で原土を配合する。

土練
・配合した原土を土練機に入れ練り上げ、長い粘土の板にして瓦の大きさに切断する。

成型
・プレス成型－瓦の大きさの粘土の板を自動プレス、手動プレスを使い瓦の型にする。
・手造り成型－型のむずかしい瓦（鬼瓦、役瓦等）は手で作る。

仕上
・型が出来上がった瓦を荒地または素地と言う。これを１枚１枚へらなどで仕上げをする。

乾燥
・仕上げのすんだ瓦は乾燥に入る。乾燥は瓦を焼く窯の余熱を利用する。乾燥のすんだ瓦は、白地と言う。

焼成
・白地は1,150℃の温度で36時間～30時間焼き上げる。最後の段階で、燻化といって炭素皮膜（３ミクロンぐらいの膜）で銀色の色を付ける。燃料はＬＰＧを使用している。

検査
・焼き上がった瓦を色、形などで１枚１枚選別し、結束する。

出荷
・製品は九州、四国、中国、関西、中部、関東、東北など全国の現場へ出荷する。一つの現場では８種類～70種類の瓦を使う。

名古屋仏壇

——名古屋——

東海の建築地場産業●ルポ24

野沢英希

仏壇のおこり

仏教がわが国に公に伝わったのは欽明天皇の13年(552年)とされている。 そののち聖徳太子が史上に現れるに及び、半世紀を待たずして仏教は日本人の精神生活に根を下ろすことになる。「憲法十七条」の制定(604年)がそれであった。太子は、初めてわが国に憲法を制定したが、それは世界にも例をみない、和の精神に基づく理想主義に貫かれたものであった。このようにわが国の仏教は、一般大衆の日常のなかで、精神生活を高めていく唯一のものとして位置づけられたのである。

この聖徳太子の精神をさらに具体化したのが天武天皇であった。聖徳太子没後60年、天皇は詔(みことのり)をもって全国の家庭に仏壇を安置することをすすめたと「日本書紀」にある。諸国に家ごとに仏舎を作って仏像および経を置き、礼拝供養せよ——と、この詔はきわめて具体的に指示している。仏壇の大衆化がはかられた最初の出来事と言えよう。

では当時の仏壇がどういうものであったかは想像するしかない。ただ、古い伝記に、この時期のものを指して「土壇」だったという記事が見られることから、今日のように、木造りのきらびやかなものではなかったようである。土を盛り上げたり(土壇)、石を積んだり(石壇)、木で組んだり(木壇)というように、多様だったようである。

ちなみに、仏壇の「壇」とは字義どおり一段高い世界で、そこに本尊を安置して仏教の高い理想を仰ぐ、という形が表現されている。今日一般化しているのはもちろん木壇で、これは須弥壇(しゅみだん)と言い、須弥山(しゅみせん)という仏国土を表したものである。

名古屋仏壇

江戸初期に誕生した名古屋仏壇は、もともと住吉町や七間町を中心に発展していた。尾張藩の下級武士が手内職として仏壇づくりに携わり、彼らの住居地に近いという理由からであった。そして明治維新の混乱で、名古屋仏壇も衰微したかにみえたが、明治8年には名古屋仏壇商組合が設立された。この組合の活動は、東別院や西別院に近く信仰の厚い人々の流れを吸収しやすいという理由から、東橘町を中心としており、ここから大須門前町が名古屋仏壇の中心となる第一歩が始まった。

ところで、京都に源流を持つ仏壇の製作工芸が、名古屋仏壇として繁栄する素地はいくつか挙げられる。まず第一に、東本願寺造営に参加した伊藤平左衛門をはじめ高度な技術を持った宮大工や寺大工など優れた職人がいたことである。また彼らにその力を発揮させる背景となった強力な宗教的基盤を見逃すことはできない。この具体例が「惣仏(そうぶつ)」と呼ばれる報恩講(ほうおんこう)である。「惣仏」は各部落の檀家集団が毎年、年番にあたる家に集まり、荘厳な仏壇の前で厳粛に勤めたもので、ここでは仏壇は公の必需品であった。

第二に、繁栄の要素として、原材料となる良質の木曽檜が入手しやすかったこと、さらに、水運に便利な堀川が掘られたことなどもあげられる。

九つの専門職の合作

名古屋仏壇を一言でいえば、「九つの磨き抜かれた専門職の合作」と言える。木地造りから組み立てに至る九つの工程で、それぞれが己の技を発揮し、その結果がハイレベルで統一されたとき、はじめて完成したと言える。

伝統的技術・技法は、

①「木地」の構造は「ほぞ組み」による組立式であること

②なげしは、「直線なげし」または「かぶとなげし」とすること

③障子は「通し障子」または「花頭(かとう)障子」とすること

④台は、「みつまくり」を備えること

⑤宮殿造(くうでんづくり)は「肘木桝(ひじきます)組み」によること

⑥塗装は精製漆の手塗りとし、「木目出し塗り」にあっては「呂色(ろいろ)仕上げ」をすること

⑦蒔絵(まきえ)および金箔(きんぱく)押しをすること

となっている。

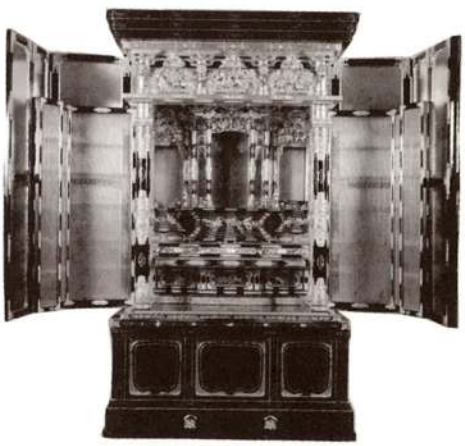
雅やかななかに生きる生活の知恵

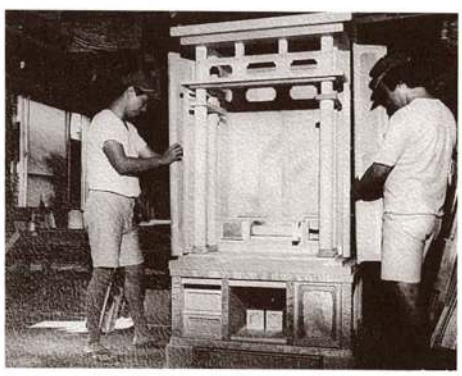
300年以上の歴史。そこには、この仏壇を守り育ててきた人々の生活の知恵が随所に生かされている。台の高いこと、これは大きな特徴であるが、その理由は二つある。

一つは、「惣仏」と言われる報恩講は、仏壇を床の間に飾ったので見栄えを立派にするために台を高くする必要があったことであり、もう一つの理由は、たびたび襲う水害から仏壇を守るためである。「水を治める者は天下を治める」と言われるほど治水が困難な時代であったので、人々は「自分の手」で水に対する守りをする必要があった。まして仏壇は単なる家財道具ではなく、「生きる糧」すなわち「信仰心の象徴」だったので、万一、水害にあったとき、少しの水なら、台を高くしておくだけで十分だったが、さらにひどいときには、真っ先に仏壇を安全な所へ運ぶことが人々のならわしだった。

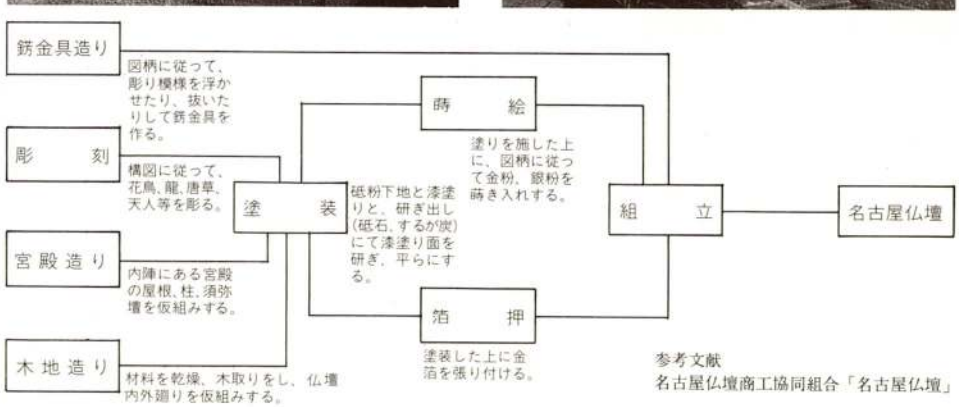
このように信心の厚さを誇示すべく、蒔絵や金箔で飾られた雅やかな名古屋仏壇は、300年の歴史を生きる人々の暮らしのなかで、ずっしりとその位置を占めているようである。

(のざわ　ひでき　愛知県立芸術大学大学院)









参考文献
名古屋仏壇商工協同組合「名古屋仏壇」

愛知県西春町を中心とする地域は、静岡、埼玉に次ぐ、全国で三番目のひな人形、五月人形の産地で、県下の生産の50%を西春町で占めている。部品製造下請けを含めると30以上の企業数になり、全国的な競争の激しいなか、合理化も進み、最高級品で知られる京人形に負けない立派な人形が作られている。

そこで、西春町を訪ね、ルポを試みた。

西春町は、名古屋市南部に位置する西春日井郡の中央部にあり、名古屋都市圏のベッドタウン的色彩が強くなっているが、もともとは農業主体の地域であり、人形の制作も、農閑期の片手間にいつとはなく始められたものと思われる。このため地場産業としての人形制作の歴史はさほど古くはなく、人形師（着付け師）と言われる人形全部を制作する技術を持つ人は、主に戦後のことと考えられる。西春では人形は、戦前は「金太郎」と言われる五月人形が主体で、ひな人形の制作は戦後に入ってからと言われている。

西春のひな人形の技術は、戦前、名古屋市内で制作技術を修得した山北美好氏が西春に移り住んだのが契機と言われる。氏は、関東風の比較的安価な人形と、高価で高級な京都製人形の特性を独学で研究し、技術の向上をはかり、西春のひな人形を全国的な生産地に育てる主要な役割を果たしたのである。

一方、五月人形の代名詞とも言える「本作り金太郎」は、桐材の粉に生麩糊を加え練り固めたものを使用しており、複雑な工程と卓越した伝統の技術が求められるものである。西春での金太郎の制作は、大正の終わりごろ、現在も西春で活躍中の池山至氏の祖父の手により始められたと言われる。

五月人形とひな人形の産業としての繋がりは明確ではないが、戦後始めたひな人形師の中に、五月人形を手がけた人もおり、ひな人形の制作開始の土壌を形成していたものと考えられる。





ひな人形

——西春町——

東海の建築地場産業●ルポ25

東海支部特別編集委員会

「本作り金太郎」の製造工程

桐材の粉に生麩糊を加えて練り固めたものを、練り製品という。古い記録では、煉り物とも書かれている。

近ごろプラスチック素材の登場で人形の世界はかなり変化しているが、優れた高級な人形には、やにや油気が少なく、軽くて破損しにくく、仕上がりが滑らかで胡粉塗料に合う練り製品が用いられている。

本練り頭による金太郎の製造工程を追ってみよう。

原形作り　姫小松、桐で原形を作り、松やに硫黄を煮たものを流し込んで、雌型を作る。

生地作り　桐の粉と生麩糊で練ったものを雌型につめ、型取りした後、乾燥さす。

地塗り　頭には目を入れ、胡粉（貝殻の粉）と膠で練ったものを湯、水等で適当にうすめた胡粉を塗る。

置き上げ　一名盛り上げとも呼ばれ、鼻、頬、口もと等微妙な凹凸を筆によって盛り上げる作業で、頭の出来ばえはこの作業に左右される。

中塗り　地塗り胡粉より少し膠の少ない胡粉を塗り、人形の丸味を出す。日本人形は胡粉芸術とも言われるほどで、胡粉ときは大事な作業である。胡粉の調合や塗り方は、気温、湿度、季節の変化により一年中むらなく作り続けることは、なかなかむずかしく、練り製品としては最も大事な作業である。

水ふき　晒布に水を適当に含ませて面をこすり、肌面を滑らかにする。

細部彫刻　目を開き、口、小鼻等を小刀で彫刻する。目は心の窓と言われるが、人形の頭では、この目を切ることが一番むずかしい仕事の一つとされる。

上塗り　細かく軽い上質の面胡粉とゼラチンで肌の色を作り、上塗りをする。

面相書き　まぶたに墨を入れ、眉毛、まつ毛、口紅を描いて、ボカシを入れる。

髪付　面相後、スガ（毛）を吹き、それぞれの顔に応じ髪付けをする。

胴組　手・足・胴をまとめて、胴組みをする。

衣装着せ　胴組みの後、腹掛、デンチ等衣装を着せる。



資料提供
西春商工会
山北人形株式会社
株式会社雛金

亀山美術ロウソク

――亀山市――

東海の建築地場産業・ルポ26

野沢英希

三重県亀山市は、鈴鹿山脈より東南に向かって延びる台地上に位置している。起伏の多い複雑な地形をなし、市の中央部を鈴鹿山脈に源を発する鈴鹿川が、北部には安楽川・御幣川などが流れている。

この地域は、「坂は照る鈴鹿は曇る……」と古い馬子唄にもうたわれているように、鈴鹿峠の玄関口として、また東海道五十三次の宿場町として栄えたところである。文永2年（1265）に関実忠が亀山古城を築いてからは、城下町としても発展した。現在も、落ち着いたみどりの中に、天正18年（1590）岡本宗憲が築いた亀山新城などが残っている。

産業は、古くから生糸、茶などで著名だが、近年では今回お話しする美術ロウソクの特産地として国内はもとより、海外にもその名が知られているのである。

ロウソクと言えば、わが国では欧米諸国とは違い冠婚葬祭、特に葬祭のイメージがまだ強く残っている。しかし最近では、日本人の生活様式も欧米化に伴い、キャンドルを室内装飾品とする傾向が強くなってきており、事実、美術ロウソク（アートキャンドル）の需要が高まっている。

ロウソクの起源

ロウソクは、蠟や脂肪に木の皮、ブドウのつるやその他木片などを束ねた松明（たいまつ）から発達したものと考えられている。

古くはエジプト人やギリシャ人に知られ、蠟製の小神像やローマ人死面が有名である。蜜蠟をパピルス草や葦の葉を束ねたものに塗ったロウソクを寺院で使用したとプリニウスの博物誌に記されており、すでにロウソクは、紀元前3世紀には存在し、ギリシャ末期に発明されたと考えられている。

わが国では、仏教の伝来に伴ってロウソクが輸入され、奈良時代には、宮廷や寺院の一部で使われていた。しかし中国との国交が中断した平安後期になると、松やにロウソクの製造が発達した。そして国交再開と同時に木ろうそく（和ろうそく）の製法も伝わり、天文～文禄年間ごろには、日本で初めて国産ろうそくが登場する。この和ろうそくは、はぜの実から取った固体脂肪を原料とし、職人の手のひらで塗りかけて作られたものである。

1818年ブラユノー、シナモンによって初めてステアリンロウソクが製造され、1830年頃にはパラフィンロウソクが作られた。しかし、地方の農山漁村までロウソクが行き渡ったのは、明治になって西洋ロウソクの製造が始められてからである。これは、綿芯を燭芯としてパラフィン、ステアリン酸などを原料として製造するもので、多数の金属製の円筒鋳型を備えたロウソク製造機を使用し、まず、鋳型の中に芯を通し、溶融した原料を注ぎ込み、冷却して凝固させた後、型から取り出して製品とする。

在来の和ろうそくは、手工業的に製造され、色も黄褐色で、光度も非常に暗いものであったが、西洋ロウソクは、機械的に多量に製造され、その色も乳白色で美しく、光度も明るいためにその伝来・普及に伴って、在来の和ろうそくは急激に衰退してしまった。

美術ロウソク

一般に、ロウソクというと灯火用の白くて細長いロウソクを連想するが、美術ロウソクとなれば、灯火よりもむしろ装飾的な要素を多分に持ったものを言う。

例えば、人形、動物、花などの複雑な形のものが多く、芯糸は2～4本のものもある。よって、マニアが暇に任せて趣味として行うものならばともかく、大量生産、作業性、コストなどの面で検討が必要である。美術ロウソクは、アイデア、デザイン、色により利用価値が大きく左右される。

美術ロウソクは、通常次のように分類される。

①ディナーキャンドル（食卓装飾用）
②バースデイキャンドル（ケーキ装飾用）
③ブロックキャンドル（ピラーキャンドル）
④ノベリティーキャンドル（人形ロウソク）
⑤ボーティブキャンドル（コップロウソク）
⑥デコレーションキャンドル
⑦ホニーキャンドル（宗教儀式用）
⑧ウェディングキャンドル
⑨グローキャンドル（ハウス栽培用）

ロウソクの今後の展望

キャンドルにも、ファションと同じように流行がある。とりわけアートキャンドルに関しては、デザイン、色調、仕上げ方法、形などは、その国の風格、習慣、生活様式の変化により、感覚に合ったものでなければならない。

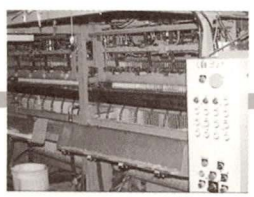
最近、ロウソクは日用雑貨の一部というものから、室内装飾品へと徐々に変化してきている。ワインが当たり前となった今、親しい仲間とキャンドルを灯して、粋な会話を肴に、パーティとしゃれこみたいものである。

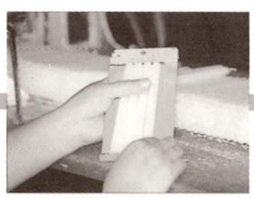
（のざわ ひでき　愛知県立芸術大学大学院）

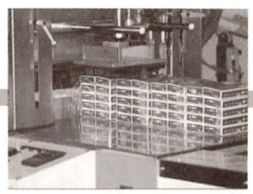
ローソクの製造工程



神仏用洋ロウソク

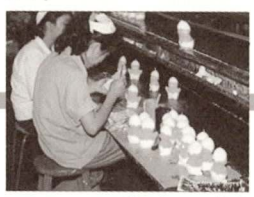

フルオートマチック機で成型、冷却、切り離しを行う。


1本1本手作業による検査を行う。


全自動包装機を使用し、重量チェック・包装を行う。


アートキャンドル


ゴム型・石膏型・金型などへロウを注入。冷却後型抜き。

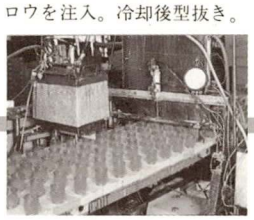

ロウソクのバリ取りや、絵付けなどを行う。


化粧箱へおさめる。


毎日2000ケース以上の製品が出荷される。



容器入りキャンドル


オートマチック機により、ガラス・陶磁器等の容器へロウを注入する。


芯糸が倒れないほどにロウが固まったら、芯糸を入れる。

梱包する。

参考文献
ローソクのはなし〈㈱カメヤマローソク研究開発部〉

Montina



MON-PONTI 969
W 400×D 380×H 850・SH 420
Design: Gio Ponti



MON-490
W 670×D 530×H 720・SH 470
Design: Enzo Berti



MON-410
W 510×D 480×H 1050・SH 450
Design: Enzo Berti



MON-424
W 670×D 450×H 770・SH 480
Design: Enzo Berti



MON-371
W 570×D 440×H 830・SH 470
Design: Bernard Makulik



MON-MEKI
W 470×D 570×H 1040・SH 490
Design: Studio Montina



MON-GARMISCH
W 590×D 520×H 700・SH 440
Design: Otto Blumel

イタリア「モンティナ社」は、70年の歴史をもつ一流家具ブランドとして、「イタリアン・スタイル」の発達に大きな足跡を残してきました。そのデザインの質の根底にあるものは、合理主義と職人気質、そして建築の歴史という伝統的なヨーロピアンスピリットです。デザイナーたちの研ぎ澄まされた感性と椅子職人の高い技術が結晶した、選び抜かれた優越の逸品。**axona**ブランドからお届けします。

axona AICHI 愛知株式会社

本社 ……TEL：052-937-5931㈹ 〒461 名古屋市東区筒井3丁目27番25号
東京本部 ……TEL：03-3585-0016㈹
東京ショールーム ……TEL：03-3585-0017㈹
名古屋営業部・ショールーム…TEL：052-935-6226㈹
大阪本部・ショールーム ……TEL： 06-380-0601㈹
札幌営業所 ……TEL：011-222-4531
千葉営業所 ……TEL：0472-73-1173
西東京営業所 ……TEL：0422-21-2246
横浜営業所 ……TEL：045-314-8771
京都営業所 ……TEL：075-802-3639
神戸営業所 ……TEL：078-576-5187
広島営業所 ……TEL：082-263-3220
高松営業所 ……TEL：0878-22-2202
福岡支店 ……TEL：092-441-1246
鹿児島営業所 ……TEL：0992-54-3178
㈱東北アイチ ……TEL：022-245-3536
㈱北関東アイチ ……TEL：048-686-3121

Artifort



アーティフォート 繊細かつ大胆な曲線。選りすぐられた高品質な素材。デザインの究極を追求し続ける、ヨーロッパの代表的高級家具メーカー、アーティフォート社。独創性に優れた多くのデザイナーと、高いクラフトマンシップを誇る職人たちを擁しています。

クッシュ シンプルなデザインの中に、ドイツ職人気質が息づく。クッシュ社は、最新設備とテクノロジー、そして伝統に裏付けられた西ドイツの一流家具メーカーです。世界各国、数多くの主要施設への納入実績は、その高水準な品質を証明しています。



kusch + co

HOUTOKU

株式会社 ホウトク —— 本社・工場 〒485 愛知県小牧市上末東山3509番地190 TEL0568(79)3581

ホウトク販売株式会社 —— 中部支社 〒460 名古屋市中区錦2丁目15番22号(協銀ビル)TEL052(201)3531



SPACE
MAKE
SPACE

店・街・環境を創造する。

SPACE 株式会社スペース
本 社：名古屋市西区那古野2-2-1 〒451 TEL.052-565-1253代
東京 名古屋 大阪 香港 静岡・浜松・犬山・金沢・滋賀



National
松下電工

家一軒分の、
住まいの設備がご覧いただけます。

お宅に合わせてつくるオーダー感覚のキッチン
プラン17点をはじめ上手に収納できるアイディア
一杯の収納設備、最新の全身シャワーのできる
進化したシャワー、チラツキカットの
インバータ照明も豊富に展示ペンダントから
シャンデリアまで2,000灯用意しました。

松下電工名古屋ショウルーム
Life Sketch PLAZA

〒450 名古屋市中村区名駅南2-7-55 ☎(052)583-8281 午前10時～午後6時開館
無休(お盆・年末年始を除く) ●JR・近鉄名古屋駅、名鉄新名古屋駅より徒歩15分 P駐車場有り

'90 中小企業優秀新技術・新製品賞受賞

RENOVATION 吉田工法

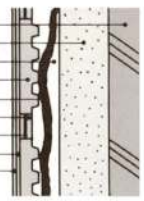
タイル復元。
超耐候性付与。

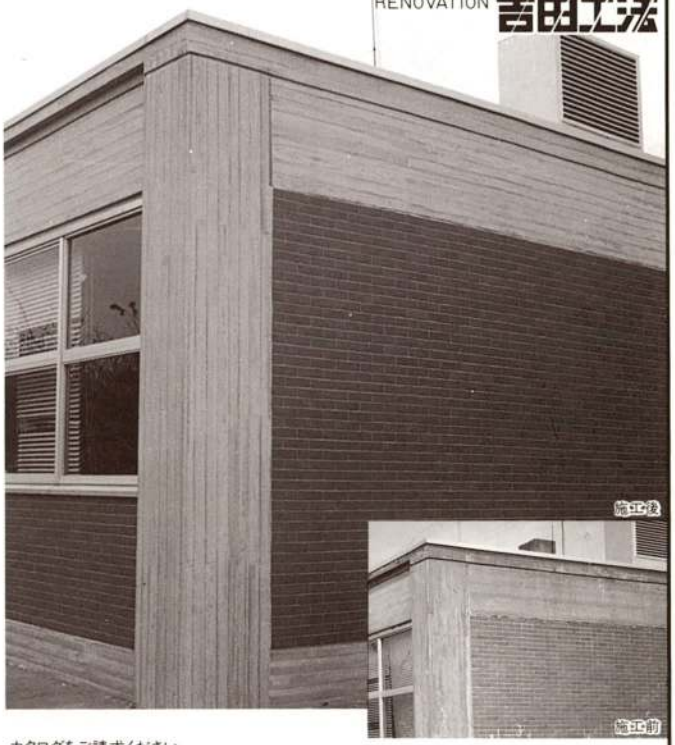
生まれ変わる美しい外壁タイル

外壁タイルの弱点を徹底的に追求し、その結果誕生した、吸収・柔軟・追従構造をもつトータルシステムです。劣化汚損した外壁タイルに強さと美しさを甦らせると同時に防水性と超耐候性を与え、さらに老朽化を防止。外壁タイル若返りシステムだけが可能とした画期的工法です。(PAT.P.)

●責任施工で10年間の保証付

工程の概要





超耐候性特殊弾性アクリルシリコン樹脂系仕上げ

外壁

タイル若返りシステム

カタログをご請求ください。

ニチエー吉田株式会社

本　社　〒435 静岡県浜松市上西町1314番地 ☎<053>464-2111 FAX<053>464-2117
営業所　東京 ☎<03>3718-7695　大阪 ☎<06>399-7958

好評発売中　サビ・型枠のあく用特殊洗浄剤　ケミカルエースR・H

新刊 全国書店で好評発売中！

木による TIMBER COMPANION 空間構造へのアプローチ

構造家としての空間認識の1手法を木造空間への適用の試みとトータルデザインの展開を描く。

今川憲英・岡田 章 共著　B5判　220頁　税込定価4,800円

建築技術者のための

建築構造問題快答集 14

建築構造設計に携わる技術者が実務の上で遭遇した疑問に対して、明快に回答する他に類書を見ないQ&Aシリーズ第14巻。

石黒徳衛 監修　A5判　296頁　税込定価3,800円

復旧事例による

耐震診断・補強設計の実務

既存および被災したRC建物の診断と補強計画・設計・施工のノウハウをわかりやすく解説。

建設省建築研究所
広沢雅也・山崎 裕 監修　A5判　572頁　税込定価8,500円

株式会社　建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 福西ビル
TEL. 03-5371-3811 FAX. 03-5371-8282

建築技術者必携の専門誌

建築技術 KENCHIKU GIJUTSU 4

3月18日
全国書店一斉発売
税込定価 1,240円

特集

最近のブレース構造

今回の特集では、ブレース構造の基本的な考え方から、超高層建築物にも使用できるようになった経緯を実際の建築物を例に解説し、また、国際的にはブレース構造はどのような位置に置かれているのか、ビジュアルに紹介します。

1. ブレースの一般的性質と使われ方
2. 意匠設計とブレース
3. ブレースの設計法
   - ▶小規模建物の引張りブレース
   - ▶大規模建物の引張り・圧縮ブレース
4. 最近の特殊ブレース構造
   - ▶偏心・アンボンド・高張力鋼ブレース，制震装置としてのブレース

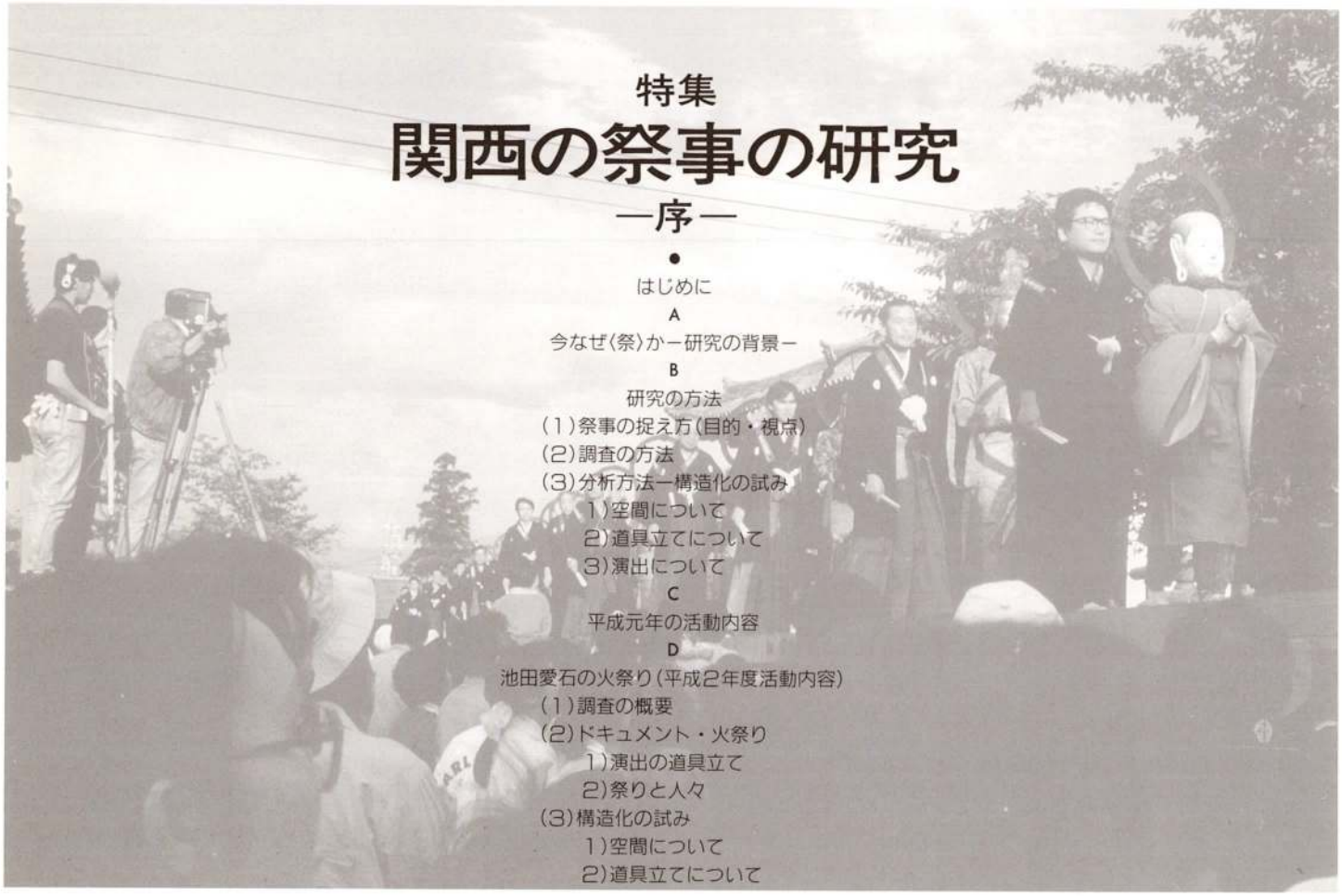
◉速報
1990年12月11日千葉県茂原市の竜巻による被害調査報告

◉鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱の制定にあたって

新連載　限界状態設計法
その可能性を求めて

●連載　高齢化社会の住宅
今後の高齢化対応住宅

●連載　新・固定モーメント法
コンピュータによる解析



特集

関西の祭事の研究

—序—

●

はじめに

A

今なぜ〈祭〉か—研究の背景—

B

研究の方法

(1)祭事の捉え方(目的・視点)

(2)調査の方法

(3)分析方法—構造化の試み

1)空間について

2)道具立てについて

3)演出について

C

平成元年の活動内容

D

池田愛石の火祭り(平成2年度活動内容)

(1)調査の概要

(2)ドキュメント・火祭り

1)演出の道具立て

2)祭りと人々

(3)構造化の試み

1)空間について

2)道具立てについて

はじめに

日本建築協会は1987年に創立70周年を迎えた。協会の事業委員会に所属する若い会員の集い小委員会では、70周年記念事業への参画を終えたのをきっかけとして、従来の活動についてあらためて考えようとした。具体的には、企画の発案および実施のあり方をより広い視点から捉え直そうと意見を交わしたのである。このような動きの中で、「研究会」が提案された。「研究会」の最大のねらいは、小委員会を構成する委員自身の勉強の場をつくり、情報交換を行うことにある。これは、多様な分野から委員を集めている本小委員会の特質を生かし、委員相互の連繋を深めようとすることにほかならない。

ところで、本小委員会の事業企画はこれまで協会会員や一般の人々を対象とした講演会、見学会など外へ向けた活動が主であった。それに対して「研究会」では当面、活動のあり方を継続的で息の長いものとし、その成果を内部で醸成しようと思っている。そして、節目に報告書を作成し、最終段階では対外的な事業企画へと発展できれば望外の喜びとするところである。

以上のような位置づけでスタートした「研究会」の第一テーマ『関西の祭事の研究』における最初の2年間の成果をまとめる機会が与えられた。現段階においては調査事例も必ずしも多くはなく、未消化の点も多々あると思われるが、この報告では暗中模索でやってきたこれまでの活動の軌跡を整理し、これから進むべき方向を探ることを意図した。

A 今なぜ〈祭〉か—研究の背景—

最近、頻発するイベントやフェスティバルの多様化に、全国的な関心の高さが見て取れる。花博を含め近年開催された様々な大規模博覧会やフェスティバル、また新しい文化・商業施設などが出来るたびに催される頻繁なイベント（コンサート、コンテスト、バザール等）から、地域の活性化、村おこしといった目的の地方イベントまで、この傾向は浸透し続けていると言えるであろう。これらは、いずれも、もともとエフェメールで、非日常的な空間として、より強い独自性をその表現形態に求め続けているのである。

一方で、現在ほど、人が、街が、それぞれに確かなアイデンティティの表現を望みながら、それを永続的に手にすることが難しい時代も稀かもしれない。人も街もその表現のために次々に出現するトレンドに追われ、トレンドと同じ速さで走れる言わば表現の遊牧民だけが価値ある存在であるかのような錯覚に陥ってしまいそうな時さえある。

しかし、確かなアイデンティティの表現を手にしたいと考える以上、ある種狂乱とも呼べるデザインの生成と消費といったトレンド洪水の図式の外に出ていたいという欲望もまた確実に膨張し続けているはずだ。

それゆえ、現在ほど逆に表現形態の一つとしての建築にもその空間や形態の意味、根拠が問われている時代もないのではないだろうか。言うまでもなく建築デザイン界においては、デザインの生成と消費の激化は、空間や形態の意味の解体や消去が主流である時期と重複して始まっているが、形態操作を含むこの類のゲームに飽きた者は、その眼差しを新たなる意味の発見や生成のフィールドに転じつつある。まさにこのフィールドを自らの拠って立つ場所にすることこそ、現在のトレンド洪水の図式の外に身を置くことであり、同時に空間や形態の意味、根拠に答えることにもつながってゆくのである。しかしながら、そうするための優れた方法論がいまだに確立していない以上、このことは意味の消去と解体のゲームに参加することほど容易なことではないことも明らかである。それゆえにこそこのフィールドは、想像力豊かな者にとってはいまだほとんど手付かずの沃野であろうし、自らの創造性の試金石たる場でもあろう。

〈祭〉はこのような今日的状況に対しての示唆的要素を豊富に内包して我々をいざなう魅力をたたえた存在である。なぜなら、第一に、祭りはまさに非日常の世界を現出してみせる優れたイベントであり、フェスティバルである。第二に、祭りは様々な共同体あるいは集団がエネルギーを傾けて行う自らのアイデンティティの表現そのものである。第三に、祭りはその表層を部分的に変えてきてはいても、骨子となる空間および形態と意味の関係は極めて安定的であることが期待されるからである。

幸運なことに関西すなわち我々の身近には実に多彩な祭りがいつもどこかで行われている。本研究会において〈関西の祭事〉に眼差しを向け、祭りの素晴らしさを実感すること、並びにその構造的解読を通じて、〈祭〉の内包するであろう上記の示唆的要素の一端に触れることができれば幸いと考えている。

B 研究の方法

(1)祭事の捉え方（目的・視点）

関西の祭事と一言で言っても儀礼的なものからレジャー的な要素の強いものまで幅広くあり、またその祭事の種類によって、規模・場所・主体等極めて多様である。それゆえに祭事への興味は尽きないものであるが、本研究会では一般的な祭事の紹介というスタイルから一歩踏み込んだ方法で調査し、祭事というものを構造的に捉え直すことを目的とした。そこでどのような視点で見ていったのかを少し整理すると、以下のようになる。

祭事の持つ諸相を捉える視点として〈内容〉と〈形式〉という二つに大別することができるであろう。ここでいう〈内容〉の側面とは祭事に内在する潜在的な背景のことであり、〈形式〉の側面とは、形象として現れる事物的対象のことである。

つまり、前者に関しては祭事の歴史的背景や社会的役割など、祭事を司る広範な信仰・習俗的な意味などを歴史・民俗学的見地などから捉え、また後者は祭事の場における空間の使われ方、仕掛けとしての道具立てやその装飾的特性などや、それらとともに展開する祭りのdrama性等の表面的に形に現れたものの演出的特性を、機能性や芸術性に着目して捉えることが必要となる。

なお、より視点を明確化・客観化・豊富化するために、民族学、民俗学、文化人類学、社会学、建築史、建築論等、関連する学問分野での成果を参照した。

〈祭事の諸側面〉

(A)内容（意味）

(1)歴史的背景
- 信仰（宗教）・習俗との関係
- 縁起来歴
- 過去の社会状況との関係…等

(2)社会的役割
- 生活の彩り（季節感・折り目節目の意識）
- 共同体の安定、活性化
- 伝統的文化の継承…等

(B)形式

(1)空間の機能
- 建物の使われ方
- 境内・参道等の使われ方
- 集落・都市空間等の使われ方
- 人の動き…等

(2)祭事の道具
- 仮設物、お飾り、行列等の配置とその諸特徴
- 形、色等の扱い
- locationの取り込み方…等

(3)演出のdrama性
- story性を内包するprocess
- 空間の様態の経時的変化（story性の演出）…等

(2)調査の方法

まず、実地調査として実際に祭りを見に行き、その〈場〉に身を置くことによって祭事の魅力を発見・実感することから始めた。

研究会としての客観的なデーターの収集という立場から、以下の事項を中心に整理・検討を行ったが、現場での調査に関しては、特にプロセスの観察・記録に重点を置いた。
- 写真・ＶＴＲ撮影のポイントの決定
- 調査項目の作成
- 建築・集落・都市空間、縁起来歴等の確認のための資料収集（文献、パンフレット、地図、配置・平面図等）

(3)分析方法—構造化の試み

この研究は主に祭事の「形式」的側面に絞ることとしたが、祭事を特徴づける諸要素の構成を独立した形で取り出し、これらを再構築することで、新たな祭事のイメージの喚起を期待できるレベルまで祭事を解体（＝構造化）してみたい。そのために、空間・道具・演出の３方向から追ってみた。

図—１に、予備調査した祭りの中から原の蛇祭りを取り上げて試みた構造化の事例を示す。

1）空間について

まず祭事の行われる場を平面的に見ると、街路を舞台とした直線型のものや、神社の境内の場合の広場型、さらにその融合型に分けられよう。地形的・断面的に見ると、山と平野にまたがっているもの、陸上と水上、街中と郊外、さらには一時屋内に入るものもある。平面形状が同じであっても、街中であれば空間的に閉ざされている度合いは当然高く、そこでのパフォーマンスも単なる移動ではなく、観客を意識して演出されてくる。

環境的要素については、主に音と明るさについて注目したい。太鼓や笛の音は、観衆のざわめきとあいまって周辺の車や電車等の騒音をマスキングし、一種の非日常的雰囲気をつくる。祭事の際の色彩は、松明や幟・提灯などの色めいたものが浮かび、そのほかの町並みは沈んで見え、ここにも一種のマスキング効果が見られる。

そのほかには、以上の空間的な特徴から「聖と俗」等の概念との対応に注目していきたい。このような対立概念としては、「動と静」「生と死」「善と悪」「明と暗」などが考えられる。

2）道具立てについて

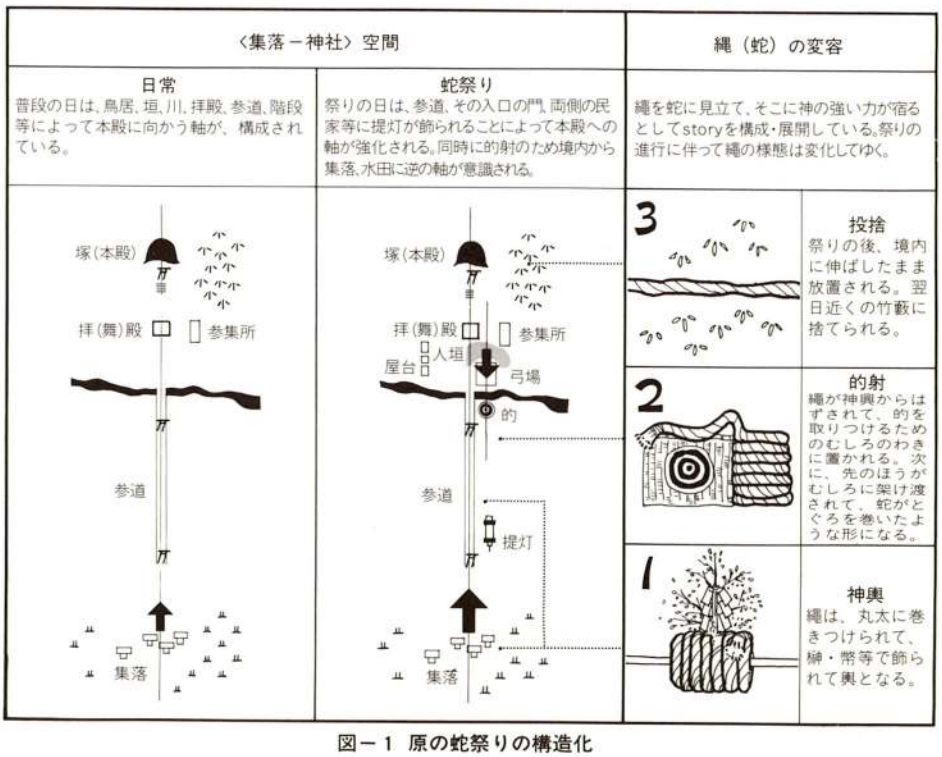
道具について考察するに当たって、登場する人物もその一つとみなし、まとめて考える。道具の種類は、生物（人間・神・動物）と非生物に分けられるが、いずれも祭事の中での位置づけによって主役となったり脇役となったり様々である。また、脇役でも先導役を果たしたり、最後の締めくくりとなったりする。非生物でもそれが移動する場合と、建築物のように装置として固定された物がある。これらの道具がどのように配置されているのかも注目すべき点で、直線状、同心円状、ランダム等であるが、それは祭事の中での道具の役割を表現し、鳥居や橋などは「聖と俗」等の空間の結界としての役割が前段より明確になる。道具の大きさや形状も動きの中で変化する場合もあり、それが祭事に関係している。

3）演出について

プロローグに始まりクライマックスを迎えやがて終わりにいたる一連の流れと抑揚を捉えてみたい。祭事にはこれらの起伏の激しいものや、非常にゆるやかな調子を続けるものなどがあろう。そして、この流れの中にstory性を持つもの、さらにそれが宗教性を反映しているものなどもあろう。

動き自体を見ると、それが直線的なのか回転するのか、速く激しい動きなのかゆっくりしているのか、動きの始まるのがどこの場所なのか、つまり動きの位置・方向・大きさについて見てみたい。これは、空間の意味とも関係し、行列が山から街へ下りてくるとき、「聖」から「俗」への下降指向、逆であれば上昇指向が伺える。

祭事の演出の中で、「日常と非日常」についても触れる必要があろう。祭りに参加して、あるいは見物して感じる精神的高揚は、この「非日常」的舞台に接することなしには考えられず、演劇やコンサートから受ける感動と共通している。鐘の音や松明の明かりなどの通常接することのできない状況、無数に続く提灯の列などの仮設物を通して、われわれに「非日常」を感じさせてくれる。



図－１ 原の蛇祭りの構造化

1 原の蛇祭り

場所：大阪府高槻市原　八阪神社
月日：4月第一日曜日（元旧暦2月8日）
祭神：素盞嗚尊（須佐鳴命）

祭りの概要：毎年4月初めに行われる「綱引神事」である。ワラで直径25㎝、長さ30ｍもの大綱を作って大蛇に見立て、村中を練り歩いたあと、弓で射止める。その昔、神社の西北、阿路ヶ谷の原ヶ池に住み、村人を悩ませた大蛇を八阪神社に祈願して退治したという故事にちなむ。明治時代以前は、境内を流れる川をはさんで上下に分かれ、大綱が切れるまで引き合ったという。古い習俗を今に伝えるとともに、出雲地方（島根県）の神話との関係をしのばせる貴重な神事である。





●法被姿の人達に担がれた神輿は、公民館を出発。
●紋付き、袴の人達に先導され、田園風景の広がる原の集落を八阪神社へと進む。



●参道を前後で押し合い、行きつ戻りつしながら、14：30鳥居前に到着。
●神主の出迎えを受け、袴と紋付きの人達は、神主と共に参集所に入る。
●参集所内では、祝詞が唱和され、酒が振る舞われる。



●その間、法被の人達は、神輿から縄をはずして的場に設置した後、参集所の外で待機する。
●15：00　法被の人が、的を掲げて参集所から走り出て、的場のむしろの上に設置。



●神主と袴の人達が的場の囲いの中に入り、所定の位置につく。
●片肌を脱いだ袴姿の射手が、子供に手渡された矢を、2回ずつ的に向かって射る。二組がこれを、交代で3回繰り返す。
●16：00　祭りのクライマックスも終わり、的は参集所へ戻され、縄は拝殿脇で伸ばされる。
●紋付き、袴、法被の人達が鳥居を出て、祭りは終了する。

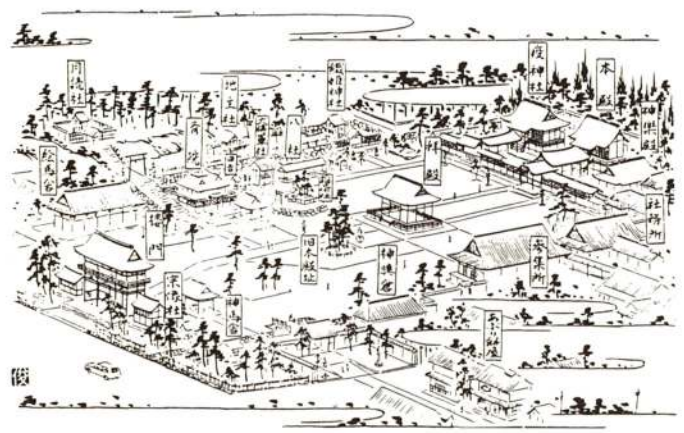


2 やすらい祭り

場所：京都市北区紫野今宮町21　今宮神社
月日：4月第二日曜日（元旧暦3月10日）
祭神：大己貴命（おおなむちのみこと）、事代主命（ことしろぬしのみこと）、奇稲田姫命（くしなだひめのみこと）

祭りの概要：疫社疫神社の祭礼であり、「夜須礼祭」ともいって、歴史的に由緒深いものである。また民俗芸能上も重要な祭りであって、「太秦の牛祭」「鞍馬の火祭」とともに『京の三奇祭』の一つとされてきた。この祭りの行法は、花の精にあおられて陽気の中で飛散するという悪魔の精霊を、囃子や花舞によって追い立て、花をあざむく風流傘に宿らせ、紫野社（今宮神社）に送り込み神威を仰いで降伏させるというものである。





神社境内図（「新撰京都名所図絵」より）

●12：00　行列に参加する人達は、様々な祭り装束を身にまとい、町内の待機所に集合する。



●行列は今宮神社に向かって出発。「先立ち」「鉾」「御幣持ち」（狩衣を着た祭りの代表者）「督殿」（練り衆の指揮者）「羯鼓」（神子、子鬼ともいう。赤の長髪をつけ、烏帽子を被り、緋の小袖・白袴を着用、羯鼓という小鼓を持つ）「羯鼓まわし」（羯鼓の介添役で袴を着用）「大鬼」（赤と黒の長髪、それぞれ2人ずつ、白衣・白袴・緋の大袖様をつけ、赤鬼が太鼓、黒鬼が鉦を持つ）「花傘」「音頭取り」「囃子方」と続く。



●14：00　今宮神社へ入場する。疫社殿、本社殿の前で幣を捧げ、鎮疫祈願を行う。



●本社殿前、拝殿横の2ヵ所でやすらい踊りが奉納される。
●輪になって、音頭取りの唱詞に合わせて、太鼓・鉦を打ちながら跳踊する。



3 当麻の練り供養

場所：奈良県北葛城郡当麻町当麻　当麻寺
月日：5月14日（元旧暦3月14日）

祭りの概要：「当麻寺お練り」「当麻れんど」「迎講」とも呼ばれるもので、寛弘2年(1005)に比叡山横川の恵心僧都が「当麻曼荼羅を帰依し、中将姫の昔を慕って聖衆来迎の有様を見んがために、25菩薩の装束と仏面を作って、寄進したのに始まる」と伝えられている。曼荼羅堂を西方極楽に擬し、その東方にある沙婆堂を人間界とし、その間に長さ約150mの来迎の橋を仮設として渡す。その橋を渡り輿に乗った中将姫と25菩薩が現世の沙婆堂へ来迎し、再び極楽浄土（曼荼羅堂）へ帰っていくという儀式である。




神社境内図（「大和名所図絵」より）

●曼荼羅堂から沙婆堂に向かい、約150mの橋が架け渡されている。
●14:00 輿に乗った中将姫が曼荼羅堂より現れ、1人の僧侶と2人の稚児に導かれ、橋を渡り沙婆堂に入る。



●仏面をつけた人達（氏子）が踊りながら橋を渡った後、動物のような帽子を被った僧侶達が沙婆堂に向かう。



●化粧をした稚児が母親に手を引かれ橋を渡った後、様々な面を付けた25菩薩が、羽織袴の人に手を引かれて続く。



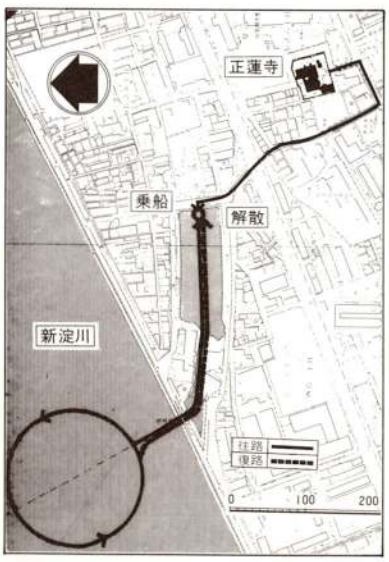
●特設の舞台で雅楽が奏された後、先ほどの逆の順で沙婆堂から曼荼羅堂に向かって帰ってゆく。
●後に、中将姫の輿が沙婆堂から出て、再び橋を渡る。折しも背後の二上山に太陽が傾き、真っ赤に染まった夕陽に向かう中将姫の姿が、人々の感動を誘う。



4 正蓮寺の川施餓鬼

場所：大阪市此花区伝法　正蓮寺
月日：8月26日

祭りの概要：享保6年(1721)、正蓮寺第七世寂行院日解上人により、日蓮大聖人が海中にて衆生済度された功徳を継承せんとし、川供養の行事を始められたのが今の伝法の川施餓鬼である。日本三大川施餓鬼のうち、現存する唯一のもの。創始以来、正蓮寺川に棚を作りいろいろな供物をして有無両縁の万霊を供養してきた。現在、奉賛会が運営協力している。摂津名所絵図には、数百艘の船団で参拝者が群集するさまが描かれている。陸では数百の露店が名物を商って賑わい、天神祭を凌ぐほどの、大阪の夏を締めくくる行事である。





●10：00より始められた御興庫における読経や本堂における説教、法要を終え、15：00御興行列は正蓮寺を出発。



●行列は、住職を中心に、信者が経文を唱和しながら新淀川へ向かって市街地を進んでいく。
●道路沿いには、南無妙法蓮華経の旗が連綿と立ち並んでいる。



●行列は、新淀川へ至る水路に設けられた船着場に到着。
●南無妙法蓮華経の旗が立てられた渡船10数隻に分乗する。



●船は、新淀川に入ると一列となって、大きな円を描きながら、何千枚というお札を川に投げ入れる。
●船内では経文を唱え、太鼓を打ち鳴らす。
●16：10　船は元の水路へと戻り、祭りは終了する。



C 平成元年度の活動内容

研究会を始めるに当たって、初年度は、「研究の方法」の骨子を決めることが目標となった。具体的には、第一に、アウトプットとして提示してゆくもののイメージを明確化すること、第二にインプットとかかわる調査項目をはじめとする調査方法のマニュアルおよび一次調査データーのストックのためのフォーマットの作成の検討である。いうまでもないが前者を固定化し過ぎることは包括的な祭りの面白さを見落とすことになりかねず、同時に後者の内容とも直接かかわることでもある。

そこで、祭事を観る体験を各メンバーが重ねることと同時並行してこれらの検討を行うという方針で、予備調査として6事例の祭事の調査を行った。そのうち4事例は前頁に紹介した。このことを通じて、構造化の概念と記述方法のモデル(図－1)の提示、「形式」的側面からの祭事のカテゴライズの必要性、プロセスの観察重点型の調査スタイルなどが主な成果として得られた。

(〈平成元年度「関西の祭事」研究会調査報告書〉を作成)

D 池田愛宕の火祭り －平成2年度活動内容－

(1)調査の概要

予備調査を通して明らかになったことは、調査方法とその分析方法の整理であった。そこで本年は、それらの確立のためのサンプルとなるべき祭りを一つ選び、集中的調査を行った。選択に際しては、少人数によっても手におえる規模、本調査に入るまでに事前調査の期間が持てること、開催場所が比較的近いことなどが選択の基準となり、その結果、池田愛宕山の火祭りを採用することになった。

事前調査は、祭りの全体像の把握と、祭りの流れの中でのキーポイントとなる地点・時間の拾い出しが目的であった。そのために現地視察のほか、池田市役所や池田歴史民俗資料館にある文献などの資料収集と、実際に祭りを運営する主催団体会長の岡本純男氏と歴史民俗資料館の田中晋作氏から祭りについてヒアリングを実施した。岡本氏からは、祭りの時間的流れや道具・衣装等の詳細と祭りの記録ビデオ、田中氏からは、歴史的経緯や位置付けなどを伺った。本調査ではこれらの情報を基に、主要ポイントとポイント間ごとに予め調査カードを用意し(**図－3**)、そのほかカメラやビデオなどとあわせて祭りの状況を取材した。

この祭りは、池田市市街地北側の五月山山腹にある愛宕神社を起点として、大工姿の大勢の若者が担ぐ大きな松明を中心に、鐘や子供松明などが列をなして市中を練り歩くもので(**図－2**)、その起源は江戸時代まで遡る。当時から池田は交易の要所として栄え、そこで業を営んでいた多田屋ほか4人の商人が五月山山腹に愛宕を祀ったのが始めとされる。やがて、本家である京都の愛宕神社から、祭りの開催についての断りのなかったことに対してクレームがつくこともあったようだが、本来商人が起こした祭りでもあり、合理的に対処しながら今日に至っており、宗教上の色彩を重んじた権力者の儀式というより、市民のお祭りと言えそうだ。



図－2 行列の順路



図－3 調査カードのサンプル

(2)ドキュメント・火祭り

本調査の結果を以下にしめす。ここでは、なるべく客観的に事実を表現することを心がけ、とくに時間的な流れとの関連がわかるように、祭りの行程をいくつかの区間に分けて記録した。

SCENE 1 出発式会場

空間

●池田城跡の緑の空間を背にした城山町内の空地(ガレージ)が出発式の会場となる。

●式典の進行に必要なマイク、スピーカー、パイプ椅子などが並べられているだけで、特に装飾は施されていない。しかしながら、祭装束に身を包んだ大勢の人々が集まり、会場は祭りの前の静かな活気が漂っている。

道具

●行列に使用する大松明、小松明、八丁鐘等の道具は、付け替え用松明を除き、すべて会場に集められている。

●会場周辺の道路沿いに、一定間隔で提灯が立てられる。地蔵盆が同日開催され、提灯が灯された街角の地蔵堂が祭りのムードを盛り上げている。

演出

●午後5：00前になると、大工姿の大人や子供、そして法被姿の女性達が会場に集合。

●5：10から保存会の会長をはじめ、市長、市会議員などの来賓の挨拶があり、功労者に対する表彰式の後、記念撮影を行い、5：40頃から子供、女の子の順に出発。大松明4本は油かけ地蔵、小松明2本は油かけ地蔵を経て愛宕神社へ…



SCENE 2 愛宕神社

空間

●愛宕神社の拝殿には、しめ縄が飾られ、護摩壇の前には小松明が「ハ」の字型に置かれている。

●境内には食事など接待の用意がされている。

道具

●神火の源となった護摩焚きをした場所はすでに柵がされており、元通りとなっている。

●神社石段の両脇の檜の枝が若衆によって払われている。この枝は行列の際、松明を担ぐ人に落ちる火の粉を払うのに使用する。

演出

●松明の担ぎ手の若衆達は境内に到着すると、世話役や法被姿の女性達により酒や食事が振る舞われ、行列の準備を行う。

●6：20　会長、世話役は本殿に、松明を担ぐ若衆は拝殿に入り、神主からお払いを受ける。

●6：35　神主が本殿の神火をロウソクに移し、拝殿内の護摩壇の肥松に移す。その火に、3人の若衆に担がれた小松明2本が順に点火される。

●6：45　「ワッショイ！」の掛け声と八丁鐘の音とともに、50～60人の行列が提灯、八丁鐘、御幣を先導に、2本の小松明が愛宕神社を出発し、秀望台へ下る。



SCENE 3 秀望台

空間

●秀望台：五月山の中腹、標高140ｍ付近に設けられた、池田市街から猪名川をはさみ川西市方面を望む展望台と、その下の斜面が大一文字のかがり火の舞台となる。

●見物客は150人にも達し、松明の行列を待っている。周囲は暗くなり、展望台からは、池田、川西市街の美しい夜景が広がる。

道具

●道路脇には、火の点火やその後の運営を行う世話役の老人と、火災予防のため消防車が１台待機している。

演出

●６：55　掛け声と鐘の音が近づき、パチパチと肥松の燃える音とともに小松明が到着。地面に置かれた肥松に火を移し、油かけ地蔵へ向かって下山する。

●点火の時間までの間に、かがり火の火種となる肥松に石油をかけて、大一文字の準備を整える。

●７：30　世話役の人達により、小さな松明にて大一文字が点火される。周辺は火と煙で騒然となり、見物人からは歓声が沸き上がる。



SCENE 4 油かけ地蔵

空間

●五月山の麓の細長い階段を下った所に、石垣に沿うように油かけ地蔵の祠があり、その前で小松明から大松明への火の付け替えが行われる。

●暗く細長い路地の一角に、地蔵尊の提灯が灯され、小さな祠が一つ浮かび上がっている。

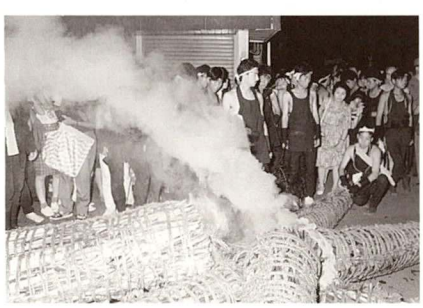
道具

●大松明はすでに、油かけ地蔵前に運ばれてきている。

演出

●２本の小松明が地面に置かれ、その上に４本の大松明が頭を合わせるような形で置かれ、火の付け替えが行われる。

●松明が燃えすぎないよう水がかけられ、火の勢いが調節される。



SCENE 5 呉春前～新田建材前

空間

●池田の旧市街地は、現在も古い町家が数多く残っており、道路の幅員も非常に狭い。その両脇に多くの見物客がひしめいている。

●小さな箱型の行燈を玄関にかざしている。

道具

●人型に組まれる２本一組の大松明は、20人の若衆により担がれる。

●５～６人の若衆に支えられた１本の大松明は、青竹の先にＹ字型金具のついた支柱でバランスをとり、人型に組まれる。

●一番下の部分にはロープが縛りつけられており、これを別の若衆が引っ張り、地面をこするようにして行列が進んでいく。

演出

●先が太く重い松明は何度も倒れそうになりながら、民家の軒先を炎がかすめていく。スリル満点であり、見物客をはらはらさせ飽きさせない。

●松明の先端から弾けた大小の火の粉が、上半身裸の担ぎ手の上に降ってくる。これを、檜の枝で年少者が払いのけるのだが、一度に払いきれない。「あつい！」という絶叫が何度も上がる。



SCENE 6 新田建材前

空間

●府道箕面池田線沿いの建材店の前に、大松明を付け替える場として、付け替え用の２本の大松明や、火を消すためや勢いを調節するための水が用意されている。

●道路は特に交通規制が行われていないため、交通警官が懸命に車と見物人の整理に当たり、松明を誘導する。

道具

●新しい松明に比べると、古いものは燃えてかなり短くなっており、約３ｍぐらいとなっている。

演出

●８：20　火の付け替えは、路上に倒した状態で、先と先とを合わせる形で行われる。

●その間に見物客の中から、燃えかすを拾う人がいる。家に持ち帰ると御利益があると言われる。

●道路沿いの民家の２階の窓や、通りすぎるバスの窓から、この様子を見物する人々もいる。

●鐘の音や掛け声などの喧噪の中で繰り広げられた行列も、しばしの休息の時を過ごしている。

●寿司屋の店先では、担ぎ手に酒やビールが振る舞われ、祭りのムードを盛り上げる。



SCENE 7 駅前～市役所

空間

●駅前から市役所にかけては、行列のコースの中で最も華やかで、広域性の高い場所として位置づけられる。

●暗やみの中を練り歩いてきた松明が、急に明るい空間（駅前）に登場し、その全貌を明らかにした感がある。

道具

●駅前の広場は一時的に火祭りの舞台となり、そこに架かる歩道橋は観客席となる。こうして広域的なポテンシャルを持つ場に仮設の劇場が作りだされる。

●駅前の照明の強さにより、松明の火の大きさは半減したかのような印象を受ける。

演出

●８：50　交通規制の問題から、二組の松明のうち、駅前広場を通ったのは一組だけで、もう一組みは直接市役所へ向かう。この選択は、愛宕神社出発時にジャンケンで決められる。

●「祭り」といえども交通信号を守らなければならず、安全面から松明を倒して国道を横断する。



SCENE 8 市役所～城山町ガレージ前

空間

●広域性のある場から、再び町内に戻ってきたような印象を受ける。

●スタート地点がゴールとなって松明を迎える。見物人も町内の人々の割合が多くなり、アットホームな雰囲気となる。

道具

●市役所にて、子供松明、高張り提灯等の行列の道具が待機しており、全員が集合しフィナーレを飾る。

演出

●９：15　高張り提灯を先頭に、子供松明や鐘に先導され、大松明がゴールのガレージ前へ向かう。

●担ぎ手は疲労困憊で、全身汗と煤にまみれている。最後の力を振り絞りゴールイン。大きな歓声が沸き起こる。（９：40）

●９：50　一組を城山町内の地蔵尊へ、一組を作業場へ運ぶ。火を消す前の松明から、大勢の人が火を持ち帰る。

●10：00　作業場内で乾杯が行われ、宴が催される。



1）演出の道具立て

火祭りに用いられる道具や、その演出に関する分析を通して、祭りにおけるそれぞれの意味や役割等の考察を行う。

1.行列の構成

大松明を中心とした祭りの行列は、次の５つの要素から構成される。（行進順）

①　高張り提灯

長さ４ｍの竹竿の先に「御神燈」と書かれた箱型の提灯が付けられており、行列の先導役として重要な役割を果たす。

②　竹松明（子供松明）

長さ1.3m ほどの竹の先に布が巻かれ、火が灯される。紺の腹掛けに豆絞りという出立ちの子供40人によって掲げられる。

③　半鐘

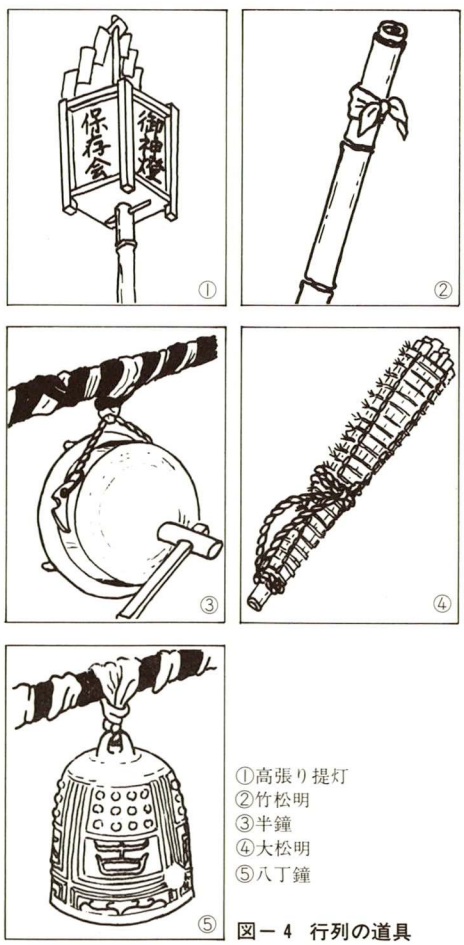
直径約15cmから24cmの合計18挺の鐘が、１挺につき２人の子供によって担がれ、カンカンとけたたましい音が打ち鳴らされる。松明が近づいてきたことを知らせる役目を果たす。

④　大松明

直径約60cm、長さは４ｍにも及ぶ。中心部には、肥松と呼ばれる脂が多く火持ちの良い松の根が用いられ、その周囲を松材でとり巻き、縄で縛って作る。愛宕神社から市街地まで、神火を下ろすのに用いられる小松明は、構造は大松明と同じで、長さが２ｍほどである。これらに使われている肥松は年々減少の一途を辿っている。

⑤　八丁鐘

高さ約30cmほどの釣鐘であり、２人の子供によって担がれる。音は半鐘よりも低く、ガーンガーンと、行列のしんがりで余韻を残すように響く。



①高張り提灯
②竹松明
③半鐘
④大松明
⑤八丁鐘

図－４　行列の道具

2.装束

松明を担ぐ若者達の装束は、昔の大工の装束を基本としており、「手甲」「腹掛け」「モモ引き」「地下足袋」「豆絞り」の各部から構成されている。これは、昔、池田に大火があった際、消火に街の大工などが活躍したことに由来すると伝えられている。上半身はかなり素肌の露出部分が多く、火傷が気遣われるが、不思議と大事には至らないと言われている。

3.大一文字かがり火

合計32基のかがり火は、市街を見下ろす山腹に設置されたコンクリートの基礎に固定される。火種は松明同様、肥松が用いられており、極めて強烈な炎を発する。全部のかがり火が点火された際、その熱で周囲に風が起き、その風がさらに炎を煽るという現象が起こるほどである。



大一文字かがり火

2）祭りと人々

祭りの主役は、松明とそれを担ぐ若者たちであるが、その運営については、城山町の人々を中心に、非常に多くの人によって支えられている。当祭りの直接運営に当たるのは「池田五月山大文字がんがら火保存会」（**表－１**）であるが、実際には、接待や護符の配布等の活動面で、町会や婦人会などの協力を得ており、城山町民あげての大イベントと言ってよい。

しかしながら、近年多くの地域でも見受けられるように、当地域においても若年層の人口流出により、担ぎ手の不足に悩まされている。高校の運動部の学生を対象にアルバイト募集をしても定着性がなく、熟練を要する担ぎ手は年々減少する一方のようである。このため、城山町から他地域へ移った城山町ＯＢの若者が当日松明を担ぐために里帰りしていると聞いた。

表－１　池田五月山大文字がんがら火保存会

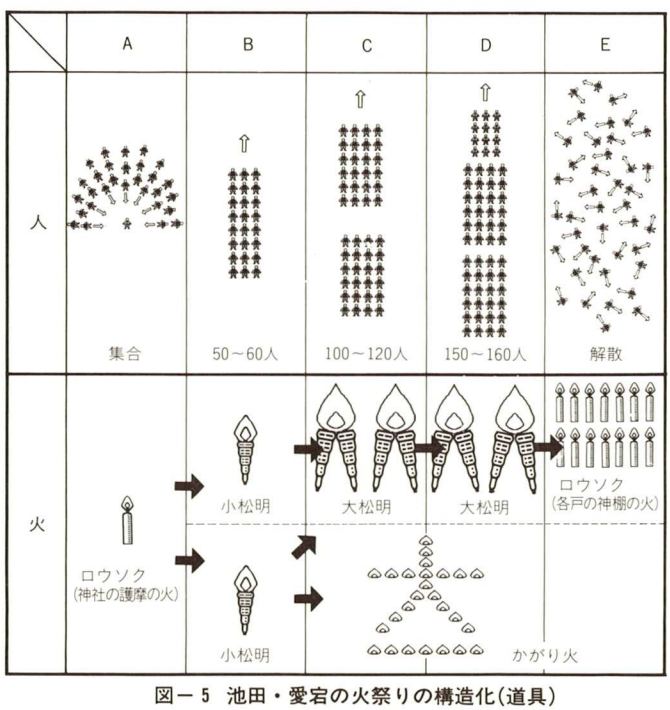
会長	
副会長２	
会計１	
会計監査２	
火祭り委員10（城山町内）	
顧問１	
相談役２（うち１　綾羽２丁目子供会会長）	

社会構造が急変していく中、かつて存在した、長老を頂点とした縦型コミュニティーは次々に崩壊しつつある。祭りの非日常性を探る調査の中で、昔の縦型社会の復活とも言える地域コミュニティーの非日常性に出合った。そこでは、長老はあくまで威厳に満ち、若者は逞しく、女性は甲斐甲斐しく思われた。そのような社会形態を全面的に肯定するわけではないが、「若者と肥松がなくなるときが、池田の火祭りが終わるときです」と語った保存会会長の言葉が印象的であった。

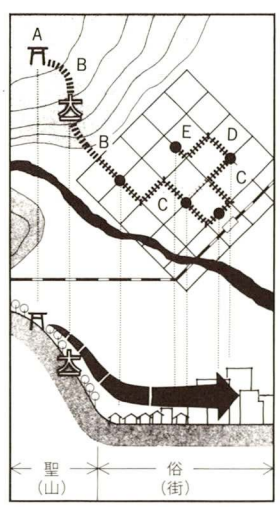
(3)構造化の試み

1）空間について

池田愛宕の火祭りの場合、祭事空間を極めて明瞭に提示することができる。すなわち、地形的に言えば山と平野である。それは、最初に山頂の愛宕神社から御神火を拝受する聖なる場としての山と、松明を持って練り歩き、市民がその御利益にあやかろうとする俗の場としての平野（街）とに対比される。断面的に見れば、高から低への移動であり、聖から俗への下降指向に対応すると考えられる（**図－６**）。さらに、夕暮れどきに開始されるこの祭りには明と暗の対比も見られる。松明によってあかあかと照らしだされた街並みのうしろ



図－５　池田・愛宕の火祭りの構造化(道具)



図－６　池田・愛宕の火祭りの構造化(空間)

松明の行列が山を下って街を練り歩くのに伴い、行列の形・人数、火の形・大きさが変化してゆく。

には、暗闇が控えている。あたかもスポットライトを浴びるがごとくして出現するこの祭りの場は、非日常的な舞台として、日常的な空間から切り離される。また、前掲のドキュメントにもあるように、松明練り歩きの途中で駅前の歩道橋が、詰めかけた観客にとって臨時の桟敷席に早変わりしたことなども、空間の日常から非日常への変化の一例として挙げることができる。

このように、池田の火祭りにおける空間の役割を対立概念として捉える視点のほかに、空間を単体で捉えて、それが祭りの中で果たす役割について考える見方がある。すなわち、上に述べた愛宕神社は松明が出発する儀式を行う聖なる場であり、松明の終着点である町中の祠も同様の役目を担っている。また、松明の火を大一文字のかがり火に点火する秀望台にも鳥居が置かれ、聖なる場としての意味あいを有している。さらには、小松明から大松明へ点火される油かけ地蔵も同様である。すなわち、これらの場所は、それが従来持っている本来的な役割を果たすことで、祭りの中においてキーポイントを占めているのである。一方、俗なる場の街中でのキーポイントはどこであろうか。松明練り歩きの途中で休憩をする数カ所は、松明の担ぎ手に水を供給できる特定の商家前や市役所であって、空間が有する本来の役割との関係は希薄であり、聖なる場よりもむしろ融通性に富むように見える。

以上に述べたポイントとしての空間に対して、練り歩きの街路はリニアーな舞台空間として位置づけられよう。

2）道具立てについて

池田愛宕の火祭りは、大一文字のかがり火と松明行列という二つのイベントによって、テーマの主体である「火」が表現されている。これについては、京都の大文字の送り火と鞍馬の火祭りの複合型として捉えることが出来よう。この二つの火のイベントについては、演出効果や役割分担において、非常に巧妙な組み合わせがなされている。

前者は、かつて「大阪平野からも眺めることが出来た」という記録にも見られるように、当祭りを極めて広域的にアピールし、その存在を知らしめる役割を果たしている。これは、農村の収穫祭に見られるような、特定地域内で完結する祭りとは一線を画しており、コマーシャリズムに則った、商人を中心に考案された祭りならではの演出として受けとめられないであろうか。

後者の松明行列については、「地形」「火の形態」「火と人々との距離感」等の各要素を、時間の流れに沿って巧みに変化させ、聖から俗へと展開する強いストーリー性を演出している（**図－5**）。

最初、聖域である山の上で点火された小さな神火は、民衆からは遠い存在である。それが、若者に担がれ山を下りると同時に、護摩から小松明、そして大松明と、その形態を増大させていく。そして遠い存在であった神火は、次第に人々に近しい存在となり、やがては火片を家に持ち帰ることにより、神火を所有するまでに至る。そして、この神火の態様の展開に合わせるように、火を取り巻く人々も、人数や行動形態を次々と変化させてゆくのである（図－5）。

このようなドラマチックなストーリーを展開させるため、様々な工夫が随所に施されている。一例を挙げると、大一文字のかがり火の点火と、小松明から大松明への火のつけ替えは同時に行われる。これは、神火が俗域に下りたことを、より象徴的に表現するための工夫であると言えよう。

また、祭りの雰囲気を盛り上げる音響効果については、明解なコンセプトを鳴り物の道具の設定に感じとることが出来る。一般に祭の鳴り物として登場する笛や太鼓は、池田の火祭りに限っては一切用いられていない。これは想像ではあるが、暗い街の中を巨大な火の塊が練り歩くさまを、火事場のシーンとオーバーラップさせ、そのシーンを盛り上げるのに最も適した道具として、半鐘が選ばれたように思われる。「火事と喧嘩は…」ではないが、暗闇の中に燃え上がる炎と舞い上がる火の粉は、真に、夏の夜に咲いた華のような印象を与えるのである。

今後の展望

全国的に見ると、毎日どこかでなんらかの祭事が行われている。対象地域を関西に絞ってもほぼ同じことが言える。また、近年、都市部やニュータウンで祭りの復活や導入がなされたことを耳にすることも少なくない。祭事には、商業ベースや行政主導のイベントにはない、人の心を刺激する何かがあるのではなかろうか。

これまで祭事は主に民俗学、歴史学などの分野から研究されてきた。我々は祭事の非日常性の魅力を、空間にかかわる立場から探ろうとしている。具体的な手法としては、これまで述べてきたように、空間の機能・道具立て・演出といった側面に着目して、祭事空間の構造化を図ることから始めた。しかし、その試みは緒についたばかりであり、このような手法で祭事の魅力がつかめ、有効な構造化が図れるかは必ずしも明らかではない。今回、第一報を報告したのも読者のご批判をあおぎたいという意図もある。今後我々は、いくつかの祭事の現場調査を通じ、我々の立場における祭事研究の手法の合理化と確立を図りつつ、第二、第三報と続報し、構造化のさらなる追求を進めていく予定である。

その過程では、祭事にかかわるいろいろな立場の人達との交流や講演会を企画したいとも考えている。そして、最終的には活動の成果に基づいて新たな祭事の企画・開催を試みたいとも思っている。

本報告を作成するに当たり、研究会メンバーの龍野豪利氏、竹内利明氏、宮崎良彦氏のご協力をいただいた。記して謝意を表す。

本特集企画
事業委員会・若い会員の集い小委員会
関西の祭事研究会
主査／**大森智子**
委員／**久村宗憲、田中　康、藤記　真、宮野道雄**

構造の頁

190 床の制振

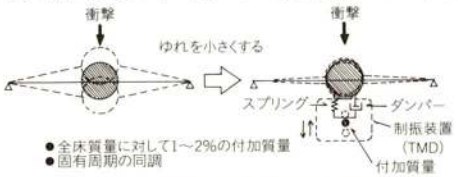
岡本　達雄

近年、建築物の大スパン化に伴って床の有感振動対策が重要な問題となりつつある。これを解決するために、従来は床梁の剛性をあげる手法を取るのが一般的であったが、これは鋼材量と梁成の増大を伴い、建築計画上の制約となっていた。また用途の多様化に伴いエアロビクススタジオ・体育館等の振動源を有する部屋と会議室・宴会場等の振動を嫌う部屋を同一建物に配置したいという要求を満足しなければならない場合も出てきており、より有効な振動対策手法が求められていた。

これに対して、筆者らは、チューンドマスダンパー（TMD）を用いた制振技術を実用化することによって、この問題に一つの解決策を見いだした。

TMDを用いた床制振の原理

振動する物体に、その物体の質量の1～2%程度の付加質量を取り付け、付加質量の揺れ方をその物体の揺れ方に合わせる（すなわち両者の固有振動数を合わせる）と振動が著しく減衰する現象は古くから知られており、日本でも戦前にゼロ戦の翼の振動対策として使われた話は、ゼロ戦の開発逸話に登場している。この原理を**図－1**に示す。



図—1 TMDを用いた制振装置の原理

近年、この原理を建築に利用して建物の地震時、暴風時の横揺れを低減する技術が実用化され、多くの実例を見るに至っているが、これを床の鉛直振動対策に応用した例は、いまだ多くはない。しかしこの鉛直床振動対策が、床版や、床梁の断面設計に与えている影響を考えると、この床制振技術の実用化は、大スパン化、多用途化やデザインの新分野が求められる今後の設計に、新しい可能性を与えるものになると思われる。

床制振技術実用化のための目標

床制振技術を建築構造物に適用するにあたり、目標とすべき項目として、次の3点が考えられる。

1．大スパン梁の梁成を低減する

大スパンの床を支える梁は、強度よりも剛性で決まるといわれてきた。これは、床の振動障害が問題となるからである。この床振動を克服できれば、この梁は強度で決まり、高強度の材料を使えば梁断面を小さくすることができるわけだ。このことによって梁成を小さくできれば、ビルの階高が小さくでき、建築計画上、また経済性の面でも大きなメリットがある。

2．床荷重等の変動に対応できるようにする

TMDを用いた制振は、床の揺れ方と付加質量の揺れ方が一致していることが必要だが、積載荷重の変動や模様替えによる機械振動の変化等により、これがずれる場合がおこり得る。このずれを修正できるように制振装置に調整機構を持たせることができれば、この問題は解決するわけだ。

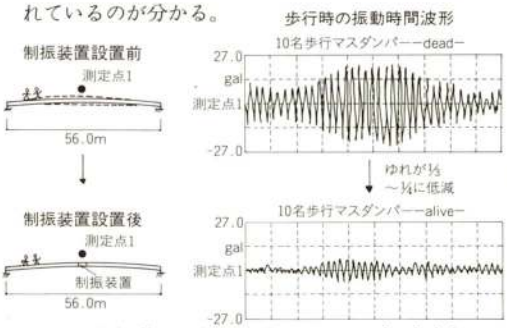
3．デザインの新分野を開拓する

今まで、「揺れるからそんなに細くできない」とされてきた構造物は、沢山ある。たとえば、鉄骨階段等はその代表的な例ではないだろうか。この揺れの問題を解決すれば、デザインの自由度は大きく増えることが予測される。このようにデザインの新分野の開拓を目指して、この制振技術を適用していくことも一つの目標になる。

制振装置適用例

1．大スパン梁の梁成を低減した例

これは、スパン56mの横断歩道橋に適用された制振装置の例である。**写真—1**に、この歩道橋の制振装置を示す。**図—2**に、制振装置の設置前後における10名歩行時のスパン中央部の応答加速度を示す。制振装置により、揺れが⅓～¼に低減されているのが分かる。



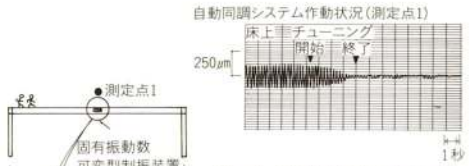
図—2 制振装置の設置前後におけるスパン中央部応答加速度

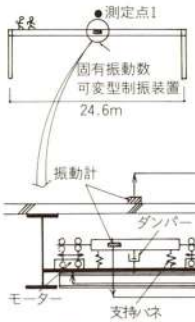


写真—1 スパン56mの歩道橋に取り付けた制振装置

2．床荷重の変動に対応した例

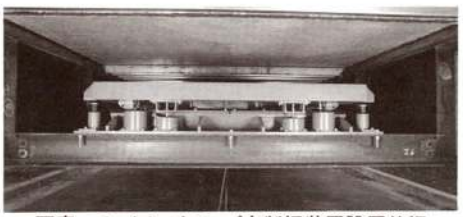
次は、床荷重の変動に対応した例である。この制振装置は、床の固有振動数が変動した場合に、その揺れ方を振動計により計測し、制振装置のバネ定数を、有限範囲で自動的に調整して付加質量の揺れ方を床の揺れ方に合わせる（チューニング）機能を持つもので、セミアクティブ（固有振動数変動型）床制振装置とよばれている。**図—3**に、この装置の構成を示す。床の揺れと付加質量の揺れを測定し、制御回路を通して付加質量に取り付けられた板バネの支持点をモーターで移動させて付加質量の揺れを床の揺れに同調させる。**図—4**に、実際の構造物に取り付けられた自動同調システムの作動状況を示す。両者の揺れ方が異なった状態から始めて、4秒ほどで自動チューニングが完了し、床の揺れが小さくなっていることが分かる。**写真—2**に、この装置の設置状況を示す。





図—4 自動同調システムの作動状況（測定点1）

図—3 セミアクティブ床制振装置の構成



写真—2 セミアクティブ床制振装置設置状況

3．デザインの新分野に取り組んだ例

鉄骨階段は、デザイナーの腕の見せ所であり、過去様々な工夫がなされてきた。ここに紹介する階段では、歩行時の揺れをきわめてコンパクトに設計された制振装置によって吸収することで、軽やかなデザインを可能とした。**写真—3**に、その階段を示す。これは、某研修所のアトリウムに設けられた室内鉄骨階段で、スパン8.0mの折り返しの階段を、19mmの鋼材2枚を組み合わせて、厚さ60mmで可能としている。踊り場から上の、段部の中央と、踊り場の2個所に制振装置が取り付けられて、それぞれ一次と二次の固有振動を減衰させている。制振装置の使用によって一次固有振動に対して約10%の減衰定数を得ている。



写真—3 制振装置を取り付けた鉄骨階段

今後の展望

床の制振装置は、初期段階の実用化を終え、いよいよ普及の時代を迎えている。ますます多様化する設計条件を克服するための一つの有力な手段として、建築構造物への適用は増加していくものと思われるが、今後、部品の標準化による制振装置のコストダウンが望まれるところである。また、床振動が制振装置によって克服された後、床版・床梁に要求される部材設計のための新しいクライテリアを整備する必要があるように思われる。

（おかもと　たつお　株式会社竹中工務店大阪本店設計部構造課長）

設備の頁

192
オフィスのパーソナル空調

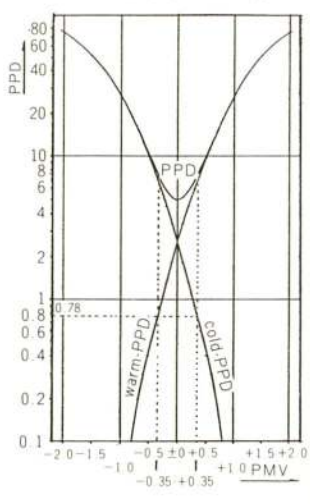
今川　望

近年、人間を中心に考えた、健康的でより快適な室内環境の創造が求められている。これには、個人の好みの環境を個人が創り出す、パーソナル空調システムが必要になる。

ここで述べるパーソナル空調は、空調空間をアンビエント（雰囲気）域とタスク（作業）域に分け、それぞれ別の空調系統としている。アンビエント域は従来空調と同様に、室全体が均一な温度となるように空調し、このときの温度は従来よりも冷房時には多少高く、暖房時には多少低い、緩めの設定にしておく。そこに各自のデスクから空調空気を吹き出し、在席者の周囲にだけ温度の異なるタスク域を作り、この温度を個人が好みに応じてコントロールできるようにする。

必要な温度調節幅

アンビエント域に対して、タスク域を個人で冷房時に何度低くでき、暖房時に何度高くできるとよいかについては、P.O.Fanger の **図1** を用いた。これは、PMV（Predicted Mean Vote：予測平均申告）とPPD（Predicted Persentage of Dissatisfied：予測不満足度）の関係図に、cold-PPDとwarm-PPDを加えたものである。この図から、PMV＝±0.9ぐらいの範囲で個人がPMVを操作できるとすれば、温冷感的な不満を訴える人はほとんどいなくなる。しかし、PMV＝±0.9にできる装置容量は現実的ではない。一方、PMVの操作可能範囲を±0.3、±0.4、±0.5と拡げていっても、PPDは1.8、1.2、0.8となり、不満足者の減少量は0.6、0.4で、比例して伸びてはいかない。



PMV	PPD	
	Cold	Warm
−2.0	76.4	—
−1.5	52.0	—
−1.0	26.8	—
−0.9	22.5	—
−0.8	18.7	0.1
−0.7	15.3	0.2
−0.6	12.4	0.3
−0.5	9.9	0.4
−0.4	7.7	0.6
−0.3	6.0	0.9
−0.2	4.5	1.3
−0.1	3.4	1.8
0	2.5	2.5
+0.1	1.8	3.4
+0.2	1.3	4.5
+0.3	0.9	5.9
+0.4	0.6	7.7
+0.5	0.4	9.8
+0.6	0.3	12.2
+0.7	0.2	15.2
+0.8	0.1	18.5
+0.9	—	22.2
+1.0	—	26.4
+1.5	—	51.4
+2.0	—	75.7

図1　PMVの調整幅とPPD

これらから判断して、実際上はPMVの操作可能範囲を±0.35、PPD＝1.5%以下程度とすることが、省エネルギーからも、装置容量からも有利と考えられる。

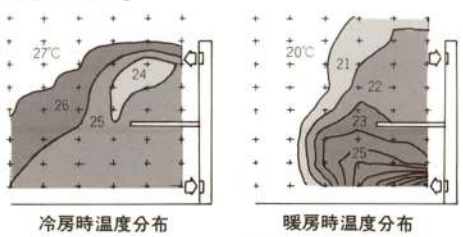
このPMV＝±0.35の操作範囲を実現するためには、個人の温度調節幅がどの程度あればよいかは、PMVの感度解析結果から、冷房時は、アンビエント域を26.3℃としてタスク域が26.3～24.1℃まで個人で調整でき、暖房時は、アンビエント域を21.4℃としてタスク域を21.4～24.4℃まで個人が調節できればよいことが求められる。つまり、アンビエント域に対して、冷房時は約2℃低いタスク域、暖房時は約3℃高いタスク域を作ることができる空調機能が必要ということになる。作業強度（met値）や着衣量（clo値）がこの条件と異なるときは、アンビエント域の設定温度を変更することで、タスク域をPMV＝±0.35程度の操作範囲にできる。

タスク域の形成

このようなタスク域の形成には、空調機能を持ったデスクが必要である。最近のオフィスにはローパーティションを組んだ、パネル形式のデスクが増えてきているが、このようなパーティションはタスク域を作るのには好都合である。タスク域を作るためのデスクの仕様（パーティションの高さ、側面パネルの有無、空調機能としての吹き出し風量・吹き出し風速等）に関して、様々な実験を行った。これらから、パーソナル空調デスクに必要な仕様として、下記のようにまとめることができる。

- 側面パネルを持ったコの字形のパーティションで構成されたデスクで、その高さは高い方がよい。
- パネル高さがFL＋1000㎜程度でも、吹出口を工夫すれば、必要なタスク域ができる。
- 空調機能としての吹き出し風量は2.5㎥/min、吹き出し風速は1.0～1.5m/sで、冷風は上方から、温風は下方から吹くのがよい。

これらの仕様によってタスク域を形成した一例を**図2**に示す。



冷房時温度分布　　暖房時温度分布

図2　タスク域温度分布

オフィスビルへの適用例

上記のデスクを当社新社屋のオフィス階に設置し、パーソナル空調システムを適用した例を紹介する。

この建物は基準階床面積約830㎡、地下3階、地上18階のオフィスビルで、二重床内に冷風または温風を通しておき、各自のデスクに組み込まれた小型FU（ファンユニット）を操作することによって、



写真1　デスク配置風景

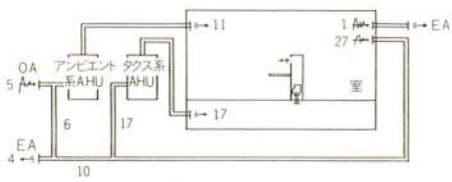


図3　空調系統と運転時の各部風量（単位㎥/㎡・h）

タスク域を形成する全空気方式としている。小型FUは、吹き出し風量の調節、上部あるいは下部吹き出し位置の選択、および二重床内の給気と室内空気の混合率の調節の機能を持っている。パーソナル空調デスクは105台設置されていて、その様子を**写真1**に示している。空調系統と運転時の各部のおおよその風量配分は、**図3**に示している。パーソナル空調を正しく機能させるためにいくつかの新しい制御を行っているが、そのうちパーソナル空調を使っている人の割合によって、アンビエント域の設定温度の変更を行う制御を**図4**に示す。

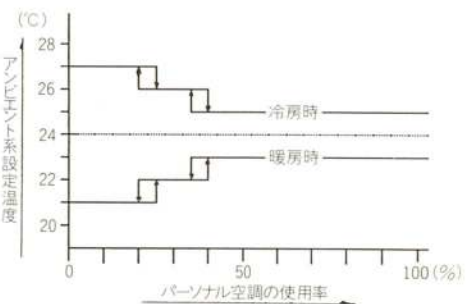


図4　アンビエント系の設定温度変更制御

これは、パーソナル空調使用率が25%を越えると、アンビエント域の設定温度を1℃上下し、それでもパーソナル空調使用率が上がり続け40%を越えると、アンビエント域の設定温度をさらに1℃上下することを示している。これによって、パーソナル空調使用率が上がり続けることがないようにし、タスク系AHU（エアハンドリングユニット）の装置容量を抑えるとともに、アンビエント系AHUの装置容量も小さくできることになる。

パーソナル空調デスクはコクヨ株式会社との共同研究によって開発を行ったもので、今回はこのうち全空気方式について紹介した。冷房時に使用者の反応をアンケートした結果では評判は上々であったが、暖房時の状況や経年変化を見る必要がある。今後の課題として、アンビエント系とタスク系の装置容量の配分方法や、方式の選定方法といった設計手法の確立が必要である。

快適性の個人差に対応でき、自分で調節できることの満足感が得られるパーソナル空調システムの需要は今後増してくるものと思われる。

（いまがわ　のぞむ　株式会社フジタ技術研究所）

関西文化学術研究都市見学会

牧　田　顯　治

■積水ハウス綜合住宅研究所

日建設計末木俊昭委員のお世話により、建材委員会恒例の現場見学会が開催された。

当日は、前夜からの雨と、寒冷前線の通過によって、少々寒かった。

近鉄京都線高の原駅から徒歩15分、シルバー色タイルの現代的感覚のビルであった。

延面積１万坪、総事業費150億円、積水ハウス株式会社が、住宅産業の進展に賭ける意気込みが感ぜられる。

当研究所は、ハイタッチ・リサーチパーク（異業種13社の研究所によって構成されている区画）内にあり、技術研究部門と納得工房（なんでもタッチし納得し体験する部門）とレストラン及び会議室の３ツの部門から構成されている。

企画管理部主任　遠藤竜治氏の挨拶、日建設計設計部　猪子　順氏により、建物の説明がありそれぞれの部門を二班に分れて見学した。技術研究部門では、三階建の住宅が楽々入る高さ20メートル位の空間をもつ実験場を始め、耐震耐火、耐温、気流、輻射温度、色彩、音、光沢、等色々の近代化された試験機械が備えられていた。見学は約１時間30分位で終り、川村部長の挨拶で未だハード部門、ソフト部門（快適性、住み心地）共、どんなものを彩り入れるか？　研究所の運営をどうするのか、はっきり決まっていないとのことであった。

■福寿園CHA研究センター

午後１時30分、近藤センター長の挨拶があり、ビデオテープを見て後、見学コースに従って見学した。延1000坪の建物は、お茶の福寿園が精魂込めて建築したものであった。

日本の茶が、栄西禅師によって中国から伝えられ今日迄、Culture（文化）・Health（健康）・Amenity（快適）の創造に果して来た実績は、誠に大きなものがあった。

歴史的な部門・世界の茶（紅茶やチベット茶、ロシア茶、イギリス茶等）の部門・商品展示コーナー等があり、是非一度機会があったら訪れてみたらよいと思うところであった。

■住宅・都市整備公団
関西文化学術研究都市整備局

公団広報担当参事　井殿　保氏の概要説明をきく研究敷地は12のクラスターで成立し、3300haの敷地を持つ、関西学術研究都市は、関西の学術界、経済界、文化部門の方々の努力により昭和53年９月調査懇談会（座長奥田　東 京都大学名誉教授）が新都市構想を提案されてからに始まり今年迄12年を経過し、今日に至っている。

夫々のクラスターには研究所や、学校キャンパス、レーザー研究所やイオン工学センターに至る迄、様々な施設が確定している。

又、大阪都心部よりの地下鉄の延伸・リニアエキスプレスの通過問題、大阪、京都、奈良からの自動車交通等インフラ整備も含め、大変な事業である。

質問等も含め、短時間ではあったが、有意義な見学であった。

全体を通じて研究とは、手でさわり、体で体験し、納得して創造物を開発するという方向に世の中が移って来たような感じがする。

末尾になりましたが、今回の催しについて、各社・研究所の方々のなみなみならぬご配慮につき誌上をお借りして厚くお礼申し上げます。

（建材委員）

と　き　平成２年11月21日
ところ　関西文化学術研究都市
- ●積水ハウス綜合住宅研究所
- ●ハイタッチ・リサーチパーク
- ●福寿園CHA研究センター
- ●住宅・都市整備公団
  関西文化学術研究都市整備局

参　加　19名


積水ハウス総合住宅研究所


福寿園CHA研究センター

日本建築協会

月間の動き

平成３年１月分

理　事　会

第３回常任理事会

23日　４時～５時　於本会会議室

出席者　市川副会長ほか８名

議事　(1)定時評議員会開催の件
(2)平成３年度事業計画（素案）の件
(3)平成３年度１級・２級建築施工管理技術検定試験準備講習会の開催にともなう後援の件
(4)入退会者承認の件
(5)報告事項

評　議　員　会

技術部門評議員懇談会

17日　４時～５時　於本会会議室

出席者　楠、里村、下笠、下村、名手、片田各評議員

議事　技術部門選出、評議員候補者３名推せんの件

編　集　委　員　会

第10回会員企画小委員会

８日　６時半～８時40分　於本会会議室

出席者　高橋副委員長代行ほか３名

議事　シリーズものの報告と掲載予定

第10回編集委員会

10日　４時～６時　於本会会議室

出席者　溝神委員長ほか４名

議事　(1)２月号「オフィス・プレジャー」・「建築の風景」特集経過報告
(2)３月号「東海支部」・「きんでん」特集経過報告
(3)４月号「建築家のための設備知識―商業施設篇」特集経過報告
(4)５月号「今、京都」（仮称）特集経過報告
(5)６月号「建築と土木」特集経過報告
(6)その他の検討事項
(7)収支状況報告

第10回作品作風小委員会

10日　６時半～８時　於本会会議室

出席者　宮下副委員長ほか４名

議事　(1)最近の掲載状況・予定の報告
(2)「新建築調査表」の作品選定
(3)「Gallery」内容報告及び予定
(4)「インテリア」の作品掲載について

３月号執筆者打合会

16日　４時～５時半　於本会会議室

出席者　藤岡茂、瀬戸良昭（日建設計）、日根東治（安井建築設計事務所）の各氏

「建築家のための設備知識―商業施設篇」の執筆

第８回計画系―インテリア・住宅―分科会

18日　６時半～９時半　於本会会議室

出席者　加藤幹事ほか６名

議事　平成３年２月号「オフィス・プレジャー」特集案検討

第８回計画系―建築―分科会

22日　６時～９時　於本会会議室

出席者　上杉幹事ほか９名

議事　平成３年５月号「今、京都」（仮称）特集の検討

第11回広告企画小委員会

26日　４時～５時半　於本会会議室

出席者　溝神委員長ほか４名

議事　(1)２月号「オフィス・プレジャー」・「建築の風景」特集広告途中経過報告
(2)３月号「東海支部」・「きんでん」特集広告経過報告
(3)４月号「建築家のための設備知識―商業施設篇」特集広告経過報告
(4)５月号「今、京都」（仮称）特集広告経過報告
(5)６月号「建築と土木」特集広告経過報告
(6)平成３年度独自特集企画、その他
(7)収支状況報告

第６回構造分科会

29日　４時～５時15分　於本会会議室

出席者　山崎幹事ほか３名

議事　(1)「構造の頁」の企画
(2)「建築と土木」特集合同篇の経過報告
(3)「建築と土木」特集構造篇の企画
(4)平成３年度構造分科会委員構成

４月号設備特集第３回編集幹事会

30日　６時～９時　於本会会議室

出席者　弓崎幸治（東畑）・日根東治（安井）・藤岡茂（日建）各特別幹事・遠藤幹事ほか４名

議事　(1)「建築家のための設備知識―商業施設篇―」特集の原稿検討
(2)「設備の頁」の企画

事　業　委　員　会

第６回若い会員の集い小委員会

８日　６時半～９時半　於本会会議室

出席者　宮野副委員長ほか８名

議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)「海外建築視察旅行―イスラムの建築を訪ねて―」経過報告
(3)「原広司氏作品展・講演会」経過報告
(4)「関西の祭事の研究」経過報告
(5)「関西の近代建築を訪ねて」、「関西の街並み・都市を訪ねて」経過報告
(6)新年度以降の企画、その他

第６回広報小委員会

16日　６時半～８時　於本会会議室

出席者　三好副委員長ほか12名

議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)第１分科会からの報告と今後の企画
(3)第２分科会からの報告と今後の企画

第11回若い会員の集い「関西の祭事」研究会

16日　６時半～９時　於本会会議室

出席者　大森主査ほか３名

議事　(1)各担当分野の原稿の調整
(2)写真等のセレクト
(3)構成・レイアウトの検討

第６回見学会小委員会

17日　６時～７時半　於本会会議室

出席者　南副委員長ほか６名

議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)１～３月の見学会について
(3)今後の見学会の予定について

第６回事業委員会

24日　１時40分～３時　於本会会議室

出席者　鶴田委員長代行ほか７名

議事　各小委員会からの報告と検討

第４回広報第２分科会

24日　６時半～９時　於本会会議室

出席者　川村・酒井両幹事ほか２名

議事　「話題建築を聞く」について

第６回リゾート施設見学分科会

25日　６時～９時半　於本会会議室

出席者　福島委員ほか１名

議事　「淡路島・都市近郊型リゾートの未来（仮称）」
―講演と見学の集い―について

第12回若い会員の集い「海外建築」企画分科会

28日　６時半～８時　於本会会議室

出席者　ゲスト　松尾俊明氏（ＪＴＢ本町支店）
瀬藤委員ほか１名

議事　(1)湾岸情勢による旅行中止の経過報告
(2)今後の対応について

第５回広報第１分科会

29日　６時半～８時　於本会会議室

出席者　奥村幹事ほか６名

議事　今後の企画について

第７回若い会員の集い「新梅田シティ」企画分科会

30日　７時～９時　於本会会議室

出席者　ゲスト　中谷俊治氏（アトリエ・ファイ建築研究所）
松隈主査ほか２名

議事　(1)「建築と社会」２月号会告
(2)展示パネルの製作
(3)会場レイアウトの確認

教　育　委　員　会

第３回工高生教育小委員会

22日　５時～７時　於本会会議室

出席者　中野副委員長ほか８名

議事　(1)次年度・第37回工高生デザインコンクールについて
(2)日本建築協会創立75周年記念事業、その他

建材委員会

第7回建材委員会

16日　3時半～5時半　於本会会議室

出席者　金井委員長ほか14名

議事　(1)今後の検討建材

(2)今後の「新建材紹介コーナー」掲載予定

(3)今後の委員会活動について各委員よりの提案

出版委員会

第8回出版委員会

24日　5時～6時　於本会会議室

出席者　須賀委員長ほか4名

議事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告

(2)今後のテーマと執筆者選定について

(3)プロのノウハウ講座シリーズについて

建築クラブ

新年宴会

8日　6時～7時　於大阪グランドホテル3階

出席者　62名

話題建築を聞く

クリスタルタワー本多友常氏に聞く

30日　2時～4時半　於本会会議室

参加者　37名

GALLERY・MA講演ビデオ映写会

24日　6時半～8時25分　於本会会議室

(1)高松　伸「かたちの奇跡―高松伸の建築」

(2)竹山　聖「不連続都市、竹山聖と仲間たち」

参加者　35名

1月の入会者（敬称略）

〔団体会員1社〕

㈱ミルックス大阪支店

〔個人会員15名〕

大江　正直（西尾家具工芸社）	喜多由紀子	水畑真知子（積水ハウス）
柿本　正和（銭高組）	三上不二夫（銭高組）	岩橋　重文（岩橋設計）
岩脇　伸行（環境建築計画）	坂上　治（紀州工房）	杉本　康行（杉本一級建築設計事務所）
玉置　泰久（天光組）	津本　一紘（津本建築設計事務所）	福谷　宜昌（福谷一級建築事務所）
道上　英伸（道上一級建築士設計事務所）	宮井　芳昭（宮井組）	鮎川　一哉（フジタ）

〔準会員3名〕

上田　容子（大阪工業大学）	松田　直子（大阪工業大学）	山村　美朝（大阪工業大学）

●会員の訃報

〔個人会員〕

嶋本恒雄（61歳）平成2年12月24日死亡

長谷部利夫（68歳）平成3年3月10日死亡

INFORMATION　お知らせ

「日本インテリアクリエイター交流協会」設立を目指して

インテリアコーディネイターなどのクリエイターと企業が有機的に融合し、これまでの枠を超えて〝新たなインテリアワールド〟の創造を目指す「日本インテリアクリエイター交流協会」の設立準備が大阪ですすめられている。

小泉産業、常盤商事、エー・ビー・シー開発、大阪木材工芸の4社を発起人に、異業種12社とクリエイター12人による「日本インテリアクリエイター交流協会（通称JICX）」運営準備委員会を発足させ、4月には記念シンポジウムの開催を盛り込むなど、設立に向けて活発な動きを見せている。

「JICX運営準備委員会」は下記委員で構成。

発起人　小泉産業㈱、常盤商事㈱、エー・ビー・シー開発㈱、大阪木材工芸㈱

企　業　住江織物㈱、㈱スチール、アーバンライフ㈱、大阪ガス住宅設備㈱、立川ブラインド工業㈱、日本板硝子㈱、㈱乃村工藝社、㈱きんでん、住友信託銀行㈱、三菱商事㈱〈予定〉シャープ㈱、凸版印刷㈱

個　人　吉羽敏郎、宇津崎光代、川端紀子、後藤みね子、武田完、高橋恵子、塚口眞佐子、西村美由紀、早川百代、藤井智之、宮後浩、山本薫

記念シンポジウム「情報とコミュニケーション」は下記のとおり開催される。

日　時　1991年4月10日(水)　PM1：00～4：00

会　場　フェスティバル・リサイタルホール（大阪市北区中之島2-3-18）

定　員　500名

入場料　1000円（当日受付）

ゲスト　若林広幸氏（建築家）

西岡たかし氏（ミュージシャン）ほか

※シンポジウム終了後、ゲストをまじえた交流会を予定。

申込先　FAXにて、住所、氏名、職業、性別、年齢、会社名、役職、電話番号、整理券返送先FAX番号を記入の上、FAXで下記宛。

JICX推進本部　FAX06-455-8602

TEL06-455-8601

平成5年のアーキテクチュア・フェアKOBE構想

神戸市は、平成5年夏ごろ、1～2カ月間に、建築をめぐる市民のお祭り「アーキテクチュア・フェアKOBE」を開催する基本構想を発表した。

テーマ　建築の昨日・今日・明日の体験と、「国際居住都市・神戸」をめざして

特　色　本物の建築を舞台に、市民参加で運営・実施する。建築やまちをつくるプロセスに光を当てる。北野～三宮～旧居留地～元町・栄町を中心ゾーンとし、建築物を公開し、講演会、展示会などを催し、建築のコンペ、有名建築家の作品展、まちづくりフォーラムなどを行う。

ステップ方式で学ぶCADスクール、4月からスタート

企画から基本設計、実施設計に至る業務をパソコンだけをツールに行い、コンピュータを使ってファシリティマネジメントなども行っている㈱バス大阪支社が、その業務を通じて蓄積したコンピュータ利用技術をCADの操作別にテキストにまとめ、PC－9801A21を20台取り揃えて、4月に、CADスクールを開校させる。

これはステップ学習方式を採用し、各ステップごとに平均70頁ほどの上記テキストを使い、1から12のステップを修得していくが、DRA-CADをすでに使っている人は、どのステップからでもスタートできる。同社大阪支社と同じ建物内で講座が開かれるので、最新機器の使用も可能である。

講座はAM10：00～PM4：30（月曜～木曜日）に各ステップをリンクさせて開かれるので、4月以降の予定および受講申し込みは、バス大阪支社（大阪市西区南堀江1－11－21　TEL06-541-4198）へ問い合わせられたい。12ステップの講座内容は、下記のとおり。

STEP1-1	マウスになれる―基本コマンドを使って簡単な立面図のトレース、さらに平面図のトレース
STEP1-2	全コマンドを覚える―全コマンドを使って上記図面を書き上げる
STEP2-1	編集―STEP1-1の平面図を、図形編集コマンドを使い、修正および変形する
STEP2-2	製図のノウハウ―STEP1-1の図面に、データベースから取り出した図面を合成
STEP3-1	出力―STEP1-1の立面図にハッチングと、これの出力。フィルムレコーダによるスライド化
STEP3-2	出力チャートの作成―出力マニュアルの作成
STEP4-1	CADによる文章の作り方―CADをワープロ代わりに使い、文章と図面を合成
STEP4-2	プレゼンテーション―プレゼンテーションの素材作成。スライド、CADのコマ送り、大きい図面の作成の学習
STEP4-3	模型作成―STEP1-1で作成した図面を展開し切り放して模型を作成
STEP5-1	データの整理―データの属性の整理の仕方
STEP5-2	データの再利用―企画設計、基本設計、実施設計などに使うデータベースの構築の仕方
STEP6-1	ARMの出力―モンタージュ写真、カラーハードコピー、スライド作成
STEP6-2	DRA―CADとARMのデータ交換―DRA―CAD2で簡単な地図入力をし、敷地の使い方を検討。データはARMにコンバート
STEP6-3	ARMの出力―モンタージュ写真、カラーハードコピー、スライド作成
STEP7-1	企画設計時のCAD―日影、逆日影のプログラムの使い方の修得、日影計算結果の出力
STEP7-2	企画設計時のCAD―ワープロで作成した条件をCADへ移す。検索、ソート、集計など
STEP7-3	企画設計時のCAD―オフィスの企画用データベースを使い10種類ほどの企画平面・立面作成
STEP7-4	企画設計時のCADによる分析―オフィス・レイアウトの作成。これの面積測定と評価
STEP8-1	基本設計―DRA―CADを使って避難計算プログラムを学習
STEP8-2	基本設計―図面密度、図面の記号化、詳細図の作成、建具作成、通り芯記号、サッシュ割付図
STEP9-1	実施設計―特記仕様書、建具表、建具集計、キープラン、CADによる図面レイアウトと表現
STEP9-2	実施設計―図面作成のスケジュールを管理
STEP10-1	CADマネージャー―RAMディスク、キャッシュディスク、ハードディスクの基礎知識と、ファイル管理
STEP11-1	設計事務所のOA化―原価管理、経理、総務の情報をLANにより一元管理する方法。電話、FAXとパソコンの接続の仕方
STEP12-1	総合学習―図面合成やARMを使い住宅を短時間で設計し、図面を作成

フランク・ロイド・ライト回顧展
―講演「ライトが今、私達に問いかけること」

近代建築の三大巨匠の一人に数えられるアメリカの建築家，フランク・ロイド・ライトの全貌を紹介する日本で初めての大規模な回顧展を開催する。

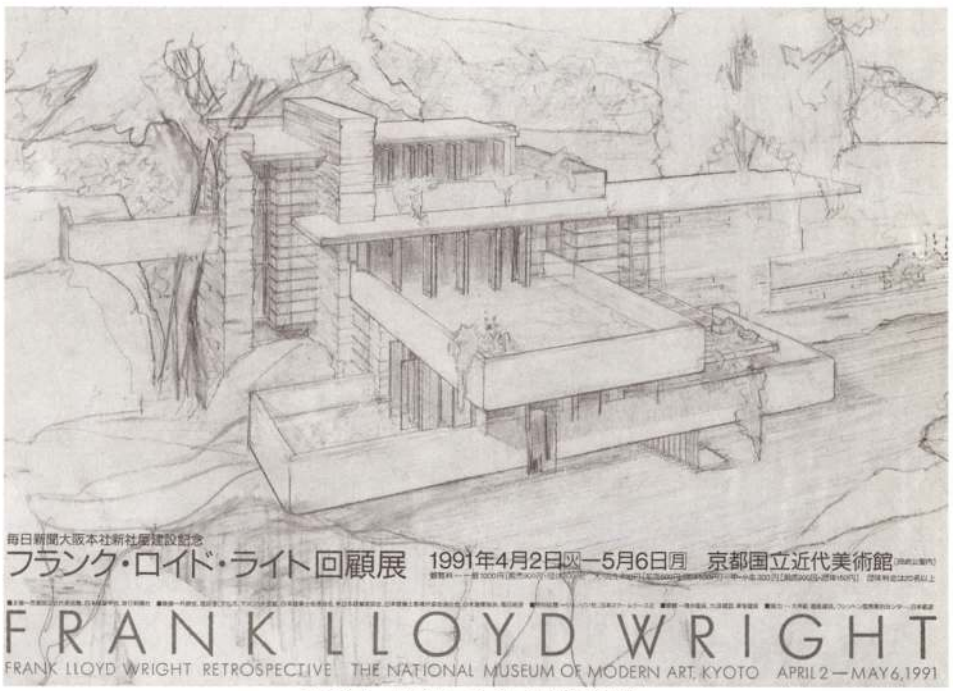
フランク・ロイド・ライトの名前は，日本では大正時代に日比谷に建てられた旧帝国ホテルの設計者として広く知られている。ライトは，アメリカを中心に生涯に800余点にのぼる膨大な数の建築設計と建築物を残した。しかしライトの全体像が広く理解されているわけではない。今回の展覧会では，ライトという名のみが先行して実作を見る機会がほとんどなかったこの建築家の業績を，ドローイング、設計図面，模型，ステンド・グラス、家具，食器など約200点によって紹介し，今日の建築や都市の情況に新しい示唆と刺激を与えようとするものだ。

■京都会場
日　時　1991年４月２日(火)～５月６日(月)
9:30～17:00（入館は16:30まで）
（４月５日より毎週金曜日は20時まで開館）
休館日　月曜日（ただし，４月29日および５月６日は開館）
会　場　京都国立近代美術館（岡崎公園内　TEL 075-761-4111）
観覧料　一般　1,000円
高校生・大学生　700円

■記念講演会
日　時　1991年４月13日(土)14:00～
会　場　京都国立近代美術館
講　演　「建築の持続性と社会性―ライトが今，私達に問いかけること―」
講　師　香山寿夫（東京大学教授）
入場料　入館者は無料（先着順）

■横浜会場
日　時　1991年５月21日(火)～６月23日(日)
10:00～18:00（入館は17:30まで）
休館日　毎週木曜日
会　場　横浜美術館（横浜市西区緑町１－４　TEL 045-221-0300）
観覧料　フランク・ロイド・ライト回顧展のみ
一般　800円
高校生・大学生　500円

■北九州会場
期　日　1991年７月５日～７月28日
会　場　北九州市立美術館
主　催　日本建築学会・京都国立近代美術館・横浜美術館・毎日新聞社
後　援　外務省／建設省／文化庁／アメリカ大使館／新日本建築家協会／日本建築連合会／日本建築士事務所協会連合会／日本建築協会
特別協賛　ジョンソン社／日本スチールケース
協　賛　清水建設／大成建設／東急建設
協　力　ワシントン国際彫刻センター／日本航空



フランク・ロイド・ライト回顧展ポスター

景観シンポジウム
―京都のグランドスケープを考える

いま京都では、近年の急激な地価高騰という新たな状況下で、京都駅改築計画、都心部町家街区および美観地区内における高層ビル化など、歴史的都市景観が急速な変化に直面している。近畿支部環境保全部会では、これまでの都市景観保全の活動をふまえて、都市計画と関連しつつ歴史都市京都の景観デザインのあるべき方向を考えるというテーマで、シンポジウムを開催する。基調講演には、最近、新聞紙上で「古都保存協力法案」を提言されている評論家加藤周一氏を招く。

主　催　日本建築学会近畿支部環境保全部会
日　時　４月24日(水)　18:30～21:00
会　場　京都会館会議場（京都市左京区岡崎公園内）

■プログラム
第１部　基調講演　18:30～19:10
加藤周一（評論家）
第２部　シンポジウム“京都のグランド・スケープを考える”　19:20～21:00
コーディネーター
大西國太郎（京都芸術短期大学教授・景観計画）
パネラー
出江　寛（出江寛建築事務所所長・建築デザイン）
永守重信（日本電産株式会社代表取締役）
三村浩史（京都大学教授・都市計画）
山崎正史（京都大学助手・都市景観論）
（50音順）
定　員　200名　　参加費　無料

建築家・歌一洋の世界
―個展「夢・祈り・宇宙」

日　時　1991年４月１日(月)～４月13日(土)
場　所　大阪市中央区本町エスパス446（TEL 06-245-0446）
企　画　軍団「31ビット」
問合せ　TEL 06-877-1033　担当・石川
入場料　無料
内　容　歌一洋の内的世界を表現している造型物を中心に、作品の模型・ドローイング・レリーフ・写真などを展示。


歌一洋氏の造形作品

正統の徒　シーザー•ペリ•アンド•アソシエイツの建築

年が改まり、シーザー・ペリ・アンド・アソシエイツ(＊1)で留学生活を始めて1年以上が経過したこととなった。その間、米英2本のスカイスクレーパー(＊2)のチームに籍を置いた。そして今は、何の因果か留学テーマである「高層建築を中心とする複合大型プロジェクトの設計手法」修得の為、正にそれを絵に描いた様な仕事をしている。未だ公表の機は熟さないが、日本のプロジェクトである。

一昨年のほぼ同時期、勤務する大組織の中に於て今日ある位置を確立するために、忙中夜を徹して書き上げたその小論文のことを思い出す。その中でシーザー(＊3)のことを以下の様に仮説、論述した。

即ち、第一に、現在の建築界は歴史主義、技術至上主義、脱構築主義を頂点とする三角形状の構図内に描かれる。第二に、シーザーはその何れもから距離を取りつつ、その何れもからそれらの精髄を汲み取りつつ、なおそれらの中心に坐し続けている正統な建築家である。第三に、今後の多様性と国際化の時代において日本の大設計組織が世界の建築界に伍して行く為には、シーザー・ペリ・アンド・アソシエイツの様な設計事務所からその手法を実践的に修得するのが肝要ではないか。

以来、週に数度はシーザーと顔を会わす環境の中で、当時の考察が誤りでなかったとの思いを今新たにしている。思えばこの1年間は、それ迄シーザーに対し冠せられた定義付けの数々を検証する日々でもあった。

曰く、"シーザーはプラグマティストである？"

"Almost yes." シーザーは依頼主のプログラムをとても大切にする。自らのデザインの為にそれらを無視したり曲解したりすることは決してしない。要望の内容や変更には極めて柔軟に対応する。デシジョンの際、施工性や工費のことを充分吟味する。そして、色彩及び素材感が忠実に表現された模型を通じてしか判断しない。但し、セオリストと呼ばれる人々と比べると表出の機会こそ少ないが、それら実践的手法の背後には相当の論理の蓄積が垣間見られた。

曰く、"シーザーは表層の魔術師である？"

"Almost yes." シーザーは何よりも建物の見え方に細心の注意を払う。その為、プロジェクトの始動時に必ずコンテクストモデルを作らせる。ファサードの比例及びそれらを構成する細部には、伝統的な素材であれ、近代的な素材であれ、極めて強い執着を示す。その為、デザインの途上で各スケールによるウォールモックアップが無数に作られる。但し、それらはポストモダン的皮相のデザイン集積ではなく、あくまでモダンの領域を魅力的に拡幅する"表層"の為の累積であった。

曰く、"シーザーは次代の巨匠である？"

"Almost yes." その正統たる作風。前述した三角形の頂点から時代の精髄を吸収し自家薬籠中のものとした上でさらに止揚された最終形に導いていく手腕。そのカリスマ性。依頼主の信頼を一身に集め、懐疑的な所員も瞬時に黙らせてしまう説得力。その年齢。1926年生まれ。一世代上の大家達が引退もしくは引退もどきの現状。但し、野心の方は拍子抜けするほど少ない様子だった。

いささか感傷的な一項を個人的に加え結語の代わりとしたい。

曰く、"シーザーは紳士である？"

"Absolutely yes."シーザーも、パートナーで事務所の屋台骨をその細身一身に背負うフレッド(＊4)も、紳士とは彼等の為にある言葉だとも思わせるほどの紳士振り。その為か、彼等の作品は余りに紳士的過ぎるとの評価さえ時に受けるほどである。しかし、紳士的でない(？)造形もデザインの過程に於て何度も試みられた上で最終的に淘汰されていると言う現実をここに伝えたい。東海岸の大家はやはり紳士的な決断しか下さないのである。

この報告が世に出る頃には、長い様で短かった留学生活が終わりを迎えようとしている筈だ。その間は、米国建築界の良き面、悪しき面を食傷気味に味わった時期であり、何よりも数々の研修旅行を重ねながらも一貫してシーザー・ペリ・アンド・アソシエイツの中に居続けた時期だった。最後に彼等の新作を掲載し(＊5,6,7)深い謝意に代えたく思う。そして、1年間の論考の過程を発表する機会を与えて下さった社団法人日本建築協会に改めて感謝したい。　　(最終回)

(薄田学／竹中工務店設計部)

＊1 CESAR PELLI & ASSOCIATES, NEW HAVEN, CONNECTICUT
＊2 MIGLIN-BEITLER TOWER "SKY NEEDLE", CHICAGO, ILLINOIS CANARY WHARF "DS-5", LONDON, UK
米英の景気後退により現在両プロジェクト共中断している。
＊3 CESAR PELLI, FAIA, 1926
＊4 FRED W. CLARKE III, AIA, 1947
＊5 181 WEST MADISON, CHICAGO, ILLINOIS
＊6 CARNEGY HALL TOWER, NEW YORK, NEW YORK
＊7 777 SOUTH FIGUEROA, LOS ANGELES, CALIFORNIA


写真－1　181ウェスト・マディソン


写真－2　カーネギー・ホール・タワー


写真－3　777サウス・フィギュロア

空気調和・給排水・衛生・防災設備 設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話(3434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話(302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒650 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03-3211-8511(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(352)1131代
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL(443)8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(3526)1351
支店　名古屋・福岡

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03－3344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話06－363－1371
支　店　仙台市青葉区大町2丁目2番10号　電話022－261－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

給・排水・衛生・防災・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　**電話大阪(458)3628番**
支店・営業所　福岡・京都・神戸・天理・川西

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1，2階)
郵便番号542　電話 大阪(06)768－5031　代表
メンテナンス部　電　話　大阪(06)768－1651　代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話(03)5689－2351代表

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428㈹
FAX(06)351－5299

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352－3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738㈹

Carrier　冷暖房はCARRIER キャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7



電気・計装・空調・土木

K栗原工業㈱

本　社／〒530 大阪市北区角田町1番1号(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101　FAX 06(315)0050

電気設備　設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本貴士

本　社　大阪市北区中之島3－2－4　朝日ビル　TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(3574)0665　福岡出張所　TEL 福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06(361)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03(3666)1478(代)
営業所　堺・泉　州・泉　南・滋　賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

関西支社

専務取締役支社長 横田幸一

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪 (202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

誠実と技術でお応えする

住友電設株式会社

取締役会長 代谷正元
取締役社長 相馬一男

本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)　東京／〒105 東京都港区芝2丁目2-17 ☎(03)3454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事
架空送配電線工事
地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事　空調工事
工場電気設備工事　給排水衛生工事
防爆電気設備工事　特殊配管工事
計装工事　消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事
CATVシステム工事
各種アンテナ装置工事

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納秀一

本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL 03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL 052(991)5131・FAX 052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL 078(881)5571・FAX 078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁目369　TEL 0722(27)8408・FAX 0722(27)1424

奉仕感謝の店

タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本　社　〒550 大阪市西区西本町1－13－33
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市新町50



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547　大阪市平野区加美北3－4－5　TEL 大阪06(792)5858(代)



あらゆる屋根工事の相談は、

ナニワ瓦株式会社

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

情報処理・電算写植組版

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992 (26)4371
津山写植センター　〒708 津山市福田1372－1　☎0868 (28)4377

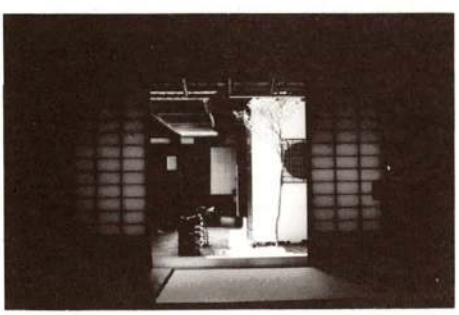
特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

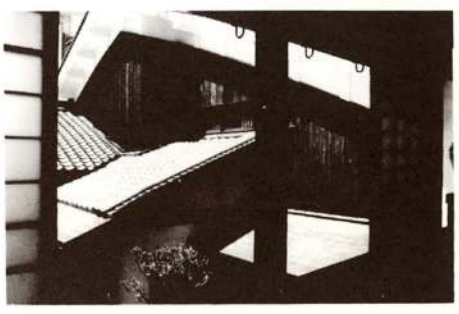
Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
ポゾリス物産株式会社
日曹マスターピルダーズ株式会社
本　社：東京都港区六本木３－16－26 TEL03-3582-8813
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル) TEL06-202-3294

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－21
星和地所扇町ビル201S
TEL06(315)０７０１
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山(０７７５）８３－２３８１





OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ――――― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(571)2703㈹ FAX03(571)0264
大阪事務所 TEL06(391)1081～2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660
横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341
埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1－3－8（日本生命谷町ビル）
TEL（06）943－6571（代）
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー!



大和郡山市九条スポーツセンター屋根　エターノコアーF

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
・鋼板製オリエンタルフネンシングル
・オリエンタルオリセラム
・オリエンタルエターノコアー(ETC-F)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・堅樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログをご請求下さい。

オリエンタルメタル製造株式会社

大　阪　本　社　〒660 尼崎市昭和南通り３―26　電話大阪(06)412―5131㈹
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・姫路
東京本社及工場　〒335 蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42―3115㈹
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷



空　間　無　限

太陽光の角度によって時と共に変化する壁面
タイルのわずかな凹凸が表情を際立たせる。
ある時は壁面の背後に別の空間を感じさせるほど微妙な
無限のリズムの中の陰影、
タイル一枚一枚がまるで意思をもっているかのように語りかけてくる。
TOTOエクステリアタイル。

TOTOエクステリアタイル

カタログをご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器㈱ 大阪支社までご請求ください。☎06(364)1181

TOYO Shutter

シャッター新世紀

輝くのは、私です。

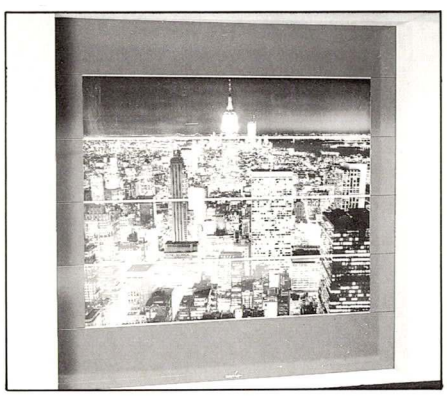


田中美奈子

新登場

シャッターに描かれたメッセージが、閉店後のお店をアピール。

絵や写真、文字、ロゴタイプなどを使って自由に描けるスクリーンと、バックライトを、シャッターに組み込んだ〈アドビジョン〉。浮かびあがる美しいメッセージが、閉店後のお店を効果的にアピールし、前を通る人に、お店を強く印象づけます。
〈アドビジョン〉は、今、新しい時代の、新しい扉を開きました。



東洋シヤッター株式会社
本　社／大阪市中央区常盤町1-3-8(日本生命谷町ビル) 〒540 TEL.06 943-6571㈹　東京本社／東京都港区六本木6-3-18(第一地所麻布ビル) 〒106 TEL.03 3479-2911㈹

建築と社会
第72輯第3号

社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1の1の3の2100　電話大阪06(348)0635　FAX06(348)0634

振替口座大阪二三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九八〇円（本体九五一円　消費税二九円　送料共）

雑誌 03379-3